

# SUSE Linux Enterprise Desktop

10 SP1

[www.novell.com](http://www.novell.com)

4 18, 2007

KDE User Guide



# KDE User Guide

All content is copyright © Novell, Inc.

## 保証と著作権

このマニュアルは、Novellの知的所有権で保護されています。このマニュアルを複製、コピー、または配布するには、本使用許諾契約の各条項に明示的に同意する必要があります。

このマニュアルは、以下の条件を満たす限り、電子的または印刷物などの形式で、自由に複製、コピー、配布することができます。

複製、コピー、配布されるコピーには、この著作権表示と作成者、貢献者名が明示的かつ弁別的に表示する必要があります。このマニュアルは、特に印刷形式の場合、非商用の目的でのみ複製、配布できます。本マニュアルの全部または一部を他の目的で使用する場合は、事前にNovell, Incから明示的な許可を得る必要があります。

Novellの商標については、のTrademark and Service Mark List <http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html>を参照してください。\* Linuxは、Linus Torvaldsの登録商標です。他のすべての第三者の商標は、各所有者が所有権を有しています。商標記号（®、™など）は、Novellの商標を表しています。アスタリスク(\*)は、サードパーティの商標を表します。

本書のすべての情報は、細心の注意を払って編集されています。しかし、このことは絶対に正確であることを保証するものではありません。Novell, Inc.、Suse Linux Products GmbH、著者、翻訳者のいずれも誤りまたはその結果に対して一切責任を負いかねます。

# 目次

このガイドについて	ix
パート I KDE Desktop	1
1 KDEデスクトップの開始	3
1.1 ログインとデスクトップの選択	3
1.2 ログアウト	8
1.3 デスクトップコンポーネント	8
1.4 フォルダおよびKonquerorのあるファイルの管理	19
1.5 ネットワークリソースへのアクセス	31
1.6 コンピュータまたはファイルシステム内のデータの検索	32
1.7 アプリケーション間のテキストの移動	35
1.8 インターネットの探索	36
1.9 E-Mail (電子メール)とスケジュール設定	36
1.10 OpenOffice.orgでのドキュメントのオープンまたは作成	37
1.11 KWalletマネージャによるパスワード管理	37
1.12 アーカイブの表示、解凍、および作成	40
1.13 スクリーンショットを撮る	41
1.14 KPDFによるPDFファイルの表示	43
1.15 KMixを使ったサウンドの制御	43
1.16 ZENツールを使ったパッケージの管理	44
1.17 詳細情報	50
2 設定のカスタマイズ	51
2.1 KDEコントロールセンターの使用	51
2.2 デスクトップオブジェクトの設定	55
2.3 3Dデスクトップ効果の設定	59
2.4 パネルの設定	61

2.5	システムとセキュリティ関連の設定 . . . . .	67
<b>パート II オフィスおよびコラボレーション</b>		<b>69</b>
<b>3</b>	<b>OpenOffice.org オフィススイート</b>	<b>71</b>
3.1	OpenOffice.org について . . . . .	72
3.2	Writer によるドキュメント作成 . . . . .	85
3.3	Calc を使用してスプレッドシートを使用する . . . . .	95
3.4	Impress でプレゼンテーションを使用する . . . . .	98
3.5	Base - データベースの使用 . . . . .	101
3.6	Draw - グラフィックの作成 . . . . .	105
3.7	Math を使用して式を作成する . . . . .	106
3.8	OpenOffice.org に関するヘルプと情報の検索 . . . . .	106
<b>4</b>	<b>Kontact: 電子メールとカレンダーリング</b>	<b>109</b>
4.1	Kontact の概要 . . . . .	109
4.2	メール . . . . .	112
4.3	連絡先 . . . . .	118
4.4	カレンダー . . . . .	120
4.5	ハンドヘルドとのデータの同期 . . . . .	122
4.6	Kontact と GroupWise ユーザ . . . . .	122
4.7	詳細情報 . . . . .	124
<b>5</b>	<b>GroupWise Linux クライアント: 電子メールとカレンダーリング</b>	<b>125</b>
5.1	GroupWise のメインウィンドウについて . . . . .	125
5.2	さまざまな GroupWise モードを使用する . . . . .	133
5.3	メールボックスを理解する . . . . .	134
5.4	ツールバーの使用 . . . . .	138
5.5	ショートカットキーを使用する . . . . .	138
5.6	詳細について . . . . .	142
<b>6</b>	<b>KPilot によるハンドヘルドコンピュータの同期</b>	<b>145</b>
6.1	KPilot が使用するコンジット . . . . .	146
6.2	ハンドヘルド接続の設定 . . . . .	147
6.3	KAddressBook コンジットの設定 . . . . .	149
6.4	タスク (to-do) アイテムとイベントの管理 . . . . .	149
6.5	KPilot の使用 . . . . .	150



<b>7</b>	<b>Kopeteによるインスタントメッセージング</b>	<b>153</b>
7.1	Kopeteの設定	153
7.2	連絡先の追加	154
7.3	グループの追加	155
7.4	Kopeteの使用	156
<b>8</b>	<b>Voice over IPの使用</b>	<b>159</b>
8.1	Linphoneの設定	159
8.2	Linphoneのテスト	164
8.3	電話をかける	165
8.4	電話に出る	166
8.5	アドレス帳を使用する	167
8.6	トラブルシューティング	168
8.7	用語集	169
8.8	詳細情報	170
<b>9</b>	<b>ネットワークリソースへのアクセス</b>	<b>171</b>
9.1	ファイル共有とネットワーク参照に関する一般的な注意	172
9.2	ネットワーク共有へのアクセス	173
9.3	混在環境でのフォルダの共有	174
9.4	Windowsファイルの管理	177
9.5	Windowsネットワークプリンタの設定とアクセス	181
9.6	ネットワークフォルダへのショートカットの設定	183
9.7	軽量なWebサーバの設定と使用	185
<b>10</b>	<b>KGpgによる暗号化</b>	<b>189</b>
10.1	新しい鍵ペアの生成	189
10.2	公開鍵のエクスポート	191
10.3	鍵のインポート	192
10.4	鍵サーバダイアログ	193
10.5	テキストとファイルの暗号化	196
10.6	詳細情報	197
<b>11</b>	<b>Kerryを使った検索</b>	<b>199</b>
11.1	Kerryを使った検索	199
11.2	Kerryの設定	201
<b>12</b>	<b>プリンタの管理</b>	<b>205</b>
12.1	プリンタのインストール	205

12.2	プリンタ設定の変更 . . . . .	208
12.3	プリンタの削除 . . . . .	208
12.4	KDEでの印刷ジョブの開始 . . . . .	208
12.5	KDEでの印刷ジョブの監視 . . . . .	210
<b>パート III インターネット</b>		<b>213</b>
<b>13</b>	<b>ネットワーク接続の管理</b>	<b>215</b>
13.1	KNetworkManagerの使用 . . . . .	215
13.2	KInternet . . . . .	220
13.3	トラブルシューティング . . . . .	223
<b>14</b>	<b>Konquerorを使ったブラウズ</b>	<b>225</b>
14.1	タブブラウズ . . . . .	226
14.2	自動スクロール . . . . .	227
14.3	プロファイル . . . . .	227
14.4	Webページと画像の保存 . . . . .	228
14.5	Konquerorによる検索 . . . . .	228
14.6	ブックマーク . . . . .	231
14.7	JavaとJavaScript . . . . .	232
14.8	Advertisement Blocker(広告ブロッカー)の使用 . . . . .	232
14.9	詳細情報 . . . . .	233
<b>15</b>	<b>Firefoxを使用したブラウジング</b>	<b>235</b>
15.1	Webサイトのナビゲート . . . . .	235
15.2	情報の検索 . . . . .	237
15.3	ブックマークの管理 . . . . .	238
15.4	ダウンロードマネージャの使用 . . . . .	241
15.5	Firefoxのカスタマイズ . . . . .	241
15.6	Firefoxからの印刷 . . . . .	244
15.7	詳細情報 . . . . .	245
<b>16</b>	<b>インターネットからのデータの転送</b>	<b>247</b>
16.1	リストへの転送の追加 . . . . .	247
16.2	タイマ制御の転送 . . . . .	248

<b>17 Akregatorでニュースフィードを読む</b>	<b>249</b>
---------------------------------	------------

<b>パート IV マルチメディア</b>	<b>253</b>
-----------------------	------------

<b>18 GIMPによるグラフィックスの操作</b>	<b>255</b>
-----------------------------	------------

18.1 グラフィックファCルの形式 . . . . .	255
18.2 GIMPの起動 . . . . .	256
18.3 はじめに . . . . .	258
18.4 画像の保存 . . . . .	260
18.5 画像の編集 . . . . .	262
18.6 画像の印刷 . . . . .	271
18.7 詳細情報 . . . . .	273

<b>19 デジタル画像コレクションの管理</b>	<b>275</b>
---------------------------	------------

19.1 カメラの設定 . . . . .	276
19.2 カメラからの写真ダウンロード . . . . .	277
19.3 情報の取得 . . . . .	278
19.4 アルバムの管理 . . . . .	279
19.5 タグの管理 . . . . .	280
19.6 強力な検索フィルタの作成 . . . . .	281
19.7 画像コレクションのエクスポート . . . . .	283
19.8 画像の表示と編集 . . . . .	284
19.9 便利なツール . . . . .	293
19.10 トラブルシューティング . . . . .	295
19.11 詳細情報 . . . . .	296

<b>20 音楽やムービーの再生</b>	<b>297</b>
----------------------	------------

20.1 ミキサー . . . . .	297
20.2 音楽ファイルの再生 . . . . .	298
20.3 オーディオCDの取り扱い . . . . .	305
20.4 ムービーファイルの再生 . . . . .	309

<b>21 CDとDVDの書き込み</b>	<b>311</b>
-----------------------	------------

21.1 データCDまたはDVDの作成 . . . . .	311
21.2 オーディオCDの作成 . . . . .	315
21.3 CDまたはDVDのコピー . . . . .	316
21.4 ISOイメージの書き込み . . . . .	316
21.5 マルチセッションCDまたはDVDの作成 . . . . .	317
21.6 詳細情報 . . . . .	318

<b>A</b>	<b>必要な情報を検索する</b>	<b>319</b>
A.1	付属のドキュメント . . . . .	319
A.2	他のリソースや詳細情報 . . . . .	323
<b>B</b>	<b>WindowsからLinuxへの移行</b>	<b>325</b>
B.1	メインメニューからのアプリケーションの起動 . . . . .	326
B.2	ファイルの管理 . . . . .	327
B.3	コマンドラインの使用 . . . . .	327
B.4	デスクトップのカスタマイズ . . . . .	328
B.5	プリンタのセットアップ . . . . .	329
B.6	アプリケーション間の切り替え . . . . .	330
B.7	ネットワークリソースへのアクセス . . . . .	331
<b>C</b>	<b>Linuxソフトウェアの概要</b>	<b>333</b>
C.1	電話(オフィス) . . . . .	333
C.2	ネットワーク . . . . .	338
C.3	マルチメディア . . . . .	342
C.4	グラフィックス . . . . .	347
C.5	システム管理とファイル管理 . . . . .	351
C.6	ソフトウェア開発 . . . . .	356
	<b>目次</b>	<b>359</b>

# このガイドについて

このマニュアルでは、SUSE Linux Enterprise®のKDEデスクトップ、および関連するさまざまなアプリケーションについて紹介します。また、これらのアプリケーションの使用法や作業手順についても説明します。このマニュアルは、KDEを日常的に使用するエンドユーザを対象にしています。

マニュアルは、以下の各部に分かれています。

## KDE デスクトップ

KDEデスクトップの概要と基本的な作業手順、および主なKDEアプリケーションやユーティリティの使用法を説明しています。KDEが提供する多彩な機能について学習し、ご自身の目的に応じてKDEをご活用ください。

## オフィスとコラボレーション

SUSE Linux Enterpriseに用意されている、OpenOffice.orgスイート、電子メールやスケジュールプログラム、およびオンライン通話アプリケーションなどの、さまざまなオフィス用、コラボレーション用ソフトウェアについて紹介します。また、ネットワークでのファイル共有、データの効率的な検索と暗号化、およびプリンタの管理方法などの、データの管理と通信に関する情報も取り上げています。

## インターネット

NetworkManager、またはKInternetを使ったインターネットへの接続方法について学習します。Konqueror、Firefox Webブラウザ、ダウンロードマネージャ、ニュースフィードリーダーなど、SUSE Linux Enterpriseが提供するインターネットアプリケーションの使用法を説明しています。

## マルチメディア

画像処理アプリケーション、デジタルカメラ、サウンドアプリケーション、およびCD/DVDライターについて説明しています。

# 1 フィードバック

本マニュアルおよびこの製品に含まれているその他のマニュアルについて、皆様のご意見やご要望をお寄せください。オンラインドキュメントの各ページの下部にあるユーザコメント機能を使用して、コメントを入力してください。

## 2 追加のマニュアル

この製品には、ほかのマニュアルも用意されています。SUSE Linux Enterpriseのエンドユーザ向けのマニュアルとして、次の各マニュアルもご覧ください。

### *Installation Quick Start*

SUSE Linux Enterpriseをインストールするためのシステム要件やインストール手順について説明しています。

### *GNOME User Guide*

このマニュアルは、SUSE Linux EnterpriseのGNOMEデスクトップ、および関連するさまざまなアプリケーションについて紹介しています。また、これらのアプリケーションの使用法や作業手順についても説明します。このマニュアルは、おもにGNOMEデスクトップで動作するアプリケーションを使用するエンドユーザを対象にしています。

SUSE Linux Enterpriseのマニュアルについては、<http://www.novell.com/documentation/sled10/>を参照してください。ここでは、マニュアルをダウンロードすることもできます。また、デスクトップにあるHelp Centerから、これらの情報にアクセスすることもできます。

## 3 マニュアルの表記規則

本書では、次の書体を使用しています：

- `/etc/passwd`: ファイル名とディレクトリ名
- `placeholder:placeholder`は、実際の値で置き換えられます。
- `PATH`: 環境変数`PATH`
- `ls`、`--help`: コマンド、オプション、パラメータ
- `user`: ユーザまたはグループ
- `Alt`、`Alt + F1`: 押すためのキーまたはキーの組み合わせ、キーはキーボード上と同様、大文字で表示されます

- [ファイル]、[ファイル] > [名前を付けて保存]:メニュー項目、ボタン
- *Dancing Penguins*(「*Penguins*」の章、↑他のマニュアル):他のマニュアル中の章への参照です。





# パート I. KDE Desktop



# KDEデスクトップの開始

この章では、SUSE Linux Enterprise®のKDEデスクトップについて説明します。システムをインストールしていない場合は、<http://www.novell.com/documentation/sled10/>の『*Installation Quick Start*』を参照してください。

KDEは*K Desktop Environment*を表し、グラフィカルユーザインタフェースには、日常の作業を支援するように設計されている多くのアプリケーションがあります。また、KDEでは、必要や要望に従って、デスクトップを変更する多くの選択肢が提供されます。デスクトップの設定については、「**第2章 設定のカスタマイズ**(51 ページ)」を参照してください。

次の説明は、製品に付随しているKDEデスクトップのデフォルト設定に基づいています。システム管理者がデフォルトを変更している場合は、外観やキーボードショートカットなどのいくつかの点は異なっている場合があります。


## 1.1 ログインとデスクトップの選択

コンピュータに複数のユーザアカウントが設定されている場合、特定のユーザに対して自動ログインが設定されていない限り、一般的にすべてのユーザが認証を受ける必要があります。自動ログイン機能を利用すると、ブート時にユーザがデスクトップ環境に自動的にログインされます。この機能は、インストール時に設定します。また、インストール後でもYaSTのユーザ管理モジュールを使って、有効/無効にすることができます。

コンピュータがネットワーク環境内で稼働している場合に、そのコンピュータを利用する複数のユーザがいる場合は、システムの開始時にユーザ名とパ

スワードの入力を要求するプロンプトが表示されます。システムとユーザアカウントを自分で設定していない場合は、システム管理者にユーザ名とパスワードをお問い合わせください。

ログインプロセスを管理するプログラムは、システムにインストールされたデスクトップ環境によって異なります。KDEについては、KDMです。さらに、GNOMEデスクトップがインストールされている場合はGDMになります。

「 1.1. 「KDMログイン画面」 (5 ページ)」で示しているように、デフォルトのKDMログイン画面にはユーザ名とパスワードの入力フィールド、および次のメニュー項目が表示されます。

#### セッションタイプ

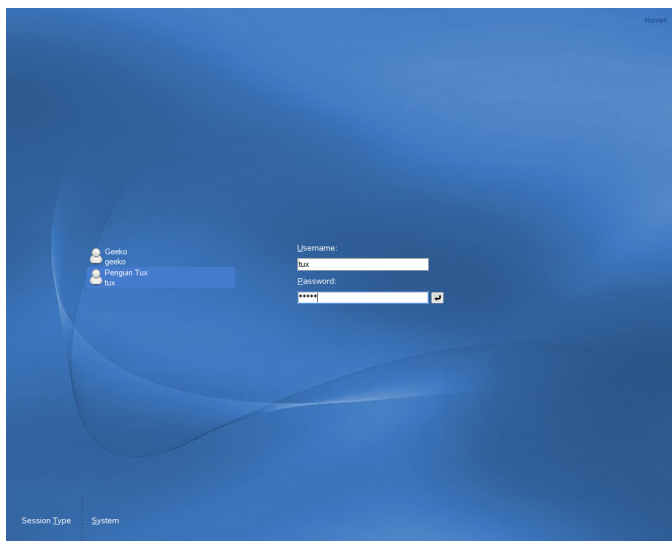
ログインする場合に実行するデスクトップを指定します。KDE以外のデスクトップがインストールされている場合は、リストに表示されます。デフォルト(通常はKDE)以外のセッションタイプを使用する場合にのみ変更します。手動でセッションタイプを変更しない限り、それ以降のセッションは自動的に同じタイプになります。

#### システム

コンピュータのシャットダウンや別のログインアクションの開始などのシステムアクションを実行します。[リモートログイン] では、リモートマシンにログインできます。

通常のログインを開始するのに必要な操作は、ユーザ名とパスワードの入力のみです。

図 1.1 KDMログイン画面



システム管理者が専用の暗号化ホームディレクトリ(窃盗やハードディスクの盗難に対するデータ保護に役立つ)を作成している場合、ログイン時にホームディレクトリがマウントされます。ログイン後は、通常と同じようにデータにアクセスできます。他のパスワードを入力する必要はありません。

---

#### 注意: Active Directoryサーバへの接続

共有ネットワークリソースにアクセスするには、KDEクライアントコンピュータがActive Directoryサーバの認証を受ける必要があります。詳細については、「[第9章 ネットワークリソースへのアクセス \(171 ページ\)](#)」を参照してください。この種類の認証がコンピュータに設定されていない場合は、ログイン画面に追加のフィールドが表示されます。この場合は、ログイン時に次の操作を実行してください。

1. リストからドメインを選択します。
2. Windows\*ユーザ名を入力します。
3. Windowsパスワードを入力して、Enterキーを押します。

## 1.1.1 セッションの制御

ログインプロセスによるユーザ名とパスワードの認証後に、セッションマネージャは起動します。セッションマネージャによって、セッションごとに特定の設定を保存できます。また、最も最近のセッションのステータスを保存して、次にログインしたときにそのステータスを返すこともできます。

セッションマネージャによって、次の設定を保存して復元できます。

- フォント、カラー、およびマウス設定などの、外観と動作の設定。
- ファイルマネージャやOpenOffice.orgなどの、実行していたアプリケーション。

---

### 注意: アプリケーションの保存と復元

セッションマネージャが管理しないアプリケーションは、保存と復元はできません。たとえば、ターミナルウィンドウのコマンドラインからviエディタを起動する場合は、セッションマネージャは編集集中のセッションを復元できません。

---

セッション設定の設定については、「[KDEコンポーネント](#) (53 ページ)」を参照してください。

## 1.1.2 デスクトップの切り替え

KDEとGNOMEのデスクトップをインストールしている場合は、次の手順を使用して、デスクトップを切り替えます。

- 1 KDEにログインしている場合は、メインメニューから **[ログアウト]** > **[現在のセッションの終了]** を選択します。ログイン画面で、**[セッションタイプ]** をクリックします。
- 2 GNOMEデスクトップを選択します。
- 3 ユーザ名を入力します。
- 4 パスワードを入力します。GNOMEデスクトップが起動します。

GNOMEデスクトップの使用の詳細については、<http://www.novell.com/documentation/sled10/>にある『*GNOME User Guide*』を参照してください。

- 5 KDEに戻る場合は、GNOMEデスクトップのパネルから、[デスクトップ] > [ログアウト] の順にクリックし、[OK] をクリックします。セッションが終了し、ログイン画面が再び表示されます。
- 6 再ログインする前に、ログイン画面の [セッションタイプ] をクリックして、[KDE] を選択します。新しいセッションタイプを選択しない場合、次のセッションは、前回と同じセッションタイプ(GNOME)になります。

## 1.1.3 画面のロック

画面をロックするには、次のいずれかを実行します。

- メインメニューから、[セッションのロック] を選択します。
- KDEコントロールセンターで定義したキーボードショートカットを使用します。通常は、Ctrl + Alt + キーです。

---

### ヒント: KDEキーボードショートカットの参照

他のKDEキーボードショートカットについては、[2.1項「KDEコントロールセンターの使用」](#) (51 ページ)のKDEコントロールセンターを参照してください。

---

素早くアクセスするために、パネルに [ロック] および [ログアウト] のアイコンを追加することもできます。追加するには、パネルを右クリックし、[アプレットをパネルに追加] をクリックします。次のウィンドウで、[Lock/Logout Buttons] を選択してから、[パネルへ追加] をクリックします。

画面をロックすると、スクリーンセーバーが起動します。画面をロック解除するには、マウスを移動させて、ロックされた画面ダイアログを表示します。ユーザー名とパスワードを入力してから、<Enter>キーを押します。

スクリーンセーバーの設定について詳細は、「[スクリーンセーバの設定](#) (56 ページ)」を参照してください。

## 1.2 ログアウト

コンピュータの使用が完了したら、ログアウトして、システムを稼働したままにしておくか、コンピュータを再起動またはシャットダウンすることができます。システムに電源管理が装備されている場合は、コンピュータをサスペンドすることもできます。これは、サスペンドすると、次のシステム起動が完全にブートする場合より高速になるためです。

ログアウトしてシステムを稼働させておくには、次のいずれかを実行します。

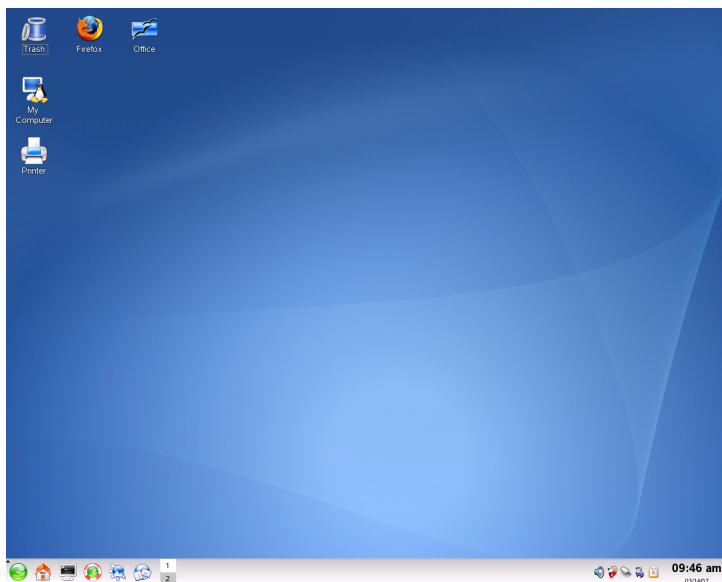
- メインメニューから、[\[ログアウト\]](#) > [\[現在のセッションの終了\]](#) の順に選択します。
- KDEコントロールセンターで定義したキーボードショートカットを使用します。通常、ログアウトを確認するメッセージを表示してログアウトする場合は、**Ctrl + Alt + Del**キーを使用します。このキーを押した後に表示されるダイアログでは、ログアウトをキャンセルすることもできます。確認のメッセージを表示しないでログアウトする場合は、**Ctrl + Alt + Shift + Del**キーを押します。
- パネルの [\[ログアウト\]](#) アイコンをクリックします。パネルにログアウトアイコンがない場合は、「[1.1.3項「画面のロック」](#) (7 ページ)」の手順に従って、パネルに追加できます。

## 1.3 デスクトップコンポーネント

グラフィカルデスクトップ環境は、従来のWindows\*またはMacintosh\*のユーザーに、いかなる問題を強要することはありません。デスクトップ上にある主要なコンポーネントは、デスクトップ上にあるアイコンと、画面の下端にあるパネルです。



## 図 1.2 KDEデスクトップの例



デスクトップアイコンは、ファイル、ディレクトリ、アプリケーションや機能、およびリムーバブルメディア(CD、DVDなど)を表します。

デフォルトでは、デスクトップには次のアイコンが表示されます。

### ごみ箱

削除されたファイルやフォルダを保管します。ごみ箱の使用方法については、「[1.3.4項「ごみ箱の管理」](#) (19 ページ)」を参照してください。

### マイコンピュータ

ハードウェア、ネットワークステータス、オペレーティングシステム、ハードディスク、共通フォルダ、およびリムーバブルデバイスに関する情報を表示します。詳細については、[1.3.3項「リムーバブルメディアへのアクセス」](#) (17 ページ)を参照してください。

### ネットワーク参照

利用可能なネットワークサービスを表示します。サービスによっては、認証が必要なこともあります。詳細は、「[第9章 ネットワークリソースへのアクセス](#) (171 ページ)」を参照してください。

## プリンタ

KJobViewerを起動します。KJobViewerには、プリンタに送信した印刷ジョブが表示されます。詳細については、「[12.4項 「KDEでの印刷ジョブの開始」](#) (208 ページ)」を参照してください。

## Firefox

Firefox Webブラウザを起動します。詳細については、「[第15章 Firefoxを使用したブラウジング](#) (235 ページ)」を参照してください。

## 電話(オフィス)

OpenOffice.orgを起動し、新規のドキュメントを開きます。このオフィススイートについては、「[第3章 OpenOffice.org オフィススイート](#) (71 ページ)」を参照してください。

パネル(KDEでは、Kickerとも呼ばれます)はバーで、通常は、画面の上端または下端に置かれています。パネルは、アプリケーションやシステムの実行、および重要な機能やアプリケーションへの容易なアクセスに関する情報を提供するようになっています。アイコンの上にポインタを移動すると、簡単な説明が表示されます。

### 1.3 KDE パネル(Kicker)



パネルは通常、次のエリアから構成されています。

### メインメニューアイコン

デフォルトでは、パネルの左端に、メインメニュー(KDEではKメニューと呼ばれることもあります)を開くアイコンがあり、MS Windowデスクトップにある [スタート] ボタンと類似しています。メインメニューは、主要なアプリケーションにアクセスできるように、よく整理された構造になっています。また、ログアウトしたりアプリケーションを検索したりするような主要な機能についてのメニュー項目もあります。詳細については、「[1.3.1項 「メインメニューへのアクセス」](#) (11 ページ)」を参照してください。

### クイックラウンチャ

メインメニューアイコンの隣に、クイックラウンチャがあります。クイックラウンチャは、最も重要な機能やアプリケーションのアイコンを保持します。それにより、メインメニューを通さなくてもそうした機能やアプリ

ケーションを起動できます。また、**Help Center**のアイコンもあり、システムに関するオンラインヘルプを表示できます。

### デスクトッププレビューア

クイックラウンチャの隣に、デスクトッププレビューアがあり、別のデスクトップが表示されます。仮想デスクトップによって、作業を整理することができます。同時に多くのプログラムを使用する場合は、1つのデスクトップでいくつかのプログラムを実行して、もう1つのデスクトップでまたいくつかのプログラムを実行することができます。デスクトップを切り替えるには、パネルでデスクトップのシンボルをクリックします。

### タスクバー

タスクバーは、デスクトッププレビューアの隣に配置されています。デフォルトで、起動しているすべてのアプリケーションと開いているウィンドウがタスクバーに表示されるため、現在アクティブなデスクトップであるかどうかに関わらず、いずれのアプリケーションにもアクセスできます。タスクバーの中でウィンドウのタイトルをクリックすると、それに対応するアプリケーションがフォアグラウンドになります。そのアプリケーションが既にフォアグラウンドになっている状態で、ウィンドウのタイトルをクリックすると、そのアプリケーションは最小化されます。

### シストレイ

パネルの右端の部分は通常は、システムクロック、ボリューム制御、および他のいくつかのヘルパーアプリケーションを保持します。

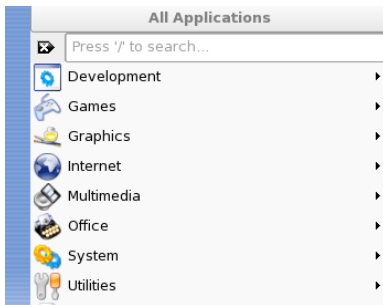
メインメニュー、デスクトップアイコン、またはパネルなど、デスクトップの外観や動作の設定方法については、**2.2項「デスクトップオブジェクトの設定」** (55 ページ)と「**2.4項「パネルの設定」** (61 ページ)」を参照してください。

## 1.3.1 メインメニューへのアクセス

パネルの左端にあるアイコンを使用して、メインメニューを開きます。または、**Alt + F1**キーを押します。メインメニューは、*[Most Used Applications]* (よく使われるアプリケーション)、*[All Applications]* (すべてのアプリケーション)(すべてのアプリケーションがカテゴリ別に分類されたメニュー)、および *[Actions]* (アクション)の3つのセクションに分かれています。開始するアプリケーションは、*[最も使用したアプリケーション]* セクションに最もよく表示されます。

このメニューは機能中心の構造になっており、アプリケーションの名前が分からないような場合でも、目的に合ったアプリケーションを簡単に見つけることができます。アプリケーションの名前(または少なくとも名前の一部)が分かっているが、メインメニューからの起動方法が不明な場合は、[全てのアプリケーション] セクションにある検索機能を使用できます。

#### 図 1.4 メインメニュー検索機能



検索フィールドにアプリケーション名の一部を入力するだけで、**Enter**キーを後から押す必要はありません。アプリケーションがシステムにインストールされている場合は、このアプリケーションにつながるメニュー構造がメインメニューで反転表示されます。

次に、メインメニューから開始できるいくつかの機能について説明します。

#### 最近使ったファイル

最近開いたファイルやフォルダが表示されます。ドキュメントを選択すると、そのドキュメントを表示、編集するためのアプリケーションが起動します。このドキュメントの使用履歴は消去することもできます。

#### マイシステム

ホームディレクトリやメディアデバイスなど、頻繁に使用する場所に素早くアクセスできます。

#### コマンドを実行

コマンドを入力してアプリケーションを起動するためのダイアログボックスを開きます。一般的に、コマンド名はアプリケーション名を小文字表記したものになります。ただし、一部例外もあります。コマンドの自動入力機能を利用するには、コマンド名の最初の文字をいくつか入力してから **<Tab>** キーを押します。以前にコマンドが実行されており、他に同じ文字

で始まるコマンドがない場合は、このコマンド名のすべての文字が表示されます。

### ユーザーの切り換え

コンピュータ上で、GUI(グラフィカルユーザインタフェース)を使用する2番目のセッションを開始するには、**[ユーザの切替え]**を選択します。現在のセッションはアクティブのまま、別のユーザとしてログインするためのログイン画面が表示されます。1番目のセッションに戻るには、**Ctrl+Alt+F7**キーを押します。新しいセッションにアクセスする場合は、**F7**キーの代わりに**F8**キーを押します。同様に、それ以降にログインしたセッションにアクセスする場合は、それぞれ**Ctrl + Alt + F9～F12**キーを押します。

### セッションのロック

コンピュータから離れる場合に、画面をロックして他のユーザによる不正アクセスを防止することができます。ロック後に、スクリーンセーバーが開始されます。セッションに再びアクセスするには、パスワードを入力する必要があります。ロックを解除するには、通常のログインパスワードを入力します。

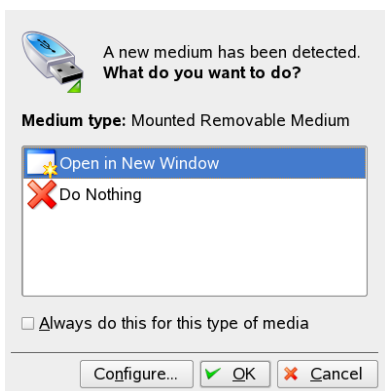
### Log Out

ダイアログにさまざまなオプションが表示されます。このダイアログから、現在のセッションを終了したり、コンピュータをオフにしたり、コンピュータを再起動したり、ログアウトをキャンセルすることができます。**[現在のセッションの終了]**を選択した場合は、システムは引き続き稼働し、次のログイン時にはアプリケーションが復元されます。システムに電源管理が装備されている場合は、コンピュータをサスペンドすることもできます。これは、サスペンドすると、次のシステム起動が完全にブートする場合より高速になるためです。

## 1.3.2 リムーバブルメディアの挿入または接続

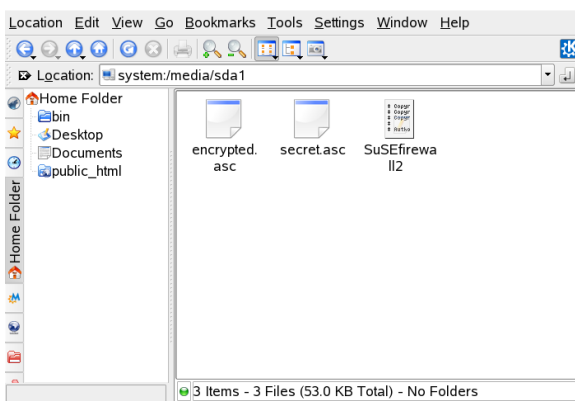
コンピュータにリムーバブルメディア(CD-ROM、デジタルカメラ、USBスティックなど)を挿入、または接続した場合、これらのメディアは自動的に検出されます。KDEの場合は、検出されたメディアの種類と、そのメディアを利用する場合のオプションがダイアログボックスに表示されます。表示されるオプションは、挿入されたメディアの種類によって異なります。

## 図 1.5 USBスティックの自動検出



ファイルマネージャでデータを表示する場合は、*[Open in New Window]* を選択して、*[OK]* をクリックします。Konquerorファイルマネージャに、リムーバブルデバイスの内容が表示されます。

## 図 1.6 USBスティックの内容の表示



特定の種類のリムーバブルメディアを挿入した時に毎回同じアクションが実行されるようにする場合は、表示されたダイアログで *[Always do this for this type of media]* を選択してから、*[OK]* をクリックします。

LUKS(Linux Unified Key Setup)を使って暗号化されているシステムにリムーバブルメディアを挿入、接続した場合、KDEはこれを認識し、パスワードの入力を要求するメッセージが表示されます。「[図 1.7. 「暗号化USBスティック](#)

の自動検出」(15 ページ)」を参照してください。暗号メディアにアクセスするためのパスワードを入力してください。

### 図 1.7 暗号化USBスティックの自動検出



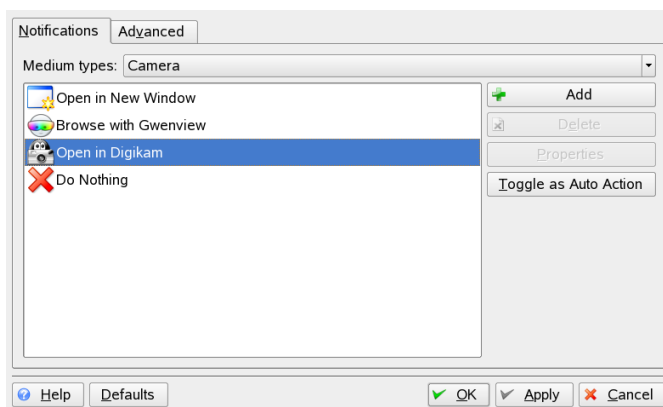
リムーバブルメディアの暗号化の詳細は、42.1.4項「Encrypting the Content of Removable Media」(第42章 *Encrypting Partitions and Files*, ↑Deployment Guide)を参照してください。

### 手順 1.1 リムーバブルメディアの処理の設定

自動検出ダイアログでは、リムーバブルメディアの種類に応じた処理方法を設定できます。たとえば、頻繁に利用する種類のメディアに必ず写真データが保存されている場合、その種類のメディアをイメージビューアアプリケーションで自動的に開くように設定できます。

- 1 自動検出ダイアログで、**[設定]** をクリックします。
- 2 設定用ダイアログに、利用可能なすべてのアクションが表示されます。
- 3 **[Medium types]** ドロップダウン リストをクリックして、特定のアクションを行うメディアの種類を選択します。選択した種類のメディアの中で、利用可能なアクションのみが表示されます。
- 4 適切なアクションを選択し、**[Toggle as Auto Action]** をクリックします。

図 1.8 リムーバブルメディアのKDE設定ダイアログ



- 5 [詳細] タブをクリックし、*[Enable medium application autostart after mount]* チェックボックスが選択されていることを確認します。
- 6 [OK] をクリックして、変更内容を適用し、設定ダイアログを閉じます。これで、指定した種類のメディアを挿入したときに毎回設定したアクションが自動的に実行されます。以降、検出ダイアログが表示されることはありません。

### 手順 1.2 デフォルトメディアの復元処理オプション

特定の種類のメディアに対して設定したアクションをリセットし、デフォルト設定に戻すには、次の手順に従います。

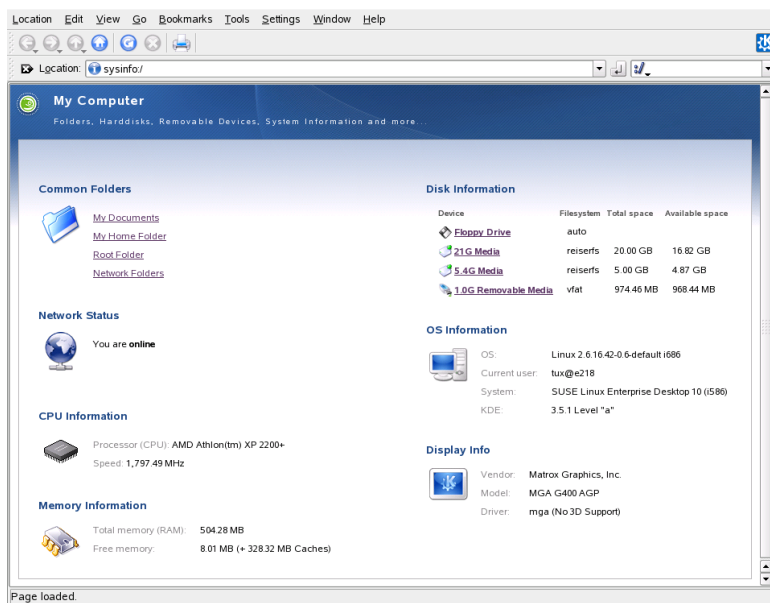
- 1 メインメニューから、*[個人設定]* を選択して、KDEコントロールセンターを起動します。
- 2 左側のナビゲーションバーで、*[周辺装置]* > *[ストレージメディア]* の順に選択します。右側に設定ダイアログが表示されます。
- 3 *[デフォルト]*、*[適用]* の順にクリックします。次回メディアを挿入するときに再び自動検出ダイアログが表示され、メディアの取り扱い方法を指定できます。



## 1.3.3 リムーバブルメディアへのアクセス

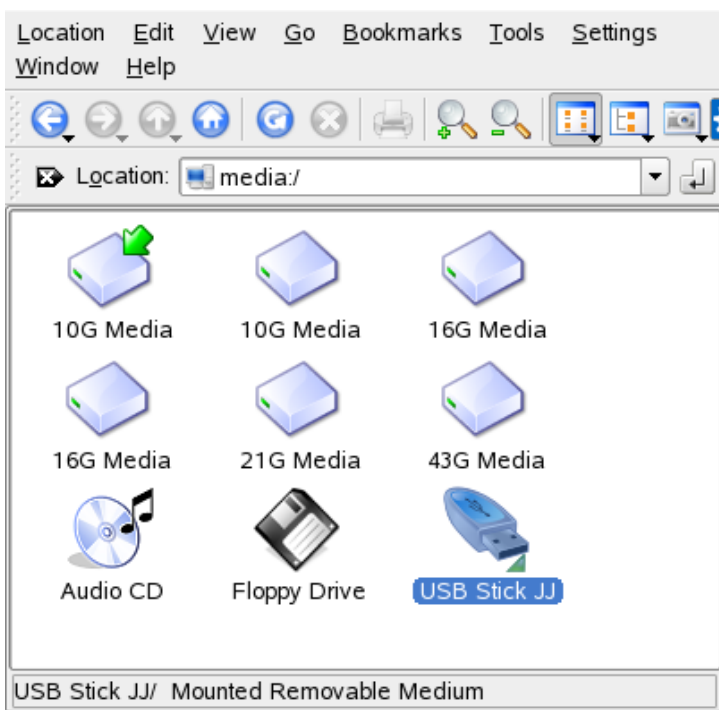
KDEでは、リムーバブルメディアにアクセスするために、さまざまな方法が用意されています。デスクトップの「マイコンピュータ」をクリックすると、「[図 1.9. 「マイコンピュータ」 \(17 ページ\)](#)」に示すようなビューが表示されます。

**図 1.9** マイコンピュータ



Konquerorをファイルマネージャ(「[1.4頁 「フォルダおよびKonquerorのあるファイルの管理」 \(19 ページ\)](#)」を参照)として起動して、開始ウィンドウから「[ストレージメディア](#)」をクリックするか、または場所ツールバーでmedia:/を入力した場合、「[図 1.10. 「Konquerorへのメディアの表示」 \(18 ページ\)](#)」で示すように、Konquerorにストレージデバイスが表示されます。

図 1.10 Konquerorへのメディアの表示



Konquerorでは、USBスティックのようなリムーバブルデバイスに名前を付けることもできます。KonquerorでUSBスティックを右クリックして、**[プロパティ]**を選択します。**[一般]**タブで、入力フィールドに名前を入力し、**[OK]**をクリックします。次回USBスティックを挿入したとき、Konquerorにはその名前が表示されます。

小さな緑色の矢印は、メディアが「マウントされていること」(ファイルシステムに統合されていること。メディアのデータにアクセスするために必要)を表します。通常、SUSE Linux Enterpriseでは、リムーバブルデバイスがマウントされているかどうか確認する必要はありません。デフォルトでは、マウントは自動的に行われます。

---

#### 注意: メディアの安全な取り外し

コンピュータからメディアを取り外す場合は、メディア内のデータにアプリケーションやユーザがアクセスしていないことを確認してください。メ

メディア内のデータにアクセスしているときにメディアを取り外すと、データが失われる危険性があります。メディアを安全に取り外すには、以下の手順に従います。

1. すべてのリムーバブルメディアを表示するビューを開きます。
2. 取り外すメディアを右クリックして、*[Safely Remove]* または *[Eject]* を選択します。*[Safely Remove]* を選択した場合、メディアのマウントが解除され、コンピュータから取り外すことができるようになります。*[Eject]* を選択した場合、コンピュータのCD/DVDドライブが自動的に開きます。

---

### 1.3.4 ごみ箱の管理

ごみ箱は、削除マークの付いたファイルを格納するためのディレクトリです。ファイルマネージャまたはデスクトップから、マウスの左ボタンを押したままアイコンをごみ箱までドラッグし、アイコンをドロップします。代わりに、アイコンを右クリックし、メニューから*[ごみ箱へ移動]*を選択することもできます。ごみ箱のアイコンをクリックすると、その内容を表示できます。必要に応じて、ごみ箱の中にある項目を取り出すこともできます。

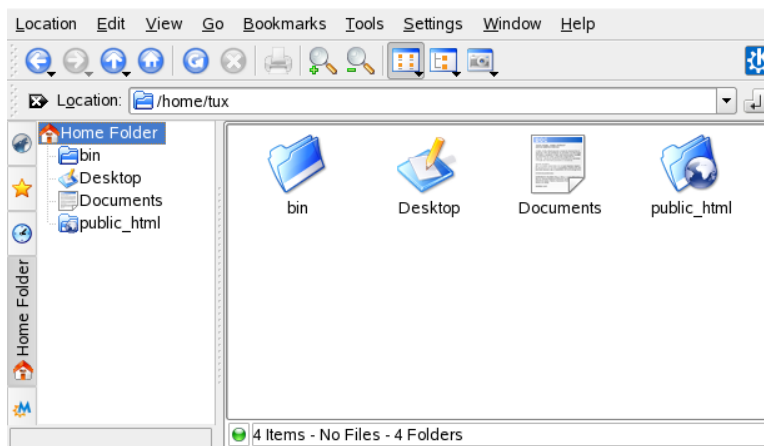
ファイルを右クリックして *[削除]* を選択する方法で削除した場合、そのファイルはごみ箱へ移動されることなく、完全に削除されます。ごみ箱の中にあるファイルを削除するには、ごみ箱のアイコンを右クリックし、*[ごみ箱を空にする]* を選択します。

## 1.4 フォルダおよびKonquerorのあるファイルの管理

Konquerorは、Webブラウザ、ファイルマネージャ、ドキュメントビューア、イメージビューアの統合ツールです。次のセクションでは、ファイル管理のためのKonquerorの使用について説明します。WebブラウザとしてのKonquerorについては、「[第14章 Konquerorを使ったブラウズ](#) (225 ページ)」を参照してください。

パネルにある家の形のアイコンをクリックしてファイルマネージャとしてのKonquerorを起動します。Konquerorには、ホームディレクトリの内容が表示されます。

### 1.11 ファイルマネージャKonqueror



Konquerorファイルマネージャウィンドウは、次の要素から構成されます。

#### メニューバー

メニューバーには、ファイルのコピー、移動、または削除、ビューの変更、追加ツールの起動、設定の定義、およびヘルプの取得などのアクションに関するメニュー項目があります。

#### ツールバー

ツールバーを使用すると、よく使用する機能に簡単にアクセスできます。これらの機能には、メニューからもアクセスできます。アイコンの上にポインタを移動すると、簡単な説明が表示されます。ツールバーの右側には、Konquerorアイコンがあり、ディレクトリやWebページのロード中、アニメーションで表示されます。

#### 場所ツールバー

場所ツールバーには、ファイルシステム内のディレクトリまたはファイルへのパスが表示されます。表示フィールドに入力するか、ディレクトリの1つをクリックすることで、ディレクトリへの直接のパスを入力できます。場所ツールバーの左隅にある、黒に白抜きXがあるバーをクリックし

て、行の内容を削除します。アドレスを入力した後、<Enter>キーを押すか入力行の右端にある[進む]アイコンをクリックします。

Windowsオペレーティングシステムと異なり、Linuxではドライブ文字は使用しません。Windowsでは、フロッピーディスクドライブをA:\でアドレス指定し、WindowsシステムデータはC:\の下にある、などのようになります。Linuxでは、すべてのファイルとディレクトリがツリー型構造で配置されます。最上位のディレクトリは、ファイルシステムルートまたは/と呼ばれます。他のすべてのディレクトリには、ここからアクセスできます。次に、Linuxファイルシステム内の最も重要なディレクトリの概略を示します。

/homeでは、システム上にアカウントを持つすべてのユーザの個人データが保持されます。このディレクトリにあるファイルは、その所有者またはシステム管理者しか変更できません。たとえば、各自の電子メールディレクトリは、このディレクトリにあります。

---

### 注意: ネットワーク環境でのホームディレクトリ

ネットワーク環境で作業している場合は、ホームディレクトリは/homeとは呼ばれないことがあります。ファイルシステム内のどのディレクトリにもマッピングできます。

---

/mediaでは、一般にシステムのハードディスク以外のあらゆるタイプのドライブが保持されます。USBフラッシュドライブは、接続されると/mediaの下に表示されます。これは、デジタルカメラ(USBを使用する場合)またはDVDやCDドライブを接続した場合も同様です。

/usr/share/docの下に、Linuxシステムとインストールされたパッケージに関するあらゆる種類のマニュアルがあります。manualサブディレクトリには、このマニュアルのデジタルコピーと他のマニュアル、そしてインストールされたLinuxシステムのバージョンのリリースノートが置かれています。packagesディレクトリには、ソフトウェアパッケージに付属するマニュアルが保持されます。

/windowsは、システム上にMS WindowsとLinuxの両方がインストールされている場合にのみ表示されます。ここには、MS Windowsのデータがあります。

Linuxファイルシステムの概念、およびより詳細なディレクトリリストについては、「15.1.2項「Linux Directory Structure」(第15章 *Working with the Shell*, ↑Deployment Guide)」を参照してください。

### ナビゲーションパネル

<F9>キーを押して、ナビゲーションパネルを非表示および表示にできます。ナビゲーションパネルには、ツリービューでの情報が表示されます。ナビゲーションパネルの左側にあるタブでシンボルをクリックして、表示したい内容を決定します。アイコンの上にマウスポインタを置くと、簡単な説明が表示されます。たとえば、ファイルシステムをルートフォルダまたはホームディレクトリで開始されるツリーとして表示できます。

### 表示フィールド

表示フィールドには、選択したディレクトリまたはファイルの内容が表示されます。[表示]メニューで、[アイコンビュー]、[ツリービュー]、または[詳細リスト表示]などのビューモードの中からいずれかを選択して内容を表示できます。ファイルをクリックすると、Konquerorに内容のプレビューが表示されるか、ファイルが次の処理を行うアプリケーションにロードされます。ファイルの上にマウスポインタを移動すると、Konquerorには、所有者、権限、変更日付など、ファイルの詳細情報のあるツールチップが表示されます。

デフォルトでは、通常アクセスまたは表示しないシステムファイルなどの隠しファイルはKonquerorには表示されません。Linuxでは、隠しファイルの前にはピリオドが付けられています。隠しファイルを表示または非表示にするには、[表示] > [Show Hidden Files]の順に選択します。

## 1.4.1 ファイルのコピー、移動、または削除

ファイルのコピー、移動、または削除のようなアクションの実行には、アクションに関連するフォルダとファイルに対する適切な権限が必要です。アクセスパーミッションの変更の詳細については、「1.4.3項「アクセス権の変更」(24 ページ)」を参照してください。

---

### ヒント: Konquerorでのオブジェクトの選択

Konqueror中のファイルまたはフォルダをクリックすると、ファイルの場合はプレビューが表示され、フォルダの場合はそのフォルダが開かれます。MS Windowsの従来のユーザーにとっては、この動作は変わっているかもし

れません。他のアクションなしでファイルを選択だけしたい場合は、<Ctrl>キーを押してからオブジェクトをクリックします。代わりに、KDEコントロールセンターでマウス設定を変更してください(「[Peripherals](#) (54 ページ)」を参照)。

---

ファイルまたはフォルダをコピーまたは移動するには、次の手順を実行します。

- 1 オブジェクトを右クリックして、コンテキストメニューから [コピー] または [切り取り] を選択します。オブジェクトがクリップボードに保管されます。
- 2 オブジェクトを挿入するフォルダに移動します。移動先フォルダを右クリックし、[貼り付け] を選択します。オブジェクトがコピー、または移動されます。

ドラッグアンドドロップを使用すると、Konquerorでのオブジェクトのコピーまたは移動などの操作が簡単にできます。たとえば、ドラッグするだけで、1つのウィンドウから別のウィンドウにオブジェクトを簡単に移動できます。オブジェクトをドロップすると、そのオブジェクトを移動するかコピーするかを尋ねるメッセージが表示されます。

ファイルまたはフォルダを削除するには、次の手順を実行します。

- オブジェクトを選択して<Del>キーを押すか、ファイルを右クリックしてから、コンテキストメニューから [ごみ箱へ移動] を選択します。オブジェクトはごみ箱へ移動されます。必要な場合は、ファイルまたはフォルダをそこから復元するか、完全に削除することができます。関連項目「[1.3.4項 「ごみ箱の管理」 \(19 ページ\)](#)」。
- オブジェクトを復元できないように削除するには、[編集] > [削除] をクリックするか、Shift+Delキーを押します。コンテキストメニューに [削除] を追加する場合は、[設定] > [Konquerorを設定] > [動作] の順にクリックして、適切なチェックボックスを選択します。

## 1.4.2 新しいフォルダの作成

Konquerorで新しいフォルダを作成するには、次の手順に従います。

- 1 サブフォルダの追加先のフォルダを右クリックします。
- 2 *[Create Folder]* を選択します。
- 3 *[新しいフォルダ]* ダイアログで、新しいフォルダの名前を入力して、*[OK]* をクリックします。

## 1.4.3 アクセス権の変更

Linuxはマルチユーザシステムのため、Linuxファイルシステム中のファイルは、それぞれユーザやグループに属します。スーパーユーザも含め、すべてのユーザには、各自のホームディレクトリが用意されています。このディレクトリには、ドキュメント、ブックマーク、または電子メールなどの個人データが保存されます。デフォルトでは、これらのホームディレクトリへの書き込みアクセスは所有者に限定されています。ファイルやディレクトリの所有者は、そのファイルへのアクセス権限を変更することができます。たとえば、重要なデータのあるファイルに対して、他のユーザからの読み取りアクセスを禁止したり、必要に応じて他のユーザによるファイルの読み取り、書き込みまたは実行を許可することができます。

従来どおり、Linuxシステムのファイルオブジェクトごとに3セットのパーミッションが定義されます。この3セットには、読み取り(r)、書き込み(w)、実行(x)の各パーミッションがあり、それぞれが3種類のユーザ(ファイル所有者、グループ、その他のユーザ)ごとに設定されます。Linuxの概念については、15.2項「Users and Access Permissions」(第15章 *Working with the Shell*, ↑Deployment Guide)を参照してください。シェルでアクセス権限を変更する従来の方法のかわりに、Konquerorが提供するGUIを利用することもできます。

ファイルの権限を設定するには、Konquerorで以下のオプションを選択してください。

### *Forbidden*

ファイルシステム中のファイル名は確認できますが、ファイルを開いて読み取ることにはできません。

### *Can Read*

ファイルを開いて参照できますが、変更することはできません。



### *Can Read & Write*

ファイルを開いて読み取ったり、変更したりできます。

Konquerorを使用してフォルダのパーミッションを設定する場合は、次のオプションを利用できます。

### *Forbidden*

ファイルシステムのフォルダ名は確認できますが、フォルダを開くことはできません。

### *Can View Content*

フォルダの内容を表示できます。

### *Can View & Modify Content*

フォルダの内容を表示したり、そのフォルダ内に新しいファイルやサブフォルダを作成できます。

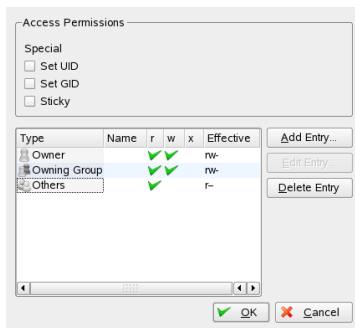
アクセスパーミッションを変更するには、次の手順に従います。

- 1 Konquerorを起動して、アクセスパーミッションを変更するファイルやフォルダを選択します。
- 2 ファイルを右クリックし、[プロパティ]を選択します。新しいダイアログが開きます。
- 3 [Permissions] タブをクリックします。タブの下部には、ファイルまたはフォルダの所有者情報が表示されます。タブの上部には、現在のアクセスパーミッションが表示されます。
- 4 [Owner]、[Group]、および [Others] リストから、ファイルやフォルダに設定するアクセスパーミッションを選択します。
- 5 [OK] をクリックして、変更内容を適用します。

Konquerorでは、ファイルシステムオブジェクトに対する従来のアクセスパーミッションのほかに、ACL(アクセス制御リスト)を使用することもできます。ACLを使用すれば、従来のパーミッション概念で許されていた以上のパーミッションを柔軟に定義できます。また、パーミッションが元の所有者や所有者の所属グループに対応していない場合でも個々のユーザまたはグループにそうしたパーミッションを割り当てることができます。ACLの詳細は、「第13章 Access Control Lists in Linux (↑Deployment Guide)」を参照してください。

特定のユーザまたはグループに、ファイルやフォルダに対するアクセスパーミッションを与えるには、以下の手順に従ってください。

- 1 **Konqueror**を起動して、アクセスパーミッションを変更するファイルやフォルダを選択します。
- 2 目的のファイルの **[プロパティ]** ダイアログを開き、 **[Permissions]** タブをクリックします。
- 3 **[AdvancedPermissions]** をクリックします。ダイアログボックスに、オブジェクトの現在のアクセスパーミッションが表示されます。



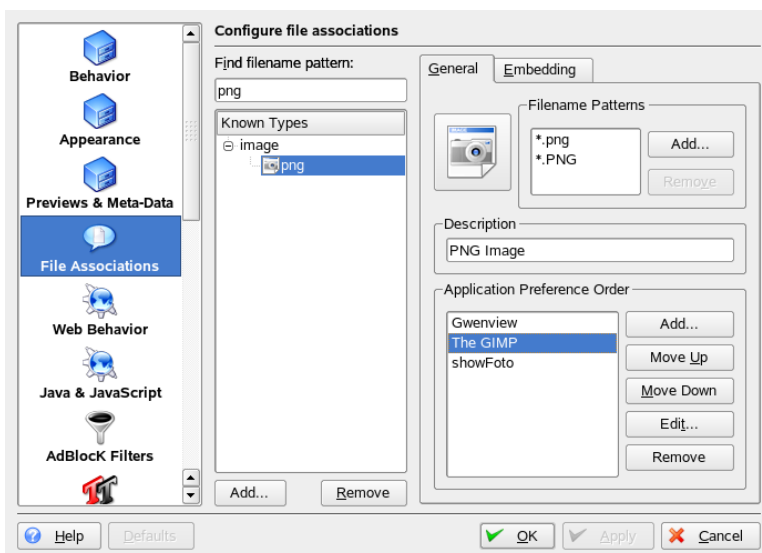
- 4 **[エントリの追加]** をクリックします。
- 5 ファイルやフォルダにアクセスパーミッションを特定のユーザに与えるには、 **[名前付きユーザ]** を選択して、リストから目的のユーザを選択します。

ファイルやフォルダにアクセスパーミッションを特定のグループに与えるには、 **[名前付きグループ]** を選択して、リストから目的のグループを選択します。

- 6 **[AdvancedPermissions]** ダイアログで、追加したユーザやグループが現在のパーミッションのリストに表示されます。ファイルやフォルダに対して読み取り、書き込み、または実行権限が与えられている場合、それぞれ **[r]**、 **[w]**、または **[x]** 列に緑のチェックマークが表示されます。



## 図 1.12 Konquerorでのファイルの関連付けの設定



- 1 Konquerorで、[設定] > [Konquerorを設定] > [ファイルの関連付け] をクリックします。
- 2 拡張子を検索するには、拡張子を [ファイルパターンを検索] に入力します。検索条件に一致するファイルパターンを持つファイルタイプだけがリストに表示されます。たとえば、アプリケーションを\*.pngファイルに変更するには、pngを [ファイルパターンを検索] に入力します。
- 3 [既知のタイプ] リストで、ファイルタイプをクリックして、このファイルタイプについての設定ダイアログを開きます。アイコン、ファイル名パターン、説明、およびアプリケーションの順番を変更できます。

ツールがリストにない場合は、[アプリケーションの優先順位] の [追加] をクリックしてそのツールのコマンドを入力します。

リストエントリの順番を変更するには、移動するプログラムをクリックし、[上に移動] または [下に移動] をクリックしてより高い優先度または低い優先度を割り当てます。このタイプのファイルをクリックすると、リストの一番上にあるアプリケーションがデフォルトで使用されます。

- 4 [既知のタイプ] リストにないファイルタイプが必要な場合は、[追加] をクリックすると、グループを選択してタイプ名を入力するためのダイアログボックスが表示されます。グループによって、オーディオ、イメージ、テキスト、ビデオなどのメインタイプが決まります。通常は、ファイルタイプにこれらのいずれかを割り当てることができます。

4a [OK] をクリックしたら、ファイルの拡張子を決定します。

4b テキストフィールドに説明を入力し、使用するアプリケーションを指定します。

- 5 [OK] をクリックします。

## 1.4.5 ビューのプロファイルの保存

[表示] メニューから適切な [ビューモード] を選択して、特定のフォルダのビューを一時的に変更できます。変更内容をすべてのフォルダに適用する場合は、ビュープロファイルに設定内容を保存します。設定内容を保存するには、目的のビューに変更した後に、[設定] > [ビューのプロファイルを設定] の順に選択します。次に、保存するプロファイル名を入力し、[保存] をクリックします。すべてのフォルダに対して、ビューの変更が適用されます。設定情報は、このプロファイルに保存されます。このプロファイルは、[設定] > [ビューのプロファイルを読み込み] の順に選択して、いつでもロードできます。Konquerorにはデフォルトで、さまざまな作業用ビュープロファイルがいくつか用意されています。これらのプロファイルは、ニーズに応じて変更することもできます。

## 1.4.6 Konquerorでデジタルカメラにアクセスする

Konquerorを使用して、デジタルカメラにもアクセスできます。お使いのカメラをUSBポートに接続します。カメラアイコンがデスクトップに表示されます。このアイコンをクリックすると、カメラがKonquerorで開きます。カメラには、KonquerorでURL([camera:/](#))を入力してもアクセスできます。カメラのディレクトリ構造内を移動して、希望のファイルを表示します。通常の

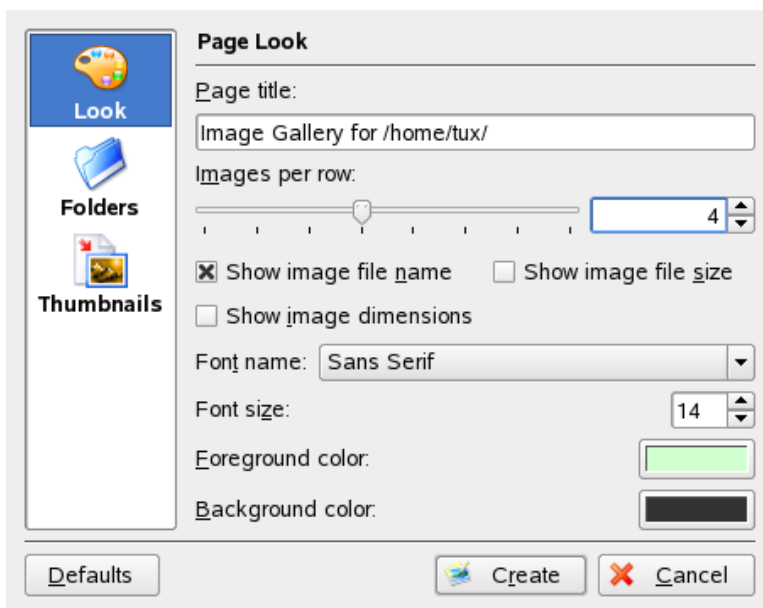
Konquerorファイル管理機能を使用して、これらのファイルを必要に応じてコピーします。

## 1.4.7 Konquerorで画像を表示する

Konquerorは、イメージビューアとして使用することもできます。ディレクトリ内に含まれているすべての画像の概要を簡単に表示するには、ディレクトリを選択し、ツールバーの [イメージビューア] アイコンをクリックします。サムネイルが生成され、ウィンドウの左側に表示されます。いずれかのサムネイルをクリックすると、ウィンドウの右側にその画像がフルサイズで表示されます。このツールバーには、前後移動、画像のズームや回転、スライドショーの作成用のアイコンも含まれています。通常の表示に切り替えるには、ツールバーの [アイコンビュー] または [ツリービュー] をクリックします。

この機能のほかに、画像をアルバム形式で表示するイメージギャラリーも作成できます。Konquerorでイメージディレクトリを開き、[ツール] > [Create Image Gallery] の順に選択します。ダイアログが開き、背景、背景色、ページタイトル、ギャラリーの保存場所などの設定を指定できます。[OK]をクリックして、アクションを開始します。デフォルトでは、index.htmlというファイルが作成されます。このファイルをKonquerorでクリックすると、画像が小さく整理されて表示されます。いずれかの画像をクリックすると、フルサイズで表示できます。

### 図 1.13 Konquerorでイメージギャラリーを作成する



Gwenviewを使用して、画像を表示することもできます。Gwenviewを起動するには、Alt + F2キーを押してgwenviewを入力します。Gwenviewの詳細については、Gwenviewのオンラインヘルプを参照してください。

デジタルカメラから写真をダウンロード、編集するには、「[第19章 デジタル画像コレクションの管理](#) (275 ページ)」で説明されているようにDigiKamを使用できます。

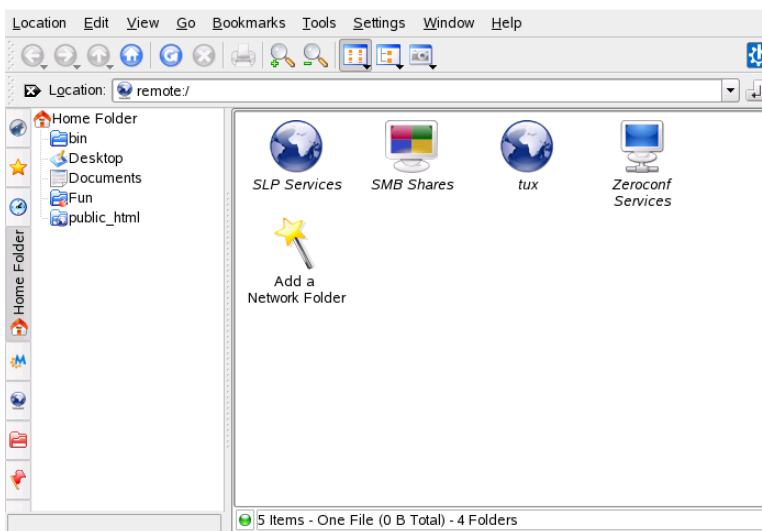
## 1.5 ネットワークリソースへのアクセス

デスクトップから、ファイルやディレクトリ、およびリモートホスト上の特定のサービスにアクセスしたり、自分のファイルやディレクトリをネットワーク中の他のユーザに利用させることができます。SUSE Linux Enterpriseには、ネットワーク共有リソースにアクセスしたり、リソースを作成するための、さまざまな手段が用意されています。ご利用のネットワーク構造とお使いの

コンピュータの設定に応じて、ネットワーク上の共有リソースやサービスをKonquerorのファイルマネージャを使用して簡単に参照できます。

そのためには、デスクトップの [ネットワーク参照] アイコンをクリックするか、またはKonquerorを起動して、場所ツールバーにremote:/と入力します。ウィンドウにアクセスできるネットワークシェアの種類が表示されます。ネットワークリソースの種類をクリックし、アクセスするネットワーク共有をクリックします。ユーザー名とパスワードを入力してリソースへの承認が求められる場合があります。

### 1.14 Windows Networkのワークグループ



詳細については、「[第9章 ネットワークリソースへのアクセス](#) (171 ページ)」を参照してください。

## 1.6 コンピュータまたはファイルシステム内のデータの検索

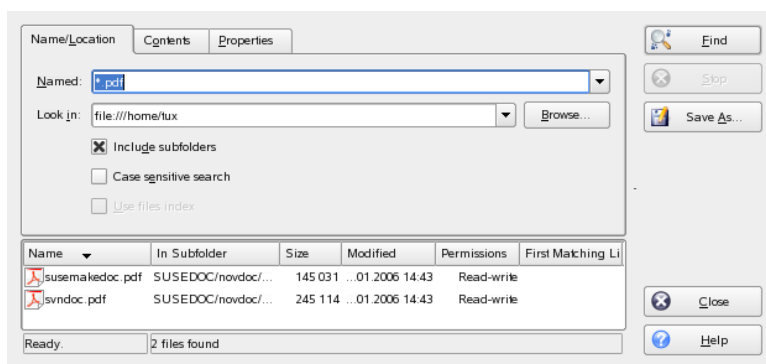
KDEでは、コンピュータまたはファイルシステムでのデータ検索用に複数のアプリケーションが提供されています。Kerryを使用して、個人情報の保管場所(通常はホームフォルダ)から、ドキュメント、電子メール、Web履歴、IM/ITC



対話、ソースコード、画像、音楽ファイル、アプリケーションなど、さまざまな情報を簡単に検索できます。詳細については、「[第11章 Kerryを使った検索 \(199 ページ\)](#)」を参照してください。

KFindでは、ファイルの内容、日付、所有者、またはファイルサイズなど、さまざまな検索条件を使用してコンピュータやファイルシステム内のファイルを検索できます。メインメニューから [アプリケーション] > [ファイル/フォルダの検索] を選択して起動します。または、**Alt+F2**キーを押してkfindと入力します。

図 1.15 KFindを使ったファイルの検索



## 1.6.1 ファイルの検索

特定のファイル名の検索を実行するには、次の手順に従います。

- 1 メインメニューまたはコマンドラインから、KFindを起動します。
- 2 [名前/場所] タブをクリックして、基本的な検索を実行します。
- 3 [名前] で検索するファイルの名前を指定します。次のようなワイルドカードを使用できます。

### アスタリスク

アスタリスク(\*)は、0を含むいくつかの欠けている文字を表します。たとえば、`marc*`の検索では、`marc`、`marc.png`、および `marc_must_not_read_this.kwd`のファイルを検索できます。 `mar*.kwd`の

検索では、*marketplace.kwd*および*marc\_must\_not\_read\_this.kwd*が検索できます。

#### 疑問符

疑問符(?)は、1文字を表します。たとえば、mar?の検索では、*marc*は検索できますが、marc?の検索では、*marc*および*marc.png*という名前のファイルは検索できません。検索項目には、希望するだけの数の疑問符を入れることができます。その数の文字が検索されます。

検索項目では、2つのワイルドカード記号を組み合わせることができます。

- 4 [検索範囲] で検索するフォルダを指定するか、[参照] をクリックして検索するフォルダを探します。[サブフォルダを含む] を選択すると、指定したフォルダから始まるサブフォルダすべてを検索することもできます。
- 5 <Enter>キーを押すか、[検索] をクリックします。

## 1.6.2 高度なファイル検索の実行

詳細検索については、ファイルに含まれている必要のあるテキストなど、さらに詳細なオプションを指定することができます。

- 1 メインメニューから、またはコマンドラインから、KFindを起動します。
- 2 [名前/場所] タブをクリックします。
- 3 [名前] で検索するファイルの名前を指定します。
- 4 [検索範囲] で検索を実行するフォルダを指定するか、[参照] をクリックしてフォルダを探します。
- 5 [内容] タブをクリックします。
- 6 [ファイルタイプ] で、検索するファイルのタイプを指定します。

- 7 [含まれるテキスト] に、検索するファイルに含まれている必要のある単語またはフレーズを入力します。
- 8 さらに詳細なオプションを指定したい場合は、[プロパティ] タブをクリックして、指定したいオプションを選択します。オプションまたはフィールドの上にマウスポインタを移動すると、簡単な説明が表示されます。
- 9 [検索] をクリックして、検索を実行します。

使用可能な検索オプションの詳細情報については、KFindオンラインヘルプを参照してください。

高度な検索では、検索パターンまたは正規表現を使用することもできます。KRegExpEditorでは、正規表現に基づいた検索オプションが提供されます。KRegExpEditorをYaSTを使用して、パッケージkdeutils3-extraとしてインストールできます。検索パターンおよびワイルドカードや正規表現の詳細については、「15.1項「Getting Started with the Bash Shell」(第15章 *Working with the Shell*, ↑Deployment Guide)」を参照してください。

## 1.7 アプリケーション間のテキストの移動

テキストをクリップボードにコピーして再び挿入するには、従来のMS Windows ユーザーは自動的にショートカットキーCtrl+CキーとCtrl+Vキーを試します。これは、Linuxでも大抵の場合機能します。ただし、Linuxではさらに簡単にテキストをコピー、挿入する方法も用意されています。テキストをコピーするには、目的のテキストをマウスで選択してから、そのテキストの挿入場所までマウスカーソルを移動します。マウスの中ボタンをクリックして、テキストを挿入します(2つボタンのマウスでは、両方のマウスボタンを同時に押します)。

いくつかのアプリケーションでは、テキストを挿入するアプリケーションでテキストがすでに選択されている場合は、クリップボードにあるテキストが他の選択されたテキストで上書きされてしまうので、この方法は使用できません。このような場合、KDEアプリケーションのKlipperが役に立ちます。Klipperは、クリップボードに移動した最後のエントリを「記憶」します。Klipperは、デフォルトでは、KDEがロードされたときに起動し、パネルにク

リップボードのアイコンとして表示されます。クリップボードの内容を表示するには、Klipperアイコンをクリックします。最新のエントリが一番上に表示され、黒のチェックマークで有効であることが示されます。Klipperに大きなテキストをコピーした場合は、テキストの最初の行だけが表示されます。

古いテキストをKlipperからアプリケーションにコピーするには、コピーするテキストをクリックして選択し、マウスポインタをコピー先のアプリケーションに移動してから中央のマウスボタンをクリックします。Klipperの詳細については、Klipperのオンラインヘルプを参照してください。

## 1.8 インターネットの探索

KDEでは、デフォルトのWebブラウザはKonquerorです。Konquerorを起動するには、パネルでKonquerorアイコンをクリックするか、Alt + F2キーを押してkonquerorと入力します。WebブラウザとしてのKonquerorについては、「[第14章 Konquerorを使ったブラウズ \(225 ページ\)](#)」を参照してください。

Konquerorに加えて、Mozillaベースのブラウザ、Firefoxも使用できます。メインメニューからFirefoxを起動するか、Alt + F2キーを押してfirefoxと入力します。別のWebブラウザと同じように、上にある場所ツールバーにアドレスを入力するか、ページにあるリンクをクリックして、別のページに移動できます。Firefoxの詳細については、「[第15章 Firefoxを使用したブラウジング \(235 ページ\)](#)」を参照してください。

## 1.9 E-Mail (電子メール)とスケジュール設定

KMailは電子メールクライアントで、POP3やIMAPなどの電子メールプロトコルをサポートしています。また、複数の電子メールアカウントのサポート、強力なフィルタ、PGP/GnuPGプライバシー、およびオンラインの添付ファイルの機能があります。メインメニューからKMailを起動するか、Alt + F2キーを押してkmailと入力します。

Kontactは、KMail、KOrganizer、およびKAddressBookなどのよく知られるアプリケーションを1つのインタフェースに統合した、個人情報管理(PIM)ツールです。これにより、電子メール、カレンダー、アドレス帳、その他のPIM機能

に簡単にアクセスできます。Kontactを起動するには、Alt + F2キーを押し、kontactと入力します。Kontactの使用の詳細については、「[第4章 Kontact: 電子メールとカレンダーリング](#) (109 ページ)」を参照してください。

## 1.10 OpenOffice.orgでのドキュメントのオープンまたは作成

オフィススイートOpenOffice.orgでは、ワードプロセッサ、表計算ソフト、プレゼンテーション、ベクタ描画、およびデータベースのコンポーネントが提供されます。OpenOffice.orgは複数のオペレーティングシステムで使用できるため、コンピューティングプラットフォーム間で、同じデータを共用できます。また、必要であれば、Microsoft Office形式でファイルを開いて編集し、この形式に戻して保存することもできます。

OpenOffice.orgを起動するには、Alt + F2キーを押して、oooと入力するか、デスクトップで [オフィス] アイコンをクリックします。

OpenOffice.orgの詳細は、「[第3章 OpenOffice.org オフィススイート](#) (71 ページ)」またはOpenOffice.orgプログラムのヘルプを参照してください。

## 1.11 KWalletマネージャによるパスワード管理

保護されたリソースにログインする際に必要なパスワードをすべて記憶するのは困難です。KWalletがユーザに代わってパスワードを記憶します。KWalletはすべてのパスワードを集めて暗号化されたファイルに保存します。1つのマスターパスワードを入力するだけで、ウォレットを開いて、エントリを表示、検索、削除、作成を行うことができます。通常は、エントリを手動で挿入する必要はありません。KDEによってリソースに認証が必要かどうか判断され、必要な場合にKWalletが自動的に起動されます。

---

## 重要項目: KWalletパスワードの保護

---

KWalletパスワードを忘れてしまった場合は、回復できません。そのパスワードを知っている他のユーザは、ウォレット内のすべての情報を取得できてしまいます。

---

### 1.11.1 KWalletの起動

KWalletを初めて起動すると(たとえば、ログイン用パスワードを入力する必要のあるWebサイトにアクセスする場合など)、ようこそ画面が表示されます。

[基本設定] (推奨)と [高度な設定] のどちらかを選択します。[基本設定] を選択した場合は、次に表示される画面で、個人情報を保存するかどうかを選択します。KonquerorやKMailなどの一部のKDEアプリケーションでは、ウォレットシステムを使用してWebフォームデータやCookieを保存できます。保存する場合は、KWalletを使用するために [はい、KDEウォレットを使用して個人情報を保存します]。を選択してから、[完了] をクリックします。

[高度な設定] を選択した場合は、[セキュリティレベル] 画面が表示されます。通常はデフォルトの設定で十分ですが、変更が必要になる場合もあります。[アイドル状態のwalletを自動的に閉じる] を選択すると、一定時間使用されないウォレットは閉じられます。ネットワークパスワードとローカルパスワードを別々に保存する場合は、[ネットワークパスワードとローカルパスワードを別のwalletファイルに保存する] を有効にします。[Finish (完了)] をクリックします。

パネルのKWalletアイコンを右クリックして [ウォレットを設定] を選択すると、いつでも設定を変更できます。ダイアログボックスが表示されて、いくつかのオプションを選択できます。デフォルトでは、すべてのパスワードが1つのウォレット、*kdewallet*、に格納されますが、新しいウォレットを追加することもできます。設定が完了すると、KWalletがパネルに表示されます。

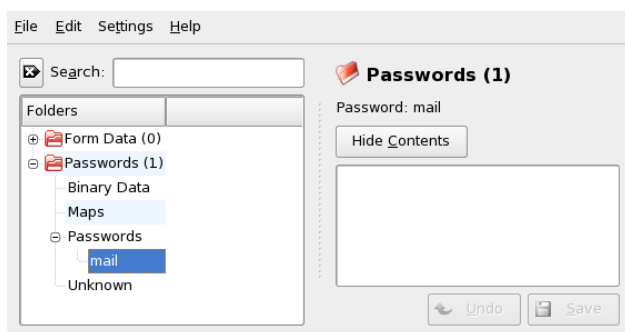
### 1.11.2 KWalletマネージャ

ウォレットにデータを格納したり内容を表示したりするには、パネルのKWalletアイコンをクリックします。ダイアログボックスが表示されて、システムでアクセス可能なウォレットが表示されます。ウォレットをクリックして開きます。パスワードの入力を求めるウィンドウが表示されます。

ログインに成功すると、KWalletマネージャウィンドウが表示されます。これは、3つの部分に分かれています。左上には概要、右上にはサブフォルダ、左下にはフォルダエントリのリスト、そして右下には選択したエントリの内容が表示されます。

KWalletマネージャでは、KWalletのマスタパスワードは、[ファイル] > [パスワード変更] を使用していつでも変更できます。

### 1.16 KWalletマネージャウィンドウ



フォルダの追加または削除ができます。フォルダを選択すると、フォルダエントリのリストおよび概要表示が更新されます。フォルダエントリを選択すると、エントリの内容のペインが更新され、そのエントリを編集できるようになります。また、フォルダの内容についてのコンテキストメニューを使用し、エントリを作成したり削除したりすることもできます。

新しいエントリを挿入するには、次の手順に従います。

#### 手順 1.3 ウォレットに新しいエントリを挿入する

- 1 ウィンドウの右上部分で、エントリを追加するサブフォルダを選択します。

左下部分に、サブフォルダに属するエントリのリストが表示されます。新しいエントリを [Maps] または [Passwords] に追加できます。キーと値のペアがある場合は、[Maps] を使用します。パスワードには、複数のエントリを含めることができます。

- 2 新しいパスワードを追加するには、[Passwords] エントリを右クリックし、コンテキストメニューから [新規] を選択します。

- 3 新しいエントリの名前を入力し、 **[OK]** をクリックします。これで、新しいエントリがフォルダエントリの下に表示されるようになります。
- 4 この新しいエントリを右側に表示するには、エントリをクリックします (初めは、このフォルダは空です)。
- 5 **[Show Contents]** をクリックして、新しいパスワードを入力するための入力フィールドを開きます。
- 6 パスワードを入力して、 **[保存]** をクリックします。KWalletは、選択したサブフォルダにパスワードを保存します。

### 1.11.3 ウォレットを別のコンピュータにコピーする

多くの場合、KWalletはパネルに常駐し、必要に応じて自動的に有効になります。ただし、ウォレットファイルを別のコンピュータ(ラップトップなど)にコピーできます。ウォレットをマネージャウィンドウからファイルブラウザウィンドウにドラッグするだけです。これにより、別の環境に転送するために、新しいウォレットを簡単にパッケージできます。たとえば、新しいウォレットをリムーバブルフラッシュメモリデバイスに作成したりコピーしたりすることもできます。重要なパスワードはそこに転送されるので、別の場所でそのパスワードを使用することができます。

## 1.12 アーカイブの表示、解凍、および作成

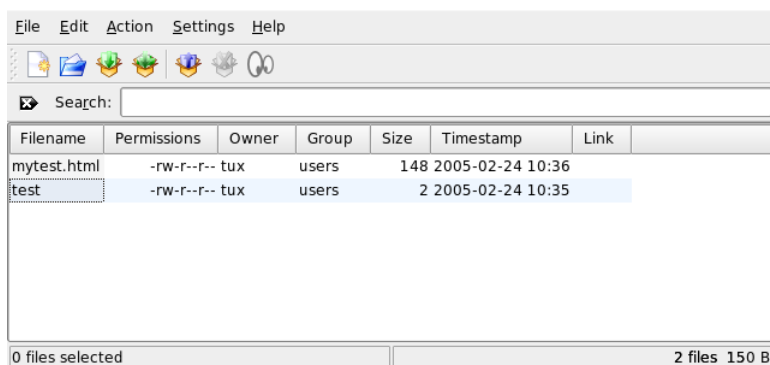
ハードディスクの容量を節約するには、圧縮プログラムを使用してファイルやディレクトリを圧縮し、その元のサイズから縮小します。アプリケーションArkは、このようなアーカイブの管理に使用できます。このアプリケーションは、zip、tar.gz、tar.bz2、lha、rarなどの一般的な形式をサポートしています。

Arkは、メインメニューから、またはコマンドラインでコマンドarkを入力して起動します。すでに圧縮ファイルが存在する場合、開いたKonquerorウィンドウからArkウィンドウにそれらのファイルを移動してアーカイブの内容を表



示します。Konquerorでアーカイブの統合プレビューを表示するには、Konquerorでアーカイブを右クリックし、[プレビュー] から [アーカイバ] を選択します。この代わりにArkで [ファイル] > [開く] を選択して、ファイルを直接開くこともできます。

### ☒ 1.17 Ark: ファイルアーカイブのプレビュー



いったん開いたアーカイブには、さまざまなアクションを実行できます。[アクション] には、[ファイルを追加]、[フォルダを追加]、[削除]、[展開]、[参照]、[アプリケーションで編集]、および [アプリケーションで開く] などのオプションがあります。

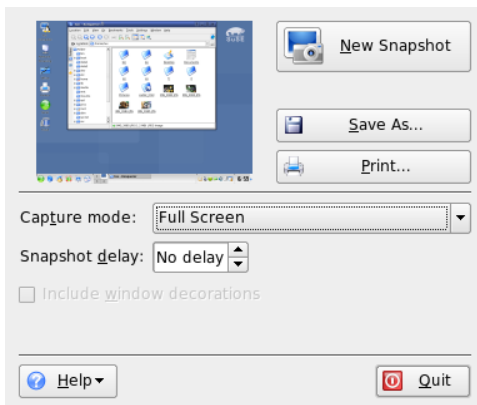
新しいアーカイブを作成するには、[ファイル]、> [新規] を選択します。表示されたダイアログに新しいアーカイブの名前を入力し、[フィルタ] で形式を選択します。[保存] をクリックするか、Enterを押して作成を確認すると、空のウィンドウが表示されます。このウィンドウに、ファイルマネージャからファイルやディレクトリをドラッグアンドドロップできます。最後に、Arkによって、選択したアーカイブ形式ですべてのファイルやディレクトリが圧縮されます。Arkの詳細については、[ヘルプ] > [Arkハンドブック] を選択してください。

## 1.13 スクリーンショットを撮る

KSnapshotを使用すると、画面や個々のアプリケーションウィンドウのスナップショットを取得できます。メインメニューからプログラムを選択するか、Alt+F2キーを押してksnapshotと入力して、このプログラムを起動します。KSnapshotのダイアログには、2つの部分があります。上部( [現在のスナップ

ショット] )には現在の画面のプレビュー、およびスクリーンショットを作成、保存するための3つのボタンが表示されます。下部には、スクリーンショットの実際の作成についてのさらなるオプションがあります。

### ☒ 1.18 KSnapshot



スクリーンショットを撮るには、[新規スナップショット] をクリックしてから実際にスクリーンショットを作成するまでの時間を [スナップショットの遅延] に秒単位で設定します。[カーソル下のウィンドウ] が有効な場合、ポインタがあるウィンドウだけが格納されます。スクリーンショットを保存するには、[スナップショットを保存] をクリックして、以降のダイアログにある写真についてのディレクトリとファイル名を指定します。[スナップショットを印刷] をクリックして、スクリーンショットを印刷します。

また、GIMPを使用して、スクリーンショットを撮ることもできます。GIMPを開くには、Alt + F2キーを押してからgimpと入力します。GIMPを初めて起動すると、ホームディレクトリにあるいくつかのファイルがインストールされ、そのファイルを環境に適用することのできるダイアログが表示されます。GIMPの使用については、「第18章 GIMPによるグラフィックスの操作(255ページ)」またはヘルプを参照してください。YaSTを使ってヘルプをインストールする必要がある場合もあります(kdeutils3-extra)。

## 1.14 KPDFによるPDFファイルの表示

おそらくPDFは、重要なドキュメントファイル形式の1つでしょう。KPDFは、PDFファイルの表示と印刷を可能にするKDEプログラムです。

KPDFを起動するには、**Alt+F2**キーを押して`kpdf`と入力します。[ファイル] > [開く]を選択してPDFファイルをロードします。PDFファイルがKPDFのメインウィンドウに表示されます。このウィンドウの左側には、サムネイルが表示されるサイドバーと目次ビューがあります。サムネイルでページの概要を把握できます。目次ビューにはブックマークがあり、これをクリックしてドキュメント内を移動できます。目次ビューが空の場合は、そのPDFではブックマークがサポートされていないことを意味します。

メインウィンドウに2ページを表示するには、[表示] > [Two Pages (2ページ)]を選択します。[表示]メニューで最近選択した2つのオプションによってメニュー表示が異なります。

ツールバーの選択ツールを使用して領域を選択することもできます。四角形を描き、ポップアップメニューで、その領域をテキストとして選択するか、またはグラフィックとして選択するかを指定します。領域はクリップボードにコピーされます。ファイルに保存することもできます。

## 1.15 KMixを使ったサウンドの制御

YaSTは、お使いのコンピュータにあるサウンドカードを自動的に検出および設定します。また、YaSTの [Hardware] モジュールを起動して、手作業でサウンドカードを設定することもできます。サウンドカードを設定した後は、ミキサーを使ってサウンドのボリュームやバランスを調整できます。

---

### ヒント: ミキサーの開始

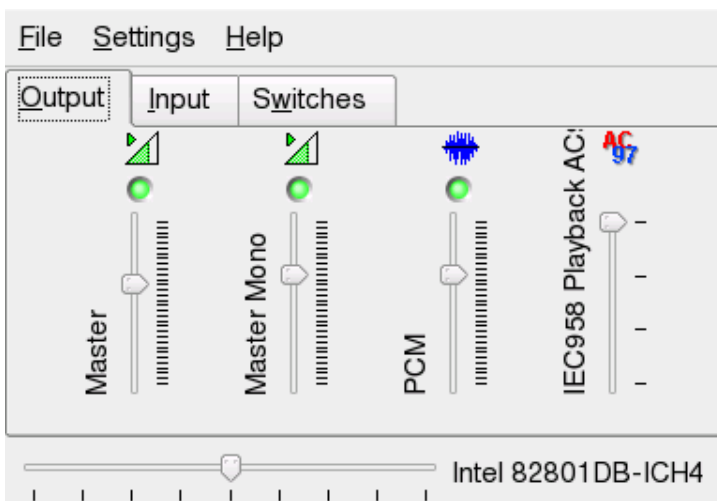
デスクトップのパネルにミキサーアイコン(スピーカー記号)が表示されない場合は、**Alt + F2**キーを押してから、`kmix`を入力するか、メインメニューからミキサーを起動します。通常ミキサーは、[ボリュームコントロール]の下にあります。

---

デフォルトでは、システムトレイにあるKMixアイコンをクリックすると、マスタコントローラが表示されます。ここから、全体的なボリュームを上げた

り、下げたりできます。サウンドをミュートするには、緑色のLEDをクリックしてください。ミュートした場合、LEDは暗くなります。もう一度LEDをクリックすると、ミュートが解除されます。複数チャンネルのサウンド設定を細かく制御するには、KMixアイコンを右クリックして、*[Show Mixer Window]* を選択します。メインウィンドウでは、*[Output]* (出力)、*[Input]* (入力)、および *[Switches]* (スイッチ)を設定できます。設定するデバイスには、デバイスアイコンを右クリックして表示されるそれぞれのコンテキストメニューがあります。各デバイスは、個別にミュートまたは隠すことができます。KMixの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

図 1.19 KMix ミキサー



## 1.16 ZENツールを使ったパッケージの管理

ZENツールは、ZENworks管理デーモン(zmd)のフロントエンドとしての役割を果たし、ソフトウェアのインストールと削除、セキュリティアップデートの適用、およびサービスとカタログの管理などを簡単に行うことができます。

## 1.16.1 パーミッションの取得

Linuxシステムのパッケージを管理するには、root権限が必要です。ZENツールとrugには、独自の管理システムがあり、これを使ってユーザはソフトウェアアップデートをインストールすることができます。ZENツールで特別な権限を必要とする操作を実行しようとする、最初はrootパスワードの入力が要求されます。パスワードが確認されると、ZENツールはそのユーザのアカウントにアップデートパーミッションを与えて、ユーザ管理システムに登録します。これらの設定を確認、変更するには、ユーザ管理コマンドrugを使用します「(8.14.4頁「rug User Management」(第8章 *System Configuration with YaST*, ↑Deployment Guide)」を参照)。

## 1.16.2 ソフトウェアアップデートの入手とインストール

Software Updaterは、通知領域(GNOME)またはパネルのシステムトレイ(KDE)に、地球儀のアイコンで表示されます。ネットワークリンクの可用状況、および新しいアップデートの利用可否に応じて、このアイコンの色は変化します。Software Updaterは、1日1回システムに適用できるアップデートがあるかどうかを自動的にチェックします(手動チェックする場合は、アプリケーションアイコンを右クリックして [更新] をクリックしてください)。利用できるアップデートがあった場合は、パネル内のSoftware Updaterアプレットが地球儀の形から、オレンジ色の背景の感嘆符に変わります。

パネルのアイコンを左クリックすると、アップデートウィンドウが表示されます。利用できるパッチと新しいバージョンのパッケージが表示されます。各項目には簡単な説明と、カテゴリアイコン(ある場合)が表示されます。セキュリティパッチには、黄色の盾の形をしたマークが付けられます。オプションのパッチには、青い丸の形をしたマークが付けられます。推奨するパッチには、アイコンがありません。一番最初にセキュリティパッチ、次に推奨するパッチ、オプションパッチ、そして最後に新しいバージョンのパッケージの順に表示されます。表示するパッケージをフィルタリングするには、[すべて]、[パッケージ]、および [パッチ] を使用します。

---

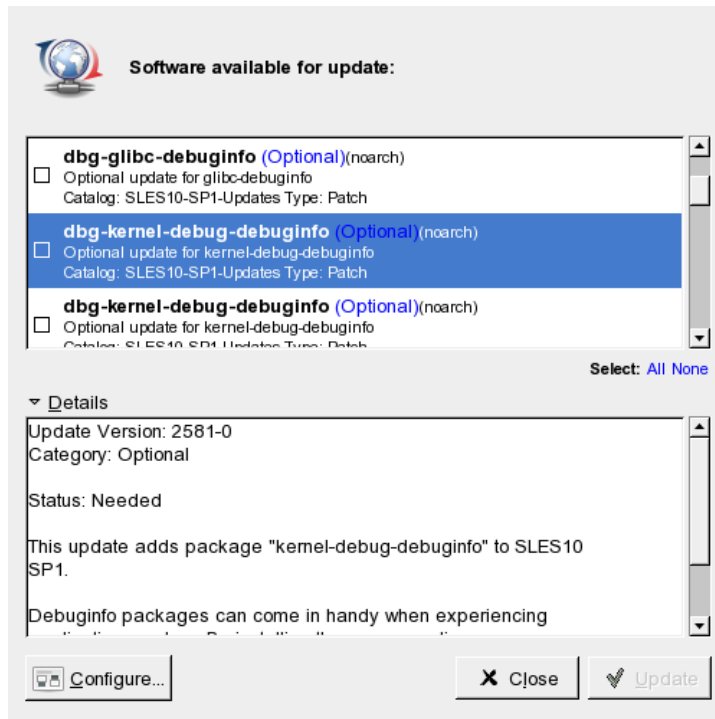
## 注意: パッケージとパッチ

Novellから公式にリリースされたアップデートは、パッチとして表示されます。他のソースから提供された新しいバージョンのパッケージは、パッケージとして表示されます。

---

特定のエントリに関する詳細を表示するには、エントリを選択してからリストウィンドウの下にある **[詳細]** リンクをクリックします。インストールする項目を選択するには、該当する項目のチェックボックスを選択します。すべてのパッチを選択、または選択解除する場合は、**[すべて]** または **[なし]** リンクを使用します。**[アップデート]** をクリックすると、選択したプログラムがインストールされます。

**図 1.20** ソフトウェアアップデートの選択



## 1.16.3 ソフトウェアのインストール

ソフトウェアパッケージをインストールするには、メニューから [ソフトウェアのインストール] を選択するか、またはzen-installerを実行します。インタフェースは、Software Updaterとほとんど同じです(1.16.2項「ソフトウェアアップデートの入手とインストール」(45 ページ)を参照)。ただし、パッケージを検索したり、リストのフィルタリングを行う検索パネルのみが異なっています。インストールするパッケージのチェックボックスを選択して、[インストール] を選択すると、パッケージのインストールが開始されます。他のパッケージとの依存関係は、自動的に解決されます。

## 1.16.4 ソフトウェアの削除

ソフトウェアパッケージをアンインストールするには、メニューから [ソフトウェアのアンインストール] を選択するか、またはzen-removerを実行します。リストに表示するパッケージを絞り込むには、[製品] (製品を完全にアンインストール)、[パターン] (パターンの詳細は、「Installing and Removing Patterns」項(第8章 *System Configuration with YaST*, ↑Deployment Guide)を参照)、[パッケージ]、[パッチ] の各リンクを使用します。削除する項目のチェックボックスを選択して、[削除] をクリックすると、パッケージのアンインストールが開始されます。選択したパッケージに依存する他のパッケージがある場合、それらのパッケージも削除されます。これらのパッケージを削除することを確認する必要があります。確認のダイアログで [キャンセル] をクリックすると、アンインストールされるパッケージはありません。

## 1.16.5 Software Updaterの設定

ZENツールを設定するには、アプリケーションウィンドウで [設定] をクリックします。ウィンドウに [サービス]、[カタログ]、および [初期設定] の3種類のタブが表示されます。

### サービスとカタログ

サービスは、ソフトウェアパッケージとその情報を提供する基本的なソースです。各サービスは、1つまたは複数のカタログを提供することができます。

[サービス] タブには、利用できるすべてのサービスと、そのタイプ、ステータス情報が表示されます(後の2つの情報が見えない場合は、ウィンドウサイズを調整してください)。サービスを追加、削除するには、*[サービスの削除]* または *[サービスの追加]* を使用します。次のサービスタイプを利用できます。

## YUM

パッケージデータにRPM-MD形式を使用するHTTP、HTTPS、またはFTPサーバ。

## ZYPP

ZYPPサービスは、YaSTインストールソースで、YaSTから *[ソフトウェア] > [インストールソース]* の順に選択して追加できます。インストールソースを追加するには、Software UpdaterまたはYaSTを使用します。最初にインストールしたソース(通常はDVDまたはCDROMから)が、事前に設定されています。このソースを変更または削除した場合は、それを他の有効なソース(ZYPPサービス)に変更してください。そうしないと、新しいソフトウェアをインストールできません。

---

### 注意: 用語

「YaSTインストールソース」、「YaSTパッケージリポジトリ」、および「ZYPPサービス」は同じで、ここからソフトウェアをインストールできます。

---

## マウント

*[マウント]* により、コンピュータにマウントされているディレクトリを組み込むことができます。この機能は、たとえば、定期的にNovell YUMサーバのミラーリングを行い、その内容をローカルネットワークにエクスポートするようなネットワーク環境で役立ちます。ディレクトリを追加するには、*[サービスURI]* にディレクトリへのフルパスを入力してください。

## NU

NUはNovell Updateを意味しています。Novellは、SUSE Linux Enterpriseのアップデートを、NUサービスとして提供しています。インストール時にアップデートを設定している場合、リストには公式のNovell NUサーバが表示されます。



インストール時にアップデート設定をスキップした場合は、コマンドラインから `suse_register` を実行するか、または `root` ユーザとして YaST で [ソフトウェア] > [Product Registration] を選択してください。Novell Update サーバが Software Updater に自動的に追加されます。

## RCE と ZENworks

Opencarpet、Red Carpet Enterprise、または ZENworks サービスは、内部ネットワーク内でこれらのサービスが設定されている場合にのみ利用できます。たとえば、所属組織が単一のサーバからアップデートを配布するサードパーティ製のソフトウェアを利用している場合、これらのサービスは利用できません。

SUSE Linux Enterprise をインストールすると、2種類のサービスが事前設定されます。ZYPP サービスとしてのインストールソース(DVD、CD-ROM、またはネットワークリソース)、およびサービスとしての SUSE Linux Enterprise アップデートサーバ(製品登録時に追加される)です。通常、これらの設定を変更する必要はありません。サービスが表示されない場合は、`root` シェルを開いて、`suse_register` コマンドを実行してください。サービスが自動的に追加されます。

## カタログ

サービスは、異なるバージョンのさまざまなソフトウェアに対するパッケージを提供できます(一般的には RCE または ZENworks サービスが提供します)。これらのパッケージは、カタログと呼ばれるカテゴリ別に分類されています。カタログに登録または登録解除するには、該当するカタログの隣にあるチェックボックスを選択または選択解除してください。

現時点では、SUSE Linux サービス(YUM と ZYPP)で、異なるカタログは提供していません。各サービスとも1つのカタログしかありません。インストール時、または `suse_register` で Software Updater を設定した場合は、自動的に YUM および ZYPP カタログに登録されます。手作業でサービスを追加した場合は、カタログを自分で登録する必要があります。

---

### 警告: カタログからの登録解除

カタログからパッケージをインストールするには、このカタログに登録していなければなりません。登録を解除した場合、アップデートウィンドウ

には引き続きこのカタログからのパッケージが表示されますが、それらをインストールすることはできません。

---

## 初期設定

[初期設定] タブで、**Software Updater**を起動時に開始するかどうかを指定します。rootユーザは、**Software Updater**の設定を変更することもできます。権限のないユーザは、設定を表示することしかできません。設定に関する説明は、rugのマニュアルページを参照してください。

## 1.17 詳細情報

開始についてここで説明したアプリケーションのほかに、KDEは他の多くのアプリケーションを実行できます。多くの重要なアプリケーションの詳細については、このマニュアル内の他の部分を参照してください。

- KDEおよびKDEアプリケーションの詳細については、<http://www.kde.org/>および<http://www.kde-apps.org/>も参照してください。
- バグレポートや機能要求の追加を行うには、<http://bugs.kde.org/>を参照してください。

## 設定のカスタマイズ

自分の個人的な好みや必要に応じて、KDEデスクトップの見かけや動作を変更できます。KDEデスクトップの外観を変更するには、さまざまな方法があります。ユーザの場合は、次のオプションを利用できます。

- 個別のデスクトップオブジェクトのみの外観や動作を変更する場合は、一般的にオブジェクトを右クリックして設定ダイアログにアクセスします。
- KDEデスクトップ全体の総合的な外観を変更する場合は、KDEコントロールセンターを使用します。コントロールセンターには、さまざまな環境設定モジュールやダイアログが用意されています。これらのダイアログの一部は、デスクトップオブジェクトのコンテキストメニューからもアクセスできます。

### 2.1 KDEコントロールセンターの使用

KDEコントロールセンタは、KDEデスクトップ内のさまざまなコンポーネントの外観や動作を変更する場合に用いられます。コントロールセンターを起動するには、メインメニューから [お気に入り] > [個人設定] の順に選択するか、Alt + F2キーを押してkcontrolを入力します。

## 図 2.1 KDE コントロールセンター



---

### ヒント: 個別モジュールの起動

ターミナルから、またはパネルに特別のアプレットを追加して、KDE コントロールセンターの各モジュールを起動することもできます。

シェルからモジュールを起動するには、`kcmsshell --list`と入力して、利用できるモジュールの一覧を表示します。`kcmsshell` モジュール名 と入力すれば、目的のモジュールを起動できます。

代わりに、設定アプレットをパネルに追加することもできます。詳細は、「[パネル要素の追加と削除 \(62 ページ\)](#)」を参照してください。

---

サイドバーには、各設定のサブセットが異なるカテゴリで用意されています。各カテゴリアイコンをクリックして、そこにある設定項目を確認してください。[戻る] をクリックして、常に、より高いレベルのカテゴリに戻ることができます。すべてのカテゴリの概要については、ツリービューに切り替えます。[表示] > [モード] > [ツリービュー] を選択して、ビューを変更します。

項目をクリックすると、対応する設定が右に表示されます。必要に応じて、設定を変更します。[適用]をクリックすると、変更が有効になります。オプションを変更してから、そのままにしておきたい設定を決定した場合は、[リセット]をクリックして、変更を破棄します。[デフォルト]をクリックして、ページにある項目すべてをデフォルト値にリセットします。設定を変更するには、rootパーミッションが必要な場合があります。要求されたときにはrootでログインします。

主要カテゴリと、変更できる重要な設定項目を次のリストに示します。各カテゴリの設定についての詳細な情報は、設定の各ページ、またはHelp Centerにある [ヘルプ] ボタンで確認できます。

### 外観とテーマ

デスクトップの背景、スクリーンセーバー、およびデスクトップに表示するフォントに関する設定があります。テーマ、ウィンドウ飾り、およびボタン、メニュー、スクロールバーなどのデスクトップ要素のスタイルを変更することができます。カーソルの動作やKDE起動時の初期画面も、ここで設定できます。

### デスクトップ

仮想デスクトップ数、およびパネルのサイズ、位置、長さ、外観に関する設定項目があります。また、メインメニューも変更することができます。タスクバーセクションでは、すべてのデスクトップのウィンドウをタスクバーに表示するかどうかなどの、タスクバーオプションを設定します。他の2つのセクションを使って、ウィンドウの動作を制御することができます。

### インターネットとネットワーク

接続のタイムアウト値などの、Bluetooth関連のオプションを定義できます。デスクトップの共有、ファイル共有の有効化/無効化、およびローカルネットワーク参照とプロキシサーバに関する設定を行うこともできます。Konquerorの動作もここで変更できます。

### KDEコンポーネント

Component Chooserを使って、デフォルトの電子メールクライアント、テキストエディタ、メッセージャー、ターミナル、およびWebブラウザを変更することができます。KDEアプリケーションからこれらのタイプのアプリケーションを起動するたびに、ここでデフォルトのコンポーネントが呼び出されます。ここでは、インデックスを作成するディレクトリなど、Kerry Beagle®を使ったデスクトップ検索に関するオプションを設定しま

す。必要に応じて、ファイルタイプを識別して適切なアプリケーションを起動するための、デフォルトのファイル関連付けを変更することもできます。**Konqueror**ファイルマネージャのオプションを設定します。ログイン/シャットダウン時のセッションの取り扱い方法を定義したり、スペルチェックオプションを設定することができます。

### *Peripherals*

デジカメ、ディスプレイ、ジョイスティック、キーボード、マウス、**OBEX**デバイス、プリンタ、リモコン、および**CDROM**や**USB**スティックなどのリムーバブルメディアなど、デバイスに関するオプションがあります。たとえば、お使いのカメラのモデルを追加して、それを接続するコンピュータポートの種類を定義したり、キーリピート時間、シングル/ダブルクリック関連オプション、ダブルクリック間隔などのキーボード/マウス設定を変更することができます。特定の種類のリムーバブルメディアにデフォルトの動作(たとえば、オーディオ**CD**を検出すると**KsCD**を起動するなど)を割り当てたり、プリンタの環境設定を行うこともできます。

### *Regional & Accessibility*

通過、数字、日付の形式や、言語に対応するキーボード配列などの、国や言語に関するオプションを設定できます。あらかじめ定義されている**KDE**ショートカットを表示、変更することもできます(たとえば、画面をロックする場合は**Alt + Ctrl + L**)。このカテゴリには、サウンドやキーボード、およびマウスの動作に関するオプションなどの、障害者の方向けのアクセス方法に関するオプションも用意されています。

### *Security & Privacy*

パスワードの変更、**KWallet**(**KDE**パスワード管理ツール)のオプションの設定、**KDE**の暗号化設定、および最近開いたドキュメント、最近訪れた**Web**サイト、**cookies**、クリップボードの内容などのプライベートデータの管理に関する設定を行うことができます。

### *Sound & Multimedia*

システムベルやシステム通知、およびオーディオ**CD**のエンコード方法やデバイスの設定に関するオプションがあります。

### *System Administration*

**KDE**ログインマネージャ(**KDM**)の外観と動作を設定したり、重要なデータディレクトリのデフォルトパスを変更することができます(**Desktop**、**Autostart**、および**Documents**)。個人用のフォントや、システム全体で利用するフォントをインストールすることもできます。

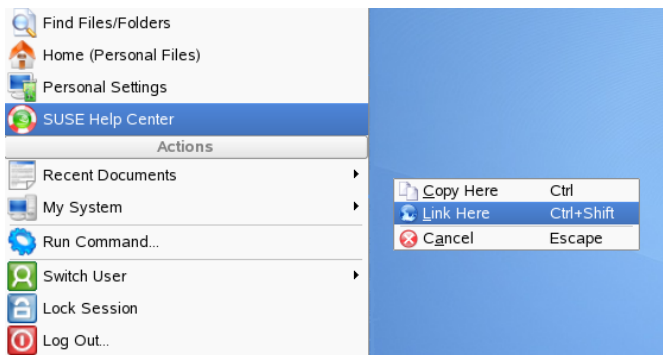
次のセクションでは、KDEデスクトップの環境設定例を取り上げていきます。

## 2.2 デスクトップオブジェクトの設定

KDEデスクトップには、デスクトップアイコンがあらかじめ定義されています。フォルダ、ファイル、リンクなどのオブジェクトを追加することにより、デスクトップ上に他のアイコンを作成したり、配置を変更することができます。

### 手順 2.1 デスクトップアイコンの作成と配置

- 1 新しくデスクトップオブジェクトを追加するには、たとえばKonquerorのメインメニューから項目を選択し、それをデスクトップにドラッグします。項目をコピー、移動するのか、またはオブジェクトへのリンクを作成するのを選択できるコンテキストメニューが表示されます。

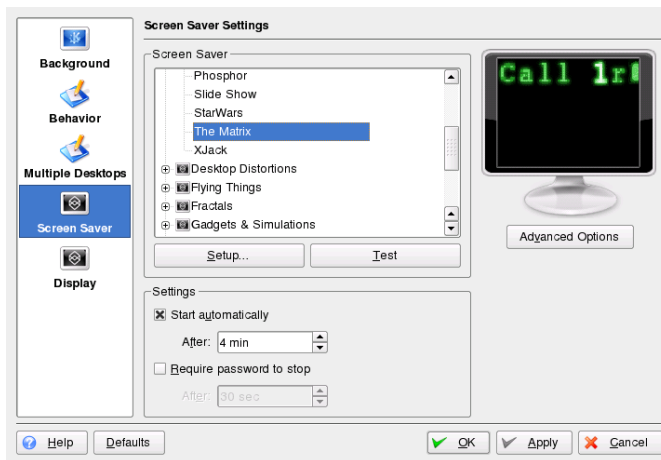


- 2 また、デスクトップ上の空の領域を右クリックして、*[Create New]* を選択し、新しいデスクトップオブジェクトを作成することもできます。この場合、サブメニューからデスクトップに作成するオブジェクトの種類を選択します。フォルダ、ファイル形式、アプリケーションへのリンク、ファイル、Webサイト、またはCD-ROMなどのデバイスを選択することができます。
- 3 デスクトップ上のアイコンの配列を調整するには、デスクトップ上の空の領域を右クリックして、*[Icons]* に表示されるいずれかのオプションを選択します。

SUSE Linux Enterprise®には、スクリーンセーバーがあらかじめ設定されています。設定内容は自由に変更できます。

## 手順 2.2 スクリーンセーバの設定

- 1 デスクトップ上の空の領域を右クリックして、*[Configure Desktop]* を選択します。
- 2 表示されるダイアログから、*[Screen Saver]* を選択します。
- 3 スクリーンセーバーのリストからスクリーンセーバーをクリックすると、ダイアログの右側にプレビューが表示されます。



- 4 *[Setup]* をクリックして、速度や形状などのオプションを調整できます。
- 5 また、スクリーンセーバーの代わりに空の画面を表示したり、スクリーンセーバーをランダムに表示することもできます。これらのオプションは、スクリーンセーバーリストの最後にあります。
- 6 *[Settings]* では、スクリーンセーバーを表示するまでの操作が何も行われなかった時間や、スクリーンセーバーを解除する時にパスワードが必要かどうかなどを設定できます。

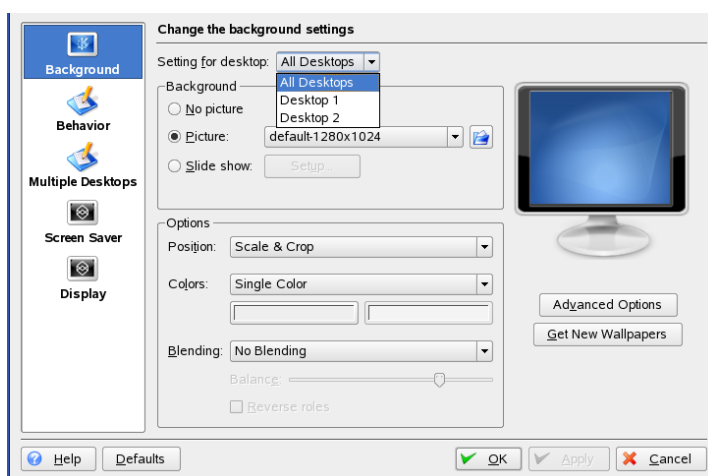


- 7 **[OK]** をクリックして、変更内容を適用し、設定ダイアログを閉じます。

バックグラウンドのの色を変更したり、バックグラウンドのとして使用する写真を選択したりできます。KDEでは仮想デスクトップを使用できるため、変更を仮想デスクトップの1つ、またはすべてに適用できます。

## 手順 2.3 デスクトップの背景の変更

- 1 デスクトップで何もない場所を右クリックして、**[Configure Desktop]** を選択します。設定ダイアログが表示されます。



- 2 **[Settings for Desktop]** で、変更を適用する仮想デスクトップを選択します。
- 3 背景の写真を変更する場合は、**[Picture]** をクリックして、リストから写真を選択します。カスタムの写真を使用するには、リストの下にあるフォルダボタンをクリックし、ファイルシステムから画像ファイルを選択します。
- 4 スライドショーモードで複数の画像を表示するには、**[Slide Show]** をクリックします。
- 5 バックグラウンドに写真を使用しない場合は、**[No Picture]** をクリックします。

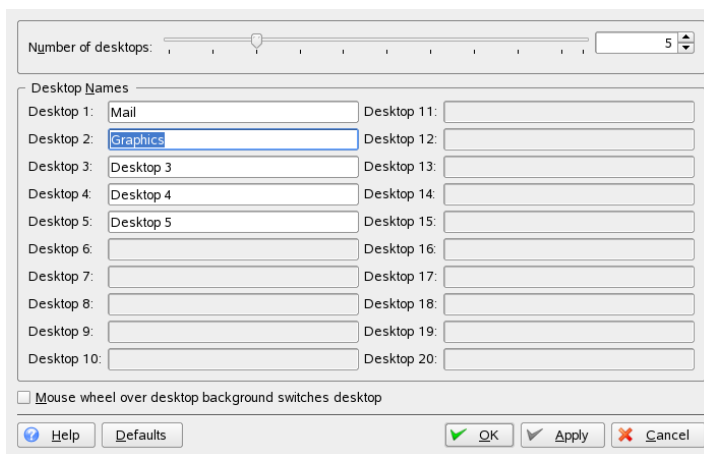
- 6 *[Options]* グループから、*[Colors]* 下の左側のボタンをクリックして、バックグラウンドの色を選択します。マルチカラーのバックグラウンドを使用するには、*[Colors]* を *[Single Colors]* 以外のオプションに設定し、右下のボタンをクリックして、2番目の色を選択します。

- 7 *[Apply]*、*[OK]* の順にクリックして、設定ダイアログを閉じます。

ユーザによっては、デフォルトより多くのデスクトップを必要とします。

## 手順 2.4 他の仮想デスクトップの追加

- 1 パネルのデスクトッププレビューを右クリックして *[Configure Desktop]* を選択します。表示される設定ダイアログで、仮想デスクトップの数を増減できます。デスクトップのデフォルトの名前も変更できます。

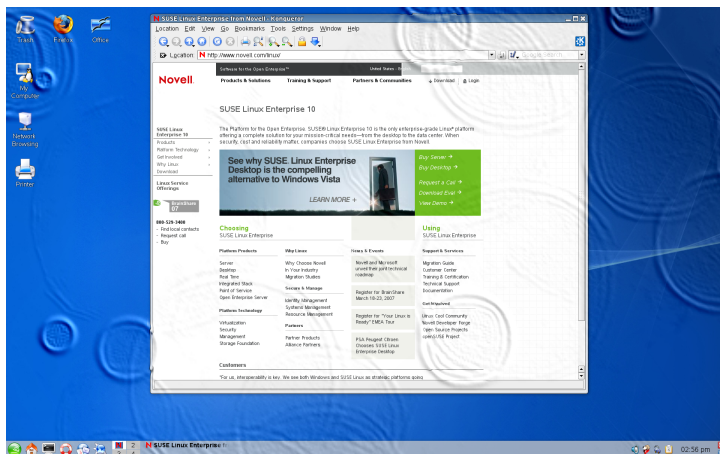


- 2 *[OK]* をクリックして、変更内容を適用し、設定ダイアログを閉じます。
- 3 デスクトッププレビューに、デスクトップの数ではなく名前を表示するには、デスクトッププレビューを右クリックし、*[Pager Options]* > *[Desktop Name]* の順に選択します。

## 2.3 3Dデスクトップ効果の設定

KDEデスクトップでのデスクトップ効果(Xgl)の設定は、YaSTやKDEコントロールセンター( [個人設定] )を使って簡単にできます。

### 図 2.2 KDEの3Dデスクトップ効果



お使いのハードウェアがデスクトップ効果をサポートしているかどうかを確認し、設定準備を行うには、以下の手順に従ってください。

- 1 YaSTを使って、`compiz-kde`、`xgl`、`xgl-hardware-list`、および `compiz` パッケージをインストールします。
- 2 `/etc/X11/xgl-hardware-list` ファイルを確認して、お使いのハードウェアがデスクトップ効果をサポートしているかどうかを判断します。
- 3 必要に応じて、メーカーの説明に従ってドライバをダウンロード、インストールします。

3Dデスクトップ効果を有効にするには、以下の手順に従ってください。

- 1 メインメニューからYaSTを起動するか、`Alt+F2`キーを押して`yast`と入力します。

- 2 YaSTで、`[システム] > [etc/sysconfig Editor]` の順にクリックします。
- 3 左側のリストから、`[デスクトップ] > [ディスプレイマネージャ]` エントリを開きます。
- 4 `DISPLAYMANAGER_XSERVER` エントリを選択して、値を `Xgl` に設定します。
- 5 `[完了]` をクリックして、変更を適用します。
- 6 コンピュータを再起動します。デスクトップ効果が有効になります。

デスクトップ効果を使用する場合の主要機能とデフォルトのキーボードショートカットを次に示します。

- キューブ周囲に仮想デスクトップを貼り付けて、キューブを回転することにより他の仮想デスクトップに移動できます。キューブを回転するには、**Ctrl + Alt + →** キー、または **Ctrl + Alt + ←** キーを使用します。
- ページャから使用するデスクトップをいちいち選択しなくても、複数の仮想デスクトップを素早く切り替えることができます。このパネル形式ビューに変更する場合は、**Ctrl + Alt + ↓** キーを使用します。現在のデスクトップから左または右のデスクトップに移動するには、**Ctrl + Alt** キーを押しながら、**→** キーと **←** キーを使用します。
- デスクトップの一部を拡大することができます。拡大する領域を選択し、**Windows** キーを押しながら右クリックします。
- 開いているすべてのウィンドウを1つのデスクトップにサイズを調整して表示することができます。ウィンドウを配列するには、**Ctrl + Alt + ↑** キーを使用します。フォーカスを決定するには、**Ctrl + Alt** キーを押しながら、矢印キーを使用します。
- 仮想デスクトップ上に仮想の雨滴を作成したり、仮想ワイパーを使ってそれを除去することができます。雨滴を切り替えるには、**Shift + F9** キーを、ワイパーを切り替えるには **Shift + F8** キーを使用します。

---

## ヒント: デスクトップ効果の設定

実行するデスクトップ効果の選択、キーボードショートカットの設定、および他のデスクトップ効果関連の設定を行うには、`gnome-xgl-settings`ユーティリティを使用します。ターミナルウィンドウから、または *[コマンドの実行]* プロンプトから、`gnome-xgl-settings`を実行します。

---

実行中のセッションでデスクトップ効果を無効にするには、以下の手順に従ってください。

- 1 KDEコントロールセンターを開いて、*[KDE Components]* > *[Session Manager]* の順に選択します。
- 2 *[Advanced]* グループで、*[Preferred Window Manager]* を *[kwin]* に設定します。
- 3 *[適用]* を選択して変更内容を反映し、モジュールを終了します。

デスクトップ効果を永久に無効にするには、以下の手順に従ってください。

- 1 YaSTを起動します。
- 2 *[システム]* > *[/etc/sysconfig Editor]* の順に選択します。
- 3 左側のリストから、*[デスクトップ]* > *[ディスプレイマネージャ]* エントリを開きます。
- 4 `DISPLAYMANAGER_XSERVER`エントリを選択して、値をXorgに設定します。
- 5 *[完了]* をクリックして、変更を適用します。
- 6 コンピュータを再起動します。

## 2.4 パネルの設定

パネルには、アプリケーション、アプレット(ミニプログラム)、および他のパネルを追加することができます。アプリケーションとアプレットは、クイック起動領域、およびメインパネルや他のパネルのシステムトレイに追加でき

ます。パネル要素や他のパネルは、別の場所に移動したり、削除することができます。

## 手順 2.5 パネル要素の追加と削除

**1** パネルの空のパッチを右クリックします。

**2** 新しいアプリケーションをパネルに追加するには

**2a** コンテキストメニューから、**[アプリケーションをパネルに追加]**を選択します。

**2b** サブメニューのカテゴリのいずれかから追加するアプリケーションを選択します。アプリケーションのアイコンがパネルに挿入されます。

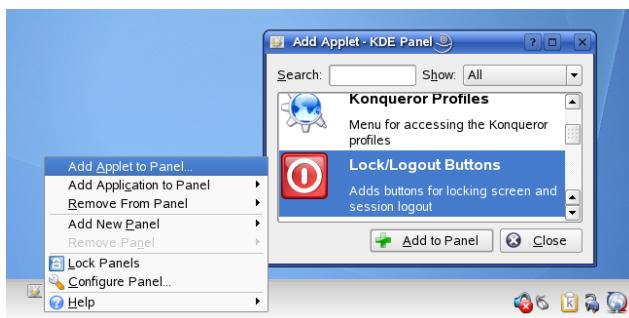
**2c** アプリケーション用にアイコンを変更するには、ボタンを右クリックして、**[アプリケーションボタンを設定]**を選択します。表示されたダイアログボックスでアプリケーションアイコンをクリックすると、新しいウィンドウが表示されて、別のアイコンを選択できます。

**2d** パネルからアイコンを削除するには、アイコンを右クリックして**[Remove Button]**を選択します。

**3** 新しいアプレットをパネルに追加するには

**3a** コンテキストメニューから、**[アプレットをパネルに追加]**を選択します。

**3b** 表示されるダイアログボックスからアプレットを選択し、**[パネルに追加]**をクリックします。アプレットはパネルに挿入されます。



**3c** パネルからアプレットを削除するには、アプレットを右クリックして **[終了]** を選択します。アプレットのコンテキストメニューに **[終了]** メニューが表示されない場合は、マウスカーソルを左端の境界上に置いて、表示される小さな黒色の矢印を右クリックします。 **[削除]** を選択します。

**4** 別の種類のパネルを追加することもできます。パネルを追加するには、パネルの空の部分を実右クリックして、 **[パネルの追加]** を選択します。サブメニューから追加するパネルの種類を選択します。

**5** 追加パネルを削除するには、パネルの空の部分を実右クリックして **[パネルの削除]** を選択し、デスクトップから削除するパネルを選択します。

## 手順 2.6 パネル内の要素の移動

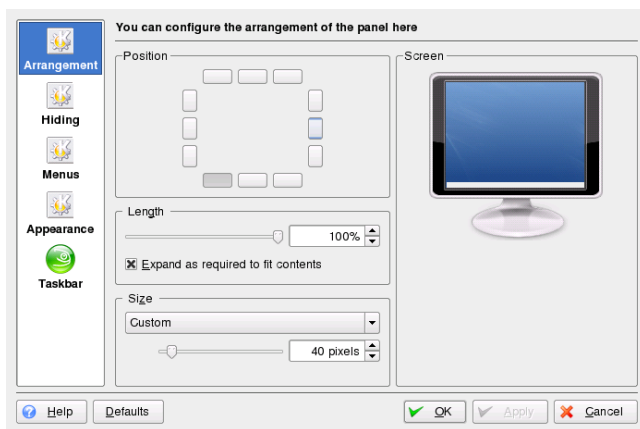
**1** パネル上のアプリケーションアイコンの位置を変更するには、アイコンを実右クリックして **[移動]** を選択します。マウスカーソルの形状が、十字線に変わります。アイコンを移動する場所にカーソルをドラッグしてから、マウスの左ボタンを押します。指定した場所にアイコンが移動します。

**2** 同様に、デスクトッププレビュー、タスクバー、およびシステムトレイなどのパネルの領域を移動することもできます。領域の境界にカーソルを移動して、表示される小さな黒い矢印をクリックしてください。表示されるコンテキストメニューから、 **[移動]** を選択します。次に、領域の移動先の場所をクリックします。

メインパネルや他の追加パネルのさまざまな点を変更することができます。たとえば、パネルのサイズ、長さ、位置を変更したり、透明効果を適用することができます。また、タスクバーの動作を設定することもできます。

## 手順 2.7 パネルの外観と動作の変更

- 1 パネルの空の部分を右クリックして、**[Configure Panel]** を選択します。パネルのさまざまな面を設定できるダイアログが表示されます。別のカテゴリを表示するには、左側のペインにあるアイコンをクリックします。デフォルトでは、**[Arrangement]** カテゴリのオプションが表示されます。



- 2 他のパネルを追加している場合、ウィンドウの上部に利用できるパネルのリストが表示されます。設定するパネルを選択してください。
- 3 必要に応じて、デスクトップ上の別の位置を選択したり、パネル長を選択したり、パネルサイズを変更し、**[Apply]** をクリックすると変更内容が反映されます。
- 4 パネルの自動非表示を設定したり、デフォルトの非表示オプションを変更するには、左側のペインから **[Hiding]** をクリックします。適切なオプションを設定して、**[Apply]** をクリックしてください。
- 5 パネルの色を変更したり、パネルの背景画像を透明にする場合は、**[Appearance]** をクリックします。



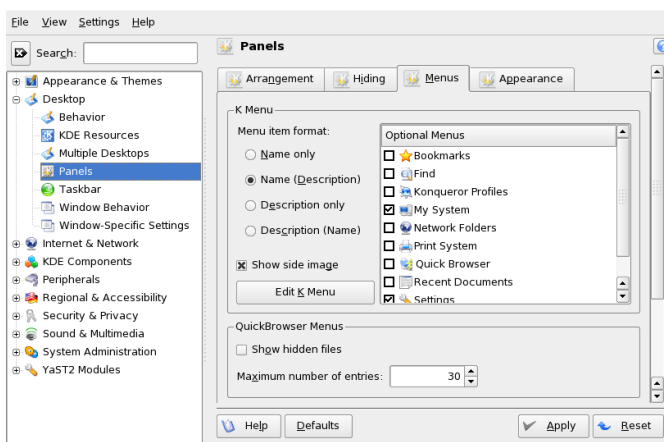
- 6 *[Button Backgrounds]* では、パネルのさまざまな部分の背景を選択することができます。パネルの一部に色を付けるには、リストから *[Custom Color]* を選択し、右側の適切なボタンをクリックして色を選択します。
- 7 パネルを透明にする場合は、 *[Enable transparency]* を選択します。非常に暗い背景や明るい背景で透明パネルの視認性を向上するには、 *[Advanced Options]* をクリックしてパネルの色や色彩を設定します。 *[Apply]* をクリックすると、変更内容が反映されます。
- 8 タスクバーのデフォルトの動作を変更する場合は、左側のペインから *[Taskbar]* をクリックします。
- 9 タスクバーにすべてのアプリケーションではなく、現在アクティブなデスクトップのアプリケーションのみを表示するには、 *[Show windows from all desktops]* の選択を解除します。
- 10 必要に応じて他のタスクバーオプションを変更し、 *[Apply]* をクリックしてください。
- 11 パネルのオプションを適切に設定し終わったら、 *[OK]* をクリックしてダイアログを閉じます。

## 手順 2.8 メインメニューの設定

メインメニューを設定するには、以下の手順に従ってください。

- 1 メインメニューから KDE コントロールセンターを起動するか、 **Alt + F2** キーを押して `kcontrol` と入力します。
- 2 *[デスクトップ]* > *[パネル]* の順にクリックします。

## 図 2.3 メインメニューの編集



- 3 [メニュー] タブをクリックします。
- 4 メインメニューに、アプリケーション名または説明文(あるいはその両方)を表示するかどうかを定義できます。[Name only]、[Name (Description)]、[Description only] および [Description (name)] から選択します。
- 5 メニュー項目を変更する場合は、[Edit K Menu] をクリックします。K メニューエディタで、メニュー項目のリストが左側に表示されます。
  - 5a リスト内の項目をクリックし、右側のオプションを変更します。
  - 5b [ファイル] メニューやツールバーを使用して、新しいメニュー項目、サブメニューまたは区切り文字を追加できます。
  - 5c メインメニューのオブジェクトを切り取り、貼り付けまたは削除するには、[編集] メニューか、ツールバーのアイコンを使用します。
  - 5d 変更内容をKメニューエディタに適用するには、[ファイル] > [終了] の順に選択します。

- 6 [Menus] タブですべての変更内容を適用し、KDEコントロールセンターを終了するには、[適用] をクリックします。

## 2.5 システムとセキュリティ関連の設定

SUSE Linux Enterpriseは、異なるファイル形式(ビットマップ、TrueTypeなど)で共通に使用できるさまざまなフォントをデフォルトで提供しています。これらは、システムフォントと呼ばれます。ユーザは、さまざまなコレクションから独自のフォントをインストールして追加できます。しかし、このようにユーザがインストールしたフォントを利用できるのは、そのユーザだけです。

### 手順 2.9 新しいフォントのインストール

現在利用可能なフォントを確認するには、Konquerorセッションのアドレスフィールドに、URL `fonts:/` を入力します。[パーソナル] と [システム] の2つのウィンドウが表示されます。ユーザがインストールするフォントは、Personalにインストールされます。Systemフォルダ(システム用)にインストールできるのは、rootだけです。

新しいフォントをインストールするには、以下の手順に従ってください。

- 1 メインメニューからコントロールセンターを起動するか、Alt+F2キーを押してkcontrolを入力します。
- 2 [System Administration] > [Font Installer] の順にクリックします。
- 3 システムフォントをアップデートするには、[Administrator Mode] をクリックしてrootのパスワードを入力します。次に、以下の作業を行います。
- 4 ユーザとしてフォントをインストールする場合は、[Add Fonts] をクリックします。
- 5 表示されたダイアログで、インストールするフォントを選択します(複数選択可)。マークを付けたフォントが、個人用フォントフォルダにイ

インストールされます。フォントを選択すると、プレビューが表示されます。

## パート II. オフィスおよびコラボ レーション



# OpenOffice.org オフィススイート

# 3

OpenOffice.orgはパワフルなオープンソースのオフィススイートで、テキスト文書の作成、表計算ドキュメントの使用、図形やプレゼンテーションの作成など、あらゆる種類のオフィスタスクに対応するツールを備えています。

OpenOffice.orgでは、異なるコンピューティングプラットフォーム間で、同じデータを共用できます。また、必要に応じて、Microsoft Officeなどの他の形式でファイルを開いて編集し、この形式に戻して保存することもできます。この章では、Novell®版のOpenOffice.org、およびこのスイートを使用するために必要な主要機能について説明します。

- 「[3.1項 「OpenOffice.orgについて」](#) (72 ページ)」
- 「[3.2項 「Writerによるドキュメント作成」](#) (85 ページ)」
- 「[3.3項 「Calcを使用してスプレッドシートを使用する」](#) (95 ページ)」
- 「[3.4項 「Impressでプレゼンテーションを使用する」](#) (98 ページ)」
- 「[3.5項 「Base - データベースの使用」](#) (101 ページ)」
- 「[3.6項 「Draw - グラフィックの作成」](#) (105 ページ)」
- 「[3.7項 「Mathを使用して式を作成する」](#) (106 ページ)」
- 「[3.8項 「OpenOffice.orgに関するヘルプと情報の検索」](#) (106 ページ)」

OpenOffice.orgは、互いに連携する複数のプログラムモジュールで構成されています。モジュールの一覧は、「[表 3.1. 「OpenOffice.orgアプリケーションモジュール」](#) (72 ページ)」にあります。各モジュールの詳細については、「[3.8](#)

項「[OpenOffice.orgに関するヘルプと情報の検索](#)」(106 ページ)」で説明するオンラインヘルプを参照してください。

**表 3.1** *OpenOffice.org* アプリケーションモジュール

モジュール	目的
Writer	ワードプロセッサアプリケーションモジュール
Calc	表計算アプリケーションモジュール
Impress	プレゼンテーションアプリケーションモジュール
Base	データベースアプリケーションモジュール
Draw	ベクタ図形の描画用アプリケーションモジュール
Math	数式生成用アプリケーションモジュール

アプリケーションの外観は、使用しているデスクトップやウィンドウマネージャによって異なります。外観に関係なく、基本的なレイアウトと機能は同じです。

## 3.1 OpenOffice.orgについて

ここでは、OpenOffice.orgのアプリケーションモジュールに関する概要を説明していきます。各モジュール固有の情報は、それぞれのモジュールに関連する項で説明しています。

- 「[3.1.1項「Novell版のOpenOffice.orgの利点](#)」(73 ページ)」
- 「[3.1.2項「スタンダード版のOpenOffice.orgの使用](#)」(75 ページ)」
- 「[3.1.3項「他のOfficeアプリケーションとの互換性](#)」(75 ページ)」
- 「[3.1.4項「OpenOffice.orgの起動](#)」(78 ページ)」
- 「[3.1.5項「OpenOffice.orgのロード時間の改善](#)」(78 ページ)」



- 「[3.1.6項「OpenOffice.orgのカスタマイズ」](#) (78 ページ)」
- 「[3.1.7項「テンプレートの検索」](#) (84 ページ)」

## 3.1.1 Novell版のOpenOffice.orgの利点

SUSE Linux Enterprise Desktopには、Novell版のOpenOffice.orgが用意されています。Novell版には、標準版に含まれていないさまざまな拡張機能が追加されています。

### Calcの拡張機能

Novell版のOpenOffice.org Calcには、標準版にはない以下の機能が追加されています。

- 一部の関数に対するExcelとの互換性の改善(例:ADDRESS/OFFSE)
- 標準版にはないキーバインドの修正や、「結合して中央揃え」に関する問題などの、操作性の改善
- R1C1形式のアドレスのサポート
- OpenOffice.orgのデータパイロットとMicrosoft\* ピボットテーブル\*の相互運用性
- データパイロット作成後の編集機能
- ピボットテーブルからのデータの操作に役立つGETPIVOTDATA関数の追加
- Excel VBAマクロのサブセットの包含。このサブセットはネイティブのマクロのように、OpenOffice.orgにロードして実行できます。さまざまな、会計/管理ツールをOpenOffice.orgに移行できるため、StarBasicを使っていちいち作成し直す手間を省けます。
- 単純な数値分析を行うための線形ソルバ

## Writerの拡張機能

Novell版のOpenOffice.org Writerには、標準版にはない以下の機能が追加されています。

- ドキュメント構造をツリービューで表示するナビゲータにより、ドキュメントのナビゲーションを改善
- 変更履歴の相互運用性の改善
- HTMLエクスポート精度の向上
- フォント印刷の改善

## フォントの改善

Novell版のOpenOffice.orgでは、さまざまなフォントの改善が行われています。次に例を示します。

- フォント表示の見栄えをよくするために、エイリアス(ビットマップ)フォントを禁止
- AGFAからライセンスを受けた一連のフォントの導入、これらのフォントはMicrosoftの一部のデフォルトフォントと互換性があり、ドキュメントのエクスポート/インポート時に対応するMicrosoftフォントと透過的にマッピングされます
- OpenSymbolフォントの改善、簡条書きの midpoint が中途半端な四角で表示される不具合をなくし、正しく適切な midpoint が表示されるようになりました

## OpenClipart

Novell版OpenOffice.org(Linux用)には、OpenClipart<http://openclipart.org> プロジェクトが提供する膨大な無料のクリップアートが用意されています。クリップアートを利用するには、[ツール]、[ギャラリー]の順にクリックします。

## マルチメディア

Novell版には、Linuxのgstreamerを使ったネイティブプラットフォームマルチメディアサポートが含まれています。

## パフォーマンスの改善

Novell版のOpenOffice.org(Linux用)には、さまざまな改良が加えられ、標準版と比べてより高速に起動します。メモリの搭載量が少ないシステムでも、問題ありません。

## GroupWiseの統合

Novell版のOpenOffice.orgには、GroupWiseの基本機能が統合されており、GroupWiseドキュメント管理システムにドキュメントを保存したり、システムからロードすることができます。

### 3.1.2 スタンダード版のOpenOffice.orgの使用

Novell版の代わりに標準版のOpenOffice.orgを利用することもできます。最新版のOpenOffice.orgをインストールした場合でも、Novell版のファイルをそのまま利用できます。ただし、標準版にはNovell版に用意されている拡張機能は含まれていません。

### 3.1.3 他のOfficeアプリケーションとの互換性

OpenOffice.orgでは、Microsoft Officeも含めさまざまな形式の文書、スプレッドシート、プレゼンテーション、およびデータベースを使用できます。これらのファイルは元のファイルと同様にシームレスに開いたり、元の形式で保存したりできます。Microsoftの形式には専有権があり、仕様は他のアプリケーションで利用できません。そのため、書式の問題が発生することがあります。ドキュメントの問題が発生した場合は、元のアプリケーションで開き、テキストドキュメントの場合はRTF、スプレッドシートの場合はCSVなどのオープン形式で再び保存してみます。

---

## ヒント

他のオフィススイートからOpenOffice.orgへ移行する場合に役立つ情報については、OpenOffice.org Migration Guide [<http://documentation.openoffice.org/manuals/oooauthors2/0600MG-MigrationGuide.pdf>]』を参照してください。

---

## OpenOffice.org形式への文書の変換

OpenOffice.orgは、さまざまな形式のドキュメントを開いたり、編集したり、保存したりできます。他のアプリケーションからのファイルを利用するために、ファイル形式をOpenOffice.org形式に変換する必要はありません。ただし、必要であれば、ファイルを変換しても構いません。ドキュメントを変換する場合は、次の手順に従ってください。

- 1 [ファイル] > [ウィザード] > [ドキュメント変換] の順に選択します。
- 2 変換前のファイル形式を選択します。  
  
StarOfficeとMicrosoft Officeの複数の形式が用意されています。
- 3 [Next]をクリックします。
- 4 変換するドキュメントとテンプレートがある場所、および変換されるファイルの保管場所を指定します。

---

### 重要項目

Windowsパーティションにある文書は、通常、/windowsのサブディレクトリにあります。

---

- 5 設定内容を確認し、[次へ] を選択します。
- 6 実行するアクションの概要を確認したら、[変換] をクリックして変換を開始します。

変換にかかる時間は、ファイル数やファイル形式の複雑さによって異なります。たいていの場合、変換にはさほど時間はかかりません。

## 他のオフィススイートのユーザとのファイル共有

OpenOffice.orgは、多くのオペレーティングシステムで使用できます。このため、OpenOffice.orgはユーザのグループが頻繁にファイルを共有する必要がある各自のコンピュータのシステムが異なる場合、有効なツールになります。

他のアプリケーションと文書を共有する場合は、いくつかの方法があります。

**受信者がファイルを編集できるようにする必要がある場合：** そのユーザが必要とするファイル形式でドキュメントを保存します。たとえば、Microsoft Wordファイルとして保存する場合は、**[ファイル]**、**[名前を付けて保存]**の順にクリックして、適切なバージョンのMicrosoft Wordファイル形式を選択します。

**受信者がドキュメントを編集する必要がない場合：** **[ファイル]** > **[PDFとしてエクスポート]**の順に選択して、ドキュメントをPDFファイルとして保存します。PDFファイルは、Adobe Acrobat Readerなどのビューアを使用して任意のプラットフォームで参照できます。

**ドキュメントを共有して編集する場合：** 標準の文書形式のうち、いずれかを使用します。デフォルトの形式はOASISの標準XML形式に準拠しています。この形式では、多くのアプリケーション間で互換性が確保されます。TXTとRTF形式は書式設定に制限がありますが、テキスト文書には良い選択肢です。CSVは、スプレッドシートに有効です。OpenOffice.orgでは、受信側が希望する形式、特にMicrosoft形式で提供できる場合があります。

**ドキュメントをPDF形式でメール送信する場合：** **[ファイル]**、**[送信]**、**[PDFとしての電子メール]**の順にクリックします。デフォルトの電子メールプログラムが起動し、PDF形式のファイルが添付されます。

**Microsoft Wordユーザにドキュメントをメール送信する場合：** **[ファイル]** **[送信]** **[Microsoft Wordとしての電子メール]**の順にクリックします。デフォルトの電子メールプログラムが起動し、ファイルが添付されます。

**ドキュメントを電子メール本文として送信：** **[ファイル]**、**[送信]**、**[E-mailとしてのドキュメント]**の順にクリックします。デフォルトの電子メールプログラムが起動し、電子メール本文にドキュメントの内容が表示されます。

## 3.1.4 OpenOffice.orgの起動

アプリケーションを起動するには、次のいずれかの手順に従ってください。

- [コンピュータ]、[OpenOffice.org Writer] の順にクリックします。  
Writerが起動します。別のモジュールを起動するには、Writerから [ファイル]、[新規] の順にクリックし、適切なモジュールを選択します。
- [コンピュータ]、[More Applications]、[Office] の順にクリックし、起動するOpenOffice.orgモジュールの名前をクリックします。
- ターミナルウィンドウで、oofficeを入力します。OpenOffice.orgウィンドウが表示されます。[ファイル]、[新規作成] の順にクリックし、起動するモジュールを選択します。

OpenOffice.orgアプリケーションが開かれている場合、[ファイル] > [新規] > [アプリケーション名] の順にクリックして、他のアプリケーションを起動できます。

## 3.1.5 OpenOffice.orgのロード時間の改善

システム起動時にアプリケーションを事前ロードしてOpenOffice.orgのロード時間を高速化には、次の手順に従います。

- 1 [ツール]、[オプション]、[メモリ] の順にクリックします。
- 2 [Enable systray quickstarter]（システムトレイクイックスタートを有効にする）をクリックします。

次のシステム起動時に、OpenOffice.orgが事前ロードされます。この場合、システム起動時にアプリケーションがロードされるため、OpenOffice.orgアプリケーションモジュールを素早く起動することができます。

## 3.1.6 OpenOffice.orgのカスタマイズ

自分の作業スタイルやニーズに応じて、OpenOffice.orgをカスタマイズすることができます。たとえば、ツールバー、メニュー、およびキーボードショー

トカットをカスタマイズして、最も頻繁に使用する機能に簡単にアクセスできるようになります。また、特定のイベントに対してマクロを割り当てることにより、イベント発生時に特定の操作を実行することができます。たとえば、常に特定のスプレッドシートを使って作業する場合、そのスプレッドシートを開くマクロを作成して、[Start Application] イベントに指定することができます。

ここでは、ご利用の環境をカスタマイズするための一般的な方法について説明します。変更内容はすぐに反映されるため、その場で変更内容を確認し、必要に応じてさらに設定を変更したり、変更内容を元に戻すことができます。詳細は、OpenOffice.orgのヘルプファイルを参照してください。

## ツールバーのカスタマイズ

OpenOffice.orgツールバーを変更するには、[カスタマイズ] ダイアログを使用します。

- 1 ツールバーの端にある矢印アイコンをクリックします。
- 2 [ツールバーをカスタマイズ] をクリックします。
- 3 カスタマイズするツールバーを選択します。

クリックしたツールバーはすでに選択されています。カスタマイズするツールバーを変更するには、[ツールバー] メニューから目的のツールバーを選択します。

- 4 コマンドをツールバーに表示する場合は、コマンドの隣にあるチェックボックスを選択します。ツールバーに表示しないコマンドは、チェックボックスの選択を解除してください。
- 5 ツールバーの変更内容をOpenOffice.orgモジュールに保存するか、または現在のドキュメントに保存するか、いずれかを選択します。

- (OpenOffice.orgモジュール名)

そのモジュールで、常にカスタマイズしたツールバーを使用する場合に選択します。

- (文書名)

その文書を開いた場合に、カスタマイズしたツールバーを使用します。

**6** 必要に応じて他のツールバーもカスタマイズします。

**7** **[OK]** をクリックします。

特定のツールバーに表示するボタンを簡単に選択できます。

**1** 変更するツールバーの端にある矢印アイコンをクリックします。

**2** **[ボタンの表示/非表示]** をクリックして、ボタンのリストを表示します。

**3** 表示されたボタンのリストから、表示するボタン(チェックする)や非表示にするボタン(チェックを解除する)を選択します。

## メニューのカスタマイズ

メニューへの項目の追加、メニューからの項目の削除、項目の位置変更、および新規メニューの作成ができます。

**1** **[ツール]**、**[カスタマイズ]**、**[メニュー]** の順にクリックします。

**2** 変更するメニューを選択します。新しくメニューを作成する場合は、**[新規]** をクリックします。

**[カスタマイズ]** ダイアログ中のオプションの詳細を参照するには、**[ヘルプ]** をクリックします。

**3** 必要に応じてメニュー項目を追加、削除、または変更します。

**4** **[OK]** をクリックします。

## キーボードショートカットのカスタマイズ

現在割り当てられているキーボードショートカットを変更して、頻繁に使う機能に新たなショートカットを割り当てることができます。



- 1 [ツール]、[カスタマイズ]、[キーボード]の順にクリックします。
- 2 機能を割り当てるキーを選択するか、機能を選択してキーまたはキーの組み合わせを割り当てます。  
  
[カスタマイズ] ダイアログ中のオプションの詳細を参照するには、[ヘルプ] をクリックします。
- 3 必要に応じてキーボードショートカットを追加、削除、または変更します。
- 4 [OK] をクリックします。

## イベントのカスタマイズ

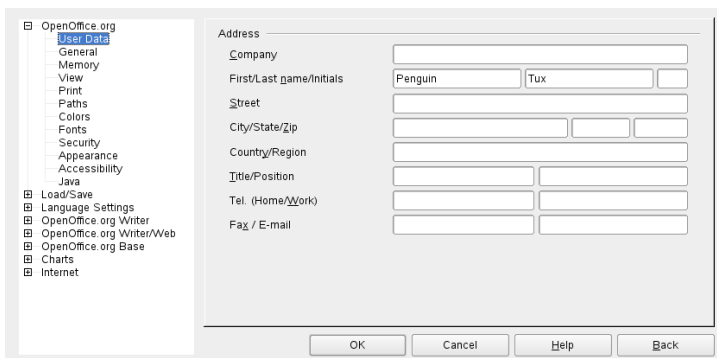
OpenOffice.orgでは、アプリケーションの起動やドキュメントの保存など、特定のイベントに対してマクロを割り当てることもできます。イベントが発生すると、割り当てられたマクロが自動的に実行されます。

- 1 [ツール]、[カスタマイズ]、[イベント]の順にクリックします。
- 2 変更するイベントを選択します。  
  
[カスタマイズ] ダイアログボックス中のオプションの詳細を参照するには、[ヘルプ] をクリックします。
- 3 選択したイベントにマクロを割り当てるか、または割り当てを削除します。
- 4 [OK] をクリックします。

## グローバル設定の変更

OpenOffice.orgのグローバル設定を変更するには、メニューバーで [ツール] > [オプション] の順にクリックします。次の図に示すようなウィンドウが表示されます。ここでは、設定項目がツリー構造で分類されています。

### 図 3.1 [オプション] ウィンドウ



次の表に、各カテゴリとその簡単な説明を示します。

#### 注意

表示される設定カテゴリは、モジュールによって異なります。たとえば、**Writer**を使っている場合は、リストに**OpenOffice.org Writer**カテゴリが表示されますが、**OpenOffice.org Calc**カテゴリは表示されません。**OpenOffice.org Base**カテゴリは、**Calc**と**Writer**のどちらでも表示されます。テーブルのアプリケーション列は、各設定カテゴリを利用できるかどうかを示します。

表 3.2 グローバル設定のカテゴリ

設定カテゴリ	説明	アプリケーション
<i>OpenOffice.org</i>	ユーザデータ(住所や電子メールアドレスなど)、重要なパス、およびプリンタや外部プログラム関連の設定など、さまざまな基本的な設定オプションがあります。	すべて
読み込みと保存	さまざまな種類のファイルの表示、保存に関連する設定オプションがあります。一般的な設定のほかに、外部形式の処理方法を定義するのに使用するオプションも用意されています。	すべて

設定カテゴリ	説明	アプリケーション
言語設定	ロケールやスペルチェック設定など、言語およびドキュメント入力に関するさまざまな設定があります。ここで、ドキュメントの標準言語を日本語などのアジア言語に設定することもできます。	すべて
OpenOffice.org Writer	フォントやレイアウトなど、Writerの使用に関する設定オプションがあります。	Writer
OpenOffice.org Writer/Web	OpenOffice.orgのHTMLオーサリング機能に関する設定オプションがあります。	Writer
OpenOffice.org Calc	リストやグリッドなどの、Calc関連の設定オプションがあります。	Calc
OpenOffice.org Impress	すべてのプレゼンテーションに適用する設定を変更します。たとえば、エレメントを配置する場合に使用するグリッド間隔の単位を指定できます。	Impress
OpenOffice.org Draw	図形描画の倍率、グリッドのプロパティ、印刷など、ベクタ描画モジュールに関連する設定オプションがあります。	Draw
OpenOffice.org Math	Formulaに特殊な印刷オプションを設定するための単一ダイアログを提供します。	Math
OpenOffice.org Base	接続および登録データベースを設定、編集するダイアログを提供します。	Base
Chart	新規作成したグラフに使用するデフォルトの色を設定するオプションがあります。	すべて
インター ネット	プロキシや検索エンジンに関する設定オプションがあります。	すべて

---

## 重要項目

テーブルに記載されているすべての設定は、指定されたアプリケーションにグローバルに適用されます。これらの設定内容は、新しくドキュメントを作成する場合のデフォルト値として使用されます。

---

### 3.1.7 テンプレートの検索

テンプレートを利用して、さまざまな種類のドキュメントの書式設定作業を簡略化できます。OpenOffice.orgには、あらかじめいくつかのテンプレートが用意されています。また、インターネットから他のテンプレートを検索して入手することもできます。さらに、自分で独自のテンプレートを作成することもできます。ここでは、テンプレートの作成方法については取り上げません。OpenOffice.orgのヘルプや、インターネット上の他の資料を参考にしてください。

インターネットには、テンプレートだけでなく、他の追加機能やアドインも公開されています。テンプレートや他の機能を入手できる代表的な場所を次の表に示します。(Webサイトは、頻繁に内容が変更されたり、閉鎖されることがあるため、本書をお読みになっている時点では情報が古くなっている可能性もあります)。

**表 3.3** OpenOffice.orgテンプレートやアドインの入手場所

ディレクトリ	内容
OpenOffice.org ドキュメント Web サイト [ <a href="http://documentation.openoffice.org/Samples_Templates/User/template_2_x/index.html">http://documentation.openoffice.org/Samples_Templates/User/template_2_x/index.html</a> ]	Calc スプレッドシート用テンプレート、CD ケース、シード パッケージ、ファックス 表紙 など
Worldlabel.com [ <a href="http://www.worldlabel.com/Pages/openoffice-template.htm">http://www.worldlabel.com/Pages/openoffice-template.htm</a> ]	さまざまな ラベル 用 テンプレート

---

テンプレートの詳細については、「[3.2.4項「テンプレートを使ったドキュメントの書式設定」](#) (91 ページ)」および「[3.3.2項「Calcにテンプレートを使用する」](#) (97 ページ)」を参照してください。

## 3.2 Writerによるドキュメント作成

OpenOffice.org Writerは、ページおよび文字列の書式設定機能も含め、豊富な機能を持つワードプロセッサです。Writerのインターフェースは、他の一般的なワードプロセッサと似ています。また、通常、高価なDTPアプリケーションにしかないような機能も用意されています。

ここでは、Writerの主な機能について取り上げます。Writerの機能の詳細や使用方法については、OpenOffice.orgのヘルプや、「[3.8項「OpenOffice.orgに関するヘルプと情報の検索」](#) (106 ページ)」に記載されているソースを参照してください。

---

### 注意

ここで説明している情報は、他のOpenOffice.orgモジュールにも適用されます。たとえば、Writerでスタイルを使用する場合と同様に、他のモジュールでもスタイルを使用することができます。

---

- 「[3.2.1項「新しい文書の作成」](#) (85 ページ)」
- 「[3.2.2項「他のワードプロセッサと文書を共有」](#) (86 ページ)」
- 「[3.2.3項「スタイルによる書式設定」](#) (87 ページ)」
- 「[3.2.4項「テンプレートを使ったドキュメントの書式設定」](#) (91 ページ)」
- 「[3.2.5項「大きな文書に関する作業」](#) (92 ページ)」
- 「[3.2.6項「HTMLエディタとしてWriterを使用する」](#) (94 ページ)」

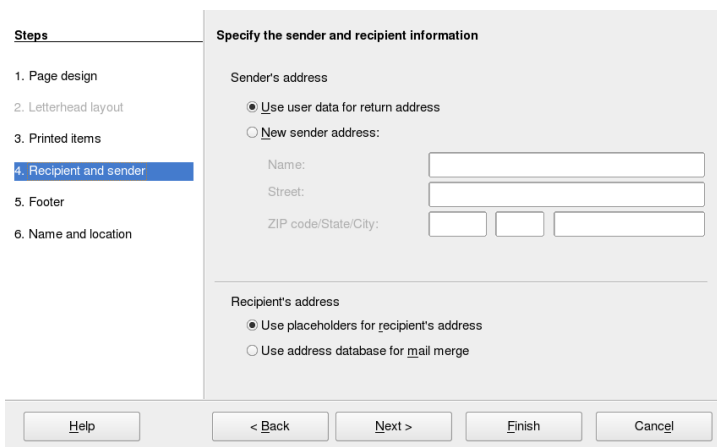
### 3.2.1 新しい文書の作成

新しい文書を作成するには、次の2種類の方法があります。

最初から文書を作成する場合は、[ファイル] > [新規作成] > [文書ドキュメント] の順に選択します。

作成する文書に標準形式や定義済みの形式を使用する場合は、ウィザードを使用します。ウィザードは小さなユーティリティで、基本的な決定を行うと、テンプレートからレディメードの文書が作成されます。たとえば、ビジネスレターを作成する場合は、[ファイル] > [ウィザード] > [レター] の順に選択します。ウィザードのダイアログを使用すれば、標準書式を使用する基本文書を簡単に作成できます。ウィザードのダイアログのサンプルは、「[図 3.2. 「OpenOffice.org ウィザード」 \(86 ページ\)](#)」にあります。

### 3.2 OpenOffice.org ウィザード



The screenshot shows the 'Specify the sender and recipient information' dialog box in OpenOffice.org. On the left, a 'Steps' list shows: 1. Page design, 2. Letterhead layout, 3. Printed items, 4. Recipient and sender (highlighted), 5. Footer, 6. Name and location. The main area is titled 'Specify the sender and recipient information'. It has two sections: 'Sender's address' and 'Recipient's address'. In the 'Sender's address' section, the 'Use user data for return address' radio button is selected. Below it are input fields for 'Name:', 'Street:', and 'ZIP code/State/City:'. In the 'Recipient's address' section, the 'Use placeholders for recipient's address' radio button is selected. At the bottom, there are buttons for 'Help', '< Back', 'Next >', 'Finish', and 'Cancel'.

必要に応じて文書ウィンドウにテキストを入力します。[Formatting (書式設定)] ツールバーまたは [Format (書式)] メニューを使用して文書の外観を調整します。[ファイル] メニューまたはツールバーの該当するボタンを使用して、文書を印刷または保存します。[挿入] メニューのオプションを使用すれば、文書にテーブル、画像、図などの項目を追加できます。

## 3.2.2 他のワードプロセッサと文書を共有

Writerを使って、他のさまざまなワードプロセッサで作成されたドキュメントを編集できます。たとえば、Microsoft Word文書をインポートして編集し、再びWord文書として保存することができます。大部分のWord文書は、OpenOffice.orgに問題なくインポートできます。また、書式やフォントなど、

ドキュメント中の情報も同じように保持されます。ただし、複雑な表、Word マクロ、または特殊なフォントや書式などを含むドキュメントの場合は、インポートした後にドキュメントを修正しなければならないこともあります。OpenOffice.orgでは、ドキュメントを他の一般的なワードプロセッサのファイル形式で保存することができます。また、OpenOffice.orgで作成したドキュメントをWord形式のファイルとして保存し、それをMicrosoft Wordで開くこともできます。

そのため、頻繁にWordユーザとドキュメントを共有するような環境でも、ほとんど問題なく文書ファイルをやり取りすることができます。ファイルを開いて編集し、Wordファイルとして保存してください。

### 3.2.3 スタイルによる書式設定

OpenOffice.orgでは、ドキュメント中のさまざまな要素や書式の一貫性を保つためにスタイルを利用することができます。利用できるスタイルの種類を以下に示します。

表 3.4 スタイルの種類について

スタイルの種類	機能
段落	ドキュメント中のさまざまな種類の段落に、標準の書式を適用します。たとえば、段落スタイルを適用して、見出しにフォント、フォントサイズ、見出しの上下の間隔、見出しの位置、および他の書式仕様が設定されるようにします。
文字	文字列に対して標準の書式を適用します。たとえば、強調する文字列を斜体で表示する場合は、文字列を斜体にするスタイルを作成し、それを目的の文字列に適用します。
枠	枠に対して標準の書式を適用します。たとえば、ドキュメントでサイドバーを使用している場合、画像、境界、位置、および他の書式を定義した枠を作成し、適用することにより、すべてのサイドバーが一貫性のある概観を持つように設定できます。

スタイルの種類	機能
ページ	特定のページに対して標準の書式を適用します。たとえば、ドキュメントの先頭ページ以外の各ページにヘッダやフッタを表示する場合は、ヘッダとフッタを表示しない「最初のページ」スタイルを使用します。また、左ページと右ページで異なるスタイルを使用することで、見開きページの内側の余白を大きくし、外側にページ番号を記載することもできます。
リスト	特定のリストに標準の書式を適用します。たとえば、四角いチェックボックスを先頭に記載したチェックリストや、先頭に中点を記載したリストスタイルを定義しておけば、それを適用して簡単にリストを作成することができます。

## 【スタイルと書式】 ウィンドウを開く

【スタイルと書式】ウィンドウ(以前のバージョンの *[Stylist]* )では、文字列、段落、ページ、枠、およびリストに対して、さまざまな書式のスタイルを適用することができます。このウィンドウを表示するには、*[書式]*、*[スタイルと書式]* の順にクリックします。OpenOffice.orgには、あらかじめ定義されたさまざまなスタイルが用意されています。これらのスタイルをそのまま利用したり、スタイルを変更したり、新しいスタイルを作成したりできます。

### ヒント

デフォルトでは、*[スタイルと書式]* ウィンドウは個別のウィンドウに表示され、画面上の任意の場所に移動することができます。スタイルを頻繁に使用する場合など、常にこのウィンドウを一定の場所に配置したい場合は、このウィンドウをWriterウィンドウにマージできます。*[スタイルと書式]* ウィンドウをマージするには、Ctrlキーを押しながら、ウィンドウの灰色の領域をダブルクリックします。この方法は、ナビゲータも含め、OpenOffice.org中の他の一部のウィンドウでも利用できます。



## スタイルの適用

スタイルを適用するには、スタイルを適用する要素を選択してから、[スタイルと書式] ウィンドウ中の適切なスタイルをダブルクリックします。たとえば、ある段落にスタイルを適用する場合は、その段落中の任意の場所にカーソルを移動してから、目的のスタイルをダブルクリックします。

## スタイルを使う場合と書式設定ボタン/メニューオプションを使う場合の比較

[書式] メニューのオプションやボタンを使うかわりにスタイルを利用すれば、ページ、段落、文字列、およびリストの一貫性を保ちながら、後で簡単に書式を変更することができます。たとえば、[太字] ボタンをクリックして文字列を強調した場合、後で太字から斜体に変更しようと思ったら、太字の箇所を1つ1つ探して手動で変更しなければなりません。文字スタイルを使えば、そのスタイルの書式定義を太字から斜体に変更するだけで、その書式を適用したすべての文字列が、太字から斜体に変わります。

メニューオプションやボタンによる書式設定は、適用されているスタイルの設定に優先します。たとえば、ある文字列に対して [太字] ボタンを使って書式を設定し、他の文字列にはスタイルを適用して太字を設定した場合、スタイルを変更してもボタンを使って書式が設定された文字列は変わりません。また、ボタンを使って太字にした文字列に、後からスタイルを適用しても、ボタンを使った太字の設定が優先されます。スタイルの設定を使うには、手動で太字の設定を解除してから、スタイルを適用する必要があります。

同様に、[書式]、[段落] の順に選択して段落に書式を設定すると、段落間の書式設定に不整合が発生する可能性があります。特に、書式設定が違う他のドキュメント間で段落をコピー、貼り付ける場合などに、この問題が発生する可能性が高くなります。

## スタイルの変更

スタイルを使えば、スタイルの内容を変更するだけで、ドキュメント全体に書式設定を反映させることができます。ドキュメント中の各部の書式を個別に変更していく必要はありません。

- 1 **[スタイルと書式]** ウィンドウで、変更するスタイルを右クリックします。
- 2 **[変更]** をクリックします。
- 3 選択したスタイルの設定を変更します。  
  
設定可能な項目の詳細は、[OpenOffice.org](http://OpenOffice.org)オンラインヘルプを参照してください。
- 4 **[OK]** をクリックします。

## スタイルの作成

[OpenOffice.org](http://OpenOffice.org)には、さまざまな用途に適したスタイルがあらかじめ用意されています。また、ユーザのニーズに合わせて、新しいスタイルを作成することもできます。新しいスタイルを作成するには、次の手順に従います。

- 1 **[スタイルと書式]** ウィンドウの、空の領域を右クリックします。  
  
この操作は、作成するスタイルの種類に合ったスタイルのリストが表示されている状態で行ってください。たとえば、文字スタイルを作成する場合は、ウィンドウに文字スタイルのリストを表示してください。
- 2 **[New]** をクリックします。
- 3 **[OK]** をクリックします。
- 4 作成したスタイルに名前を付け、そのスタイルで適用したい設定を選択します。

各タブで設定できるオプションの詳細を表示するには、該当するタブをクリックしてから、**[ヘルプ]** をクリックします。

## 3.2.4 テンプレートを使ったドキュメントの書式設定

一般的に、ワードプロセッサを利用するユーザは、さまざまな種類の文書を作成します。たとえば、レター、メモ、およびレポートを作成する場合。これらのドキュメントはそれぞれ外観も違えば、使う書式やスタイルも異なります。このような場合、それぞれの用途に応じたテンプレートを作成しておけばドキュメントの種類に応じた適切な書式設定/スタイルを手軽に利用することができます。

テンプレートを作成する場合、あらかじめ検討しておかなければならないことがいくつかあります。たとえば、テンプレートで使うスタイルを作成するために、ドキュメントの外観をどのようにするかを決める必要があります。テンプレートは後でいつでも変更できますが、あらかじめこのような事柄を検討しておけば、後の時間や手間を節約できます。

---

### 注意

また、Word文書と同様に、Microsoft WordテンプレートをOpenOffice.orgのテンプレートに変換することもできます。詳細については、「[OpenOffice.org形式への文書の変換項 \(76 ページ\)](#)」を参照してください。

---

テンプレートに関する詳細な説明は、このセクションでは触れません。詳細については、ヘルプを参照してください。また、OpenOffice.orgのドキュメントWebサイト [[http://documentation.openoffice.org/HOW\\_TO/index.html](http://documentation.openoffice.org/HOW_TO/index.html)]にも役に立つ情報や資料が用意されています。

## テンプレートの作成

テンプレートは、スタイルと他の必要な要素だけが用意されているドキュメントです。たとえば、レター用テンプレートには、自分の住所や氏名などを記載するレターヘッドなど、レターで使用するスタイルを定義します。テンプレートを使用してドキュメントを作成、または開く場合、そのドキュメントには、定義されているスタイルが自動的に適用されます。

テンプレートを作成するには、次の手順に従います。

- 1 [ファイル]、[新規作成]、[文書ドキュメント] の順にクリックします。
- 2 任意の文書で使用したいスタイルと内容を作成し、このテンプレートを 사용합니다。
- 3 [ファイル]、[ドキュメントテンプレート]、[保存] の順にクリックします。
- 4 テンプレートの名前を入力します。
- 5 [範囲] ボックスから、このテンプレートを保存するカテゴリをクリックします。  
  
カテゴリは、テンプレートを保存するフォルダです。
- 6 [OK] をクリックします。

## 3.2.5 大きな文書に関する作業

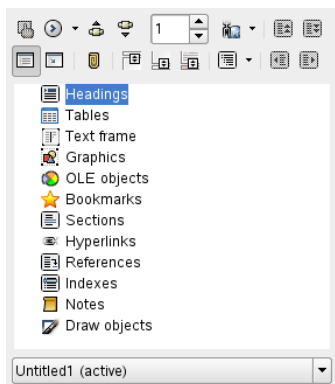
Writerを使って大きな文書を作成、編集したり、他の作業を行うことができます。大きな文書は、単一のファイルのこともあれば、複数のファイルから1つの文書が成り立っていることもあります。

### 大きな文書内の移動

ナビゲータには、文書の内容についての情報が表示されます。また、このツールを使って、ドキュメント内の別の部分に素早く移動することもできます。たとえば、ナビゲータを使って文書に含まれているイメージのリストを表示することができます。

ナビゲータを表示するには、[編集] > [ナビゲータ] の順にクリックします。Navigatorに表示される要素は、Writerにロードされている文書によって異なります。

### 図 3.3 Writerのナビゲータツール



ナビゲータ中の項目をクリックすると、文書内の該当する項目に移動します。

## 複数のファイルから単一のドキュメントを作成するには、マスタドキュメントを使用します。

本などの、大きな文書を作成、編集する場合、その内容をすべて1つのファイルに保存する代わりに、複数のファイルを管理するマスタドキュメントを作成し、作業を簡素化することができます。マスタドキュメントを利用すれば、大きな文書に素早く書式を設定したり、個々のサブドキュメントに移動して編集することができます。

Writerのマスタドキュメントは、複数のWriterファイルを保管するコンテナとしての役割を果たします。たとえば、章単位にファイルを作成し、それをまとめてマスタドキュメントに保管、管理することができます。マスタドキュメントは、単一の文書に対して複数のユーザが共同作業を行うような場合にも役立ちます。このような場合、各ユーザの担当範囲に応じて文書を分割し、それをマスタドキュメントで管理すれば、複数の担当者が同時に文書に対して作業を行うことができます。他のユーザの妨げになることはありません。

---

#### 注意

Microsoft WordからOpenOffice.orgに移行したユーザは、同じような機能であるWordのグループ文書では文書が壊れることがあるという評判を聞いて、マスタドキュメントの使用を躊躇されるかもしれません。OpenOffice.org

Writerには、このような問題は存在していません。マスタドキュメントを使って安全に文書を管理できます。

---

マスタードキュメントを作成するには、次の手順に従います。

1 [新規作成]、[マスタードキュメント]の順にクリックします。

または

既存の文書を開いて、[ファイル]、[送信]、[マスタードキュメントの作成]の順にクリックします。

2 サブ文書を挿入します。

3 [ファイル]、[保存]の順にクリックします。

OpenOffice.orgヘルプファイルには、マスタ文書での作業に関する詳細な情報が含まれています。「マスタドキュメントとサブドキュメントを使用する」を参照してください。

---

## ヒント

サブドキュメントにあるスタイルは、すべてマスタドキュメントにインポートされます。マスタドキュメントで一貫した書式設定を利用するには、各サブドキュメントで同じテンプレートを使ってください。必ず同じテンプレートを使わなければならない訳ではありませんが、サブドキュメント間で書式設定が違っている場合、不整合になるのを防ぐために書式を再設定する必要があることもあります。たとえば、2つのサブドキュメント間で、同じ名前でも異なる書式が設定されたスタイルが使われている場合、それらをマスタドキュメントにインポートすると、最初にインポートされた文書のスタイルが使われます。

---

## 3.2.6 HTMLエディタとしてWriterを使用する

完全装備のワードプロセッサとしての機能のほかに、WriterにはHTMLエディタとしての機能があります。WriterにはHTMLタグが含まれています。このタグはWriter文書に他のスタイルを適用するときと同じように適用されます。オンラインに表示される状態でドキュメントを表示したり、HTMLコードを直接編集することができます。

## HTML文書の作成

- 1 [ファイル]、[新規作成]、[HTMLドキュメント]の順にクリックします。
- 2 [スタイルと書式]ウィンドウの下にある矢印をクリックします。
- 3 [HTML Styles]を選択します。
- 4 スタイルを使ってテキストにタグをつけ、HTML文書を作成します。
- 5 [ファイル]、[名前を付けて保存]の順にクリックします。
- 6 ファイルを保存したい場所を選択して、ファイルの名前を入力し、[フィルタ]リストから[HTML文書(\\.html)]を選択します。
- 7 [OK]をクリックします。

HTMLコードを直接編集したい場合、または、HTMLファイルをWriter文書として編集したとき作成したHTMLコードを表示したい場合、[表示]、[HTML Source]の順にクリックします。[HTML Source]モードでは、[スタイルと書式]リストは利用できません。

---

### 注意

まだHTMLドキュメントを保存していない状態で、初めてHTMLソースモードに切り替えると、ファイルの保存を求めるダイアログが表示されます。

---

## 3.3 Calcを使用してスプレッドシートを使用する

Calcは、OpenOffice.orgのスプレッドシートアプリケーションです。スプレッドシートを作成するには、[ファイル] > [新規作成] > [表計算]の順に選択するか、または[ファイル] > [開く]の順に選択してファイルを開きます。Calcでは、Microsoft Excel形式のファイルを読み込んだり、Microsoft Excel形式でファイルを保存したりできるため、Excelユーザとスプレッドシートを簡単にやり取りすることができます。

---

## 注意

また、Calcでは、Excelドキュメントの多数のVBAマクロを処理することができます。ただし、すべてのVBAマクロをサポートしている訳ではありません。マクロを多用するExcelスプレッドシートを開くとき、一部のマクロが機能しないことがあります。

---

スプレッドシートのセルには、固定データまたは式を入力します。式を使用すれば、他のセルからのデータを操作して、式を挿入したセルの値を生成できます。セルの値からグラフを作成することもできます。

- 「[3.3.1項「Calcでの書式設定とスタイルの使用」](#) (96 ページ)」
- 「[3.3.2項「Calcにテンプレートを使用する」](#) (97 ページ)」

## 3.3.1 Calcでの書式設定とスタイルの使用

Calcには、スプレッドシートやレポートの外観を変更するセルやページ用スタイルがいくつか用意されています。通常はこれらのスタイルでも十分ですが、必要に応じて独自のスタイルを作成することもできます。

### スタイルの作成

- 1 [書式]、[スタイルと書式] の順にクリックします。
- 2 [スタイルと書式] ウィンドウで、[Cell Styles] または、[Page Styles] アイコンをクリックします。
- 3 [スタイルと書式] ウィンドウを右クリックし、[新規] xをクリックします。
- 4 スタイルの名前を入力し、さまざまなタブを使用して希望どおり書式設定オプションをセットします。
- 5 [OK] をクリックします。



## スタイルの変更

- 1 [書式]、[スタイルと書式] の順にクリックします。
- 2 [スタイルと書式] ウィンドウで、[Cell Styles] または、[Page Styles] アイコンをクリックします。
- 3 変更したいスタイルの名前を右クリックし、[変更] をクリックします。
- 4 選択した書式設定オプションを変更します。
- 5 [OK] をクリックします。

### 3.3.2 Calcにテンプレートを使用する

さまざまな種類のスプレッドシートに異なるスタイルを使用する場合、テンプレートを使用して各スプレッドシートの種類のスタイルを保存することができます。スプレッドシートを作成する際には、その種類に応じたテンプレートを開いて、[スタイルと書式] ウィンドウから適切なスタイルを適用します。

テンプレートに関する詳細な説明は、このセクションでは触れません。ただし、詳しい説明はヘルプシステムに記載され、詳細な使い方はOpenOffice.org Documentation page [[http://documentation.openoffice.org/HOW\\_TO/index.html](http://documentation.openoffice.org/HOW_TO/index.html)]に提供されています。

### テンプレートの作成

Calcテンプレートとは、そのテンプレートで作成したすべてのスプレッドシートに表示したいスタイルと内容(ヘッダやその他のセルスタイルなど)を含むスプレッドシートです。テンプレートを使用して文書を作成、または開くとき、テンプレートのスタイルが自動的にそのスプレッドシートに適用されます。

テンプレートを作成するには、次の手順に従います。

- 1 [ファイル]、[新規作成]、[表計算] の順にクリックします。

- 2 任意のスプレッドシートで使用したいスタイルと内容を作成し、このテンプレートを使用します。
- 3 [ファイル]、[ドキュメントテンプレート]、[保存] の順にクリックします。
- 4 テンプレートの名前を入力します。
- 5 [範囲] ボックスから、このテンプレートを保存するカテゴリをクリックします。

カテゴリは、テンプレートを保存するフォルダです。

- 6 [OK] をクリックします。

## 3.4 Impressでプレゼンテーションを使用する

OpenOffice.org Impressを使用して、スライドショーやOHPシートなどのプレゼンテーションを作成、画面に表示したり印刷したりできます。Impressは他のプレゼンテーションソフトウェアと操作や機能が似ているため、他のプレゼンテーションソフトウェアを使用していたユーザでも、簡単にImpressに移行することができます。

Impressは、Microsoft PowerPointプレゼンテーションを開いたり、PowerPoint形式で保存したりできます。PowerPoint形式でファイルを保存できるため、PowerPointユーザとプレゼンテーションを簡単にやり取りすることができます。

- 3.4.1項 「プレゼンテーションの作成」 (98 ページ)
- 3.4.2項 「マスタページの使用」 (99 ページ)

### 3.4.1 プレゼンテーションの作成

- 1 [ファイル]、[新規作成]、[プレゼンテーション] の順にクリックします。

## 2 プレゼンテーションの作成に使用するオプションを選択します。

プレゼンテーションを作成するには、次の2種類の方法があります。

- 白紙のプレゼンテーションを作成する

Impressに空のスライドを表示します。このオプションを使用して、事前に書式設定されたスライドなしで、最初からプレゼンテーションを新規作成します。

- テンプレートからプレゼンテーションを作成する

選択したテンプレートでImpressを開きます。このオプションは、あらかじめ用意されているOpenOffice.orgテンプレートや、独自に作成したテンプレート(社内用テンプレートなど)を使ってプレゼンテーションを作成する場合に選択します。Impressでは、他のOpenOffice.orgモジュールと同じように、スタイルやテンプレートを利用することができます。テンプレートの詳細は、「[3.2.4項「テンプレートを使ったドキュメントの書式設定」](#) (91 ページ)」を参照してください。

## 3.4.2 マスタページの使用

マスタページを利用して、各スライドの外観、使用するフォント、および他のグラフィック要素を定義し、一貫性のあるプレゼンテーションを作成することができます。Impressには、2種類のマスタページが用意されています。

- スライドマスタ

すべてのスライドに表示される要素を含みます。たとえば、スライドマスタを使って、各スライドの同じ場所に企業ロゴを表示することができます。また、スライドマスタには、見出しの文字書式スタイルや各スライドのアウトライン、およびヘッダ/フッタに表示する情報も定義されます。

- メモマスタ

プレゼンテーション内のメモの書式と外観を決定します。

## スライドマスタの作成

Impressには、あらかじめ定義されたマスタページがいくつか用意されています。また、独自のスライドマスタを作成することもできます。

- 1 Impressを起動して、新規の白紙のプレゼンテーションを作成します。
- 2 [表示]、[マスター]、[スライドマスター]の順にクリックします。  
  
[Master View]で現在のスライドマスタを開きます。
- 3 左のパネルを右クリックして、[New Master]をクリックします。
- 4 希望する外観になるまでスライドマスタを編集します。
- 5 [マスター表示を閉じる]をクリックするか、または[表示]、[標準]の順にクリックすると、標準表示に戻ります。

---

### ヒント

プレゼンテーションで使用するスライドマスターをすべて作成した後は、これらをImpressテンプレートに保存することができます。以降、保存したスライドマスターを使ってプレゼンテーションを作成する場合には、このテンプレートを開きます。

---

## スライドマスタの適用

スライドマスタは選択したスライド、またはプレゼンテーションにあるすべてのスライドに適用できます。

- 1 プレゼンテーションを開いたら、[表示]、[マスター]、[スライドマスター]の順にクリックします。
- 2 (オプション)スライドマスタをすべてのスライドではなく複数のスライドに適用する場合、そのスライドマスタを使用したいスライドを選択します。

複数のスライドを選択するには、[スライド] ペインでキーを押しながら、目的のスライドを選択します。

3 タスクペインでは、適用したいマスタページを右クリックします。

[作業] ペインが表示されていない場合は、[表示]、[作業パネル]の順にクリックします。

4 次のオプションから1つクリックしてスライドマスタを適用します。

- すべてのスライドに適用

選択したスライドマスタをプレゼンテーションにあるすべてのスライドに適用します。

- 選択したスライドに適用

選択したスライドマスタを、現在のスライド、またはスライドマスタの適用前に選択する任意のスライドに適用します。たとえば、プレゼンテーション中の最初のスライドに別のスライドマスタを適用する場合は、そのスライドを選択した後でマスター表示に切り替え、そのスライドにスライドマスターを適用します。

## 3.5 Base - データベースの使用

OpenOffice.orgには、データベースモジュールのBaseが含まれています。Baseを使用して、簡単なアドレス帳や料理レシピ集から、複雑なドキュメント管理システムまで、さまざまな種類の情報を格納するデータベースを設計できます。

テーブル、フォーム、クエリ、およびレポートは、手動で作成するか、または便利なウィザードを使用して作成できます。たとえば、テーブルウィザードには、ビジネスおよび個人用途のための一連の共通フィールドがあります。Baseで作成されたデータベースは、フォームレターを作成する場合などのデータソースとして使用できます。

Baseを使用した詳細なデータベース設計については、このマニュアルでは触れません。詳細は、「[3.8項 「OpenOffice.orgに関するヘルプと情報の検索」](#) (106 ページ)」にある各種資料を参照してください。

## 3.5.1 事前定義されたオプションを使ったデータベースの作成

Baseには、データベースを作成するために役立つ、事前定義されたデータベースフィールドが用意されています。ここでは、この事前定義されているフィールドを使ってアドレス帳を作成する手順について説明していきますが、これらの手順を応用すれば、他のデータベースも手軽に作成できます。

データベースの作成プロセスは、いくつかのサブプロセスに分けられます。

- 「[データベースの作成項](#) (102 ページ)」
- 「[データベーステーブルのセットアップ項](#) (103 ページ)」
- 「[フォームの作成項](#) (104 ページ)」
- 「[フォームの変更項](#) (104 ページ)」
- 「[次に行う作業?項](#) (105 ページ)」

### データベースの作成

最初にデータベースを作成します。

- 1 [ファイル]、[新規作成]、[データベース] の順にクリックします。
- 2 [データベースの新規作成] を選択して、[次へ] をクリックします。
- 3 [Yes, register the database for me] をクリックして自分のデータベース情報を他のOpenOffice.orgモジュールに対して有効にし、ダイアログボックスの下部にあるチェックボックスを両方オンにして、[完了] をクリックします。
- 4 データベースを保存したいディレクトリを参照してデータベースの名前を入力し、[OK] をクリックします。

# データベーステーブルのセットアップ

次に、データベーステーブルで使用したいフィールドを定義します。

- 1 テーブルウィザードで、 *[Personal]* をクリックします。

*[Sample tables]* リストが個人用の定義済みテーブルに変わります。  
*[Business]* をクリックした場合、リストには定義済みビジネステーブルが含まれます。

- 2 *[Sample tables]* リストで、 *[Addresses]* をクリックします。

定義済みのアドレス帳に使用可能なフィールドが、 *[Available fields]* メニューに表示されます。

- 3 *[Available fields]* メニューで、自分のアドレス帳に使用したいフィールドをクリックします。

1つずつ項目を選択して追加することも、複数の項目を選択して追加することもできます。複数の項目を選択する場合は、キーを押しながら項目を選択します。

- 4 選択した項目を *[選択されたフィールド]* メニューに移動するには、右矢印をクリックします。

使用可能なフィールドをすべて *[Selected fields]* メニューに移動するには、右矢印をダブルクリックします。

- 5 選択したフィールドの表示順序を変更する場合は、上矢印と下矢印を使います。

テーブルやフォームには、フィールドがここに記載されている順序で表示されます。

- 6 *[Next]* をクリックします。

- 7 各フィールドが正しく定義されていることを確認します。

フィールド名、種類、エントリが必要かどうか、フィールドの長さ(入力可能な最大文字数)を変更できます。この例では、設定はそのまま変更しないでください。

- 8 *[Next]*をクリックします。
- 9 *[プライマリキーの作成]* をクリックして、 *[プライマリキーを自動的に追加]* をクリックして、 *[自動設定値]* をクリックして、次に *[次へ]* をクリックします。
- 10 テーブルのデフォルト名を承認して、 *[Create a form based on this tab]* を選択して、 *[完了]* をクリックします。

## フォームの作成

次に、アドレス帳にデータを入力するときに使用するフォームを作成します。

- 1 フォームウィザードで、右矢印をダブルクリックして使用可能なフィールドをすべて *[Fields in the form]* リストに移動し、 *[次へ]* を2回クリックします。
- 2 フォームをどのように調節したいか選択し、 *[次へ]* をクリックします。
- 3 すべてのデータを表示するフォームを使用するオプションを選択し、チェックボックスをすべて空欄にして、 *[次へ]* をクリックします。
- 4 スタイルとフィールドの枠線を適用し、 *[次へ]* をクリックします。

この例では、デフォルトの選択肢を使用します。

- 5 フォームに名前を付け、 *[Modify the form]* オプションを選択し、 *[完了]* をクリックします。

## フォームの変更

フォームを定義したら、設定に合うようフォームの外観を変更します。

- 1 変更手順が終了したら、開いているフォームを閉じます。
- 2 データベースのメインウィンドウで、変更したいフォームを右クリックし(オプションは1つだけです)、 *[編集]* をクリックします。



- 3 フォーム中のフィールドをドラッグして、フォームを別の場所に移動できます。

たとえば、[First Name] フィールドを、[Last Name] フィールドの右に表示されるよう移動します。それから、設定に合うよう他のフィールドの場所を調節します。

- 4 フォームの修正が完了したら、保存して、フォームを閉じます。

## 次に行う作業?

データベースのテーブルとフォームを作成したら、データを入力できます。また、クエリやレポートを作成してデータをソートしたり表示したりすることもできます。

Baseの詳細については、OpenOffice.orgオンラインヘルプと、「[3.8項「OpenOffice.orgに関するヘルプと情報の検索」](#) (106 ページ)」に記載されている資料を参照してください。

## 3.6 Draw - グラフィックの作成

OpenOffice.org Drawを使って、グラフィックや図を作成できます。作成した図は一般的な形式で保存できます。保存したファイルは、他のアプリケーションにインポートしたり、他のOpenOffice.orgモジュールで利用できます。描画のFlashバージョンも作成できます。

OpenOffice.orgマニュアルではDrawの使用方法について詳細に説明しています。詳細については、「[3.8項「OpenOffice.orgに関するヘルプと情報の検索」](#) (106 ページ)」を参照してください。

ドキュメントでDrawグラフィックを使用するには、次の手順に従います。

- 1 Drawを開き、グラフィックを作成します。
- 2 そのグラフィックを保存します。
- 3 グラフィックを文書にコピーして貼り付けるか、文書から直接グラフィックを挿入します。

Drawには、他のOpenOffice.orgモジュール内で利用できるという特長があります。他のOpenOffice.orgモジュールからDrawを起動してグラフィックを作成した後、ドキュメントに自動的にインポートできます。

- 1 OpenOffice.orgモジュール(例:Writer)から、[挿入]、[オブジェクト]、[OLEオブジェクト]、[OpenOffice.org 2.0 の図形描画]、[OK]の順にクリックします。

これにより、Drawが起動します。

- 2 描画を作成します。

- 3 ドキュメント内で、Drawの枠外の領域をクリックします。

描画が自動的に文書に挿入されます。

## 3.7 Mathを使用して式を作成する

一般的に、ドキュメントに複雑な数式を表記することは、複雑さを伴います。OpenOffice.org Math数式エディタでは、演算子、関数、および書式設定機能を使って、このような数式を作成できます。作成した数式をオブジェクトとして保存し、他のドキュメントにインポートできます。Mathで作成した数式や関数は、他のグラフィックオブジェクトと同様に、他のOpenOffice.orgドキュメントに挿入できます。

---

### 注意

Mathは計算機ではありません。Mathが作成する関数は、グラフィックオブジェクトです。Calcにインポートできますが、これらの関数は評価されません。

---

## 3.8 OpenOffice.orgに関するヘルプと情報の検索

OpenOffice.orgには詳細なオンラインヘルプが含まれています。また、OpenOffice.orgは多数のユーザおよび開発者によってサポートされています。

そのため、OpenOffice.orgに関する説明、参考資料および情報は、比較的簡単に手に入れることができます。このような情報や資料を入手できる代表的な場所を、次の表に示します(Webサイトは、頻繁に内容が変更されたり、閉鎖されることがあるため、本書をお読みになっている時点では情報が古くなっている可能性もあります)。

表 3.5 OpenOffice.orgに関する情報の入手先

ディレクトリ	内容
OpenOffice.orgオンラインヘルプメニュー	OpenOffice.orgのタスク実行に関する詳細なヘルプ
OpenOffice.orgの公式サポートページ [ <a href="http://support.openoffice.org/index.html">http://support.openoffice.org/index.html</a> ]	マニュアル、チュートリアル、ユーザ/開発者フォーラム、メーリングリスト、FAQ、および他の資料
OpenOffice.org Migration Guide [ <a href="http://documentation.openoffice.org/manuals/oooauthors2/0600MG-MigrationGuide.pdf">http://documentation.openoffice.org/manuals/oooauthors2/0600MG-MigrationGuide.pdf</a> ]	Microsoft Officeを含む他のオフィススイートからOpenOffice.orgへの移行に関する情報
Taming OpenOffice.org [ <a href="http://www.taming-openoffice-org.com/">http://www.taming-openoffice-org.com/</a> ]	書籍、ニュース、ヒント、テクニック
OpenOffice.org Macros [ <a href="http://www.pitonyak.org/oo.php">http://www.pitonyak.org/oo.php</a> ]	マクロの作成と使用方法に関する詳細情報




# Kontact:電子メールとカレンダーリング

Kontactは、複数のKDEアプリケーションの機能を1つの使いやすいインタフェースに統合した個人情報管理ツールです。これらのアプリケーションには、KMail (電子メール)、KOrganizer (カレンダー)、KAddressbook (連絡先管理)、およびKNotes (ノート) が含まれます。データをPalmPilotや他のハンドヘルドデバイスなど、外部デバイスと同期させることもできます。KontactはKDEデスクトップの空いている領域に容易に配置できます。また、Kontactはさまざまなグループウェアサーバに接続します。スパムやウィルスのフィルタリング、RSSリーダなどの追加機能も備えています。

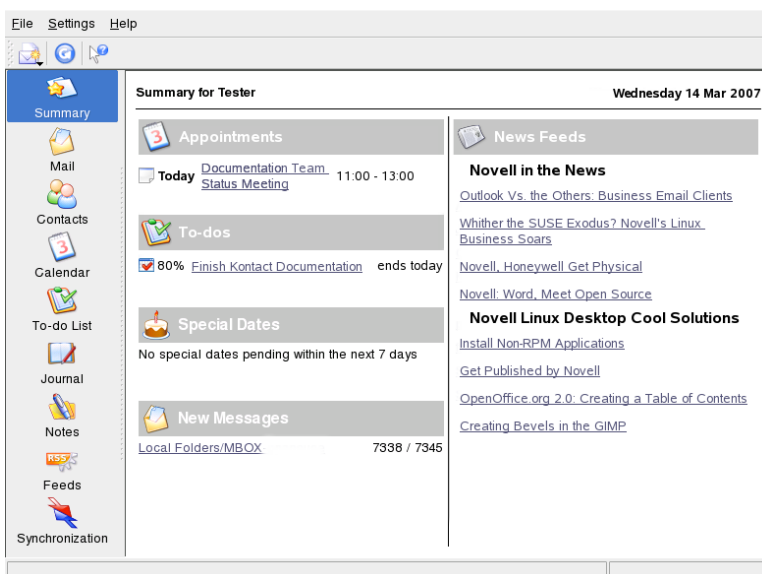
Kontactはメインメニューから起動します。代わりに、コマンドラインまたは [コマンドを実行] ダイアログに `[kontact]` と入力して起動することもできます。一部の機能だけが必要な場合には、複合のアプリケーションとしてではなく、個々のコンポーネントを開くこともできます。

## 4.1 Kontactの概要

デフォルトのウィンドウビューには、**[概要]**  **4.1. 「概要が表示された Kontact ウィンドウ」** (110 ページ) に示すように、が表示されます。別のコンポーネントにアクセスするには、左側のセクションにあるボタンを使用します。

**[要約]** には、近づいている誕生日やTo-Do、天気、および新規のメールメッセージ数などの基本情報が表示されます。ニュースセクションでは、RSSフィードにアクセスして興味のある最新ニュースを読むことができます。表示される情報を設定するには、**[設定]** > **[概要表示の設定]** の順に選択します。

## 図 4.1 概要が表示されたKontactウィンドウ



### 4.1.1 メール

左側のフォルダ領域には、自分のメールフォルダ(メールボックス)から成るリストがあり、メッセージの総数と未読の件数が表示されます。特定のフォルダを選択するには、そのフォルダをクリックするだけです。そのフォルダ内のメッセージが、右上のフレームに表示されます。フォルダ内のメッセージの件数は、アプリケーションウィンドウの下端にあるステータスバーにも表示されます。

各メッセージの件名、送信者、および受信日時が、右側のヘッダ領域に表示されます。特定のメッセージをクリックすると、そのメッセージが選択され、メッセージウィンドウ内に表示されます。列の見出し(件名、送信者、日時など)のいずれかをクリックすると、メッセージをソートできます。現在選択されているメッセージの内容は、ウィンドウのメッセージフレームに表示されます。添付ファイルは、その添付ファイルが使用しているMIMEタイプに基づき、メッセージの最後にあるアイコンとして、またはインラインで表示されます。

さまざまなステータスフラグを使用して、メッセージにマークを付けることができます。ステータスを変更するには、[メッセージ] > [メッセージをマーク] を選択します。この機能を使えば、メッセージに「重要」や「スパム」などのステータスを割り当てることができます。たとえば、覚えておきたい重要なメッセージを強調表示することができます。検索バーの [状態] を使用すると、特定の状態のメッセージだけを表示できます。

## 4.1.2 連絡先

このコンポーネントの左上のフレームには、現在有効なアドレス帳に登録されているすべてのアドレスが表示されます。左下のフレームには、アドレス帳と、各人が現在アクティブかどうかが表示されます。右側のフレームには、現在選択されている連絡先が表示されます。上にある検索バーを使用して、特定の連絡先を検索できます。

## 4.1.3 カレンダー

カレンダービューは、複数のフレームに分割されています。デフォルトでは、今月の小さなカレンダーを含むフレームと、今週の週表示を含むフレームが表示されます。To-Doリスト、現在のイベントまたはTo-Doの詳細表示、およびそれぞれの状態を示すカレンダーリストもあります。別の表示を選択するには、ツールバーまたは [表示] メニューを使用します。

## 4.1.4 To-Do List

[To-doリスト] には、タスクのリストが表示されます。リストに新しいタスクを追加するには、上にあるフィールドをクリックします。既存のタスクの列を右クリックすると、その列の値を変更できます。タスクをいくつかのサブタスクに分割できます。サブタスクを作成するには、タスクを右クリックして [新規サブTo-Do] を選択します。タスクを他の人々に割り当てることもできます。

## 4.1.5 日誌

[ジャーナル] では、考え事、出来事、または経験などを保存する場所を提供します。カレンダーフレームの中で日にちを選択し、 [Add Journal Entry

(ジャーナルエントリの追加)] をクリックし、新しいエントリを追加します。選択した日に対してのジャーナルエントリがすでに存在する場合は、右のフレーム内でそれを編集します。

## 4.1.6 メモ

このコンポーネントは、覚え書きとして使用します。KDEを使用している場合は、システムトレイのKNoteアイコンを使用すると、デスクトップに表示されるようになります。

## 4.1.7 フィード

[Feeds] ウィンドウは3つのフレームに分割されています。左側のRSSフィードのツリービュー、右上の部分の記事リスト、および右下の部分の記事ビューで構成されています。ツリービューでフィードをクリックしてそれを表示します。フィードの更新、編集、または削除を行うには、対象のフィードを右クリックします。ツリービュー内のフォルダを右クリックすると、新しいフィードの追加、またはこのフォルダ内の既存のフィードの操作のメニューが開きます。

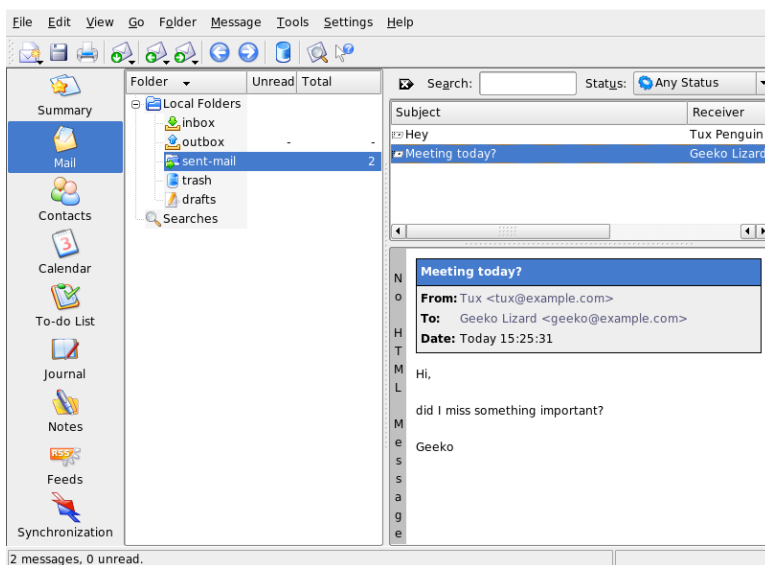
## 4.2 メール

Kontactは、電子メールコンポーネントとしてKMailを使用します。KMailを設定するには、[設定] > [KMail設定] の順に選択します。KMailは機能豊富な電子メールクライアントであり、多くのプロトコルをサポートしています。

[ツール] には、不必要なメールを管理するのに役立ついくつかのツールがあります。[検索] を使用すると、メッセージを詳しく検索できます。[アンチスパムウィザード] は不要な商用電子メールをフィルタするのに役立つ管理ツールです。[アンチウィルスウィザード] は電子メールウィルススキャナを管理します。これらの2つのウィザードは、外部のスパムおよびウィルスソフトウェアと連動します。これらのオプションを無効にする場合は、スパムやウィルスに対処するための付加的なパッケージをインストールしてください。



## 図 4.2 Kontactのメールコンポーネント



### 4.2.1 個人情報およびアカウントの設定

Kontactでは、複数の電子メールアカウント(たとえば、自分の個人用電子メールアドレスと、ビジネス用のアドレス)を管理することができます。電子メールの作成時には、[表示]、> [個人情報] をクリックして、定義済みのいずれかのIDを選択します。新しいIDのプロファイルを作成するには、[設定]> [KMail設定] の順に選択し、続いて、[Identities]> [追加] の順に選択します。開いたダイアログボックスで、新しいIDに付ける名前(「private」(プライベート)や「office」(オフィス)など)を入力します。[OK] をクリックして、追加情報を入力するためのダイアログボックスを開きます。フォルダに識別情報を割り当てて、そのフォルダ内のメッセージに返信する際に、割り当てておいた識別情報が選択されるようにすることもできます。

[一般] タブで [ユーザの名前]、[組織]、および [Eメールアドレス] を入力します。[Cryptography] タブでは、電子的に署名された、または暗号化されたメッセージを送信するための鍵を選択します。暗号化機能を使用するには、「[第10章 KGpgによる暗号化\(189ページ\)](#)」で説明しているKGpgを使用して鍵を事前に作成しておく必要があります。

[詳細] タブでは、デフォルトの返信アドレス(Reply-To)およびデフォルトのBCCアドレスの指定、辞書の選択、完成していないメッセージや送信済みメッセージを格納するフォルダの選択、およびメッセージの送信方法の定義を行います。[署名] タブでは、各メッセージの最後に署名テキストを付加するかどうかを指定します。たとえば、各メールに自分の連絡先情報を署名として追加することができます。署名を有効にするには、[署名を有効にする]を選択し、ファイル、入力フィールド、コマンドの出力のいずれから署名を取得するのかを指定します。[Picture (写真)]を使用すると、すべてのメール内で表示される、モノクロの小さな(48x48ピクセル)アイコンへのパスを指定できます(受信者のソフトウェアがこの機能をサポートしている場合)。すべてのID設定が完了したら、[OK]をクリックして確定します。

[アカウント] では、Kontactによる電子メールの送受信方法を設定します。この中には2つのタブがあり、1つはメール送信用、もう1つはメール受信用です。この2つのタブの設定値の多くは、使用するメールサーバのシステムと配置先ネットワークによって大きく異なります。どのような設定値と項目を使用すればいいのかわからない場合は、ご利用のISP、またはシステム管理者に問い合わせてください。

発信用メールボックスを作成するには、[送信] タブで [追加] をクリックします。SMTPとSendmailのいずれかの転送タイプを選択します。ほとんどの場合、SMTPの選択が適しています。選択すると、SMTPサーバのデータを入力するためのウィンドウが表示されます。サーバの名前とアドレス(ISPによって指定されている)を入力します。サーバによって認証が要求されている場合は、[サーバは認証が必要です] を有効にします。[セキュリティ] タブには、セキュリティ設定項目があります。ここで、使用する暗号化手法を指定します。

[受信] タブ内で、電子メールの受信用の設定を行います。[追加] をクリックして、新しいアカウントを作成します。[ローカルメールボックス] (MboxまたはMaildir形式)、[POP3]、[IMAP] などさまざまな方法の中から、メールの取得方法を選択します。設定値は、使用するサーバに合わせてください。

## 4.2.2 他のメールプログラムからの電子メールのインポート

他のアプリケーションから電子メールをインポートするには、Kontactのメールビューで [ツール] > [メッセージをインポート] の順に選択します。現

在、Outlook Express、mbox形式、電子メールテキスト形式、Pegasus Mail、Opera、およびEvolutionなどのインポートフィルタがサポートされています。インポートユーティリティは、kmailcvtコマンドを使用して単独で起動することもできます。

対応するアプリケーションを選択し、[次へ] をクリックします。選択したタイプによっては、ファイルまたはフォルダを指定する必要があります。その後、Kontaktによって、自動的にプロセスが完了されます。

## 4.2.3 メッセージの作成

新しいメッセージを作成するには、[メッセージ] > [新規メッセージ] の順に選択するか、ツールバーの該当するアイコンをクリックします。他の電子メールアカウントからメッセージを送信するには、4.2.1項「**個人情報およびアカウントの設定**」(113 ページ)の説明に従って設定したIDのいずれかを選択します。[宛先]に、電子メールアドレス全体を入力するか、アドレス帳に入力されている氏名またはアドレスの一部を入力します。入力した文字に一致する項目がアドレス帳の中で見つかった場合、選択リストが表示されます。希望の連絡先をクリックします。入力に一致する項目が見つからなかった場合は、最後まで入力します。アドレス帳から直接選択するには、アドレスのフィールドの隣にある[Select...] ボタンをクリックします。

メッセージにファイルを添付するには、クリップのアイコンをクリックして、添付するファイルを選択します。代わりに、デスクトップまたは他のフォルダから[メール作成] ウィンドウまでファイルをドラッグするか、[添付] メニュー内でオプションのいずれかを選択することもできます。通常は、ファイルの形式は正しく認識されます。形式が正しく認識されない場合は、ファイルのアイコンを右クリックします。表示されるメニューから、[プロパティ] を選択します。次のダイアログで形式とファイル名を設定し、説明を追加します。また、添付ファイルを署名または暗号化するかどうかも指定できます。

メッセージの作成が完了したら、[メッセージ] > [送信] を選択して直ちに送信するか、[メッセージ] > [送信待ち] をの順に選択して[送信待ち] フォルダに移動します。メールを送信すると、メッセージは正常に送信された後に[送信済みメール] フォルダにコピーされます。[送信待ち] フォルダに移動されたメッセージは、編集または削除することもできます。

## 4.2.4 暗号化された電子メールと署名

電子メールを暗号化するには、**第10章 KGpgによる暗号化** (189 ページ)で説明されているように、鍵ペアを最初に生成します。暗号化手順の詳細を設定するには、**[設定] > [KMail設定] > [Identities (個人情報)]** の順に選択します。次に、暗号化メッセージまたは署名済みメッセージを送信する際に使用するIDを指定します。**[変更]** を押します。**[OK]** をクリックして確定すると、対応するフィールドに鍵が表示されます。**[OK]** をクリックして、設定ダイアログを閉じます。

## 4.2.5 フォルダ

メッセージフォルダを使用すると、メッセージを整理することができます。デフォルトでは、メッセージフォルダは `~/ .kde/share/apps/kmail/mail` ディレクトリにあります。初めてKMailを起動する時に、さまざまなフォルダが作成されます。inboxには、サーバから受信した新しいメッセージが保管されます。outboxは、送信待ちのメッセージを一時的に保管するために用いられます。sent-mailには、送信されたメッセージのコピーが保管されます。trashには、**Del**キーまたは **[編集] > [ごみ箱に移動]** を使って削除されたすべての電子メールのコピーが保管されます。draftには、未完成のメッセージが保管されます。IMAPを使用している場合は、ローカルフォルダの下にIMAPフォルダも表示されます。各着信メールサーバに対して、そのフォルダが **[フォルダ]** リストに表示されます。

メッセージを整理するためにフォルダを追加するには、**[フォルダ] > [新規フォルダ]** の順に選択してフォルダを作成します。ウィンドウが表示されるので、新しいフォルダの名前と形式を指定できます。

フォルダを右クリックすると、コンテキストメニューが表示されて、フォルダに対する操作が行えます。**[Expire]** を選択すれば、既読および未読のメッセージの保存期間と、削除やフォルダへの移動など、その期間の終了後に行う処理を指定できます。メーリングリストのメッセージを格納するためにフォルダを使用する場合には、**[フォルダ] > [Mailing List Management]** の順に選択して、必要なオプションを設定します。

あるフォルダから別のフォルダに1つ以上のメッセージを移動するには、上のウィンドウ内にあるメッセージをドラッグし、左のウィンドウ内にある適切なフォルダにドロップします。メッセージを反転表示し、**M**キーを押すか、

[メッセージ] > [移動] を選択することによってもメッセージを移動できます。フォルダのリストが表示されるので、メッセージの移動先として使用するフォルダを選択します。

## 4.2.6 フィルタ

フィルタは、着信メールを自動的に処理するための便利な方法です。送信者やサイズなどのメールの特徴に基づいて、メールを特定のフォルダに移動したり、不要なメールを削除したり、メールを送信者に返送します。

### フィルタの作成

フィルタを新規に作成するには、[設定] > [フィルタの設定] の順に選択します。既存のメッセージに基づいてフィルタを作成するには、適用対象のメッセージを右クリックして [フィルタを作成] を選択し、フィルタの条件を選択します。

フィルタ条件の照合方法(すべて、またはいずれか)を選択します。次に、対象のメッセージだけに適用する条件を選択します。[フィルタアクション] で、条件に一致するメッセージに対するフィルタのアクションを設定します。[詳細オプション] では、フィルタをいつ適用するか、対象のメッセージに対してフィルタを追加するかどうかを設定します。

### フィルタの適用

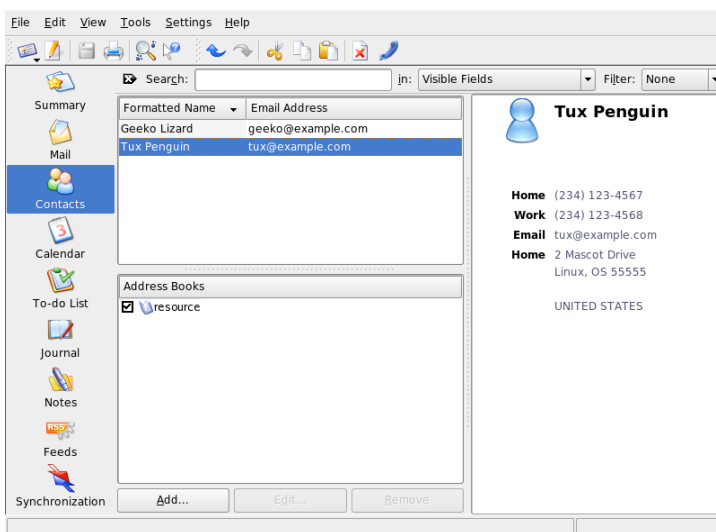
フィルタは、右クリックして [設定] > [フィルタを作成] を選択したときに開くダイアログ内にリストされている順序に従って、適用されます。特定のフィルタを選択し、矢印ボタンをクリックすることにより、順序を変更できます。フィルタは、[詳細オプション] で指定した新着メッセージと送信メッセージだけに適用されます。受信済みのメッセージにフィルタを適用するには、適用対象のメッセージを右クリックして、[フィルタの適用] を選択し、適用対象のフィルタを選択します。

フィルタが期待どおりに機能しない場合は、[ツール] > [フィルタログビューア] を使用して監視できます。このダイアログでログ機能を有効にすると、フィルタがどのようにメッセージを処理したか記録されるので、問題の特定に役立ちます。

## 4.3 連絡先

Kontactは、連絡先コンポーネントとしてKAddressBookを使用します。KAddressBookを設定するには、[設定] > [KAddressBookを設定]の順に選択します。特定の連絡先を検索する場合は、検索バーを使用します。[フィルタ]を使用すると、特定のカテゴリの連絡先だけを表示できます。連絡先を右クリックするとメニューが表示され、さまざまなオプションを選択できます。たとえば、電子メールで連絡先情報を送信することができます。

図 4.3 Kontactのアドレス帳



### 4.3.1 連絡先の追加

電子メール内の名前や電子メールアドレスを使用して連絡先を追加するには、メール内のアドレスを右クリックして [アドレス帳で開く] を選択します。新しい連絡先を追加するには、[ファイル] > [新規連絡先]の順に選択します。どちらの方法でもダイアログが表示されるので、連絡先に関する情報を入力します。

[一般] タブでは、名前、電子メールアドレス、電話番号などの連絡先の基本情報を入力します。カテゴリを使用してアドレスをソートすることもでき

ます。[詳細] では、誕生日や配偶者の名前など、より個人的な情報を入力します。

連絡先でインスタントメッセンジャを使用している場合は、[IMアドレス] にそのIDを追加できます。この操作を実行して、KopeteなどのKDEチャットプログラムをKontactとともに実行すると、これらのIDに関する状態情報がKontactに表示されます。[暗号設定] には、連絡先の暗号化データ(公開鍵など)を入力します。

[その他] には、写真や予定の有無情報の場所など、ユーザの追加情報を入力します。連絡先またはアドレス帳に自分自身の情報を追加する場合は、[カスタムフィールド] を使用します。

連絡先をさまざまな形式でインポートすることもできます。インポートするには、[ファイル] > [インポート] を使用して形式を選択します。次に、インポートするファイルを選択します。

## 4.3.2 配布リストの作成

特定のグループの人々に頻繁に電子メールのメッセージを送信する場合には、配布リストを作れば、複数のメールアドレスを1つの連絡先項目として保管できるので、グループにメールを送信するたびに、個々の名前を入力する必要がなくなります。まず、[設定] > [拡張バーを表示] > [送付リストエディタ] の順に選択します。表示される新しいセクションで、[新規リスト] をクリックします。リストの名前を入力し、[OK] をクリックします。連絡先をアドレスリストから送付リストウィンドウにドラッグアンドドロップして、リストに追加します。このリストは、メールを作成するときに、個人の連絡先と同じように使用できます。

## 4.3.3 アドレス帳の追加

---

重要項目: グループウェアのアドレス帳

グループウェアリソースを追加するには、個別のツールであるGroupware Wizardを使用するのが最善の方法です。これを使用するには、Kontactを終了してから、コマンドラインでgroupwarewizardを実行するか、KDEメニューのオフィスのグループから選択します。表示されるリストからSLOX、

Groupwise、Exchangeなどのサーバタイプを選択し、アドレスと認証データを入力します。使用可能なリソースが**Kontact**に追加されます。

---

Kontactは複数のアドレス帳にアクセスできます。たとえば、Novell GroupWiseやLDAPサーバが提供する共有のアドレス帳があります。現在のアドレス帳を表示するには、**[設定]** > **[拡張バーを表示]** > **[アドレス帳]** の順に選択します。アドレス帳を追加する場合は、**[追加]** をクリックし、タイプを選択して必要な情報を入力します。

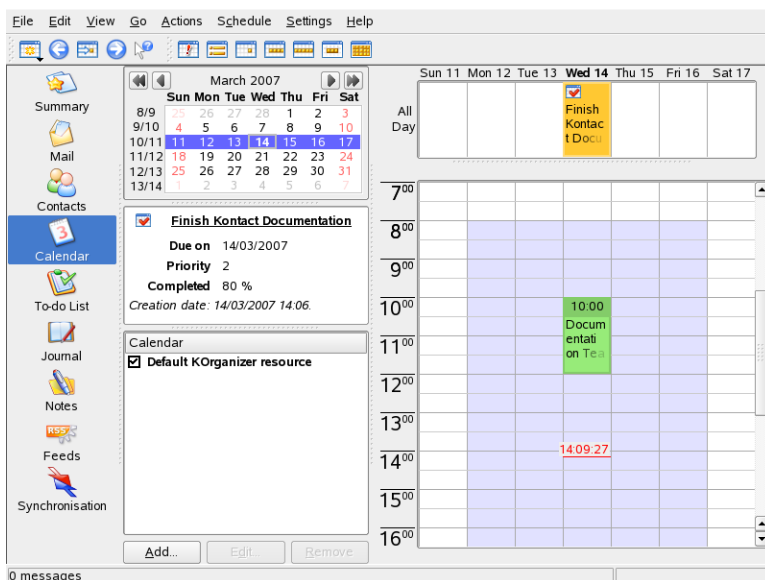
アドレス帳の前のチェックボックスは、それぞれの有効状態を示します。アドレス帳を削除せずに非表示にするには、そのチェックボックスをオフにします。**[削除]** を選択すると、選択したアドレス帳がリストから削除されます。

## 4.4 カレンダー

Kontactは、カレンダーコンポーネントとしてKOrganizerを使用します。KOrganizerを設定するには、**[設定]** > **[KOrganizerの設定]** を選択します。カレンダーでは、アポイントを入力したり、会議をスケジュールリングしたりします。必要に応じて、今後のイベントの通知を設定できます。**[ファイル]** メニューのオプションを使用して、カレンダーのインポート、エクスポート、およびアーカイブを行うこともできます。



## 図 4.4 Kontactのカレンダー



### 4.4.1 イベントのスケジューリング

新しいイベントまたは会議を追加するには、[アクション] > [新規イベント]の順に選択します。詳細情報を入力します。[アラーム]では、出席者にイベントを通知する時間(何日前、何時前、何分前など)を正確に指定します。繰り返し実施されるイベントの場合は、間隔を指定します。カレンダーの特定の時点にイベントを作成するもう1つの方法は、プログラムのいずれかのカレンダービューで、対応するフィールドをダブルクリックすることです。これによって、メニューから実行した場合と同じダイアログウィンドウが表示されます。または、カレンダー表示で時間の範囲を選択して、右クリックします。

ダイアログに手動でデータを入力するか、またはアドレス帳からデータを挿入してイベントの出席者を指定します。手動で入力する場合は、[新規]を選択します。データをアドレス帳からインポートする場合は、[アドレスの選択]をクリックしてダイアログから該当するエントリを選択します。出席者の予定に合わせてイベントをスケジューリングするには、[予定の有無]を選択して [日付を選択] をクリックします。

定期的に実施されるイベントを設定するには、[繰り返し] タブを使用します。その他の情報(議事録など)をイベントにリンクするには、[添付ファイル] を使用できます。

## 4.4.2 カレンダの追加

---

### 重要項目: グループウェアのカレンダ

グループウェアリソースを追加するには、個別のツールである**Groupware Wizard**を使用するのが最善の方法です。これを使用するには、**Kontact**を終了してから、コマンドラインでgroupwarewizardを実行するか、KDEメニューのオフィスのグループから選択します。表示されるリストから**SLOX**、**Groupwise**、**Exchange**などのサーバタイプを選択し、アドレスと認証データを入力します。使用可能なリソースが**Kontact**に追加されます。

---

カレンダモジュールは、同時に複数のカレンダに接続できます。この機能は、個人のカレンダを組織のカレンダに統合する場合などに役立ちます。新しいカレンダを追加するには、[追加] をクリックしてカレンダタイプを選択します。必須フィールドにデータを入力します。

カレンダの前のチェックボックスは、それぞれの有効状態を示します。カレンダを削除せずに非表示にするには、そのチェックボックスをオフにします。[削除] を選択すると、選択したカレンダがリストから削除されます。

## 4.5 ハンドヘルドとのデータの同期

**Kontact**は、データをPalmなどのハンドヘルドデバイスと同期できるように設計されています。**KPilot**の状態に関する情報が概要に表示されます。**KPilot**の設定と使用方法の詳細については、「[第6章 KPilotによるハンドヘルドコンピュータの同期](#) (145 ページ)」を参照してください。

## 4.6 KontactとGroupWiseユーザ

GroupWiseの使用に慣れていれば、ほとんど問題なく**Kontact**に合わせることができるでしょう。これら2つのプログラムは多くの概念を共有しており、提供

しているサービスの多くも共通しています。このセクションでは、注意すべき用語の違いと、GroupWiseユーザがKontactを十分に活用するためのヒントについて説明します。

## 4.6.1 用語の違い

次のテーブルでは、KontactとGroupWiseでの用語の主要な違いを示しています。

表 4.1 KontactとGroupWiseの用語の違い

GroupWise	Kontact
アポイント	イベント
予定の有無	空き時間/予定あり
メモ	Journalのエントリ
ポストされた/ポストされていない項目	出席者のないイベントは、ポストされます。イベントに主席者がある場合には、送信済みの項目になります。
仕事	To-do

## 4.6.2 GroupWiseユーザのためのヒント

このセクションでは、GroupWiseのユーザが、GroupWiseとKontactの相違点に対処するために役立つヒントを説明します。

### 連絡先情報

GroupWise Messengerと電子メールの連絡先は、Kontactの連絡先情報に追加することができます。それから、[コンタクト]表示の名前を右クリックして、電子メールを作成したり、インスタントメッセージングセッションを開始したりすることができます。

## カラーコード

GroupWiseの項目、および他のソースからの項目にカラーコードを付けると役立ちます。カラーコードを付ければ、電子メール、連絡先、特定のソースからの項目についての他の情報をスキャンするのが簡単になります。

## イベントに出席者を招待する

GroupWiseとは異なり、Kontactでは、自分がスケジュールしたイベントに自分自身を自動的に出席者として入れることはありません。自分自身を招待することを忘れないようにしてください。

## 4.7 詳細情報

Kontactには、Kontactとその各種コンポーネントのヘルプが含まれています。ヘルプにアクセスするには、[ヘルプ] > [*Kontact Handbook*] の順に選択します。このプロジェクトのWebページ<http://www.kontact.org>も参考になります。

# GroupWise Linuxクライアント: 電子メールとカレンダーリング

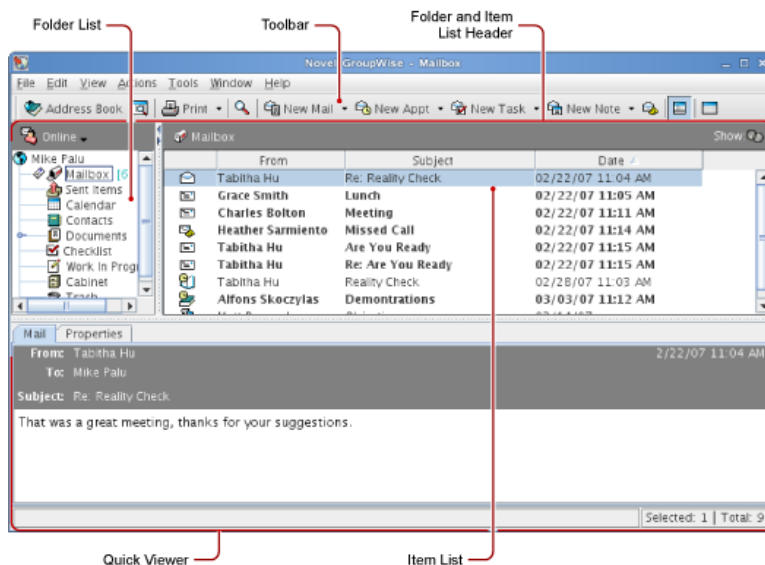
# 5

GroupWise®は、堅牢で信頼性の高いメッセージング/コラボレーションシステムで、いつでもどこからでもユニバーサルメールボックスに接続することができます。ここでは、GroupWise Cross-Platformクライアントを簡単に使用開始できるように、GroupWiseクライアントの概要について説明します。

## 5.1 GroupWiseのメインウィンドウについて

GroupWiseにおける主な作業領域は、[メインウィンドウ]です。GroupWiseのメインウィンドウから、メッセージの読み取り、アポイントのスケジュール、カレンダーの表示、連絡先の管理、実行中のGroupWiseモードの変更、フォルダやドキュメントを開くなどの作業を実行できます。

## 図 5.1 Groupwiseのメインウィンドウ



GroupWiseでは、複数のメインウィンドウを表示できます。メインウィンドウを表示するには、[Window] をクリックして、次に [New Main Window] をクリックします。これは、別のユーザの代理人になっているときに便利です。自分のメインウィンドウ、および自分が代理になっているユーザに属するメインウィンドウを確認できます。1つのウィンドウで特定のファイルを開き、別のウィンドウでカレンダーを表示することもできます。コンピュータのメモリが許す限り、いくつでもメインウィンドウを開くことができます。

次にメインウィンドウの基本的なコンポーネントについて説明します。

### 5.1.1 ツールバー

ツールバーを使用すると、アドレス帳を開く、メールを送信する、項目を検索するなどのGroupWiseの一般的な作業をすばやく行うことができます。ツールバーについては、[5.4頁「ツールバーの使用」](#) (138 ページ)を参照してください。

## 5.1.2 フォルダおよび項目リストヘッダ

フォルダと項目リストヘッダにはドロップダウンリストがあり、ここから実行したいGroupWiseのモード(オンラインまたはキャッシュ)の選択、アーカイブを開くかメールボックスをバックアップする選択、およびプロキシメールボックスの選択などの操作を実行できます。


## 5.1.3 フォルダリスト

メインウィンドウの左側にあるフォルダリストで、GroupWise項目を整理できます。項目を保管するために新しいフォルダを作成することもできます。フォルダ(共用フォルダを除く)の横には、角括弧の中に未読項目の数が表示されます。送信項目フォルダの隣には、キャッシングモードから送信保留中の項目数が角かっこ( [ ] )内に表示されます。


デフォルトフォルダの各内容については、次の項目を参照してください。

- [ユーザフォルダ項](#) (128 ページ)
- [\[メールボックス\] フォルダ項](#) (128 ページ)
- [\[送信項目\] フォルダ項](#) (128 ページ)
- [\[カレンダー\] フォルダ項](#) (129 ページ)
- [\[連絡先\] フォルダ項](#) (129 ページ)
- [\[チェックリスト\] フォルダ項](#) (129 ページ)
- [\[ドキュメント\] フォルダ項](#) (131 ページ)
- [\[ごみ箱\] フォルダ項](#) (132 ページ)
- [共用フォルダ項](#) (132 ページ)


## ユーザフォルダ

個人のユーザフォルダ(ユーザ名で示される)は、GroupWiseデータベース名を表します。メインウィンドウのすべてのフォルダは、ユーザフォルダのサブフォルダです。

### 〔メールボックス〕フォルダ

メールボックスのは、受信したすべての項目を表示しますが、受け付けた、または拒否したスケジュールされた項目(アポイント、タスク、リマインダメモ)は除きます。受諾したスケジュール設定項目はカレンダーに移動されます。

### 〔送信項目〕フォルダ

送信項目フォルダには、メールボックスやカレンダーから送信されたすべての項目が表示されます。GroupWise 6.5以前のバージョンの〔送信項目〕フォルダはクエリーフォルダで、現在の〔送信項目〕フォルダとは多少異なります。

以下は、以前の〔送信項目〕クエリーフォルダと現在の〔送信項目〕フォルダとの比較表です。


**表 5.1** 送信済み項目クエリフォルダと送信済み項目フォルダの比較

送信済み項目フォルダ(現行)	〔送信項目クエリ〕フォルダ(前)
送信項目は、メールボックスまたはカレンダー以外のフォルダに移動しないかぎり、すべてこのフォルダに置かれます。送信項目を別のフォルダに移動すると、その項目は〔送信項目〕フォルダに表示されなくなります。	現在このフォルダに項目はありません。このフォルダは検索結果フォルダで、このフォルダをクリックして検索結果(すべての送信済み項目)がフォルダに表示されると、検索が実行されたこととなります。このフォルダ内の項目を削除しても、元の項目は保管先のフォルダ内に残ります。そのため、このフォルダを再び開くと、その項目が再び表示されます。




送信済み項目フォルダ(現行)	[送信項目クエリ] フォルダ(前)
このフォルダから送信項目を再送信、スケジュール変更、および撤回できます。	このフォルダから送信項目を再送信、スケジュール変更、および撤回できます。

## 【カレンダー】フォルダ

カレンダーフォルダには、さまざまなカレンダー表示オプションが表示されます。


## 【連絡先】フォルダ

連絡先フォルダのは、デフォルトでは、アドレス帳に [Frequent Contacts] アドレス帳を表します。[連絡先] フォルダで変更を行うと、[頻繁な連絡] アドレス帳でも同じ変更が行われます。

このフォルダから、連絡先、リソース、組織、およびグループを表示、作成、および変更できます。

代理人は、依頼人の [連絡先] フォルダを見るできません。

## 【チェックリスト】フォルダ

チェックリストフォルダのを使用して、タスクリストを作成します。このフォルダに、メールメッセージ、電話メッセージ、メモ、タスク、アポイントなどの項目を移動し、任意の順序で配置できます。各項目にはチェックボックスが設定され、項目を完了した時点でチェックマークを付けることができます。

チェックリストフォルダとタスクリストクエリフォルダ(古いバージョンの GroupWise で使用)の違いについて以下に示します。


表 5.2 チェックリストフォルダとタスクリストクエリフォルダの比較

[チェックリスト] フォルダ	[タスクリスト] フォルダ
<p>このフォルダには、次の項目が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>このフォルダに移動した項目</li> <li>このフォルダにポストした項目</li> <li>別のフォルダで作成したチェックリストに含まれている項目</li> </ul>	<p>現在このフォルダに項目はありません。このフォルダは[検索結果]フォルダです。つまり、このフォルダをクリックすると検索が行われ、検索結果（スケジュール設定されたすべての項目）がフォルダに表示されます。このフォルダ内の項目を削除しても、元の項目は保管先のフォルダ内に残ります。そのため、このフォルダを再び開くと、その項目が再び表示されます。</p>
<p>このフォルダには、あらゆるタイプの項目を配置できます。</p>	<p>このフォルダには、タスクのみ表示されます。タスクは、期日に関連付けられているスケジュール設定項目です。</p>
<p>項目に完了マークを付けるには、項目リスト内の項目の横のチェックボックスをクリックします。.</p>	<p>項目に完了済みのマークを付けるには、項目を開いて[完了]をクリックします。</p>
	<p>期日は、タスクの送信者によって設定されます。タスクを自分で送信した場合は、期日を設定できます。</p>
	<p>項目の優先度を設定するには、その項目を開き、[優先度]フィールドに優先度を入力します。</p>
<p>チェックリスト項目は、カレンダーのタスクリストに表示されません。</p>	<p>タスクは、カレンダーのタスクリストに表示され、カレンダーから完了マークを付けることができます。</p>

期日を過ぎたタスクは、カレンダーで赤で表示されます。


---

## 〔ドキュメント〕 フォルダ


ドキュメント参照は、ドキュメントフォルダに保管されています。このフォルダから、目的の参照を簡単に見つけることができます。

〔ドキュメント〕 フォルダにはドキュメントしか含まれません。他の種類の項目がバージョン5.5以前のGroupWiseクライアントによりこのフォルダに移動されると、その項目は削除されます。

## キャビネットフォルダ

キャビネットのには、個人用のフォルダがすべて含まれます。フォルダを整理し、ネストするには、〔編集〕 > 〔フォルダ〕 の順にクリックします。フォルダのソート順を変更するには、〔キャビネット〕 フォルダを右クリックして 〔プロパティ〕 をクリックし、適切なソート順を選択します。

## 〔ジャンクメール〕 フォルダ

ジャンクメール処理機能によりジャンクメールと判断されたアドレスおよびインターネットドメインから受信した電子メール項目は、ジャンクメールフォルダに保管されます。〔ジャンクメール〕 オプションが有効でない場合、このフォルダはフォルダリストに作成されません。

〔ジャンクメール〕 オプションが有効であるかぎり、このフォルダを削除することはできません。ただし、名前の変更や、フォルダリスト内の別の場所への移動は可能です。すべてのジャンクメールオプションが無効になっていると、フォルダは削除できます。また、システム管理者が〔ジャンクメール処理〕 機能を無効にした場合にも削除できます。


ジャンクメールフォルダから項目を削除するには、〔ジャンクメールフォルダを空にする〕 をクリックして、〔はい〕 をクリックします。

## 〔ごみ箱〕 フォルダ

削除されたすべてのメールおよび電話メッセージ、アポイント、タスク、ドキュメント、およびメモは、ごみ箱フォルダ〔ごみ箱〕に保管されます。ごみ箱を空にしない限り、ごみ箱内の項目を表示したり、開いたり、メールボックスに戻したりできます(ごみ箱を空にすると、ごみ箱中の項目はシステムから削除されます)。

ごみ箱内のすべての項目を空にすることも、選択した項目だけを空にすることもできます。〔環境〕 オプションの〔クリーンアップ〕 タブで指定された日数が経過した場合、ごみ箱内の項目は自動的に削除されます。手動でごみ箱を空にすることもできます。システム管理者が、定期的に自動でごみ箱を空にするよう設定している場合があります。

## 共用フォルダ

共有フォルダのは、キャビネット内の他のフォルダと同じように機能しますが、他のユーザもこのフォルダにアクセスすることができます。〔キャビネット〕 内に共用フォルダを作成するか、または既存のパーソナルフォルダを共用することができます。そのフォルダを誰と共用するか、また各ユーザにどのような権利を与えるかを指定できます。そうすれば、それらのユーザは、その共用フォルダにメッセージを入れたり、既存の項目をそのフォルダへドラッグしたり、ディスカッション履歴を作成することができるようになります。キャビネット、ごみ箱、および作業中のフォルダなどのシステムフォルダは共有できません。

## 5.1.4 項目リスト

メインウィンドウの右側にある項目リストには、メール、電話メッセージ、アポイント、メモ、タスク、およびドキュメント参照が表示されます。カラムヘッダをクリックして、項目リストを並べ替えることができます。逆の順序で並べ替えるには、もう一度カラムヘッダをクリックします。各項目で使われているアイコンについては、[5.3.2項「メールボックスとカレンダーで項目の横に表示されるアイコン」](#) (135 ページ)を参照してください。

## 5.1.5 クイックビューア

QuickViewerはフォルダと項目リストの下に開きます。クイックビューアを使用すると、各項目およびその添付ファイルの内容を別のウィンドウで開かずに、簡単に見ることができます。

## 5.2 さまざまなGroupWiseモードを使用する

GroupWiseには、オンラインモードとキャッシングモードの、2種類のGroupWiseクライアント動作モードがあります。

どちらかのモードでGroupWiseを実行する場合と、システム管理者によって特定のモードのみを使用するよう求められる場合があります。

ほとんどのGroupWise機能はどちらのGroupWiseモードでも使用可能ですが、一部例外があります。キャッシングモードでは、他のユーザのお知らせを受信できません。

### 5.2.1 オンラインモード

オンラインモードを使用する場合、ネットワーク上のPost Officeに接続されます。メールボックスはネットワークメールボックス(オンラインメールボックスとも言います)に保存されたメッセージと情報を表示します。オンラインモードは、継続的にネットワークメールボックスに接続されます。オンラインモードでは、ポストオフィスエージェントが停止したり、ネットワーク接続が切断されたりした場合、メールボックスへの接続が一時的に切断されます。

ネットワークトラフィックがあまり多くない場合、または複数の異なるワークステーションを使用しており、各ワークステーションのローカルメールボックスにダウンロードしたくない場合は、このモードを使用してください。

## 5.2.2 キャッシングモード

キャッシュモードはメッセージや他の情報を含め、ネットワークメールボックスのコピーをローカルドライブに保存します。これにより、ネットワークまたはPost Office Agentが使用可能であるかどうかに関係なく、GroupWiseを使用することができます。常にネットワークに接続されているわけではないので、このモードはネットワークトラフィックを軽減し、最高のパフォーマンスを実現します。接続は、新しいメッセージの送受信のために自動的に実行されます。更新はすべてバックグラウンドで行われるので、作業が中断されることがありません。

キャッシュモードを使用するには、クライアントインストールはワークステーションインストールではなく、通常のインストールで実行されていなければなりません。

ローカルドライブにメールボックスを保存する十分なディスク領域がある場合は、このモードを使用することをお勧めします。

1台の共用コンピュータ上に複数のユーザがキャッシングメールボックスをセットアップすることができます。

## 5.3 メールボックスを理解する

自分の項目はすべて、送信しても受信しても、GroupWiseメールボックスに保存されます。表示ドロップダウンリストの設定をクリックすると、受信項目、送信項目、ポスト項目、またはドラフト項目だけをすぐに表示することができます。フィルタを使用してメールボックスに表示する項目をさらに制限することができます。

メッセージをキャビネット内のフォルダに移動してメッセージを整理し、必要に応じてフォルダを新規作成することができます。

### 5.3.1 メールボックスの太字項目







メールボックス内の未読項目はすべて太字になるので、どの項目とドキュメントを読んでいないか簡単に識別できます。未読の場合は項目の横に表示されるアイコンも表示されます。














送信済み項目もキューに置かれているがアップロードされていない、ステータス情報が配信中の項目について受信されていない、またはインターネットに転送されていない場合は、太字で表示されます。

## 5.3.2 メールボックスとカレンダーで項目の横に表示されるアイコン

メールボックスやカレンダー内の項目の横に表示されるアイコンは、その項目に関する情報を表しています。各アイコンの意味を次に説明します。





表 5.3 アイコンの説明

アイコン	説明
	キャッシングモードで送信した項目の隣に表示される  アイコンは、その項目がキューに格納されているが、キューがアップロードされていないことを示しています。項目がアップロードされた後、このアイコンは、宛先のポストオフィスに配信中の項目またはインターネットに転送中の項目に関するステータス情報を受信していないことを示します。
	送信項目の隣にある  アイコンは、1つ以上の項目がキューに格納されているが、それがアップロードされていないことを示します。
	送信した項目の隣に表示されます。この項目が少なくとも1人のユーザにより開かれた場合、このアイコンは、すべての受信者が、1)メール、電話メッセージ、またはリマインダメモを開く、2)アポイントを受け付ける、または3)タスクを完了するまで、表示されます。
	送信した項目の隣に表示されます。この項目は、送信先のPost Officeに配信されませんでした。またはインターネットへの転送が失敗しました。
	送信した項目の隣に表示されます。アポイントまたはタスクの隣に表示されるこのアイコンは、1人以上のユーザが項目

アイコン	説明
	を拒否したか、または削除したことを表しています。このアイコンが、メール、電話メッセージまたはメモの横に表示された場合は、少なくとも1人のユーザがこの項目を開かずに削除したことを示します。
	項目に1つ以上の添付ファイルがあることを示します。
	項目に1つ以上のサウンド注釈が含まれているか、項目がボイスメールであることを示します。
	ドラフト項目であることを示します。
	送信した項目の横に表示されます。
	返信した項目の横に表示されます。
	転送した項目の横に表示されます。
	委任した項目の横に表示されます。
	返信して転送した項目の隣に表示されます。
	返信および委任した項目の横に表示されます。
	転送および委任した項目の横に表示されます。
	返信、転送、および委任した項目の隣に表示されます。
	ポスト項目を示します。
	ドキュメントの特定のバージョンを示します。



アイコン	説明
	ドキュメントのオフィシャルバージョンを示します。
	優先度が低い、標準、または高い未開封のメール。
	優先度が低い、標準、または高い開封済みのメール。
	優先度が低い、標準、または高い未開封のアポイント。
	優先度が低い、標準、または高い開封済みのアポイント。
	優先度が低い、標準、または高い未開封のタスク。
	優先度が低い、標準、または高い開封済みのタスク。
	優先度が低い、標準、または高い未開封のメモ。
	優先度が低い、標準、または高い開封済みのメモ。
	優先度が低い、標準、または高い未開封の電話メッセージ。
	優先度が低い、標準、または高い開封済みの電話メッセージ。
	送信者はこの項目への返信を要求しています。この項目の優先度は、低い、標準、または高いです。
【】	<p>[予定の有無] に表示されます。ユーザ名またはリソースの左に表示されたら、[Individual Schedules] タブにあるユーザ名またはリソースからスケジュールの時間をクリックすると、下のボックスにアポイントに関する詳細情報が表示されます。ただし、このアイコンが表示される前に、ユーザまたはリソースの所有者からAccess Listでアポイントの「読み取り権」を与えられていなければなりません。</p>

アイコン	説明
	カレンダーに表示され、アラームが項目にセットされていることを示します。
	カレンダーに表示され、項目がグループアポイント、リマインダメモ、またはタスクであることを示します。
	カレンダーに表示され、項目がプライベートにマークされていることを示します。
	カレンダーに表示され、この項目を拒否したが削除はしていないことを示します。

## 5.4 ツールバーの使用

ツールバーを使用して、GroupWiseの多くの機能やオプションにアクセスできます。フォルダまたは項目の最上位にあるツールバーは、状況に依存します。現在の場所で最も必要なオプションを用意するよう変更します。

## 5.5 ショートカットキーを使用する

GroupWiseの中の豊富なショートカットキーは、アクセス補助として、またはさまざまな操作を実行時に時間を節約するために、使用することができます。以下のテーブルは、これらのショートカットキーと、キーにより実行される処理、および対象となるコンテキストの一部を表示しています。

表 5.4 ショートカットキー

ショートカットキー	アクション	操作の対象
<F1>	オンラインヘルプを表示する	メインウィンドウ、カレンダー、項目、ダイアログボックス

ショートカットキー	アクション	操作の対象
<F2>	テキストを検索する	項目内
<F5>	画面をリフレッシュする	メインウィンドウ、カレンダー
<F7>	スペルチェックを開く	項目内
<F8>	選択した項目に個人秘マークを付ける	項目リスト
<F9>	フォントのダイアログボックスを開く	項目内
<Ctrl>+<A>	すべての項目(すべてのテキスト)を選択する	項目リスト、テキスト
<Ctrl>+<B>	テキストを太字にする	テキスト内
<Ctrl>+<C>	選択したテキストをコピーする	テキスト内
<Ctrl>+<F>	[検索] ダイアログボックスを開く	メインウィンドウ、カレンダー、項目、ダイアログボックス
+	今日の日付に移動する	カレンダー
<Ctrl>+<I>	テキストを斜体にする	テキスト内
+	メッセージにファイルを添付する	項目内
<Ctrl>+<M>	新しいメールメッセージを開く	メインウィンドウ、カレンダー、項目、ダイアログボックス
<Ctrl>+<O>	選択したメッセージを開く	項目リスト

ショートカットキー	アクション	操作の対象
<Ctrl>+<P>	[印刷] ダイアログボックスを開く	メインウィンドウ、項目
<Ctrl>+<Q>	クイックビューアをオンまたはオフにする	メインウィンドウ、カレンダー
<Ctrl>+<R>	選択した項目に未読マークを付ける	項目リスト
<Ctrl>+<S>	ドラフトを [進行中の仕事] フォルダに保存する	項目内
<Ctrl>+<U>	テキストに下線を付ける	テキスト内
<Ctrl>+<V>	選択したテキストを貼り付ける	テキスト内
<Ctrl>+<X>	選択したテキストを切り取る	テキスト内
<Ctrl>+<Z>	前回の動作を元に戻す	テキスト内
+上矢印	前または次の項目を開く	項目内
または		
+下矢印		
<Ctrl>+<Shift>+左矢印	テキストを単語単位で選択する	テキスト内
または		
<Ctrl>+<Shift>+右矢印		
<Ctrl>+<Shift>+<A>	新規のアポイントを開く	メインウィンドウ、カレンダー、項目、ダイアログボックス

ショートカットキー	アクション	操作の対象
<Ctrl>+<Shift>+<T>	新規のタスクを開く	メインウィンドウ、カレンダー、項目、ダイアログボックス
<Ctrl>+<Shift>+<R>	新規のリマインダメモを開く	メインウィンドウ、カレンダー、項目、ダイアログボックス
<Ctrl>+<Shift>+<P>	新規の電話メッセージを開く	メインウィンドウ、カレンダー、項目、ダイアログボックス
<Alt>+<F4>	メインウィンドウおよびカレンダーでは、GroupWiseを終了する  項目では、項目を閉じる  ダイアログボックスでは、ダイアログボックスを閉じる	メインウィンドウ、カレンダー、項目、ダイアログボックス
<Alt>+[文字]	メニューバーをアクティブにする(メニュー名の、下線が付いた文字を使用)	メインウィンドウ、カレンダー、項目
<Alt>+<D>	項目を送信する	新規項目内
<Alt>+<S>	項目を送信する	新規項目内
<Alt>+<Enter>	選択した項目のプロパティを表示する	項目リスト
<Alt>+<Del>	項目を削除する	項目内
<Shift>+左矢印  または	テキストを文字単位で選択する	テキスト内

ショートカットキー	アクション	操作の対象
<Shift>+右矢印		
<Shift>+<End> または <Shift>+<Home>	行末または行頭までのテキストを選択する	テキスト内
Shift + [文字キー]	フォルダリストで、<Shift>キーを押しながらサブフォルダ名の最初の文字のキーを押すと、そのサブフォルダに移動する	フォルダリスト
<Tab>	フィールド、ボタン、および領域を順番に移動する	メインウィンドウ、カレンダー、ダイアログボックス、項目
<Shift>+<Tab>	フィールド、ボタン、領域を逆の順に進む	メインウィンドウ、カレンダー、ダイアログボックス、項目
<Ctrl>+<Tab>	テキスト内では、テキストをインデントする  タブ付きのダイアログボックスでは、次のタブを開く	テキスト内、ダイアログボックス
Alt+上矢印	項目のメッセージ本文を拡大。	項目内
Alt+下矢印	項目のメッセージ本文を縮小。	項目内

## 5.6 詳細について

GroupWiseの詳細については、次の資料を参照してください。

- 5.6.1項 「オンラインヘルプ」 (143 ページ)
- 5.6.2項 「GroupWise 7ドキュメントWebページ」 (143 ページ)
- 5.6.3項 「GroupWise Cool Solutions Web Community」 (143 ページ)

## 5.6.1 オンラインヘルプ

詳細なユーザマニュアルがヘルプに記載されています。メインウィンドウから [ヘルプ] > [ヘルプ項目] の順に選択して、[コンテンツ] タブ、[インデックス] タブ、または [検索] タブを使用して、目的のトピックを検索します。

## 5.6.2 GroupWise 7ドキュメントWebページ

最新バージョンのGroupWiseユーザガイド、およびGroupWise管理者用のマニュアルについては、NovellドキュメントWebサイト(<http://www.novell.com/documentation/gw7>)のGroupWise 7のセクションを参照してください。

このユーザガイドは、GroupWiseクライアントから [ヘルプ] > [ユーザガイド] の順に選択して参照することもできます。

## 5.6.3 GroupWise Cool Solutions Web Community

GroupWiseのCool Solutions Webコミュニティでは、ヒント、活用例、機能詳細、およびFAQに対する回答を参照できます。メインウィンドウで、[ヘルプ] > [Cool Solutions Webコミュニティ] の順に選択するか、または<http://www.novell.com/cool solutions/gw mag>を参照してください。





# KPilotによるハンドヘルドコンピュータの同期

ハンドヘルドコンピュータは、スケジュール、To-doリスト、メモなどをどこにでも持ち歩くユーザの間に広く普及しています。多くの場合、ユーザはデスクトップとポータブルデバイスの両方で同じデータを使用することを求めます。そこで役に立つのがKPilotです。これは、ハンドヘルドのデータをKontactの構成要素であるKAddressBook、KOrganizer、KNotesなどのKDEアプリケーションと同期するためのツールです。

KPilotの主な目的は、ハンドヘルドコンピュータのアプリケーションとそれに対応するKDEアプリケーション間のデータの共有です。KPilotには、メモビューア、アドレスビューア、およびファイルインストーラが組み込まれていますが、これらはKPilot環境以外では使用できません。しかしファイルインストーラを除いて、すべての機能は、別の独立したKDEアプリケーションで実現できます。

KPilotは、ハンドヘルドと別のデスクトッププログラム間の通信をコンジットによって処理しています。KPilot自体は、2つのコンピュータデバイス間のデータ交換を監視するプログラムです。ハンドヘルドの特定の機能（例：スケジュール）をデスクトップコンピュータで使用するには、対応するコンジットを有効にして設定する必要があります。ほとんどの場合、コンジットは特定のKDEプログラムとの連携を前提に設計されているので、一般に、他のデスクトップアプリケーションでは使用できません。

時間同期コンジットは、ユーザが特定の機能（例：スケジュール）を実行するときに、バックグラウンドでアクティブ化されますが、ネットワークタイムサーバを使用して時間のずれを修正するコンピュータ上でしか有効化できません。

同期を開始すると、コンジットが次々にアクティブ化され、データ転送を実行します。同期方法には、2種類があります。**HotSync**操作は、コンジットが有効化されているデータのみを同期させるのに対し、バックアップ操作はハンドヘルド上に格納されているすべてのデータの完全バックアップを実行します。

中には同期操作時に一定のファイルを開くコンジットもあるので、操作時には対応するプログラムを終了しておく必要があります。特に、**KOrganizer**は同期操作中には実行しないでください。

## 6.1 KPilotが使用するコンジット

KPilotで利用できるコンジットを有効化して設定するには、**[設定] > [KPilotを設定]** の順に選択します。以下では、いくつかの重要なコンジットを紹介します。

### アドレス帳

このコンジットは、ハンドヘルドのアドレス帳とのデータ交換を処理します。この連絡先を管理するKDEの対応アプリケーションは**KAddressBook**です。これは、メインメニューまたは**kaddressbook**コマンドを使用して起動します。

### KNotes/Memos

このコンジットは、**KNotes**で作成したメモをハンドヘルドのメモアプリケーションに転送します。このKDEアプリケーションは、メインメニューまたは**knotes**コマンドを使用して起動します。

### Calendar (KOrganizer)

このコンジットは、ハンドヘルドの**97c**定(イベント)を同期します。これに対応するKDEアプリケーションは**KOrganizer**です。

### ToDo (KOrganizer)

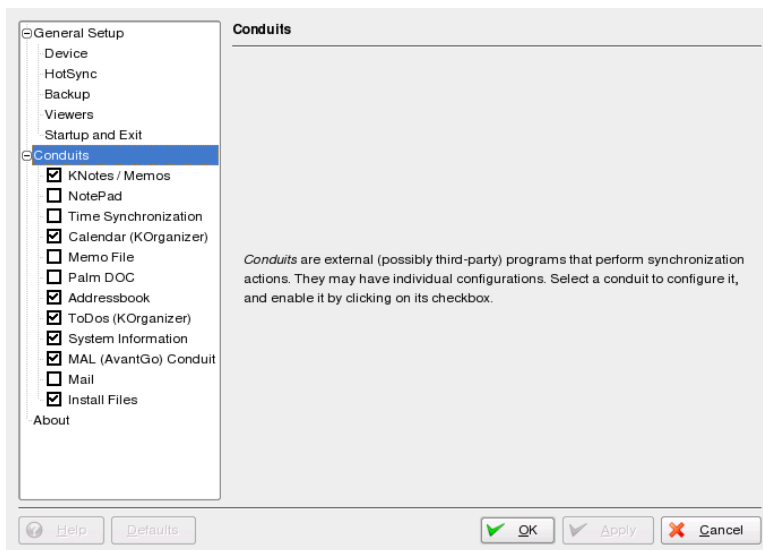
このコンジットは、タスク(to-do)アイテムを同期します。これに対応するKDEアプリケーションは**KOrganizer**です。

### [時刻同期]

このコンジットを有効化すると、同期操作時にハンドヘルドのクロックがデスクトップコンピュータのクロックに合わせて調整されます。これは、

デスクトップコンピュータ自体のクロックが、タイムサーバによって頻繁に修正されている場合のみお勧めします。

図 6.1 利用可能なコンジットが表示された設定ダイアログ



## 6.2 ハンドヘルド接続の設定

KPilotを使用するには、はじめに、ハンドヘルドコンピュータとの接続をセットアップします。設定は、ハンドヘルドで使用するクレードル(ドッキングユニット)のタイプによって異なります。クレードルには、USBクレードル(ケーブル)とシリアルクレードル(ケーブル)の2種類があります。

### 6.2.1 KPilotでの接続の設定

接続をセットアップする最も簡単な方法は、設定ウィザードを使用することです。以下を実行します。

- 1 [設定] > [Configuration Assistant (設定ウィザード)] の順に選択してウィザードを起動します。

- 2 ユーザ名およびハンドヘルドが接続されているデバイスの名前を入力します。
- 3 次のオプションのうちの1つを選択します。
  - ウィザードにハンドヘルドを自動検出させたい場合は、  
[*Automatically Detect Handheld & Username* (ハンドヘルドとユーザー名を自動検出)] を選択します。自動検出に失敗した場合は、[6.2.2項「/dev/pilotリンクの作成」](#) (148 ページ)を参照してください。
  - 手動設定するには、[次へ] をクリックします。
- 4 同期に使用するアプリケーションを指定します。[General KDE-PIM suite] (デフォルト)、[Evolution]、[No sync, just backup] の中から選択できます。アプリケーションを選択したら、[完了] をクリックしてウィンドウを閉じます。

## 6.2.2 /dev/pilotリンクの作成

シリアルハンドヘルドクレードルとの接続のセットアップ方法は、USBクレードルの場合と異なります。どちらのクレードルを使用しているかによって、/dev/pilotという名前のシンボリックリンクの作成が必要になることがあります。

### USB

通常、USBクレードルは自動検出されるため、上記のシンボリックリンクを作成する必要はありません。

### シリアル

シリアルクレードルの場合は、実際にどのシリアルポートに接続されているのかを調べる必要があります。シリアルデバイスには、/dev/ttyS?という名前が付けられています。最初のポートを使用しているデバイスの名前は、/dev/ttyS0です。第1シリアルポートに接続されているクレードルをセットアップするには、次のコマンドを入力します。

```
ln -s /dev/ttyS0 /dev/pilot
```

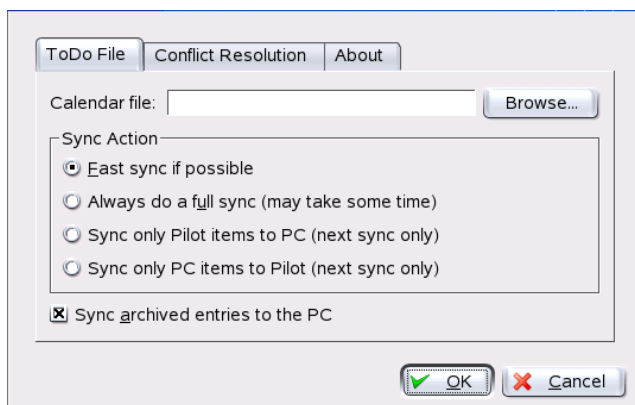
## 6.3 KAddressBookコンジットの設定

最初は、デフォルト設定を変更せずにKAddressBookコンジットを有効にするだけで十分です。初回にデータを同期化したら、次に詳細を設定します。競合時の動作、バックアップデータベースの保存方法、ハンドヘルドに保管されているフィールドを、KAddressBookのフィールドにどのように割り当てるか、などの情報を設定します。

## 6.4 タスク(to-do)アイテムとイベントの管理

KDEデスクトップでは、to-do(タスク)とイベント('97\5c紉)がKOrganizerによって管理されます。このアプリケーションは、メインメニューまたはkorganizerコマンドを使用して起動するか、またはKontactの一部として起動します。KPilotのカレンダとto-doのコンジットを有効にした後、オプションを設定してから使用します。

図 6.2 KPilotの設定

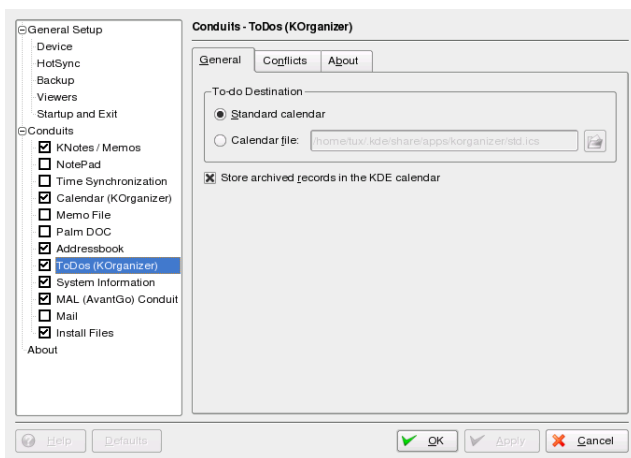


KOrganizerは、ファイルを~/ .kde/share/apps/korganizerディレクトリに格納します。しかし、.kdeディレクトリはピリオドで始まっているので、ファイル選択ダイアログに表示されないことがあります。この場合、完全パスを手動で入力するか、またはファイル選択ダイアログで隠しファイル(ドッ

トファイル)を表示するように明示的に切り替えます。そのためのデフォルトのショートカットは<F8>キーです。

~/kde/share/apps/korganizerディレクトリを開いたら、KOrganizerがカレンダーファイルとして使用できるファイルを選択します。この例では、palm.icsファイルです。ユーザ名がtuxの場合、完全パス名は/home/tux/.kde/share/apps/korganizer/palm.icsになります(図 6.3. 「KOrganizerのカレンダーファイルへのパスを示すダイアログ」 (150 ページ)を参照)。

図 6.3 KOrganizerのカレンダーファイルへのパスを示すダイアログ

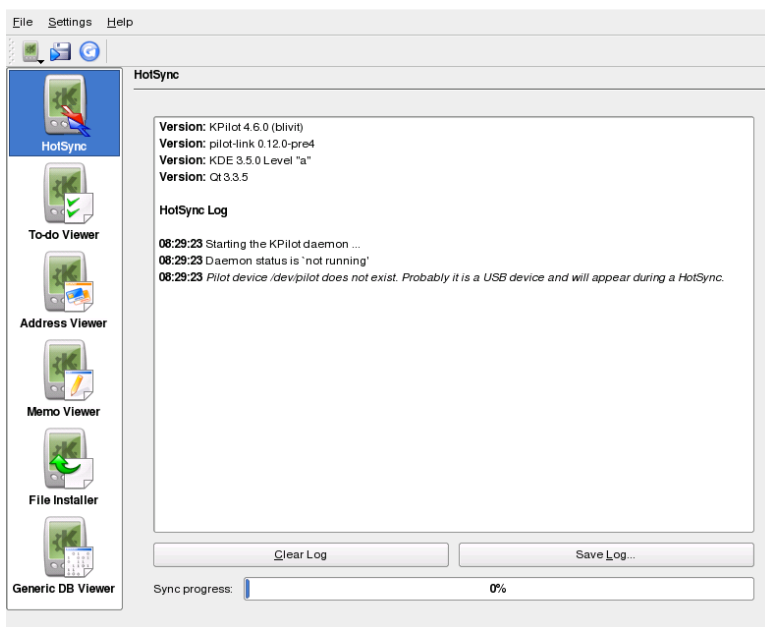


ハンドヘルドとのデータ交換中にKOrganizerは実行しないでください。実行すると、KPilotは同期操作に失敗します。

## 6.5 KPilotの使用

KDEアプリケーションのデータは、簡単にハンドヘルドコンピュータのデータと同期できます。KPilotを起動し、クレードルのHotSyncボタンを押して同期操作を開始するだけです。

## ☒ 6.4 KPilotのメインウィンドウ



### 6.5.1 ハンドヘルドのデータのバックアップ

完全バックアップを行うには、[ファイル] > [バックアップ] の順に選択します。バックアップは次の同期操作の際に実行されます。その後、メニューから [ファイル] > [HotSync] の順に選択して通常の同期に戻します。そうしなければ、次の同期操作の際に、時間のかかる完全バックアップが再度実行されます。

完全バックアップを行うと、ハンドヘルドのすべてのプログラムとデータベースが `~/.kde/share/apps/kpilot/DBBackup/USERNAME` に格納されます。ここで、`USERNAME` は、ハンドヘルドに登録されているユーザ名です。

KPilotには内蔵ビューアが2つあり、アドレスやメモを簡単に確認するために使用できますが、実際にこのデータを管理することはできません。前に触れたKDEアプリケーションの方が、はるかにこのような作業に適しています。

## 6.5.2 ハンドヘルドへのプログラムのインストール

[ファイルインストーラ] モジュールは、ハンドヘルドプログラムをインストールするための便利で興味深いツールです。ハンドヘルドプログラムの拡張子は一般に`.prc`で、ハンドヘルドにアップロードするとすぐに起動します。このようなアドオンプログラムを使用する前に、付属のライセンスと説明を確認してください。



# Kopeteによるインスタント メッセージング

# 7

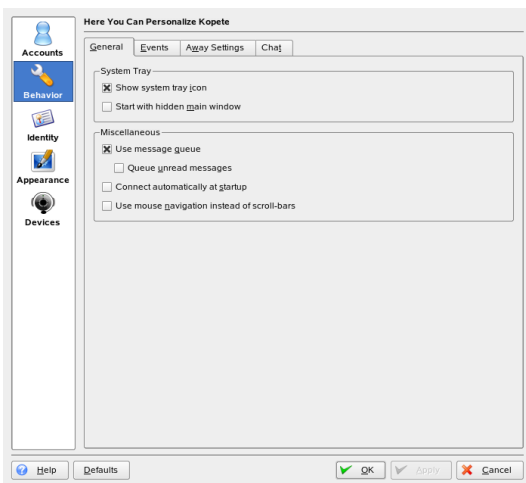
Kopeteはオンラインメッセージングアプリケーションで、インターネットに接続されている複数のパートナーと互いにチャットすることができます。現時点でKopeteは、AOL\* Instant Messenger(AIM)、GroupWise® Messenger、ICQ、IRC、Jabber\*、Lotus\* Sametime、MSN、SMS、およびYahoo!\*など、一般的なすべてのメッセンジャープロトコルをサポートしています。

## 7.1 Kopeteの設定

ユーザのデータを入力して、Kopeteを設定します。[Settings] > [Configure]の順にクリックします。[アカウント]には、ユーザのデータを入力します。インスタントメッセージングサービスを使用するには、あらかじめサービスを提供するプロバイダに登録する必要があります。ユーザプロフィールの入力を支援する設定アシスタントを開くには、[新規]をクリックします。

次に、利用可能なメッセージングサービスのリストを表示します。登録しているサービスを選択し、[次へ]をクリックします。次に、メッセージングサービスに登録したときに取得したユーザデータを入力します。ユーザデータは通常、ニックネームまたは電子メールアドレスとパスワードで構成されています。最後に[完了]をクリックして、メッセンジャーアカウントの設定を完了します。

## 図 7.1 Kopete設定パネル



設定ダイアログの次の項目は、**[外観]** です。ここでは、**Kopete**の表示方法を設定します。**[感情アイコン]** では、さまざまなタイプの顔文字が選択できます。

**[チャットウィンドウ]** と **[色とフォント]** では、他の参加者とコミュニケーションするためのチャットウィンドウの表示を調整できます。プロバイダが提供する従来のテーマを使用するか、好みに合わせてフォントや色を調整してカスタムテーマを作成するかを選択します。

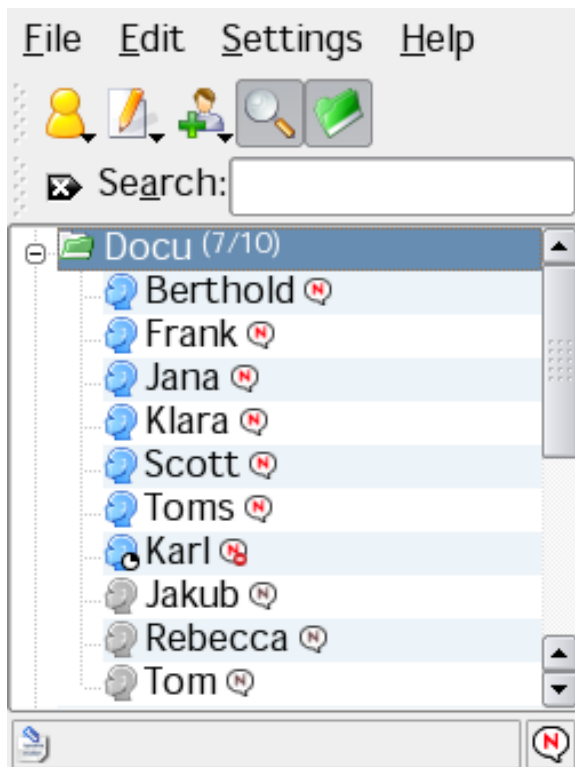
## 7.2 連絡先の追加

チャットする連絡先を追加します。別のPCに連絡先を登録してある場合は、そのデータをインポートし、連絡先リストに自動的に追加することができます。連絡先のエントリを手動で作成するには、**[ファイル]** > **[コンタクトを追加]** をクリックします。新しいアシスタントが表示されるので、これに従って連絡先を作成します。しかし、連絡先をリストに追加するには、オンラインで、**Kopete**で選択したメッセージングサービスに接続する必要があります。

## 7.3 グループの追加

これには、[ファイル] > [新規グループを作成] を選択します。グループに名前を指定し、[OK] をクリックして確定します。連絡先リストに新しいフォルダが表示され、これを使用して連絡先を格納できます。連絡先は、ドラッグアンドドロップで別のフォルダに移動できます。連絡先をグループ化すると見やすくなります。

図 7.2 Kopete メインウィンドウ



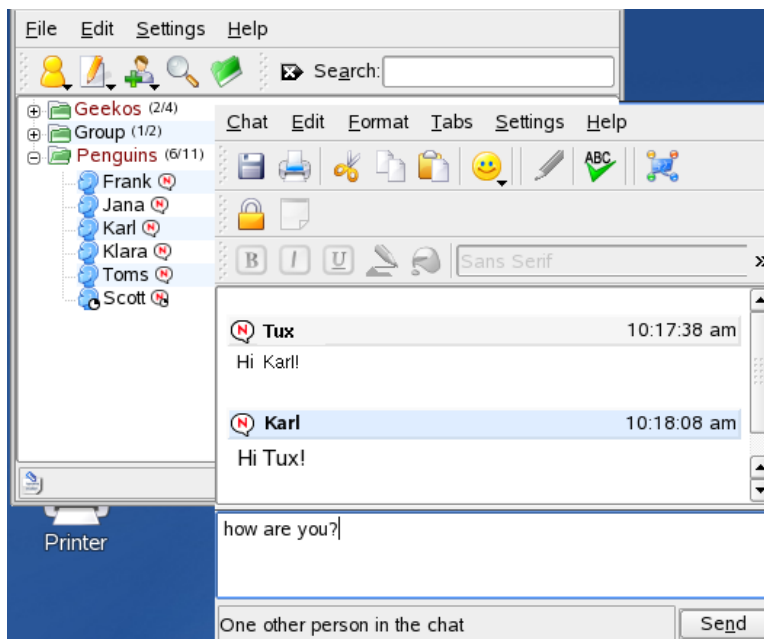
空のグループは、[設定] > [空のグループの非表示] の順に選択すれば、無効にできます。

## 7.4 Kopeteの使用

他の参加者とチャットをするには、インターネットに接続する必要があります。接続したら、[ファイル] > [Set Status] > [Online] の順にクリックしてステータスを設定します。これにより、Kopeteと、選択したメッセージングサービスとの間の接続が確立されます。ログインに成功すると、他のユーザから見えるようになります。

メインのアプリケーションウィンドウには、連絡先のリストがあります。他の人とチャットを行うには、連絡先がなければなりません(詳細は7.2頁「[連絡先の追加](#)」(154 ページ)を参照)。オンラインのマークが付いている連絡先を右クリックすると、メニューが開き、オプションが表示されます。そのユーザにメッセージを送信するか、チャットセッションを開始します。チャットの場合は、他の参加者をリアルタイムの意見交換に招待します。チャットセッションの作成者がセッションを終了すると、すべての参加者との接続が終了します。

図 7.3 チャットウィンドウ



以前のチャットセッションを表示するには、連絡先を選択して、*[編集]* > *[View History]* の順に選択します。このメニュー項目を選択すると、ダイアログが表示され、その人とのチャットセッションの検索と表示が行えます。

他のオプションを表示するには、ユーザ名を右クリックします。ポップアップメニューが開きます。重要なオプションは、チャットセッションを開始するための *[Start Chat]* です。 *[Rename Contact (連絡先の名前変更)]* と *[Remove Contact (連絡先の削除)]* を選択すれば、それぞれの操作を行えます。ポップアップメニューにはまた、ユーザ名の表示されるサブメニューもあり、ユーザのブロックやユーザ情報の取得を行えます。



# Voice over IPの使用

Linphoneは、Linuxデスクトップ用の小さなWeb電話アプリケーションです。これを使えば、インターネット上での二者通話が可能になります。特殊なハードウェアは必要ありません。標準のワークステーションと正しく設定されたサウンドカード、マイク、およびスピーカー/ヘッドホンがあれば、Linphoneを利用することができます。

## 8.1 Linphoneの設定

Linphoneを使う前に、いくつかの基本的な事柄を決め、いくつかの設定を行う必要があります。まず、Linphoneの実行モードを決めて設定し、使用する接続タイプを決め、それからLinphoneの設定を始めて( `[Go]` > `[設定]` の順に選択)、必要な調整を行います。

### 8.1.1 Linphoneの実行モードを決める

Linphoneは、実行しているデスクトップのその設定のタイプに応じて、2種類のモードで実行することができます。

#### 通常のアプリケーション

Linphoneソフトウェアをインストールすると、GNOMEやKDEのアプリケーションメニューから、またはコマンドラインから起動できるようになります。Linphoneを実行していないときには、かかってきた電話を受信することはできません。

## GNOMEパネルのアプレット

Linphoneは、GNOMEパネルに追加することができます。パネルの空白の部分をクリックして「パネルへ追加」を選択し、Linphoneを選択します。Linphoneは恒久的にパネルに追加され、ログイン時に自動的に起動します。電話がかかってこない間は、バックグラウンドで実行されます。電話がかかってくると、メインウィンドウが開くので、電話を受けることができます。電話をかけるには、アプレットのアイコンをクリックしてメインウィンドウを開きます。

## 8.1.2 接続タイプを決める

Linphoneで電話をかけるには、何通りかの方法があります。どのように電話をかけ、相手方に接続するかは、ネットワークまたはインターネットに接続している方法に応じて決まります。

Linphoneは、リモートのホストとの接続を確立するために、SIP (session initiation protocol)を使用します。SIPでは、それぞれの通話者が、以下のようなSIP URLによって識別されます。

```
sip:username@hostname
```

*username*はLinuxマシンへのログイン名で、*hostname*は使用しているコンピュータの名前です。SIPプロバイダを使用している場合には、URLは次の例のようになります。

```
sip:username@sipserver
```

*username*はSIPサーバで登録するときに選択されるユーザ名です。*sipserver*は、SIPサーバまたは自分のSIPプロバイダのアドレスです。登録方法についての詳細は、「[8.1.5項「SIPオプションの設定」](#) (163 ページ)」を参照し、プロバイダの登録関連のドキュメントを確認してください。ご使用の目的に適したプロバイダのリストは、「[8.8項「詳細情報」](#) (170 ページ)」で言及されているWebページで確認してください。

使用するURLは、選択した接続のタイプに応じて決まります。SIPプロバイダによるルーティングなしに、相手側に直接電話をかける場合には、最初のタイプのURLを入力します。SIPサーバを経由して相手側に電話をかける場合には、2番目のタイプのURLを入力します。



## 同じネットワーク内での通話

同じネットワークに所属している友人や同僚に電話をかける場合には、正しいユーザ名とホスト名があれば、有効なSIP URLを作成できます。同じことは、相手がこちらに電話をかけようとする場合にも当てはまります。自分と相手側との間にファイアウォールがなければ、これ以上の設定は必要ありません。

## ネットワークを越える、またはインターネットを使用する通話(静的IPでのセットアップ)

静的なIPアドレスを使用してインターネットに接続している場合、相手側が電話をかけてきたいときには、こちらのユーザ名と、ワークステーションのホスト名またはIPアドレスがあれば、「**同じネットワーク内での通話項**(161ページ)」で説明されているように有効なSIP URLを作成できます。こちら側、または相手側が、着信および発信トラフィックのフィルタ処理を行うファイアウォールの背後にいる場合には、Linphoneのトラフィックがファイアウォールを通過できるように、SIPポート(5060)およびRTPポート(7078)を開いてください。

## ネットワークを越える、またはインターネットを使用する通話(動的IPでのセットアップ)

お使いのIPセットアップが静的でなく、インターネットに接続するたびに新しいIPアドレスを動的に取得している場合には、どの相手側からも、こちら側のユーザ名とIPアドレスに基づいて有効なSIP URLを作成することは不可能です。このような場合には、SIPプロバイダから提供されているサービスを使うか、またはDynDNSセットアップを使用して、外部の相手側が正しいホストマシンに接続できるようにしてください。DynDNSの詳細については、[http://en.wikipedia.org/wiki/Dynamic\\_DNS](http://en.wikipedia.org/wiki/Dynamic_DNS)を参照してください。

## ネットワークおよびファイアウォールを越える通話

ファイアウォールの背後に隠れているマシンは、そのIPアドレスをインターネットに公開しません。そのため、そのようなマシンを使用しているユーザに電話をかけようとしても、直接接続することはできません。Linphoneは、SIPプロキシの使用、または通話をSIPプロバイダに転送することにより、ネッ

トワークやファイアウォールを越えた通話をサポートします。外部のSIPサーバを使用するために必要な調整についての詳細は、「[8.1.5項「SIPオプションの設定」](#) (163 ページ)」を参照してください。

## 8.1.3 ネットワークパラメータの設定

[ネットワーク] タブのほとんどの設定は、調整する必要はありません。これらを変更しなくても、そのまま通話することができるはずです。

### NAT Traversal Options

このオプションは、ファイアウォールの背後のプライベートネットワークに接続していて、通話を転送するSIPプロバイダを使用しない場合にのみ、有効にします。チェックボックスをオンにして、ファイアウォールのIPアドレスを192.168.34.166のようなドット表記で入力してください。

### RTPのプロパティ

Linphoneは、通話の音声データを転送するのに、RTP (real-time transport protocol)を使用します。RTPのポートは7078に設定されています。他のアプリケーションがこのポートを使っている場合以外には、変更しないでください。ジッタ補正(jitter compensation)のパラメータは、Linphoneがオーディオパッケージを実際に再生する前にどの程度バッファするかを制御します。このパラメータを大きくすれば、転送音声の品質は改善されます。バッファするパッケージの数を増やせば、「遅れて届いたパッケージ」も再生できる可能性が大きくなります。一方、バッファするパッケージの数を増やすと、レイテンシも大きくなり、相手の声がいくらか送れて聞こえるようになります。このパラメータを変更するときには、これらの2つの要素のバランスに注意してください。

### その他

VoIPと通常の電話を組み合わせる場合、DTMF (dual tone multiplexed frequency)テクノロジーを使って特定の動作をトリガし、特定のキーを押すとボイスメールをリモート確認する、などの設定が行えるようにしたいと思うかもしれません。Linphoneは、DTMF伝送の2つのプロトコル、SIP INFOおよびRTP rfc2833をサポートしています。LinphoneでDTMF機能が必要な場合、これらのプロトコルのいずれかをサポートしているSIPプロバイダを選択してください。VoIPプロバイダの詳しいリストは、「[8.8項「詳細情報」](#) (170 ページ)」を参照してください。

## 8.1.4 サウンドデバイスの設定

サウンドカードがLinuxによって正しく検出されていれば、Linphoneは自動的に、検出されたデバイスをデフォルトのサウンドデバイスとして使用します。

[使用するサウンドデバイス] はそのままにしておいてください。[録音する音源] では、どの録音ソースを使うかを決めます。ほとんどの場合、これはマイクロホンになるでしょう(マイク入力)。カスタムの呼び出し音を選択するには、[参照] でいずれかを選択し、[Listen] でテストします。[適用] をクリックして、変更内容を確認します。

## 8.1.5 SIPオプションの設定

[SIP] ダイアログには、SIP関連のすべての設定が含まれています。

### SIPのポート

SIPユーザエージェントが動作するポートを決めます。デフォルトのSIPのポート番号は5060です。他のアプリケーションまたはプロトコルがこのポートを必要としていない限り、デフォルト設定は変更しないでください。

### ID

相手側がSIPプロキシやSIPプロバイダを使わずに直接電話をかけたいと思う場合には、こちら側の有効なSIPアドレスを知っている必要があります。Linphoneは、有効なSIPアドレスを作成します。

### リモートのサービス

このリストには、ユーザアカウントを作成した1つまたは複数のSIPサービスプロバイダを記述します。サーバ情報はいつでも追加、修正、削除できます。登録の手順についての詳細は、「**SIPプロキシの追加とリモートのSIPサーバへの登録** (164 ページ)」を参照してください。

### 認証情報

リモートのSIPサーバに登録するには、パスワードやユーザ名など、特定の認証データを入力する必要があります。Linphoneは、いったん入力されたデータを保管します。セキュリティ上の理由のためにこのデータを破棄するには、[Clear all stored authentication data] をクリックします。

[リモートのサービス] リストには、リモートのSIPプロキシやサービスプロバイダの複数のアドレスを設定できます。

## 手順 8.1 SIPプロキシの追加とリモートのSIPサーバへの登録

- 1 適切なSIPプロバイダを選択し、そこにユーザアカウントを作成します。
- 2 Linphoneを開始します。
- 3 `[Go]` > `[初期設定]` > `[SIP]` の順にクリックします。
- 4 `[Add proxy/registrar]` をクリックして、登録フォームを開きます。
- 5 `[Registration Period]` `[SIP Identity]` `[SIP Proxy]` および `[Route]` に適切な値を入力します。ファイアウォールの背後から使用する場合には、`[Send registration]` をオンにして、`[Registration Period]` に適切な値を入力します。これにより、一定の時間が経過した後にオリジナルの登録データを再送信して、Linphoneが必要とするポートをファイアウォールに開け続けさせることができます。こうしないと、ファイアウォールがこのタイプのパッケージを受け取らなかった場合、これらのポートは自動的に閉じられます。登録データの再送信は、SIPサーバに、接続の現在のステータスおよび発信側の場所を知らせ続けさせるためにも必要です。`[SIP identity]` には、ローカルの通話の場合に使用するSIP URLを入力します。このサーバをSIPプロキシとしても使用するには、`[SIP Proxy]` にも同じ値を入力します。最後に、必要であればオプションとしてルート情報を入力し、`[OK]` をクリックしてダイアログを閉じます。

## 8.1.6 オーディオコーデックの設定

Linphoneは、音声データの伝送のために、複数のコーデックをサポートしています。接続のタイプを設定し、リストウィンドウで使用したいコーデックを選択してください。現在の接続タイプに適していないコーデックは赤い色で表示され、選択することはできません。

## 8.2 Linphoneのテスト

Linphoneの設定は、Linphoneからの呼び出しに応答する小さなテストプログラムであるsipomaticを使って確認できます。

## 手順 8.2 Linphoneのセットアップのテスト

- 1 端末を開きます。
- 2 コマンドラインプロンプトに「sipomatic」と入力します。
- 3 Linphoneを開始します。
- 4 *[SIP address]* アドレスとしてsip:robot@127.0.0.1:5064を入力し、*[電話をかける 電話に出る]* をクリックします。
- 5 Linphoneが正しく設定されていれば、呼び出し音が鳴り、少ししてから短いメッセージが聞こえます。

この手順が成功した場合には、オーディオのセットアップとネットワークのセットアップは正しく動作しています。このテストに失敗した場合には、サウンドデバイスが正しく設定されていて、再生のレベルが適切な値に設定されているかどうかをチェックしてください。それでも何も聞こえない場合には、SIPとRTPのポート番号を含む、ネットワーク設定をチェックしてください。他のアプリケーションまたはプロトコルが、Linphoneが使用することになっているこれらのデフォルトのポートを使用している場合には、ポートを変更してから、再試行してみてください。

## 8.3 電話をかける

いったんLinphoneを正しく設定すれば、電話は簡単にかけることができます。通話のための手順は、通話のタイプ(8.1.2項「**接続タイプを決める**」(160ページ)を参照)に応じて少し違います。

- 1 メニューまたはコマンドラインからLinphoneを起動します。
- 2 *[SIPアドレス]* に、相手のSIPアドレスを入力します。アドレスは、直接電話をかける場合にはsip:username@domainnameまたはusername@hostnameのように、プロキシやSIPプロバイダのサービスを使用する場合にはusername@sipserverまたはuserid@sipserverのようになります。

- 3 SIPサービスプロバイダやプロキシを使用している場合には、*[Proxy to use]* から適切なプロキシまたはプロバイダを選択し、このプロキシで必要な認証データを入力します。
- 4 *[電話をかける 電話に出る]* をクリックして、相手が電話を受けるのを待ちます。
- 5 通話が終わった、または終わらせる場合には、*[電話を切る 会話を拒否]* をクリックして、Linphoneを終了します。

通話中にサウンドのパラメータを調整する必要がある場合には、*[詳細]* をクリックします。さらに多くのオプションがある4つのタブが表示されます。最初の *[サウンド]* タブには、*[受話音量]* と *[送話音量]* のオプションがあります。必要に合わせてスライダで調整してください。

*[状態]* タブでは、自分の現在のオンライン状態を設定できます。この情報は、相手が電話をかけようとしたときに伝えることができます。長い時間席を離れていて、このことを相手に知らせたい場合には、*[退席中]* を選択します。しばらくの間忙しいものの、後ほどまた連絡してほしい場合には、*[今席をはずしています。...分]* を選択して、連絡可能になるまでの時間を指定します。連絡可能になったら、状態をデフォルト(*[在席中]*)に戻してください。相手側がこちらのオンライン状態をチェックできるかどうかは、で説明しているように、電話帳の *[Subscribe Policy]* 8.5項「**アドレス帳を使用する**」(167 ページ)で設定できます。電話帳に載っている相手のオンライン状態は、*[My online friends]* タブでモニタすることができます。

*[DTMF]* タブでは、ボイスメールを`チェックするためのDTMFコードを入力できます。ボイスメールをチェックするには、適切なSIPアドレスを入力し、*[DTMF]* タブのキーパッドを使って、ボイスメールのコードを入力します。最後に、通常の電話をかける場合と同じように、*[電話をかける 電話に出る]* をクリックします。

## 8.4 電話に出る

Linphoneで選択した実行モードに応じて、着信を知るための複数の方法があります。

### 通常のアプリケーション

着信は、Linphoneがすでに実行している場合にのみ、受け付けて応答することができます。着信音は、ヘッドセットまたはスピーカから聞こえます。Linphoneを実行していないときには、電話を受けることはできません。

### GNOMEパネルのアプレット

通常、Linphoneのパネルアプレットは、目立たない仕方で動作しています。着信があるとすぐに変わります。Linphoneのメインウィンドウが表示され、ヘッドセットやスピーカから電話音が聞こえます。

着信に気づいたら、[電話をかける 電話に出る] をクリックすれば、電話を取って会話を始めることができます。電話に出たくない場合には、[電話を切る 会話を拒否] をクリックします。

## 8.5 アドレス帳を使用する

Linphoneには、SIPによる連絡先を管理する機能があります。電話帳を開くには、[Go] > [アドレス帳] の順にクリックします。空白のリストが表示されます。連絡先を追加するには、[追加] をクリックします。

有効な連絡先を作成するには、以下のエントリを入力する必要があります。

### 名前

連絡先の名前を入力します。フルネームも入力できますが、またはニックネームも使用できます。相手をすぐに思い出せるような名前を選んでください。相手のオンライン状態を表示するように選択すると、メインウィンドウの [My online friends] タブにその名前が表示されます。

### SIPアドレス

連絡先の有効なSIPアドレスを入力します。

### Proxy to Use

必要な場合には、この接続で使用するプロキシを入力します。ほとんどの場合、これは使用するSIPサーバのSIPアドレスになります。

### Subscribe Policy

サブスクライブポリシー(subscribe policy)では、自分の在席または退席の状態を相手に知らせるかどうかを決めます。

電話帳に載っている連絡先に電話をかけるには、マウスで連絡先を選択し、**[選択する]**をクリックします。メインウィンドウのアドレスのフィールドにそのアドレスが表示されるので、通常のように**[電話をかける 電話に出る]**で電話をかけます。

## 8.6 トラブルシューティング

電話をかけようとしたのですが、接続を確立することができません。  
通話に失敗する理由としては、いくつかの事柄が考えられます。

インターネットへの接続が切れています。

Linphoneは通話の中継するためにインターネットを使用するので、コンピュータがインターネットに正しく接続されていて、設定されているかどうか確認してください。これは、ブラウザでWebページを表示できるかどうか試してみれば、簡単にわかります。インターネット接続が正しい場合には、相手側が連絡可能でないのかもしれませんが。

電話をかけようとした相手に連絡できません。

相手が会話を拒否している場合には、接続することはできません。こちらから電話をかけようとしたときに、相手のマシン上でLinphoneが実行されていない場合には、接続することはできません。相手のインターネット接続が切れている場合は、接続することはできません。

電話をかけてつながったようですが、何も聞こえません。

まず、サウンドデバイスが正しく設定されているかどうか確認してください。そのためには、メディアプレーヤなど、サウンド出力を使う他のアプリケーションを起動してみます。Linphoneに、このデバイスを開くためのパーミッションが与えられているかどうか確認してください。リソースの競合を避けるため、サウンドデバイスを使う他のすべてのプログラムを閉じてください。

上でチェックした点がすべて正常なのに、やはり何も聞こえない場合には、**[サウンド]** タブで受話音量を上げてください。

両方の側のサウンドが奇妙に歪んでいます。

**[設定] [ネットワーク] > の順に選択し、[RTPのプロパティ]**で、音声パッケージの遅れを補正するために、ジッタバッファを調整してみてください。その場合には、レイテンシが大きくなることに注意してください。



DTMFが動作しません。

DTMFパッドを使ってボイスメールを確認しようとしたのに、接続が確立されませんでした。DTMFデータの伝送には3種類のプロトコルが使われていますが、Linphoneがサポートしているのは2種類だけです(SIP INFOおよびRTP rfc2833)。プロバイダがこれらのいずれかをサポートしているかどうか確認してください。Linphoneが使用するデフォルトのプロトコルはrfc2833ですが、これではうまく行かない場合は、[設定] > [ネットワーク] > [Other] の順に選択して、プロトコルをSIP INFOに設定してください。どちらのプロトコルでも動作しない場合には、LinphoneでDTMF伝送を行うことはできません。

## 8.7 用語集

このドキュメントで使用されている最も重要な専門用語とプロトコルについて、簡単に説明します。

### VoIP

voice over Internet protocolの略です。このテクノロジーにより、通常の電話の通話を、パケットでリンクされたルートにより、インターネット上で伝送することができます。音声情報は、IPによってインターネット上で伝送される他のデータと同様に、パケットに分割されて送信されます。

### SIP

session initiation protocolの略です。このプロトコルは、ネットワーク上でメディアセッションを確立するために使用されます。Linphoneの場合、SIPは、相手側のマシン上で呼び出し音を鳴らし、通話を開始して、どちらかが会話を終えたら通話を終了させるための働きをします。音声データの実際の伝送はRTPによって扱われます。

### RTP

real-time transport protocolの略です。UDP上で動作し、ネットワーク上でメディアストリームを伝送することを可能にします。データは、番号が付けられ、タイムスタンプに従って運ばれる個別のパケットによって伝送されます。これによって、データを正しい順番にならべて、パッケージが失われた場合に検出することができます。

### DTMF

DTMF円コードは、通常の電話と同じように、様々なキーを表す2種類のトーンを使います。それぞれのキーは、高いトーンと低いトーン1つずつ

の、個別の組み合わせと関連付けられています。デコーダは、これらのトーンの組み合わせを、数字に戻します。LinphoneはDTMFのシグナルをサポートしており、ボイスメールの確認など、リモートの動作をトリガすることができます。

### コーデック

コーデックとは、オーディオおよびビデオデータを圧縮するために特別に設計されたアルゴリズムのことです。

### ジッタ

ジッタとは、接続内でのレイテンシ(遅れ)のばらつきのことです。オーディオデバイスや、ISDNやPSTNのような接続指向システムは、データの連続したストリームを必要とします。この点を補正するために、VoIPの端末とゲートウェイにはジッタバッファが実装されており、パケットをいったん集めてから、オーディオデバイスや(ISDNのような)接続指向のラインに中継します。ジッタバッファのサイズを大きくすれば、データが失われる可能性は小さくなりますが、接続のレイテンシは大きくなります。

## 8.8 詳細情報

VoIPについての一般的な情報は、<http://voip-info.org/tiki-index.php>でVoIP Wiki をチェックしてください。お住まいの国でVoIPサービスを提供しているプロバイダの広範なリストは、<http://voip-info.org/wiki-VOIP+Service+Providers+Residential>を参照してください。

# ネットワークリソースへのアクセス

# 9

デスクトップから、ファイルやディレクトリ、およびリモートホスト上の特定のサービスにアクセスしたり、自分のファイルやディレクトリをネットワーク中の他のユーザに利用させることができます。SUSE Linux Enterprise®には、ネットワーク共有リソースにアクセスしたり、リソースを作成するための、さまざまな手段が用意されています。

## ネットワーク参照

Konquerorをファイルマネージャとして利用することにより、共有リソースやサービスを参照できます。詳細については、[9.2項「ネットワーク共有へのアクセス」](#) (173 ページ)を参照してください。

## 混在環境でのフォルダの共有

Konquerorを使って、ネットワーク上の他のユーザとファイルやフォルダを共有できます。任意のWindowsまたはLinuxワークステーションの他のユーザがデータを参照したり、書き込みしたりできるようにします。詳細については、[9.3項「混在環境でのフォルダの共有」](#) (174 ページ)を参照してください。

## Windowsファイルの管理

SUSE Linux Enterpriseは、既存のWindowsネットワークと統合するように設定できます。この場合、LinuxコンピュータはWindowsクライアントのように動作します。Windowsクライアントと同様に、すべてのアカウント情報をActive Directoryから取得します。詳細については、[9.4項「Windowsファイルの管理」](#) (177 ページ)を参照してください。

## Windowsネットワークプリンタの設定とアクセス

KDEコントロールセンタから、Windowsネットワークプリンタを設定できます。設定方法の詳細については、[9.5項「Windowsネットワークプリンタの設定とアクセス」](#) (181 ページ)を参照してください。

## ネットワークフォルダへのショートカットの設定

リモートネットワークフォルダ(FTP、WebDAV、Windowsネットワークドライブ、およびSSH)へのショートカットを作成することにより、これらのフォルダに簡単にアクセスできるようになります。設定方法の詳細については、[9.6項「ネットワークフォルダへのショートカットの設定」](#) (183 ページ)を参照してください。

## 軽量なWebサーバの設定

他のユーザと情報を簡単に共有する必要がある場合、軽量なWebサーバを設定します。設定方法の詳細については、[9.7項「軽量なWebサーバの設定と使用」](#) (185 ページ)を参照してください。

# 9.1 ファイル共有とネットワーク参照に関する一般的な注意

お使いのコンピュータやネットワークで、ファイル共有やネットワーク参照機能の利用可能範囲は、ネットワーク構造とコンピュータの設定によって異なります。ネットワーク構造またはコンピュータを設定する前に、ネットワーク構造でファイル共有やネットワーク参照機能がサポートされているかどうか、また、企業のセキュリティポリシーで許可されているかどうか、システム管理者に確認してください。

Windows共有用のSMB参照やリモートサービス用のSLP参照などのネットワーク参照は、コンピュータがネットワーク上のすべてのクライアントにメッセージをブロードキャストできるかどうか大きく依存しています。コンピュータは、ブロードキャストメッセージとクライアントからの応答によって、利用できるネットワーク共有やサービスを検出します。ブロードキャストを効果的に行うためには、お使いのコンピュータが、他のブロードキャスト対象コンピュータと同じサブネット上に存在する必要があります。ネットワーク参照が利用できない場合、または検出された共有やサービスが利用予定のものとは異なる場合、コンピュータが適切なサブネットに接続されているかどうか、システム管理者に確認してください。

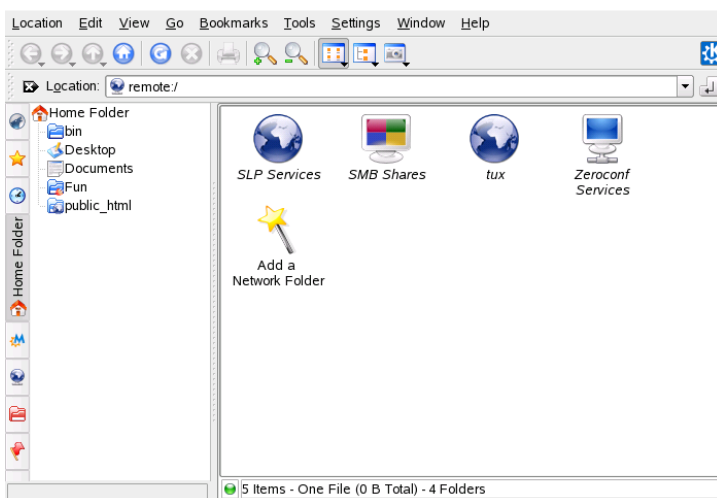
ネットワーク参照を利用するには、ネットワークの詳細、または共有およびサービスの可用性を知らせるネットワークメッセージを送受信できるように、いくつかのネットワークポートを開いておく必要があります。標準のSUSE Linux Enterpriseでは、高いセキュリティレベルを維持するように設定されており、インターネットからコンピュータを保護するファイアウォールが動作しています。ファイアウォール設定を調整するには、システム管理者に特定のネットワーク用ポートを開けるように依頼するか、企業のセキュリティポリシーに応じてファイアウォール全体の動作を停止する必要があります。ファイアウォールが動作している状態でネットワーク参照を行う場合、セキュリティ設定によりネットワーク参照が禁止されているということを伝えるKonquerorメッセージが表示されます。

## 9.2 ネットワーク共有へのアクセス

ネットワーク上のワークステーションのフォルダを共有するように設定できます。通常、ファイルとフォルダにはリモートユーザがアクセスできることを示す記号が付いています。これらは、「ネットワークシェア(共有)」と呼ばれます。お使いのシステムがネットワーク共有にアクセスできるように設定されている場合、ローカルコンピュータ上にあるファイルやフォルダと同じように、ファイルマネージャを使って共有ファイルやフォルダにアクセスしたり、参照したりできます。共有フォルダに対して読み取りアクセスしかないか、または書き込みアクセスもあるかどうかは、共有フォルダの所有者から与えられたアクセスパーミッションによって異なります。

ネットワーク共有にアクセスするには、デスクトップの [ネットワーク参照] アイコンをクリックするか、またはKonquerorを開いて場所ツールバーで `remote:/` と入力します。Konquerorに仮想フォルダが表示されます。このフォルダには、アクセス可能なネットワーク共有の種類が表示されます。ネットワークリソースの種類をクリックし、アクセスするネットワーク共有をクリックします。ユーザー名とパスワードを入力してリソースへの承認が求められる場合があります。

## 図 9.1 ネットワーク参照

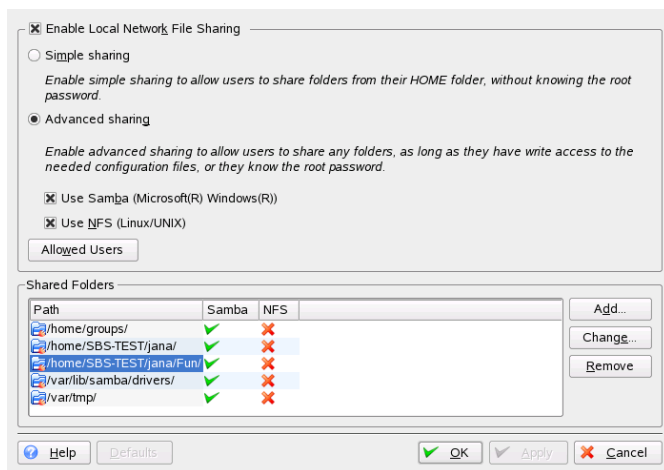


## 9.3 混在環境でのフォルダの共有

企業環境では、ドキュメントの共有および交換は必須の機能です。Konquerorでは、Sambaを使ってファイルを共有できます。Sambaを利用することで、LinuxユーザとWindowsユーザ間でファイルやフォルダを共有できます。Sambaを使ったファイル共有を設定するには、以下の手順に従ってください。

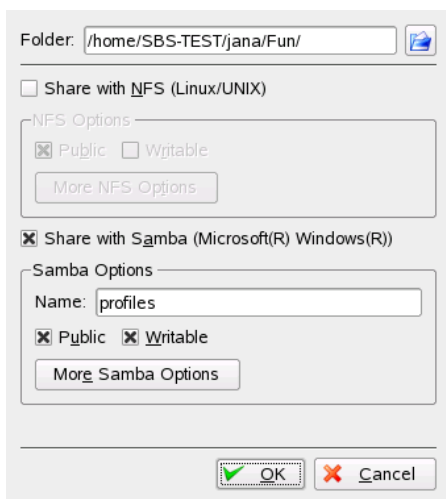
- 1 Konquerorを開きます。
- 2 ウィンドウのバックグラウンドを右クリックして、表示されるコンテキストメニューから *[Properties]* を選択します。
- 3 *[Properties]* ダイアログで、*[Share]* タブをクリックします。ファイル共有が有効になっていない場合は、このタブにそのことを知らせるメッセージが表示されます。ファイル共有を有効にする、または共有するファイルを選択するには、*[Configure File Sharing]* をクリックして、rootパスワードを入力します。
- 4 ファイル共有を有効にするには、*[Enable Local Network File Sharing]* を選択します。共有を無効にする場合は、このオプションの選択を解除してください。

## 図 9.2 ファイル共有の有効化



- 5 適切な共有オプション *[Simple sharing]* (単純共有)または *[Advanced sharing]* (高度な共有)を選択します。
- 6 特定のグループに対してのみフォルダを共有する場合は、*[Allowed Users]* をクリックして、*[Only users of a certain group are allowed to share folders]* を選択した後、*[Choose Group]* をクリックして、表示されるウィンドウから適切なグループを選択します。
- 7 共有するフォルダをダイアログの下部にある共有項目のリストに追加するには、*[Add]* をクリックし、フォルダの正確なパスを指定します。

### 図 9.3 詳細な共有オプション



- 8 Sambaのファイル共有を有効にするには、*[Share with Samba]* を選択します。また、必要に応じてSambaのオプションを設定し、共有方法を詳細に設定できます。

#### 名前

デフォルト値以外の名前を指定する場合に使用します。

#### Public/Writable

他のユーザに許可するアクセスの種類を指定します。完全な読み取りと書き込みの両方のアクセスを許可することも、共有の読み取りのみにアクセスを制限することもできます。

#### More Samba Options

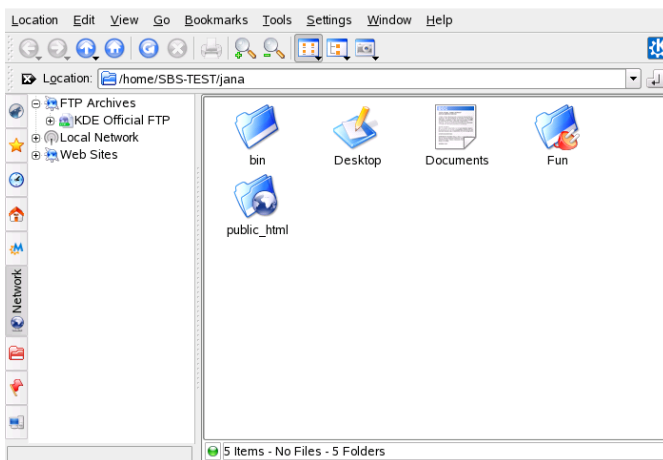
ここには、名前、コメント、およびアクセス権や、ユーザおよびセキュリティ設定、および共有フォルダ内の特定のファイルやサブフォルダを非表示にするオプションなど、基本的な設定オプションが含まれています。

- 9 変更を適用するには、*[OK]* をクリックしてファイル共有ダイアログを閉じます。

Konquerorのフォルダアイコンにプラグが表示されます。



## 図 9.4 共有フォルダ



共有を無効にするには、ファイル共有ダイアログを表示し、共有項目リストから該当するフォルダを削除します。フォルダアイコンからプラグがなくなります。

共有したファイルやフォルダに、ネットワーク上の他のユーザがアクセスする場合は、各自のコンピュータからKonquerorの場所ツールバーにsmb:/を入力し、適切なワークグループアイコンやホスト名をクリックします。

---

### 重要項目: Sambaドメイン参照

Sambaドメイン参照は、システムのファイアウォールが正しく設定されている場合にのみ利用できます。ファイアウォール全体を無効にするか、または参照インタフェースを内部ファイアウォールゾーンに指定します。設定方法の詳細については、システム管理者にお問い合わせください。この手順は、「12.3項「Configuring a Linux Client for Active Directory」(第12章 *Active Directory Support*, ↑Deployment Guide)」に詳しく説明されています。

---

## 9.4 Windowsファイルの管理

「第12章 *Active Directory Support* (↑Deployment Guide)」で説明されているように、SUSE Linux EnterpriseコンピュータをActive Directoryクライアントとして

使用することにより、**Windows**サーバ上のデータを参照、表示、および操作できます。以下に代表的な例を示します。

#### Konquerorを使った**Windows**ファイルの参照

**Windows**上のデータを参照するには、**Konqueror**の**smb:/**オプションを使用します。

#### Konquerorを使った**Windows**データの表示

**Konqueror**を利用して、**Linux**ディレクトリを参照する場合と同様に、**Windows**フォルダの内容を参照できます。**Windows**サーバー上にファイルやフォルダを作成することもできます。

#### KDEアプリケーションを使った**Windows**データの操作

**Kate**テキストエディタなどの**KDE**アプリケーションを使って、**Windows**サーバ上のファイルを開いて操作したり、変更したファイルを**Windows**サーバに保存したりできます。

#### シングルサインオン

**Konqueror**などの**KDE**アプリケーションは、シングルサインオンをサポートしています。**Web**サーバ、**プロキシ**サーバ、または**グループウェア**サーバ(例:**MS Exchange**)などの**Windows**リソースにアクセスする場合、再び認証を受ける必要はありません。ログイン時に一度ユーザ名とパスワードを入力するだけで、以降の認証はバックグラウンドで自動的に行われます。

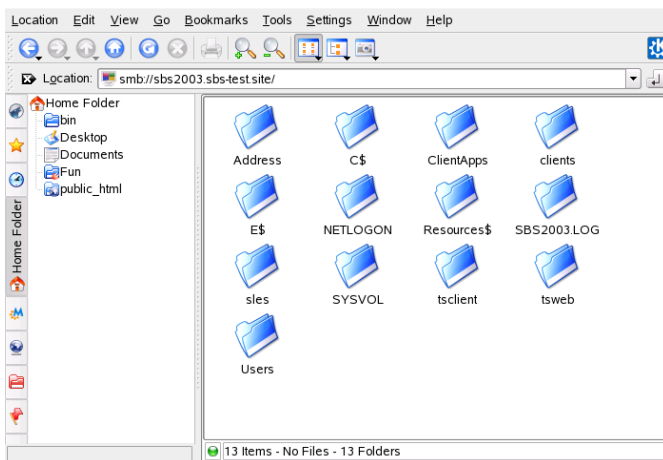
**Konqueror**を使って**Windows**データにアクセスするには、以下の手順に従ってください。

- 1 **Alt + F2**キーを押して、**smb://**と入力します。

**Konqueror**ウィンドウに、ネットワーク上にある**Samba**ワークグループとドメインが表示されます。

- 2 **AD**サーバのワークグループまたはドメインのアイコンをクリックします。

## 図 9.5 ADサーバ上のデータの参照



- 3 [ユーザー] フォルダをクリックして、個人のユーザフォルダアイコンを選択します。[マイドキュメント] フォルダの内容が表示されます。

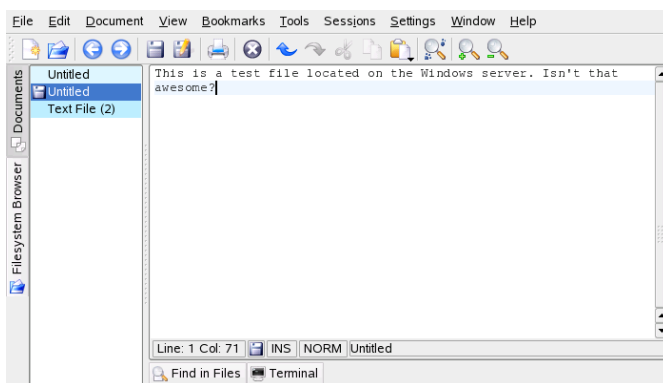
Konquerorを使ってWindowsユーザフォルダ中にフォルダを作成する場合は、Linuxフォルダを作成する場合と同じ手順で作業を行います。

- 1 Konquerorフォルダビューのバックグラウンドを右クリックして、メニューを表示します。
- 2 [新規作成] > [フォルダ] の順に選択します。
- 3 プロンプトの指示に従い、新しいフォルダ名を入力します。

ADサーバ上にファイルを作成する手順は、以下のKateテキストエディタを使った例を参考にしてください。

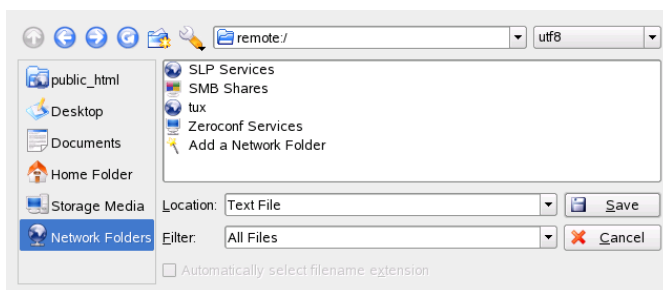
- 1 Alt + F2キーを押してkfindと入力します。
- 2 任意のテキストを入力します。

## 図 9.6 Kateを使ったテキストファイルの編集



- 3 新しく作成したテキストを保存するには、[名前を付けて保存] を選択します。
- 4 左側にある [ネットワークフォルダ] アイコンをクリックして、[SMB Shares] を選択します。

## 図 9.7 リモートWindows フォルダへのファイルの保存



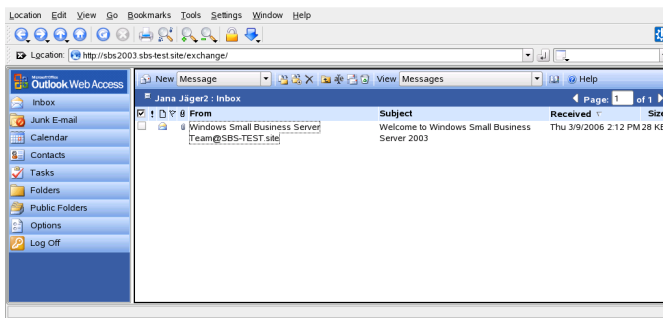
- 5 Windowsフォルダに移動します。
- 6 ファイル名を入力して、[保存] をクリックします。  
ファイルがWindowsサーバに保存されます。

Konquerorのシングルサインオン機能の活用例を以下に示します。この例では、MS ExchangeメールボックスにWebアクセスします。

- 1 現在のWindowsユーザ名に有効なMS Exchangeアカウントがあることを確認します。
- 2 システム管理者にExchangeサーバのアドレスを問い合わせます。
- 3 Alt + F2キーを押して、konqueror  
`http://address_exchange_server`と入力します。

これで、再認証を受けることなく、Exchangeアカウントにログインできました。

### ☒ 9.8 Konquerorを介したMS Exchangeへのアクセス



- 4 通常と同じように電子メールを読み書きし、ログアウトします。

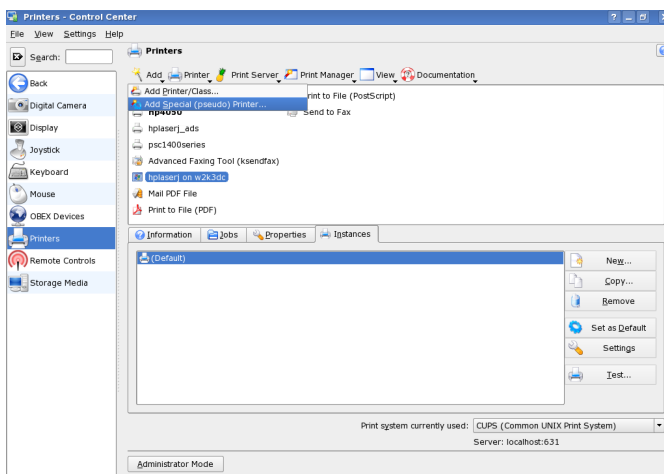
## 9.5 Windowsネットワークプリンタの設定とアクセス

ネットワークに接続し、Windows Active Directoryサーバの認証を受けたら、プリンタなどの企業リソースにアクセスできます。KDEでは、LinuxクライアントからWindowsネットワークプリンタに印刷できるように設定できます。

LinuxクライアントからWindowsネットワークプリンタを利用できるように設定するには、以下の手順に従ってください。

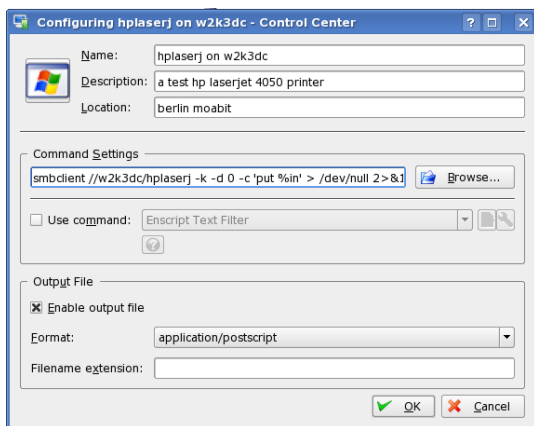
- 1 メインメニューからKDEコントロールセンターを起動します。
- 2 *[Peripherals]* > *[Printers]* の順に選択します。

図 9.9 プリンタの追加



- 3 *[追加]* > *[Add Special (pseudo) Printer]* の順に選択します。

図 9.10 プリンタ詳細の追加



- 4 プリンタ名、簡単な説明、および場所を入力します。
- 5 [Command Settings] に、次の例に示すようにコマンドラインを入力します。

```
smbclient //domain/printer -k -d 0 -c 'put %in' > /dev/null 2>&1
```

*domain* と *printer* には、ご利用の環境に応じた適切なドメイン名とプリンタ名を指定します。

- 6 すべての印刷ジョブをPostScriptファイルに出力する場合は、[Enable output file] を選択し、次に [application/postscript] を選択します。
- 7 [OK] をクリックして、プリンタの設定を終了します。
- 8 [ファイル] > [終了] の順に選択して、KDEコントロールセンターを終了します。

これでプリンタの使用準備が完了しました。

設定したWindowsネットワークプリンタに印刷するには、KPrinterのプリンタリストから該当するプリンタを選択します。

## 9.6 ネットワークフォルダへのショートカットの設定

KNetAttachを利用して、このビューに新しいネットワークフォルダを追加できます。追加するには、Konquerorのremote:/ビューで、[Add a Network Folder] をクリックします。表示されるウィザードで、アクセスするネットワークフォルダの種類を選択したり、ネットワークフォルダ名、サーバのアドレス(IPアドレスまたはドメイン名)、ログイン名、ポート、およびフォルダへのパスなどの詳細情報を入力したりできます。

## 図 9.11 ネットワークフォルダの追加

**Network Folder Information**

Enter a name for this *Secure shell connection* as well as a server address, port and folder path to use and press the **Save & Connect** button.

Name:

User:

Server:

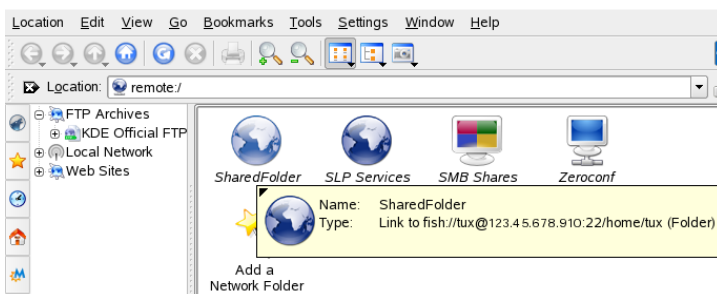
Port:

Folder:

☒ Create an icon for this remote folder

作業が完了したら、新しく作成したリンクをクリックしてネットワーク共有にアクセスできるようになります。場所ツールバーに長いURLを入力する必要はありません。

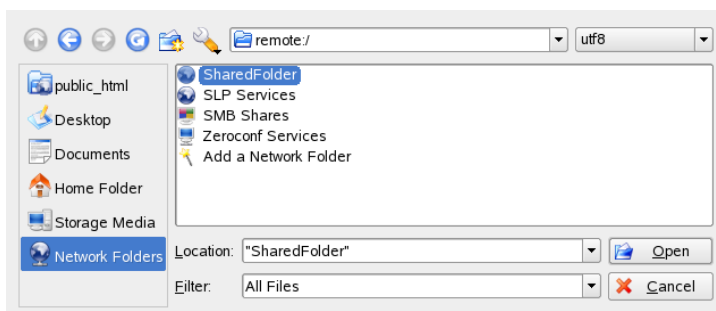
## 図 9.12 新しいネットワークフォルダ



この方法でネットワークフォルダを追加した場合、KDEアプリケーションでファイルを開いたり保存したりするときにも、このフォルダに簡単にアクセスできます。[Open File] ダイアログまたは [Save File] ダイアログの左側のバーにある [ネットワークフォルダ] をクリックすると、追加したネットワークフォルダが表示されます。



### 図 9.13 ネットワーク共有からファイルを開く



---

#### ヒント: デスクトップからネットワーク共有へのリンク

頻繁に利用するネットワーク共有に素早くアクセスするために、これらのリソースへのリンクをデスクトップ上に作成できます。デスクトップにリンクを作成するには、Konquerorから目的のリソースを選択した後、マウスの左ボタンを押しながらデスクトップにドラッグします。次に、表示されるコンテキストメニューから、*[Link Here]* を選択します。デスクトップに新しいアイコンが表示されます。このアイコンをクリックすると、Konquerorにディレクトリの内容が表示されます。

---

## 9.7 軽量なWebサーバの設定と使用

kpfユーティリティは、HTTP (Hyper Text Transfer Protocol) プロトコルを使用した簡単なファイル共有機能を提供します。このプロトコルは、WebサイトからWebブラウザにデータを表示する場合にも使用されます。厳密に言うと、kpfはパブリックファイルサーバで、共有ファイルへのアクセスは制限されません。kpfを使用して共有したファイルは、誰でも利用することができます。

---

## 重要項目: セキュリティ上の考慮事項

**kpf**を使ってファイルサーバを設定する前に、企業のセキュリティポリシーでこの機能が利用可能かどうか、あらかじめシステム管理者に確認してください。企業またはプライベート環境で、ネットワーク全体がファイアウォールで外部から保護されているかどうか不明な場合は、ファイルサーバを設定しないでください。ネットワークが外部から保護されていない場合、重要な情報が**Web**に漏洩する危険性があります。さらに、**Web**サーバはハッカーの攻撃対象になる危険性を秘めています。**Web**サーバを安全に設定するには複雑性を伴います。**kpf**は、**Web**サーバとしての利用を前提として設計されていません。

---

**kpf**は、友人とファイルを共有することを前提に設計されています。**Apache**のようにすべての機能を完備した**Web**サーバではありません。このユーティリティは主に、**IRC**(**I**nternet **R**elay **C**hat、チャットルーム)などで友人とチャットしながら、簡単にファイルを共有するための手段として開発されています。

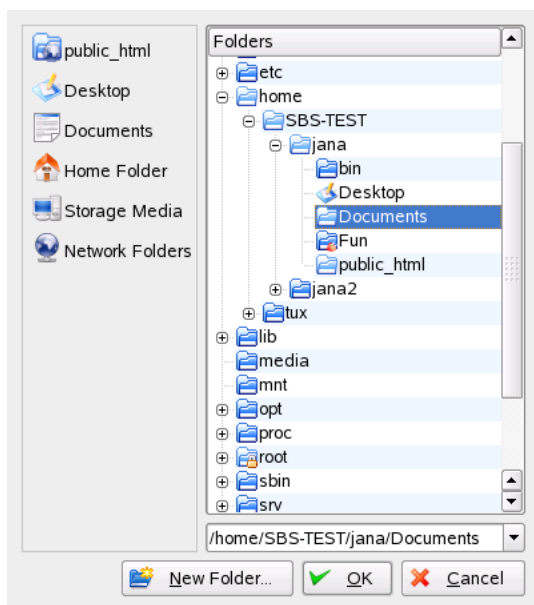
通常、**kpf**はホームディレクトリの**public\_html**フォルダにあるファイルを共有するように設定されています。たとえば、現在チャット中の相手に対してあるファイルの利用を許可する場合、**kpf**を使ってそのファイルを**public\_html**フォルダにコピーし、<http://www.mymachine.net:8001/thefile>からそのファイルにアクセスできるようになったことを相手に伝えます。わざわざ電子メールにファイルを添付して送信する必要はありません。

- 1 KDEの下部にあるパネルを右クリックして [アプレットをパネルに追加] をクリックし、次に [Public File Server] を選択します。

下部パネルに、小さい地球儀の形をしたアイコンが表示されます。

- 2 アイコンを右クリックして、 [New Server] をクリックします。
- 3 共有するファイルがあるディレクトリを指定して、 [次へ] をクリックします。

図 9.14 ファイルサーバのルートディレクトリの選択



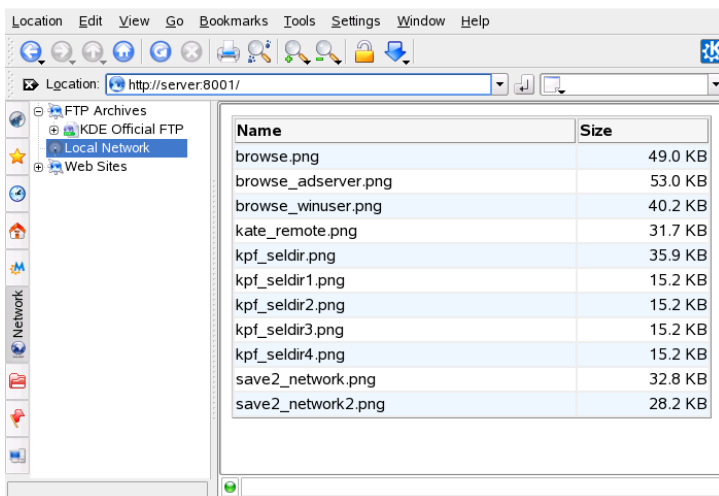
隠しファイル(ファイル名がピリオドで始まるファイル)など、フォルダ内のすべてのファイル、サブフォルダ、およびシンボリックリンクが他のユーザに公開されます。そのため、パスワード、暗号キー、アドレス帳、または社外秘のドキュメントなど、重要な情報を共有することがないように、十分に注意してください。公開フォルダ以外の領域にアクセスされることがないように、公開フォルダ外へのシンボリックリンクは入れないようにしてください。

- 4 [New Server] ウィザードの残りの設定を完了して、**ステップ 3**(186 ページ)で指定したフォルダを共有できるようにします。

Konquerorのディレクトリアイコンの右隅に、地球儀の形をしたアイコンが表示されます。

公開フォルダにアクセスするには、ブラウザに`http://hostname:8001`のようなURLを入力するだけです。ブラウザに、公開フォルダの概要が表示されます。

## 図 9.15 公開されたコンテンツ



ホストマシン上でファイルサーバのネットワークトラフィックを監視できます。監視するには、地球儀の形をしたアイコンを右クリックして、*[Monitor]*を選択します。次のような簡潔な統計情報が表示されます。

## 図 9.16 ファイルサーバの統計情報

Status	Progress	File Size	Bytes Sent	Response	Resource
	<div><div></div></div>	2787	2947	OK	/
	<div><div></div></div>	425	204	Not found	/favicon.ico
	<div><div></div></div>	432	102	Not implemented	/
	<div><div></div></div>	62847	45844	OK	/kpf_connect.p

## KGpgによる暗号化

KGpgは、Linuxシステムの暗号化インフラストラクチャのうち、重要なコンポーネントです。このプログラムの支援を得て、必要とされるすべての鍵の生成と管理を行います。また、そのエディタ機能を使用してファイルの迅速な作成と暗号化を行うか、パネル内にあるアプレットを使用して、ドラッグアンドドロップ形式で暗号化または復号化を行うことができます。電子メールプログラム(KontactまたはEvolution)のような他のプログラムは、鍵データにアクセスして、署名済みまたは暗号化済みの内容进行处理します。この章では、暗号化済みファイルに関する毎日作業する上で必要になる基本的な機能について説明します。

### 10.1 新しい鍵ペアの生成

暗号化済みメッセージを他のユーザとの間で交換するには、最初に自分専用の鍵ペアを生成します。その1つである公開鍵(公開キー)は、通信相手に対して配布するものであり、通信相手はファイルや電子メールメッセージを送信する前に、公開鍵を使用してそれらを暗号化します。鍵ペアのもう一方は、秘密鍵(秘密キー)です。これは、暗号化済みの内容を復号化する目的で使用されます。

---

#### 重要項目: 秘密鍵と公開鍵

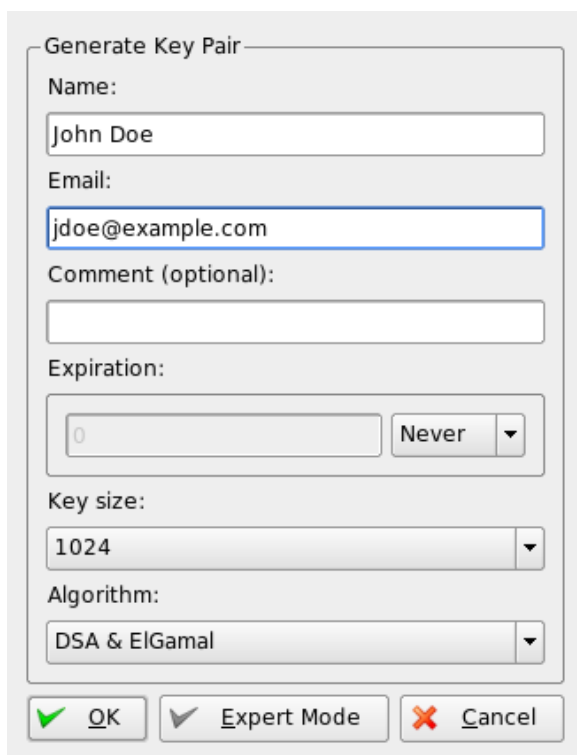
公開鍵は、公開されること、およびすべての通信相手に対して配布されることを意図しています。一方、秘密鍵にアクセスするのはそれを所有しているユーザだけです。秘密鍵のデータにアクセスすることを他のユーザに許可しないでください。

---

KGpgはメインメニューから起動するか、またはAlt + F2キーを押して、「kgpg」と入力します。プログラムを初めて起動すると、設定手順を支援するアシスタントが開きます。鍵の作成が要求される時点まで、アシスタントの指示に従って進みます。名前と電子メールアドレス、そして必要に応じて、コメントを入力します。デフォルト設定が適当でない場合は、鍵の有効期限、サイズ、および使用する暗号化アルゴリズムも設定します。詳細については、[図 10.1. 「KGpg:鍵の作成」 \(190 ページ\)](#)を参照してください。

後のセッションでKGpgを起動すると、小さな錠前アイコンのみがシステムトレイに表示されます。KGpgのメインウィンドウをデスクトップに表示するには、そのアイコンをクリックします。

**図 10.1** KGpg:鍵の作成

The image shows a dialog box titled "Generate Key Pair". It contains several input fields and dropdown menus. The "Name:" field is filled with "John Doe". The "Email:" field is filled with "jdoe@example.com" and has a blue border. The "Comment (optional):" field is empty. The "Expiration:" section has a numeric input field with "0" and a dropdown menu set to "Never". The "Key size:" dropdown menu is set to "1024". The "Algorithm:" dropdown menu is set to "DSA & ElGamal". At the bottom, there are three buttons: a green checkmark icon followed by "OK", a grey checkmark icon followed by "Expert Mode", and a red X icon followed by "Cancel".

Generate Key Pair

Name:  
John Doe

Email:  
jdoe@example.com

Comment (optional):

Expiration:  
0 Never

Key size:  
1024

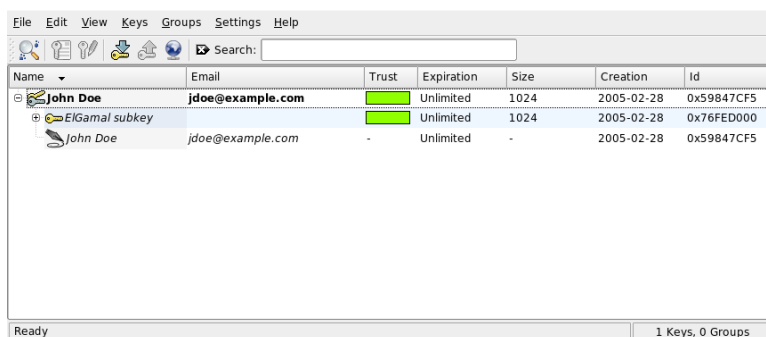
Algorithm:  
DSA & ElGamal

OK Expert Mode Cancel

入力した設定を確認して、[OK] をクリックします。次に、パスワードを2回入力するように求めるダイアログが表示されます。選択したパスワードの相対強度が測定され、[Password strength meter] に表示されます。次にプロ

グラムによって鍵ペアが生成され、概要が表示されます。失効証明書をすぐに保存または印刷することをお勧めします。この証明書は、秘密鍵のパスワードを忘れた場合に鍵を無効にするときに必要です。[OK] をクリックすると、KGpgのメインウィンドウが表示されます。詳細については、[図 10.2. 「鍵マネージャ」](#) (191 ページ)を参照してください。

## 図 10.2 鍵マネージャ



## 10.2 公開鍵のエクスポート

鍵ペアを生成した後で、公開鍵を他のユーザが利用できるようにします。その結果、他のユーザが自分(鍵生成者)にメッセージやファイルを送信する前に、その公開鍵を使用して暗号化または署名できるようになります。公開鍵を他のユーザが利用できるようにするには、[鍵] > [公開鍵をエクスポート] の順に選択します。ダイアログが表示され、4つのオプションが表示されます。

### 電子メール

公開鍵は、選択した受信者へ電子メールで送信できます。このオプションを選択し、[OK] をクリックしてその選択結果を確定した場合は、KMailで新しい電子メールを作成するためのダイアログが開きます。受信者を入力し、[送信] をクリックします。受信者は、生成された鍵を受信し、その後は、暗号化された内容を鍵生成者へ送信することができます。

### クリップボード

鍵生成者は自分の公開鍵の操作を続ける前に、その公開鍵をクリップボードに書き込んでおくことができます。

### デフォルト鍵サーバ

自分の公開鍵を幅広いユーザが利用できるようにするには、インターネット上に存在する鍵サーバのいずれかにその鍵をエクスポートします。詳細については、[10.4頁「鍵サーバダイアログ」](#) (193 ページ)を参照してください。

### ファイル

自分の鍵を電子メールで送信する代わりに、データメディア上のファイルとしてその鍵を配布することもできます。このオプションをクリックし、ファイルのパスと名前をデフォルト値のままにするか変更を加え、**[OK]** をクリックします。

## 10.3 鍵のインポート

ファイルの形で(たとえば、電子メールへの添付物として)鍵を受け取った場合、**[鍵をインポート]**を使用してその鍵を自分の鍵束に統合し、その送信者との間で暗号化された通信を行う場合にその鍵を使用します。この手順は、既に説明した、鍵をエクスポートする手順に似ています。

### 10.3.1 鍵への署名

他のファイルと同様に、鍵に署名して、その鍵の正当性と整合性を保証することもできます。インポート済みの鍵が、所有者として明示されている個人に所属していることが確かな場合は、その鍵に自分が署名することにより、その鍵の正当性を自分が信頼していると表明することができます。

---

#### 重要項目: 信頼の連鎖の確立

暗号化された通信がセキュア(安全)であるのは、配布されている公開鍵を、指定されたユーザに積極的に関連付けている場合だけです。それらの鍵を互いにチェックし、署名することは、信頼の連鎖の確立につながります。

---

鍵リストの中にある、署名する鍵を選択します。**[鍵] > [鍵に署名]**の順に選択します。続いて表示されるダイアログで、署名に使用する秘密鍵を指定します。署名する前に、その鍵の正当性を確認するよう注意する警告が表示されます。この確認を行った後で、**[続行]**をクリックし、次のステップ



で、選択した秘密鍵に対応するパスワードを入力します。他のユーザは、自分への公開鍵を使用することにより、その署名をチェックできます。

## 10.3.2 鍵の信頼レベル

通常、対応するプログラムによって、鍵を信頼しているかどうか（承認された所有者が本当にその鍵を使用していると考えているかどうか）について問い合わせられます。この問い合わせは、メッセージを復号化する、または署名を確認する必要があるたびに行われます。これを防ぐには、新しくインポートした鍵の信頼レベルを編集します。デフォルトでは、新しくインポートした鍵は白いボックスで示されます。これは、信頼レベルとして、明確な値がまだ割り当てられていないことを示しています。

新しくインポートした鍵を右クリックすると、鍵管理用の小さなコンテキストメニューにアクセスできます。そのメニューから[鍵への署名]を選択します。KGpgによりテキストのメッセージボックスが開き、ユーザに対して鍵のフィンガープリントを再確認するよう求められます。[Continue]を使用して、鍵の署名のためのダイアログボックスにアクセスします。

信頼レベルを選択します。たとえば、[I Have Done Very Careful Checking]を選択します。このダイアログボックスを終了した後、パスフレーズを入力して、鍵の署名プロセスを終了する必要があります。新しくインポートされた鍵が、信頼できる鍵として、緑色の信頼レベルが表示されます。

鍵束内における鍵の信頼レベルは、鍵名の隣にある色の付いたバーにより表示されます。信頼レベルがより低ければ、鍵が署名された真の身元を確認する鍵の署名者をより信頼していないことを意味します。署名者の身元が確実に信頼できる場合でも、鍵を署名する前に他の人々の身元を確認する事を署名者が怠る可能性があります。したがって、署名者と署名者の鍵を信頼しても、署名者により署名された他の鍵については低い信頼レベルを使用して署名できます。信頼レベルの目的は一種のリマインダです。KGpgによって自動的にアクションがトリガされることはありません。

## 10.4 鍵サーバダイアログ

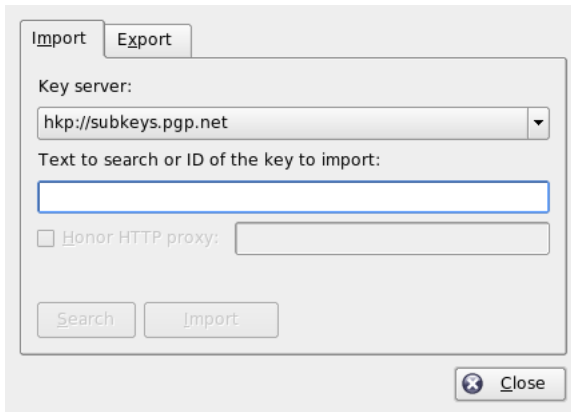
インターネットベースの鍵サーバのいくつかは、多くのユーザの公開鍵を提供しています。多くのユーザとの間で暗号化された通信を実施するには、それらのサーバを使用して、公開鍵を配布します。この目的を果たすには、公

開鍵をそれらのサーバのいずれかにエクスポートします。同様に、KGpgを使用して、特定のユーザに対応する鍵を保持しているそれらのサーバのいずれかを検索すること、またはサーバからそれらのユーザの公開鍵をインポートすることができます。[ファイル] > [鍵サーバダイアログ] の順に選択して、鍵サーバダイアログを開きます。

## 10.4.1 鍵サーバからの鍵のインポート

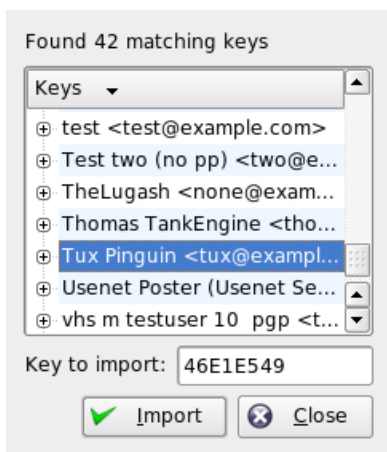
[鍵サーバ] ダイアログの [インポート] タブを通して、インターネットベースの鍵サーバのいずれかから公開鍵をインポートします。構成済みの鍵サーバのいずれかを選択し、検索文字列(通信相手の電子メールアドレス)または検索する鍵のIDを入力します。[検索] をクリックすると、使用中のシステムがインターネットに接続し、指定された鍵サーバから、指定に一致する鍵を検索します。を参照してください。図 10.3. 「鍵をインポートするための検索画面」 (194 ページ)

図 10.3 鍵をインポートするための検索画面



鍵サーバに対する検索が成功した場合、取得したすべてのサーバエントリからなるリストが新しいウィンドウ内で表示されます。鍵束に含めたい鍵を選択し、[インポート] をクリックします。参照先 図 10.4. 「検索成功とインポート」 (195 ページ) を参照してください。メッセージが表示されたら [OK] をクリックして確認し、[閉じる] をクリックして [鍵サーバ] ダイアログを閉じます。これで、インポート済みの鍵は、[鍵マネージャ] のメインウィンドウ内にある概要の中で表示され、使用可能になります。

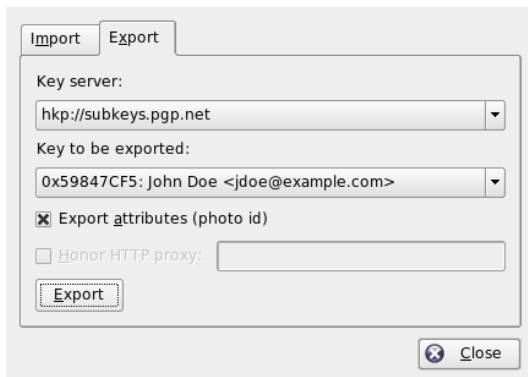
## 図 10.4 検索成功とインポート



## 10.4.2 鍵サーバへの鍵のエクスポート

鍵を、インターネット上で自由にアクセス可能な鍵サーバのいずれかにエクスポートするには、[鍵サーバ] ダイアログの [エクスポート] タブを選択します。2つのドロップダウンメニューを使って、エクスポート先のサーバと、エクスポートする鍵を指定します。次に、[エクスポート] を使用して、エクスポートを開始します。

## 図 10.5 鍵サーバへの鍵のエクスポート



## 10.5 テキストとファイルの暗号化

KGpgを使用して、テキスト、またはクリップボードの内容を暗号化することもできます。錠前のアイコンを右クリックすると、**[クリップボードを暗号化]** および **[クリップボードを復号化]** の各オプションや、内蔵エディタを開くためのオプションが表示されます。

### 10.5.1 クリップボードの暗号化と復号化

クリップボードへコピーしたファイルは、数回のクリックで簡単に暗号化できます。**[KGpg]** 錠前アイコンを右クリックすると、メニューが表示されます。このメニューから、**[クリップボードを暗号化]** を選択し、使用する鍵を指定します。暗号化の手順に関するステータスメッセージがデスクトップ上に表示されます。必要に応じて、この時点で、暗号化済みの内容をクリップボードから取得し、処理を進めることができます。クリップボードの内容を復号化する作業も簡単です。同じように、**[KGpg]** アイコンを右クリックしてメニューを表示し、**[クリップボードを復号化]** を選択し、自分の秘密鍵に関連付けられているパスワードを入力します。この時点で、利用可能な復号化済みのバージョンが、クリップボード内、およびKGpgのエディタ内にあります。

### 10.5.2 ドラッグ&ドロップによる暗号化と復号化

ファイルを暗号化または復号化するには、デスクトップまたはファイルマネージャ内でそのファイルのアイコンをクリックし、パネル内にある錠前までそれらをドラッグし、そこでそのアイコンをドロップします。そのファイルがまだ暗号化されていない場合、KGpgは、どの鍵を使用するのか問い合わせてきます。ユーザが鍵を選択した時点で、そのファイルは暗号化されます。他のメッセージは表示されません。ファイルマネージャ内では、暗号化済みのファイルは、**.asc**というサフィックス(接尾辞)付きで表示され、錠前のアイコンも付いています。それらのファイルを復号化するには、ファイルのアイコンをクリックし、パネル内にあるKGpgのシンボルまでドラッグし、そこでそのアイコンをドロップします。元のファイル名が既に存在する場合は、ファイル名の付け方または上書きするかどうかを確認するダイアログボックスが開きます。

## 10.5.3 KGpgのエディタ

暗号化する目的で、外部エディタの中で内容を作成し、上記の方法のいずれかを使用してファイルを暗号化する代わりに、KGpgの内蔵エディタを使用してファイルを作成することができます。エディタを開き(コンテキストメニューから[エディタを開く]を選択します)、必要なテキストを入力し、[暗号化]をクリックします。次に、使用する鍵を選択し、暗号化の手順を完了させます。ファイルを復号化するには、[復号化]を使用し、秘密鍵に関連付けられているパスワードを入力します。

ドキュメントの署名の生成と確認は、エディタから直接暗号化するのと同様に簡単です。ファイルマネージャでファイルを選択し、クリップボードにコピーします。パネルで錠前アイコンを右クリックし、[Sign/Verify Clipboard]を選択します。次に、使用する秘密鍵を選択し、それに関連付けられているパスワードを入力します。KGpgから、署名の生成に成功したことが通知されます。単純に[署名/確認]をクリックする方法で、エディタからファイルに署名することもできます。署名済みのファイルを確認するには、[ファイル]>[エディタを開く]の順に選択して、エディタで確認するファイルをロードし、[署名/確認]をクリックします。

## 10.6 詳細情報

暗号化の手法に関する理論的な背景情報については、<http://www.gnupg.org/documentation/howtos.html.en>にあるGnuPGプロジェクトページを参照してください。簡潔で明瞭な説明があります。このドキュメント内で、他の情報ソースからなるリストも参照できます。



# Kerryを使った検索

KerryはBeagle検索ツール用のKDEフロントエンドで、個人情報スペースのインデックスを作成し、目的の情報を素早く探し出すために役立ちます。Kerryを使用して、ドキュメント、電子メール、Web履歴、IM/ITC対話、ソースコード、画像、音楽ファイル、アプリケーションなどを検索できます。

KerryはBeagleのフロントエンドのため、beagleデーモンが動作している必要があります。KerryとBeagleを利用することにより、Kopete対話、Konqueror履歴、またはKMailメッセージなど、さまざまなKDE固有の情報ソースに対してインデックスを作成することができます。この結果、Kerryインタフェースを介してKDE環境にスムーズに統合されます。Beagleの詳細は、『*GNOME User Guide*』を参照してください。

## 11.1 Kerryを使った検索

Kerryツールを使ってデータを探すには、以下の手順に従ってください。

- 1 Alt + Spaceキーを押して、[Kerry Beagle Search] ウィンドウを開きます。代わりにシステムトレイ内のKerryアプレットアイコン(犬の頭)を左クリックして、検索ウィンドウを表示することもできます。
- 2 検索する文字列を [Search] に入力します。左側にある黒色の矢印を押すと、前に入力した文字列を素早く消去できます。

検索では、大文字と小文字は区別されません。大文字で入力しても小文字で入力しても、検索結果は同じになります。複数の用語を組み合わせ

て検索する場合は、キーワード「**OR**」(大文字)を使用します。たとえば、「**Mars OR Venus**」と指定すると、「**Mars**」、「**Venus**」、またはその両方を含むすべてのデータが検索されます。特定の用語を検索から除外する場合は、その用語の前にマイナス記号(-)を指定します。たとえば、「**Mars -Venus**」と指定すると、文字列「**Mars**」を含むが、文字列「**Venus**」が含まれないすべてのデータが検索されます。文字列をそのまま正確に検索する場合は、文字列を引用符で囲みます。特定の種類のファイルだけを検索対象にする場合は、文字列に続けて「**ext.:**」と指定し、その次に検索対象にするファイル拡張子を指定します。たとえば、「**Mars ext:xml**」と指定した場合、xmlファイル内で文字列「**Mars**」が含まれているファイルが検索されます。

- 3 右側のパネルの **[Show]** では、検索範囲を選択します。インデックスを作成したすべてのコンテンツを対象に検索する場合は、**[Everything]** を選択します。パネル中の項目をクリックして、インデックスが付けられた **[Applications]** (アプリケーション)、**[Contacts]** (連絡先)、**[Office documents]** (Officeドキュメント)、インスタントメッセージの **[Conversations]** (会話)、**[Images]** (画像)、**[Media]** (メディア)ファイル、**[Web pages]** (Webページ)、または **[File/Path names]** (ファイル/パス名)だけを検索するように限定することもできます。検索の実行前または実行後に、検索対象を変更することができます。

結果の表示順序を変更するには、**[Sort By]** セクションを使用します。結果を種類別にソートする場合は、**[Type]** をクリックします。**[Date]** (日付)、**[Name]** (名前)、**[Relevance]** (関連性)別にソートすることもできます。検索の完了前または完了後に、ソート順序を変更することができます。

結果を前回の変更日により制限することができます。前回の変更日に関係なく、すべての結果を表示する場合は、**[Any Date]** をクリックします。今日変更された項目、昨日から変更された項目、今週変更された項目、今月変更された項目、または今年変更された項目を表示することができます。右側のパネルから、適切な項目をクリックしてください。検索の実行前または実行後に、これを変更することができます。

- 4 検索を開始するには、**Enter**キーを押すか、検索フィールドの右にあるアイコンを押します。検索結果は、ウィンドウのメイン領域に表示されます。



検索結果はウィンドウに表示され、設定内容に応じてソートされます。必要に応じて適切な項目をクリックすると、そのファイルが表示されます。見つかったファイル自体の代わりに、そのファイルが保管されているフォルダを開く場合は、ファイル名の右にあるフォルダ名をクリックします。項目に関する詳細情報を表示する場合は、左側に *[i]* があるアイコンをクリックします。

右側のパネルから適切な項目をクリックして、検索範囲、ソート順序、日付や時刻による制限を変更することができます。

検索結果リストのページ間を移動するには、*[Previous results]* および *[Next results]* を使用します。ウィンドウの下部には、見つかった項目数が表示されます。

## 11.2 Kerryの設定

Kerryk環境設定を行うには、トレイ内のアイコンを右クリックして *[Kerryの設定]* を選択するか、またはKerryのメインウィンドウにある *[設定]* をクリックします。環境設定ダイアログには、4つのタブが表示されます。

*[検索]* タブでは、*[デフォルトの結果ソート順序]*、1ページに *[表示される結果の最大数]*、またはKerry Beagle検索を行うためのショートカットキーを変更することができます。

*[インデックス]* タブでは、Beagleインデックスサービスを自動的に開始するかどうか、およびコンピュータのバッテリー動作時にデータのインデックスを作成するかどうかを指定します。また、Kerry Beagle検索でインデックスを作成するフォルダ、およびインデックスを作成しないフォルダを指定することもできます。詳細は、「**11.2.1項「複数ディレクトリのインデックスの作成」** (202 ページ)」と「**11.2.2項「ファイルとディレクトリにインデックスをつけない」** (202 ページ)」を参照してください。

*[バックエンド]* タブでは、利用できるどのBeagleバックエンドを有効にするかを選択します。無効にするバックエンドの選択は解除してください。たとえば、Kerry BeagleでKopete会話のインデックスを作成しない場合は、*[Kopete]* バックエンドの選択を解除します。

[*Daemon Status*] タブでは、Beagleデーモンのステータスを確認できます。ここでは、手動でデーモンを開始/停止することができます。Kerry Beagle検索機能を使用するには、デーモンが動作していなければなりません。

## 11.2.1 複数ディレクトリのインデックスの作成

Kerryのデフォルトでは、ホームフォルダのインデックスのみが作成されます。ホームフォルダのインデックスを作成しない場合は、Kerry環境設定ダイアログの [*インデックスの作成*] タブの [*ホームフォルダのインデックスを作成する*] オプションの選択を解除してください。他のフォルダのインデックスも作成する場合は、以下の手順に従ってください。

- 1 Kerry Beagle設定ダイアログが表示されていない場合は、トレイ内のKerryアイコンを右クリックして [*Kerryの設定*] を選択します。
- 2 [*Indexing*] タブをクリックします。
- 3 タブの中央( [*インデックス*] )にある [*追加*] をクリックします。
- 4 表示されるダイアログで、インデックスを作成するフォルダを選択して、 [*OK*] をクリックします。
- 5 [*OK*] をクリックします。

## 11.2.2 ファイルとディレクトリにインデックスをつけない

フォルダやファイルをKerryによるインデックス作成から除外するには、以下の手順に従ってください。

- 1 Kerry Beagle設定ダイアログが表示されていない場合は、トレイ内のKerryアイコンを右クリックして [*Kerryの設定*] を選択します。
- 2 [*Indexing*] タブをクリックします。
- 3 タブの下部( [*プライバシー*] )にある、 [*追加*] をクリックします。

- 4 表示されるダイアログで、**[Folder]** オプションを選択し、インデックスを作成しないフォルダを選択します。ファイルダイアログで、テキストフィールドにフォルダへのパスを指定するか、またはフォルダボタンを押して、適切なフォルダを選択します。

また、**[ファイル名パターン]** を選択して、ファイルパターンを指定することにより、インデックスを作成しないファイルを指定することもできます。

- 5 **[OK]** をクリックします。



## プリンタの管理

プリンタはシステムとローカルで接続するか、ネットワーク経由でアクセスできます。SUSE Linux Enterprise®では、YaST、KDE Printing Manager、またはコマンドラインなど、さまざまな方法でプリンタを設定できます。この章では、KDE Printing Managerを使ったプリンタの設定方法について説明します。プリンタを正しく設定した後は、任意のアプリケーションから利用できるようになります。

iPrintRを使ったプリンタの管理方法については、<http://www.novell.com/documentation/sled10/>にある『*iPrint User Guide*』を参照してください。

---

### 注意: トラブルシューティング

プリンタの設定時に問題が発生した場合は、システム管理者にお問い合わせください。プリンタの設定に関する管理者向けの詳細情報は、「第20章 *Printer Operation* (↑Deployment Guide)」を参照してください。

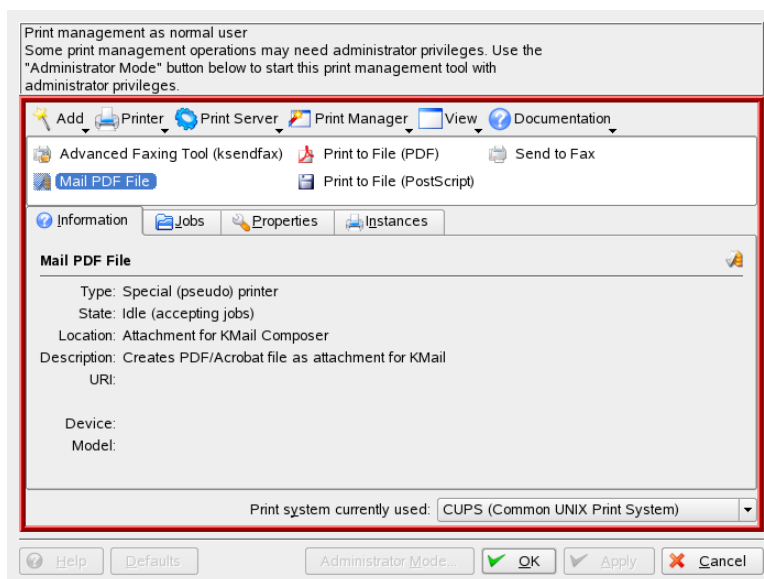
---

## 12.1 プリンタのインストール

プリンタをインストールするには、rootパスワードが必要です。また、必要なプリンタ情報もあらかじめ確認してください。プリンタへの接続方法によっては、プリンタのURI、TCP/IPアドレスまたはホスト、およびプリンタドライバが必要なこともあります。SLEDには、さまざまなプリンタドライバが同梱されています。適切なプリンタドライバが見つからない場合は、プリンタメーカーのWebサイトを確認してください。

KDEでプリンタを設定するには、メインメニューからPrinting Managerを起動します( [ツール] > [印刷] > [Printing Manager] の順に選択)。または、Alt + F2キーを押してkcontrolを入力します。KDEコントロールセンターの左側にあるナビゲーションバーから、 [周辺装置] > [プリンタ] の順にクリックします。

## ☒ 12.1 Printing Manager



ウィザードを使って、rootとしてプリンタ設定できます。どのオプションを選択し、どの情報を入力すべきか不明な場合は、システム管理者にお問い合わせください。

Windowsネットワークプリンタの設定、アクセス方法については、[9.5項「Windowsネットワークプリンタの設定とアクセス」](#) (181 ページ)を参照してください。

- 1 [管理者モード] をクリックして、rootパスワードを入力します。
- 2 [追加] をクリックして、[Add Printer/Class] を選択します。[Add Printer Wizard] が表示されます。
- 3 [Next] をクリックします。

4 プリンタへの接続方法を選択します。次のオプションを指定できます。

- *Local printer*(パラレル、シリアル、*USB*):パラレル、シリアル、またはUSBでワークステーションに接続されているプリンタです。
- *Remote LPD queue*:プリンタが、TCP/IPネットワーク経由でアクセス可能な他のUNIX/Linuxシステムに接続されている場合に選択します(ネットワーク上の他のLinuxシステムに接続されているプリンタを使用する場合など)。
- *SMB shared printer (Windows)*:プリンタが異なるシステムに接続され、SMBネットワーク経由で共有されている場合に選択します(プリンタがMicrosoft Windowsコンピュータに接続されている場合など)。
- *Network Printer(TCP)*:プリンタが、TCPプロトコルを使ってネットワークに接続されている場合に選択します。
- *Remote CUPS server (IPP/HTTP)*:プリンタが、同じネットワーク上の、CUPSが動作している他のLinuxシステムに接続されている場合、またはIPPを使った他のOSシステムに接続されている場合に選択します。
- *Network printer w/IPP (IPP/HTTP)*:プリンタが、IPP/HTTPプロトコルを使ってネットワークに接続されている場合に選択します。
- *Other printer type*:前述のいずれのオプションにも該当しない場合は、このオプションを選択します。
- *Class of printers*:特定のクラスのプリンタを検索する場合に使用します。

5 [次へ] をクリックして、適切な情報を入力します。ウィザードの最後のページでは、[完了] をクリックします。ウィザードが閉じます。

6 [OK] をクリックして [Printing Manager] ダイアログを閉じます。

これで、KDE内のアプリケーションから印刷する際に、Kprinterダイアログからこのプリンタを選択して、印刷ジョブを開始できるようになりました。KDEからの印刷ジョブの送信と監視については、[12.4頁「KDEでの印刷ジョブの開始」](#) (208 ページ)を参照してください。

## 12.2 プリンタ設定の変更

- 1 メインメニューからPrinting Managerを起動します( [ツール] > [印刷] > [Printing Manager] の順に選択)。
- 2 [管理者モード] をクリックして、rootパスワードを入力します。
- 3 利用可能なプリンタのリストから、設定を変更するプリンタを選択します。
- 4 右クリックして [設定] を選択します。
- 5 設定ダイアログのプロパティを変更し、 [OK] をクリックします。

## 12.3 プリンタの削除

- 1 メインメニューからPrinting Managerを起動します( [ツール] > [印刷] > [Printing Manager] の順に選択)。
- 2 [管理者モード] をクリックして、rootパスワードを入力します。
- 3 利用可能なプリンタのリストから、削除するプリンタを選択します。
- 4 右クリックして [削除] を選択します。
- 5 [OK] をクリックして [Printing Manager] ダイアログを閉じます。

## 12.4 KDEでの印刷ジョブの開始

通常、KDEではKPrinterを使って印刷ジョブを開始します。このアプリケーションは、KDEアプリケーションから印刷するときに、毎回自動的に起動されます。KPrinterダイアログで、プリンタの選択および印刷ジョブの [プロパティ] (ページの向き、シートあたりのページ数、両面印刷など)の編集を行います。



---

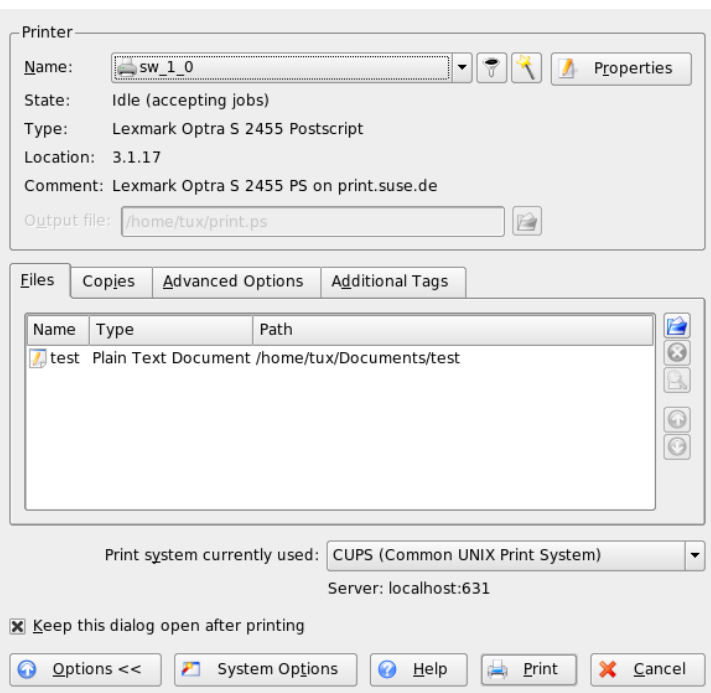
## ヒント: アプリケーションを開かずにプリンタにファイルを送信する

KPrinterを手動で起動する場合は、**Alt + F2**キーを押して、`kprinter`と入力します。この方法は、アプリケーションを起動しないでファイルを印刷する場合に役立ちます。KPrinterダイアログに **[ファイル]** タブが表示されます。このタブから、印刷するファイルを指定できます。デスクトップからファイルをドラッグしてリストにドロップするか、またはファイルダイアログを使用してファイルを検索します。

---

印刷部数や各種オプションを指定するには、左下の **[拡大]** をクリックします。ウィンドウに、**[コピーする枚数]**、**[詳細オプション]**、および **[Additional Tags]** の3つのタブが表示されます。詳細については、[図 12.2. 「KPrinterで印刷ジョブを開始する」](#) (209 ページ)を参照してください。

**図 12.2** KPrinterで印刷ジョブを開始する



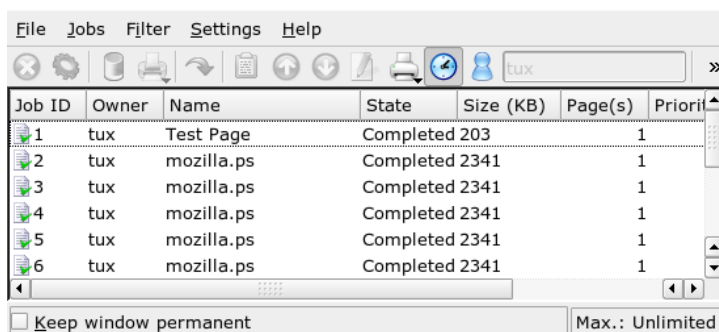
**[コピーする枚数]** タブでは、ページ選択(選択したドキュメントすべてのページ、現在のページ、または指定範囲)と印刷部数を指定します。また、選

択したドキュメントの偶数または奇数のページだけを印刷することもできます。[エキスパート設定]を選択して、印刷ジョブの追加情報を指定します。必要に応じて[Billing information (課金情報)]を入力するか、またはページの上部と下部のカスタムページラベルを設定します。[Job Priority (ジョブ優先度)]を、ここで設定することもできます。最後のタブの[Additional Tags]は、ほとんど必要ありません。印刷ジョブを送信したら、KJobViewerを使用してジョブの進行状況を監視できます。

## 12.5 KDEでの印刷ジョブの監視

KJobViewerは、メインメニューから、またはコマンドラインでkjobviewerを入力して起動します。に示すようなウィンドウが開かれ、使用しているプリンタのキューに投入されたすべての印刷ジョブが一覧表示されます。図12.3、「KJobViewerでの印刷ジョブの監視」(210ページ)印刷ジョブがアクティブでなければ、そのジョブを編集できます。ジョブを編集するには、[ジョブ]メニューのエントリを使用します。

図 12.3 KJobViewerでの印刷ジョブの監視



たとえば、プリンタに送信したのが正しい文書だったかを確認する場合は、ジョブを停止して、印刷すると決定してから再開することができます。自分の印刷ジョブは、[削除]を選択してキューから削除できます。プリンタを変更するには、[プリンタを移動]をクリックしてから別のプリンタを選択します。

[再スタート]を選択すると、文書が再度印刷されます。この操作を行うには、[フィルタ] > [完了したジョブをオン/オフ]を選択し、目的のドキュメントを選択して、[ジョブ] > [再スタート]をクリックします。[ジョ

ブ] > [Job IPP Report (ジョブIPPレポート)] をクリックすると、ジョブの技術的な詳細が表示されます。文書の緊急度に応じ、[ジョブ] > [優先度を増やす] と [ジョブ] > [優先度を減らす] を使用して優先度を設定します。

[フィルタ] を選択すると、複数のプリンタや完了ジョブが切り替えられます。また [ユーザジョブのみ表示] を選択して、自分の印刷ジョブだけが表示されるように設定できます。現在のユーザは、右上のフィールドに表示されます。

[設定] > [KJobViewer を設定] を選択すると、設定ダイアログが表示されます。このダイアログでは、表示する印刷ジョブの最大数を設定します。フィールドに数値を入力するか、スライダを右に移動して値を決定します。[OK] をクリックして設定を保存するか、[キャンセル] をクリックして保存せずにダイアログを終了します。

ツールバーのアイコンは、メニューからアクセスできる機能に対応します。アイコンの上にマウスポインタを移動すると、そのアイコンの機能を簡単に説明するヘルプテキストが表示されます。

ジョブリストには、8つの列があります。ジョブIDは、印刷システムによって自動的に割り当てられ、ジョブを識別します。次の列には、ジョブを送信したユーザのログイン情報が入り、次に文書のファイル名が入ります。ステータス列は、ジョブがまだキューにあるか、現在印刷中なのか、またはすでに完了したのかを示します。次に、文書のサイズがキロバイト単位とページ単位とで表示されます。デフォルトの優先度は50ですが、必要に応じて変更できます。課金情報は、コストセンタや他の企業固有の情報であることがあります。リストでジョブを右クリックすると、マウスポインタの下で [ジョブ] メニューが表示され、アクションを選択できるようになります。完了したジョブに対してできる機能はほんの少しです。[ウィンドウを恒久的に表示] を有効にすると、次のログイン時にKJobViewerが自動的に表示されます。



## パート III. インターネット



## ネットワーク接続の管理

インターネットを参照したり、電子メールを送受信するには、YaSTを使ってインターネット接続を設定する必要があります。ご利用の環境に合わせて、YaSTでNetworkManagerを使用するかどうかを選択します。KDEでは、NetworkManagerまたはKInternetを使ってインターネット接続を確立することができます。

NetworkManagerを使用するかどうかの判断基準については、30.5項「Managing Network Connections with NetworkManager」(第30章 *Basic Networking*, ↑Deployment Guide)と25.1.2項「Integration in Changing Operating Environments」(第25章 *Mobile Computing with Linux*, ↑Deployment Guide)を参照してください。

### 13.1 KNetworkManagerの使用

適切なNetworkManagerアプレットが、デスクトップ環境で自動的に起動します。その後、このアプレットはシステムトレイ内にアイコンで表示されます。アプレットを使用して、いつでも明示的に使用するネットワークを選択できます。ここで選択したネットワークは、自動的に選択されるネットワークよりも優先されます。選択したネットワークは使用可能な限り使用されます。ネットワークケーブルを接続しても自動的に有線ネットワーク接続には切り替わりません。

KNetworkManagerが実行していない場合は、`knetworkmanager`コマンドを使用して起動します。このアプレットを実行している場合は、現在のネットワークステータスを示すアイコンがシステムトレイに表示されます。ネットワーク接続の状態に応じて、パネルアイコンは次のようになります。



有線接続が確立されました。



現在、インターネットに接続されていません。



ワイヤレス接続が確立されました。青いバーは、信号の強度を表しています。青いバーの数が増えると、信号強度が高くなったことを示します。



接続が確立または切断されました。

このアイコンを右クリックして、ネットワーク接続管理用の各種オプションのある **KNetworkManager** メニューを開きます。参照先 [図 13.1](#)。

「**KNetworkManager** アプレットで利用できるネットワーク」(217 ページ)を参照してください。このメニューには、有線と無線の両デバイス用の使用可能なネットワーク接続が含まれます。これらの接続上にマウスカーソルを置くと、その接続の詳細が表示されます。現在使用されている接続は、メニュー内でチェックマークが付きます。



図 13.1 KNetworkManager アプレットで利用できるネットワーク



## 13.1.1 ワイヤレスネットワーク

ワイヤレスネットワークの信号強度はメニューに表示されます。暗号化された無線ネットワークには、ロックアイコンが付きます。暗号化されたネットワークに接続するには、メニューから選択します。表示されるダイアログで、ネットワークが使用する [暗号化] のタイプを選択し、適切な [パスフレーズ] または [キー] を入力します。

---

### ヒント: 非表示のネットワーク

ESSID (サービスセット識別子) をブロードキャストしないため動的に検出されないネットワークに接続するには、[他のワイヤレスネットワークへの接続] を選択します。表示されるダイアログで、ESSIDを入力し、必要に応じて暗号化パラメータを設定します。

---

すべての信頼されたネットワークおよび信頼されていないネットワークを表示するには、**[オプション]** > **[ネットワーク]** の順にクリックします。

### 13.1.2 ダイアルアップ接続

ダイアルアップ接続にアクセスするには、**[ダイアルアップ接続]** を選択します。ダイアルアップ接続がすでに定義されている場合は、使用する接続をクリックして接続を開始します。**[ダイアルアップ接続の設定]** はYaSTを開きます。YaSTで新規のダイアルアップ接続を定義できます。

### 13.1.3 NetworkManagerでのVPNの使用

NetworkManagerは、いくつかのVPNテクノロジーをサポートしています。VPNテクノロジーを使用するには、最初にVPNテクノロジーのNetworkManagerサポートをインストールします。次のいずれかを選択できます。

- NovellVPN
- OpenVPN
- vpnc (Cisco)

VPNサポートは、パッケージNetworkManager-novellvpn、NetworkManager-openvpn、およびNetworkManager-vpncに含まれています。

KNetworkManagerで新しいVPN接続を設定するには、KNetworkManagerアプリケーションを左クリックし、次の手順に従います。

- 1 **[VPN接続]** > **[VPNの設定]** の順に選択します。
- 2 **[追加]** および **[フォワード]** を押して、設定ウィザードを開始します。
- 3 次のダイアログで、作成するVPN接続のタイプを選択します。
- 4 **[Connection name]** で設定に名前を付けます。

- 5 このタイプの接続に必要なすべての情報を入力します。たとえば、OpenVPN接続の場合は、*[Gateway]*と入力し、*[Connection type]* から認証方法を選択します。選択した接続に応じて、その他の必須オプションの設定を完了します。

または、*[Import Saved Configuration]* を押し、標準のファイルダイアログで保存済みの設定ファイルを選択して、保存された設定ファイルからの設定をロードします。

- 6 *[フォーワード]* を押します。

VPNを構成した後は、*[VPN接続]* から選択できるようになります。VPN接続を切断するには、*[VPNの切断]* をクリックします。

## 13.1.4 NetworkManagerとセキュリティ

NetworkManagerは、ワイヤレス接続を「信頼された」と「信頼なし」という2種類で区別します。「信頼された」接続とは、過去に明示的に選択したネットワークです。その他は「信頼なし」です。信頼された接続は、アクセスポイントのMACアドレスと名前で識別されます。MACアドレスを使用して、信頼された接続が同じ名前でも、異なるアクセスポイントを使用できないようにすることができます。

使用可能な有線接続がない場合、NetworkManagerは使用可能なワイヤレスネットワークをスキャンします。信頼されたネットワークが複数検出された場合、最近使用されたものが自動的に選択されます。いずれも信頼されたものでない場合は、ユーザーが選択します。

暗号化設定が変更されたが、名前およびMACアドレスが同じままの場合は、NetworkManagerは接続を試みますが、最初にこの新しい暗号化設定を確認し、新しい鍵などのアップデートを提供します。

ワイヤレス設定のみがあるシステムでは、NetworkManagerは、ブート中、自動的に接続を開始しません。接続を確立するには、まずログインする必要があります。ログインなしでワイヤレス接続にアクセスできるようにする場合は、YaSTを使用して信頼された接続を設定します。YaSTを使用して設定されたワイヤレス接続のみ、ブート中にNetworkManagerが使用するのに十分な信用があると見なされます。

ワイヤレス接続の使用からオフラインモードへ切り替える場合は、NetworkManagerでESSIDが空白になります。これにより、このカードが実際に関連付けられていないことを保証できます。

## 13.1.5 KDEでネットワークをオフにする

飛行機の中や、ワイヤレスネットワーキングを使用できない環境では、KNetworkManagerアプレットを使用して簡単にオフにすることができます。有線とワイヤレス両方のネットワーク接続をすべてオフにすることもできます。

KDEデスクトップでワイヤレスネットワーキングをオフにするには、KNetworkManagerアプレットを右クリックし、[オプション] > [ワイヤレスの無効化] の順に選択します。ワイヤレスネットワークをオンにするには、KNetworkManagerアプレットを右クリックして、[オプション] > [ワイヤレスの有効化] を選択します。

KDEデスクトップですべてのネットワーキングをオフにするには、KNetworkManagerアプレットで右クリックし、[オプション] > [オフラインモードへの切り替え] の順に選択します。すべてのネットワークをオンにするには、KNetworkManagerアプレットを右クリックして、[オプション] > [オンラインモードへの切り替え] を選択します。

## 13.2 KInternet

NetworkManagerを使わないでKDEを使用する場合は、KInternetでインターネット接続を管理します。デフォルトでKInternetがインストールされていない場合は、YaSTを使ってパッケージkinternetをインストールしてください。このプログラムは、インターネット接続が確立されているかを確認します。可能であれば、KDEパネルの右側に、プラグの形のthe KInternetアイコンが自動的に表示されます。ネットワーク接続の状態に応じて、パネルアイコンは次のようになります。



現在、インターネットに接続されていません。



接続が確立または切断されました。



接続が確立されました。



データがインターネットとの間で伝送されています。



エラーが発生しました。接続がYaSTを使用してすでに設定されている場合は、[ログの表示]を選択してエラーの理由を確認します。メニューにアクセスするには、KInternetアイコンを右クリックします。



接続がまだ有効ではありませんが、要求を行えばすぐ確立されます。

KInternetパネルアイコンを右クリックして、その設定メニューにアクセスします。[設定] > [Configure with YaST] の順に選択して、YaST設定ダイアログを起動します。rootパスワードを入力すると、YaSTが起動します。アクセスタイプに応じて、モデム、ISDN、ネットワーク、またはDSLのいずれかの設定が起動します。

ISDN接続を利用しており、YaSTで [チャンネルを束ねる] を選択した場合は、[リンクを追加] を選択して、2番目のISDNチャンネルを既存の接続に追加します。これによって、(価格も高くなりますが)転送速度が倍になります。チャンネル構築は、大きなファイルをダウンロードする必要がある場合に有効にします。チャンネル構築が有効な場合、KInternetアイコンの左上にある赤のプラス記号でそれが示されます。

コンピュータに複数のネットワークデバイスが搭載されており、そのすべてをYaSTで設定した場合は、KInternetオプション [インタフェース] を選択して、こうしたインタフェースを切り替えることができます。この操作を行うには、適切なYaSTネットワークダイアログで、[ユーザコントロール] デバイスの起動が選択されている必要があります。同様にプロバイダが複数ある場合は、KInternetの [プロバイダ] スイッチを使用してプロバイダを選択します。プロバイダは、YaSTでも設定できます。

インターネット接続を自動的に確立するには、「ダイヤルオンデマンド」(DoD)を使用できます。このモードを選択すると、要求を送信するとすぐ、KInternetが自動的にインターネットサービスプロバイダ(ISP)に接続します。

一定のタイムアウト時間を経過すると、接続が終了します。DoD接続が行われていることは、KInternetアイコンの右下の青いDで示されます。

---

### 警告: 原価管理

定額のインターネットアカウントを持っている場合にしかDoDは意味がないことに注意してください。それ以外の場合は、接続や切断を繰り返すと、非常にコストがかかることがあります。

---

インターネットへの接続としてワイヤレスネットワークカードを使用するには、「*Reference*」で説明しているようにYaSTを使用してネットワークカードを設定し、YaSTでのデバイスの起動を確実に [ユーザコントロール] に設定します。インタフェースを設定すれば、KInternetを使ってワイヤレスネットワーク接続を制御することができます。

KInternetのWLAN機能にアクセスするには、アイコンを右クリックしてメニューを開きます。[ワイヤレス接続] を選択すると、2つのタブを持つウィンドウが表示されます。最初に、接続先の適切なワイヤレスネットワークをスキャンします。[*Scan for Wireless Networks* (ワイヤレスネットワークの検索)] タブを選択し、[スキャンの開始] でスキャンを開始します。KInternetで継続的にネットワーク環境をスキャンする場合は、[自動更新] も選択します。[*Acoustic Scan* (音響スキャン)] で検出された接続ごとに、音響フィードバックを有効にします。検出された接続はすべてリストウィンドウに表示されます。表示された接続のいずれかを選択し、[接続] をクリックすると、選択したネットワークに接続されます。選択したネットワークに接続するためにさらに設定作業を行う必要がある場合は、[YaSTを起動します] をクリックして、ワイヤレスネットワークデバイス用のYaSTネットワークモジュールを起動します。

[現在の接続] タブでは、現在のワイヤレス接続の状態を監視できます。このタブの左側のビューには、ネットワークアドレスおよびESSIDに関するすべての接続パラメータ、信号品質、信号と雑音レベル、チャネル周波数と速度、および暗号化パラメータ(暗号化タイプ、キーの長さなど)の要約が表示されます。ツリー構造のこうしたパラメータを選択すれば、ウィンドウの右側の部分に表示される詳細を確認できます。

## 13.3 トラブルシューティング

接続に関する問題が発生する可能性があります。これらの問題の解決、防止方法は、使用ツールによって異なります。

### 13.3.1 KNetworkManager

KNetworkManagerに関する一般的な問題には、アプレットが起動しない、VPNオプションが表示されない、SCPMに関する問題などがあります。

#### NetworkManagerデスクトップアプレットが起動しない

ネットワークがNetworkManager制御に設定されている場合、KNetworkManagerアプレットは自動的に起動しなければなりません。アプレットが起動しない場合は、パッケージNetworkManager-kdeが正しくインストールされていることを確認してください。

デスクトップアプレットがインストールされているが、何らかの理由で実行していない場合(誤って終了した可能性がある)、手動で起動してください。アプレットを手動で起動するには、コマンドプロンプトから、`knetworkmanager`を実行してください。

#### NetworkManagerアプレットにVPNオプションが表示されない

NetworkManager、アプレット、およびNetworkManager用VPNサポートは、別のパッケージで配布されます。NetworkManagerアプレットにVPNオプションが表示されない場合は、VPNテクノロジーのNetworkManagerサポートのあるパッケージがインストールされているかどうかを確認します。

VPNサポートは、次のパッケージに含まれています。

- NovellVPN—パッケージNetworkManager-novellvpn
- OpenVPN—パッケージNetworkManager-openvpn

- `vpnc` (Cisco)—パッケージ `NetworkManager-vpns`

## SCPMで、ネットワーク設定が切り替わらない

SCPMをNetworkManagerとともに使用している可能性があります。現在、NetworkManagerでは、SCPMプロファイルを処理できません。SCPMもネットワーク設定を変更する場合、NetworkManagerをSCPMとともに使用しないでください。SCPMとNetworkManagerを同時に使用する場合は、SCPM設定でネットワークリソースを無効にします。

## 13.3.2 KInternet

KInternetに関する問題には、アプレットが起動しない、一部のデバイスが表示されないなどがあります。

### KInternetデスクトップアプレットが起動しない

KInternetが自動的に起動しない場合、最初にkinternetパッケージがインストールされていることを確認します。KInternetがインストールされているが、何らかの理由で実行していない場合は、手動で起動します。手動で起動するには、コマンドプロンプトからkinternetを実行します。

### KInternetにデバイスが表示されない

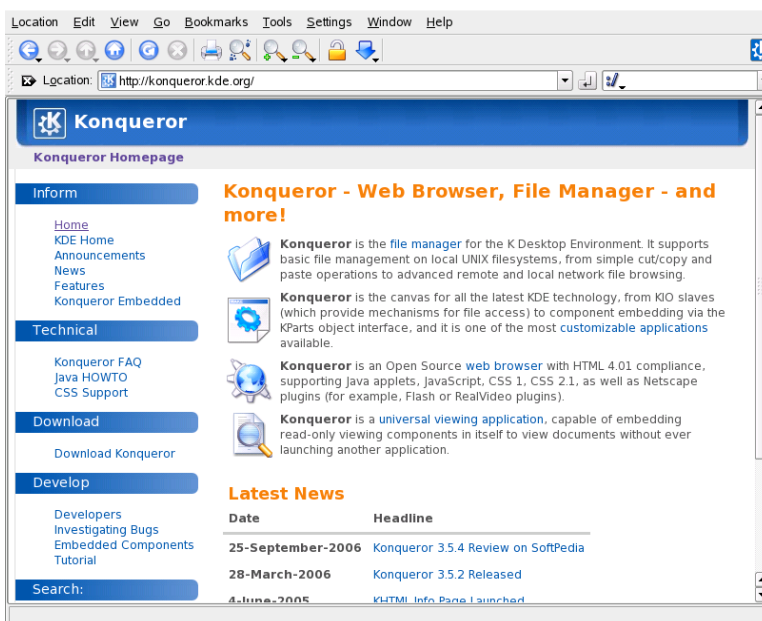
デフォルトでは、KInternetには設定済みのモデムのみが表示されます。ネットワークインタフェースをKInternetで有効化するには、適切なYaSTネットワークダイアログで [ユーザ管理] デバイスを有効にしてください。



## Konquerorを使ったブラウズ

Konquerorは、多目的のファイルマネージャであるだけではありません。これは新しいタイプのWebブラウザでもあります。パネルの「ウェブブラウザ」アイコン(地球の周囲に歯車が付いている形)をクリックすると、KonquerorはWebブラウズプロファイルを使ってブラウザとして起動されます。ブラウザとしてのKonquerorは、タブブラウズ、画像を含むWebページの保存、インターネットキーワード、およびブックマークの機能を提供し、JavaとJavaScriptをサポートします。

## 図 14.1 Konquerorのブラウザウィンドウ



Konquerorは、メインメニューから起動するか、コマンドラインでkonquerorコマンドを入力して起動します。Webページをロードするには、場所ツールバーにそのアドレス(<http://www.suse.com>など)を入力します。Konquerorはこのアドレスにアクセスして、ページを表示しようと試みます。アドレスの先頭にプロトコル(この場合はhttp://)を入力することは必須ではありません。アドレスをプログラムで自動的に完成させることができますが、これが確実に機能するのはWebアドレスの場合だけです。FTPアドレスについては、入力フィールドの先頭に必ずftp://と入力する必要があります。

## 14.1 タブブラウズ

一度に複数のWebページを使用することがよくある場合は、タブブラウズ機能を使用すると、ページの切り替えが容易になります。この機能は、複数のWebサイトを1つのウィンドウ内の個別のタブにロードします。これにより、デスクトップ上に1つのメインウィンドウだけが表示されるので、デスクトップを管理しやすくなります。ログアウト後は、KDEのセッション管理によっ

て、KonquerorにWebセッションを保存できます。次回のログイン時に、最後にアクセスしたURLがロードされます。

新しいタブを開くには、[ウィンドウ] > [新しいタブ] を選択するか、Ctrl+Shift+Nキーを押します。タブの動作を設定するには、[設定] > [Konquerorを設定] の順に選択します。表示されるダイアログボックスで、[Web動作] > [タブブラウズ] の順に選択します。ウィンドウを開く代わりに新しいタブを開くには、[リンクは新しいウィンドウではなく、新規タブで開く] を有効にします。[一つのタブしかオープンしていない場合、タブバーを非表示にする] を使用して、タブバーを非表示にすることもできます。他のオプションを表示するには、[詳細オプション] をクリックします。

## 14.2 自動スクロール

通常は、Webページの下方の情報を表示するには、マウスを使用してスクロールするのが一般的な方法です。ただし、マウスを使わない方が適している場合もあります。キーボードから手を離す代わりに、キーの組み合わせを使用した方が便利です。

自動的に下方方向にスクロールするには、Shift+↓キーを使用します。こうすると、それ以上の操作を行わなくてもページが下方方向にスクロールします。もう一度Shift+↓キーを押すと、スクロールの速度が速くなります。Shift+↑キーを押すと、速度が遅くなります。スクロールを停止するには、↓キーを使用します。

## 14.3 プロファイル

14.1項「タブブラウズ」(226 ページ)では、Konquerorでのタブの処理方法について説明しました。タブをURLおよびウィンドウの位置とともにプロファイルに保存できます。これは、既に説明したセッション管理とは異なります。プロファイルを使用すると、保存したタブを手元に置くことができるため、セッション管理のように起動時だけではなく、いつでもタブを復元できます。

プロファイルを作成するには、次の手順に従います。

- 1 [設定] > [ビューのプロファイルを設定] の順に選択します。

- 2 表示されるダイアログボックス内で、`[プロファイル名]` に名前を挿入します。
- 3 URLを保存するには、`[プロファイルにURLを保存]` を選択します。
- 4 ウィンドウの位置およびサイズを固定するには、`[Save window size in profile]` を選択します。
- 5 `[保存]` をクリックします。

次回「タブコレクション」が必要になったときに、`[設定] > [ビューのプロファイルを読み込み]` を選択すると、指定したプロファイル名がメニューに表示されます。名前を選択すると、タブが復元されます。

## 14.4 Webページと画像の保存

Konquerorでは、他のブラウザと同様にWebページを保存できます。これには、`[場所] > [名前を付けて保存]` を選択し、HTMLファイルの名前を指定します。ただし、イメージは保存されません。イメージを含むWebページ全体をアーカイブするには、`[ツール] > [WEBページをアーカイブに]` を選択します。Konquerorは、ユーザが通常そのまま使用できるようなファイル名を提案します。ファイル名は、Webアーカイブを示す拡張子`.war`が末尾に付きます。保存したWebアーカイブを後で表示する場合は、ファイルをクリックするだけで、Konquerorにイメージとともに表示されます。

## 14.5 Konquerorによる検索

Konquerorを使用した検索は、非常に便利です。検索バーまたはWebショートカットを使用できます。

### 14.5.1 検索バーの使用

Konquerorには検索バーがあり、多くの検索エンジンから選択できます。特定の用語を検索する場合は、次の手順に従います。

- 1 Konquerorを起動します。

- 2 検索バーを探します。場所ツールバーの右側にあります。
- 3 検索バー内のアイコンをクリックします。ポップアップメニューから検索エンジンを選択します。
- 4 検索する用語を挿入し、<Enter>キーを押します。Konqueror内に結果が表示されます。

ポップアップメニューに表示されない検索エンジンを使用する場合は、次のようにして追加します。

#### 手順 14.1 その他の検索エンジンの追加

- 1 Konquerorを起動します。
- 2 検索バー内のアイコンをクリックします。
- 3 *[Select Search Engines]* を選択します。
- 4 *[Enable Web shortcuts]* が有効になっていることを確認します。
- 5 該当する検索エンジンを有効にし、*[Ok]* をクリックしてダイアログボックスを閉じます。検索バー内のアイコンをクリックすると、選択した検索エンジンが表示されます。

## 14.5.2 Webショートカットの使用

定義されている各検索エンジンには、Webショートカットが添付されています。このショートカットは、場所ツールバーに入力できます。

定義済みのショートカットを確認するには、*[設定] > [Konquerorを設定] > [Webショートカット]* を選択します。検索プロバイダとショートカットの名前が表示されます。Konquerorには、Google、Yahoo、Lycosなどの検索エンジンから、Acronym Database、インターネット映画データベース、KDEアプリケーション検索のような一般的にあまり使用されない検索エンジンまで、多数の検索エンジンが定義されています。

好みの検索エンジンがなければ、新しい検索エンジンを簡単に定義できます。たとえば、Novell Cool Solutions™で特定の記事を検索するには、通常は<http://www.novell.com/cool solutions>にアクセスして検索ページを

探し、クエリを入力します。これを簡素化するには、以下の手順に従ってください。

### 手順 14.2 Webショートカットの新規作成

- 1 検索バーに移動し、アイコンをクリックし、*[Select Search Engines]* を選択します。
- 2 *[Enable Web Shortcuts]* が有効になっていることを確認します。
- 3 *[New]* をクリックします。
- 4 Webショートカットを新規作成します。
  - 4a *[検索プロバイダ名]* でWebショートカットに名前を割り当てます。
  - 4b 検索URIを入力します。Shift + F1キーを押してフィールドをクリックすると、簡単なヘルプが表示されます。検索クエリは\{@}で指定されます。これがチャレンジによって正しい位置に挿入されます。Novell Cool Solutionsデータベースで検索するには、<http://search.novell.com/qfsearch/SearchServlet?sortbydate=true&noredirect=true&index=Cool+Solutions&query=\{@}>を使用します。
  - 4c *[URIショートカット]* に略語を入力します。複数の略語を入力する場合は、カンマで区切って入力します。
- 5 *[OK]* をクリックして、続行します。

---

#### ヒント: Konquerorを開かずに直接ショートカットを使用

Konquerorを開いてWebショートカットを入力する必要はありません。直接呼び出すこともできます。メインメニューから *[コマンドを実行]* を選択するか、Alt + F2キーを押します。ダイアログボックスが表示されたら、検索する用語と共にショートカットを入力します。

---

Webショートカット(ncなど)を作成した後で、これを場所ツールバーで使用できます。結果は現在のウィンドウに表示されます。

## 14.6 ブックマーク

頻繁にアクセスするサイトのURLアドレスを記憶してそのつど入力する代わりに、[ブックマーク]メニューを使用すると、これらのURLをブックマークとして保存できます。この方法で、Webページのアドレスのほか、ローカルディスク上のディレクトリをブックマークとして保存することもできます。

Konquerorで新しいブックマークを作成するには、[ブックマーク] > [ブックマークに追加]をクリックします。以前に追加したすべてのブックマークが、メニュー項目として表示されます。さまざまな項目を見つけやすいように、ブックマークをテーマ別の階層構造に整理することをお勧めします。ブックマークの新しいサブグループを作成するには、[新規ブックマークフォルダ]を使用します。[ブックマーク] > [ブックマークを編集]を選択すると、ブックマークエディタが表示されます。このプログラムを使用すると、ブックマークを整理、変更、削除することができます。

Netscape、Mozilla、またはFirefoxもあわせて使用している場合、ブックマークを再度作成する必要はありません。ブックマークエディタで[ファイル] > [インポート] > [Netscapeのブックマークをインポート]の順に選択すると、NetscapeとMozillaのブックマークを最新のブックマークに統合できます。逆方向の統合も、[Netscapeへブックマークをエクスポート]を使用して実行できます。

ブックマークを変更するには、エントリを右クリックします。ポップアップメニューが表示されるので、切り取り、コピー、削除などのアクションを選択します。変更が完了したら、[ファイル] > [保存]の順に選択して、ブックマークを保存します。名前またはリンクのみ変更する場合は、ブックマークツールバーでエントリを右クリックし、[プロパティ]を選択します。名前と場所を変更し、[Update (更新)]をクリックします。

ブックマークのリストを保存し、それに簡単にアクセスできるようにするには、ブックマークをKonquerorに表示します。[設定] > [ツールバー] > [ブックマークツールバー(Konqueror)]を選択してください。現在のKonquerorウィンドウに、ブックマークパネルが自動的に表示されます。

## 14.7 JavaとJavaScript

この2つの言語を混同しないでください。Javaは、Sun Microsystemsによるプラットフォームに依存しないオブジェクト指向のプログラミング言語です。Javaは通常、小さなプログラム(アプレット)に使用され、オンラインバンキング、チャット、ショッピングでインターネットを経由して実行されます。JavaScriptは、主に、メニューやその他の効果などのWebページのダイナミック構造化に使用されるインタプリタスクリプト言語です。

Konquerorでは、この2つの言語を有効または無効にできます。これはドメインごとに設定できるので、一部のホストにはアクセスを許可し、他のホストへのアクセスをブロックすることができます。JavaおよびJavaScriptは、セキュリティ上の理由で無効にすることがよくあります。ただし、正しく表示するためにJavaScriptが必要なWebページもあります。

## 14.8 Advertisement Blocker(広告ブロッカー)の使用

Webページの中には、わずらわしい広告が表示されるものもあります。Konquerorを使用すると、これらのウィンドウをブロックできます。次の手順に従います。

### 手順 14.3 わずらわしい広告のブロック

- 1 Konquerorを起動します。
- 2 [設定] > [Konquerorを設定] > [AdBlock Filter] の順にクリックします。
- 3 [Enable filters] を有効にします。
- 4 [挿入] をクリックします。
- 5 フィルタするWebページの表現を入力します。たとえば、次のような指定内容です。

`http://www.example.com/*`



こうすると、そのURLで始まるすべてがフィルタされます。

## 14.9 詳細情報

Konquerorでの作業中に不明な点や問題が発生した場合は、[ヘルプ]メニューからアクセスできる、アプリケーションのハンドブックを参照してください。KonquerorのWebページ(<http://www.konqueror.org>)を参照することもできます。




# Firefoxを使用したブラウジング

# 15

SUSE Linux Enterpriseには、Mozilla Firefox Webブラウザが付属しています。Firefoxには、タブ、ポップアップウィンドウのブロック機能、ダウンロードおよび画像管理などの、最新のWeb技術が統合されています。1つの画面で、複数のWebページを表示できます。動作を遅くするだけの、わずらわしい広告や画像を無効にできます。複数の検索エンジンに簡単にアクセスできるので、必要な情報を探しやすいです。メインメニューから、またはコマンドfirefoxを入力することで、このプログラムを起動します。以降では、このプログラムの主要な機能について説明します。

## 15.1 Webサイトのナビゲート

Firefoxのルックアンドフィールは他のブラウザととてもよく似ています。このツールを  15.1. 「Firefoxのブラウザウィンドウ」 (236 ページ) に示します。ナビゲーションツールバーには、[進む] と [戻る]、およびWebアドレスを指定するためのロケーションバーがあります。素早くアクセスするために、ブックマークを使用することもできます。Firefoxのさまざまな機能についての詳細は、[ヘルプ] メニューを使用してください。

## 図 15.1 Firefoxのブラウザウィンドウ



### 15.1.1 タブブラウズ

一度に複数のWebページを使用することがよくある場合は、タブブラウズ機能を使用すると、ページの切り替えが容易になります。この機能は、複数のWebサイトを1つのウィンドウ内の個別のタブにロードします。

タブを開くには、[ファイル] > [新しいタブ] の順に選択します。これにより、Firefoxウィンドウに空のタブが表示されます。代わりに、リンクを右クリックし、[Open link in new tab (リンクを新しいタブで開く)] を選択することもできます。タブそのものを右クリックすると、その他のタブオプションにアクセスできます。新しいタブを作成したり、1つのタブまたは残りのすべてのタブで再読み込みしたり、またはそれらを閉じたりできます。タブを目的の位置にドラッグアンドドロップして、タブのシーケンスを変更することもできます。

## 15.1.2 サイドバーの使用

ブラウザウィンドウの左側を使用して、ブックマークやブラウズ履歴を表示できます。拡張機能によって、サイドバーを使用するための新しい方法が追加されることがあります。サイドバーを表示するには、[表示] > [サイドバー] の順に選択し、目的のコンテンツを選択します。

## 15.2 情報の検索

Firefoxで情報を検索するには、2種類の方法があります。検索バーがページを検索するのに対し、ページ内検索バーは現在のページに含まれている情報を検索します。

### 15.2.1 Web上での情報の検索

Firefoxには検索バーがあり、Google、Yahoo、Amazonなどのさまざまな検索エンジンにアクセスできます。たとえば、現在のエンジンでSUSEに関する情報を検索したい場合は、検索バー内をクリックしてから「SUSE」と入力し、Enterキーを押します。検索結果がウィンドウに表示されます。検索エンジンを選択するには、検索バーの左にあるアイコンをクリックします。メニューが開き、利用可能な検索エンジンのリストが表示されます。

### 15.2.2 異なる検索エンジンのインストール

好みの検索エンジンが一覧に表示されない場合は、Firefoxで設定が可能です。次の手順を試してください。

- 1 まず、インターネット接続を確立します。
- 2 検索バーの左にあるアイコンをクリックします。
- 3 メニューから、[検索バーの管理] を選択します。
- 4 [検索エンジンを追加] をクリックします。

- 5 Firefoxによって、Webページに使用可能な検索エンジンが表示されます。Wikipedia、IMDBなど、さまざまなエンジンを選択することができます。目的の検索プラグインをクリックします。
- 6 [追加] をクリックして検索プラグインをインストールするか、[キャンセル] をクリックして中止します。

## 15.2.3 現在のページ内での検索

Webページ内を検索するには、[編集] > [このページを検索] の順にクリックするか、またはCtrl+Fキーを押します。検索バーが表示されます。通常、このバーはウィンドウの一番下に表示されます。入力フィールドに、検索条件を入力します。Firefoxは、このフレーズと一致する最初の項目を検出します。このフレーズと一致するその他の項目を検索するには、F3キーを押すか、検索バーの [次を検索] ボタンをクリックします。一致するすべての項目を強調表示するには、[すべて強調表示] ボタンをクリックします。

## 15.3 ブックマークの管理

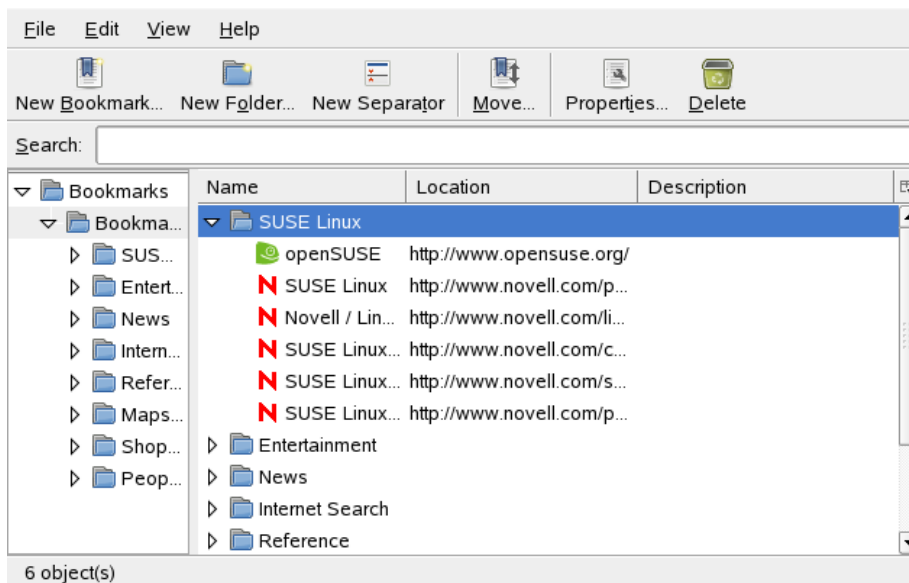
ブックマークにより、お気に入りのWebサイトへのリンクを保存しておくことができます。現在のWebサイトをブックマークのリストへ追加するには、[ブックマーク] > [このページをブックマーク] の順にクリックします。ブラウザのタブに複数のWebサイトが表示されている場合は、現在選択されているタブだけが、ブックマークのリストへ追加されます。

ブックマークを追加するときは、ブックマークの名前を新たに指定したり、Firefoxでの保存先フォルダを指定できます。Webサイトを複数のタブにブックマークとして追加するには、[Bookmark All Tabs] を選択します。Firefoxにより、各タブに表示される各サイトのブックマークを含む新しいフォルダが作成されます。ブックマークのリストからWebサイトを削除するには、[ブックマーク] をクリックし、リスト内で対象のブックマークを右クリックしてから [削除] をクリックします。

## 15.3.1 ブックマークの管理の使用

ブックマークの管理を使用すると、各ブックマークのプロパティ(名前とURL)を管理したり、ブックマークをフォルダやセクション内に分類したりできます。この機能は、[図 15.2. 「Firefoxにおけるブックマークの管理の使用」](#) (239 ページ)に示しています。

図 15.2 Firefoxにおけるブックマークの管理の使用



ブックマークの管理を開くには、[ブックマーク] > [ブックマークの管理]の順にクリックします。ウィンドウが開き、ブックマークが表示されます。

[New Folder (新しいフォルダ)] を使用すると、新しいフォルダを作成して、その名前と説明を指定できます。新しいブックマークを作成するには、[New Bookmark (新しいブックマーク)] をクリックします。これにより、ブックマークの名前、場所(URL)、キーワード、および説明を指定することができます。キーワードは、ブックマークへのショートカットになります。新しく作成したブックマークをサイドバー内に表示する場合は、[Load this bookmark in the sidebar (このブックマークをサイドバーに読み込む)] にチェックマークをつけます。

## 15.3.2 他のブラウザからのブックマークのインポート

今までに別のブラウザを使用していた場合、設定内容やブックマークをFirefoxでも使用したいはずです。現在インポート可能なのは、Netscape 4.x、6、7、Mozilla 1.xおよびOperaのブックマークです。

設定内容をインポートするには、[ファイル] > [インポート] の順にクリックします。設定内容をインポートする対象ブラウザを選択します。[次へ] をクリックすると、設定がインポートされます。インポート済みのブックマークは、新しく作成された「From (から)」のついた名前のフォルダ内にあります。

## 15.3.3 ライブブックマーク

ライブブックマークは、最新のニュースを確認できるように、ブックマークメニュー内に見出しを表示する機能です。これにより、お気に入りのサイトの情報をすぐに見ることができるので、時間を節約できます。

多くのサイトとブログは、この形式をサポートしています。このことは、Webサイトを表示した際に、場所ツールバーの右側にオレンジ色のアイコンで示されます。それをクリックして、[(フィード名)最新情報を購読] を選択します。表示されたページで、[購読] をクリックします。ダイアログボックスが表示されて、ライブブックマークの名前と場所を選択できます。[追加] をクリックして確認してください。

実際にはニュースフィードをサポートしていても、そのことをFirefoxには知らせないサイトもあります。ライブブックマークを手動で追加するには、フィードのURLが必要です。以下を実行します。

**手順 15.1** ライブブックマークを手動で追加する

- 1 [ブックマーク] > [ブックマークの管理] でブックマークマネージャを表示します。新しいウィンドウが開きます。
- 2 [ファイル] > [新しいライブブックマーク] を選択します。ダイアログボックスが開きます。



- 3 ブックマーク名を挿入し、*[Feed Location]* (フィード場所)にURLを追加します(例:<http://www.novell.com/newsfeeds/rss/cool solutions.xml>)。Firefoxはライブブックマークを更新します。
- 4 ブックマークマネージャを閉じます。

## 15.4 ダウンロードマネージャの使用

ダウンロードマネージャを使用すると、現在行っているダウンロードおよび過去のダウンロードを管理できます。ダウンロードマネージャを開くには、*[ツール]* > *[ダウンロード]* の順にクリックします。Firefoxにより、ダウンロードに関するウィンドウが開かれます。ファイルのダウンロード中には、進行状況を示すバーと現在のファイルが表示されます。必要に応じて、ダウンロードを中止し、後で再開することができます。ダウンロードしたファイルを開くには、*[開く]* をクリックします。*[削除]* を使用すると、リストからファイルを削除できます。ファイルについての情報が必要な場合は、ファイル名を右クリックし、*[プロパティ]* を選択します。

ダウンロードマネージャをさらに制御する必要がある場合は、*[編集]* > *[初期設定]* の順に選択して設定ウィンドウを開き、*[メイン]* タブを表示します。ここでは、ダウンロード先フォルダとマネージャの動作を指定します。

## 15.5 Firefoxのカスタマイズ

Firefoxは縦横にカスタマイズできます。拡張機能をインストール、テーマを変更、およびオンライン検索用のキーワードを追加することができます。

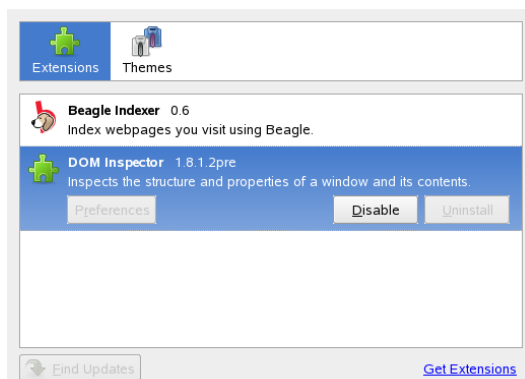
### 15.5.1 Extensions

Mozilla Firefoxは多機能アプリケーションであり、これは、拡張機能と呼ばれるアドオンをダウンロードしてインストールできることを意味します。たとえば、最新のダウンロードマネージャやマウスジェスチャの追加などです。これにより、Firefox本体のサイズを小さいままに保つことができます。

拡張機能を追加するには、*[ツール]* > *[アドオン]* の順にクリックします。右下隅にある *[Get Extensions (新しい拡張機能を入手)]* をクリックして、

Mozillaの拡張機能更新用Webページを表示し、利用可能な拡張機能の中から目的の機能を選択します。インストール対象の拡張機能を選択したら、その拡張機能をダウンロードしてインストールするためのリンクをクリックします。Firefoxを再起動すると、新しく追加した拡張機能が使用できるようになります。さまざまな拡張機能については、<http://addons.mozilla.org/>でも参照できます。

### 図 15.3 Firefox拡張機能のインストール

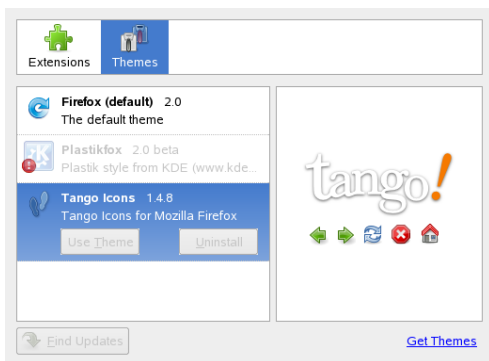


## 15.5.2 テーマの変更

Firefoxの標準的なルックアンドフィールが気に入らない場合は、新しいテーマをインストールします。テーマを変更しても、ブラウザの外観が変わるだけで機能そのものに影響はありません。テーマをインストールしようとする、はじめに、Firefoxによって確認を求められます。インストールを許可するか、またはキャンセルします。インストールが正常に完了すると、新しいテーマを有効にすることができます。

- 1 [ツール] > [アドオン] > [テーマ] の順にクリックします。
- 2 表示される新しいダイアログボックスで、[Get Themes] をクリックします。テーマがすでにインストールされている場合は、図 15.4. 「Firefox テーマのインストール」 (243 ページ)に示すように、リスト内から探します。

## ☒ 15.4 Firefoxテーマのインストール



- 新しいウィンドウが開き、Webサイト<https://addons.mozilla.org>が表示されます。
- テーマを選択し、`[Install Now]` をクリックします。
- ダウンロードとインストールを確認します。
- テーマをダウンロードしたら、リストからテーマを選択して `[テーマを使用]` をクリックします。
- ウィンドウを閉じ、Firefoxを再起動します。

テーマがインストールされると、[ツール] > [アドオン] > [テーマ] の順に選択してから、[テーマを使用] を使用することで、再起動することなく、いつでも別のテーマに切り替えることができます。テーマを使用する予定がない場合は、同じダイアログで [アンインストール] を使用するとテーマを削除できます。

### 15.5.3 オンライン検索へのスマートキーワードの追加

インターネットでの検索は、ブラウザで実行できる主要なタスクの1つです。Firefoxでは、独自のスマートキーワードを定義することができます。スマートキーワードは、Web検索でコマンドとして使用する省略形です。たとえば、

ウィキペディアを頻繁に使用する場合、スマートキーワードを使用することで、このタスクを簡略化できます。

- 1 <http://en.wikipedia.org>を参照してください。
- 2 FirefoxでWebページを表示したら、検索テキストフィールドに注目してください。フィールドを右クリックして表示されるメニューから、*[Add a Keyword for this Search (この検索にキーワードを設定)]* を選択します。
- 3 *[ブックマークに追加]* ダイアログが表示されます。*[名前]* には、このWebページの名前を、たとえば「*Wikipedia (en)*」のように入力します。
- 4 *[キーワード]* には、このWebページの略語を、たとえば「*Wiki*」のように入力します。
- 5 *[Create in (作成先)]* では、ブックマークセクションにおけるエントリの場所を選択します。任意のフォルダに配置できます。
- 6 *[追加]* を使用して操作を完了します。

これで新しいキーワードが作成されました。ウィキペディアを調べる必要があるときは、もうURL全体を入力する必要はありません。「wiki Linux」と入力するだけで、Linuxの情報をすべて表示できます。

## 15.6 Firefoxからの印刷

Firefoxで、表示されたコンテンツをどのように印刷するかは、*[ページ設定]* ダイアログで設定します。*[ファイル]* > *[ページ設定]* の順にクリックしてから、*[書式とオプション]* タブで、印刷ジョブの配置方法を選択します。拡大/縮小または自動調整することができます。背景を印刷するには、*[Print Background (colors & images) (背景を印刷(配色と画像))]* を選択します。

*[Margins & Header/Footer (余白とヘッダ/フッタ)]* タブをクリックすると、余白を調整したり、ヘッダとフッタに含める対象を選択できます。

設定を指定した後は、*[ファイル]* > *[印刷]* の順に選択して、Webページを印刷します。プリンタを選択するか、または出力内容を保存するファイルを選択します。*[プロパティ]* を使用すると、用紙サイズの設定、印刷コマ

ンドの指定、グレースケールまたは色の選択、および余白の指定ができます。  
設定値を入力したら、**[印刷]** を使用して実行します。

## 15.7 詳細情報

公式ホームページからFirefoxに関する情報は、<http://www.mozilla.com/firefox/>;で取得できます。特定のオプションや機能についての詳細は、Firefoxに統合されているヘルプを参照してください。



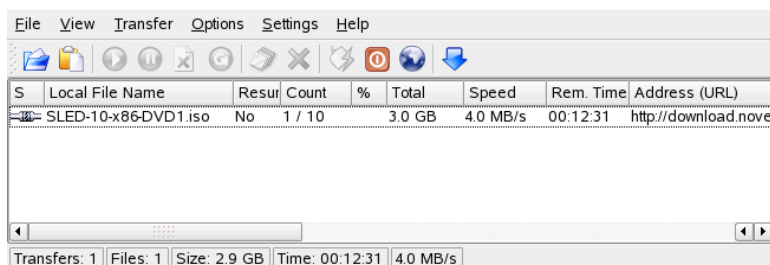
# インターネットからのデータの転送

# 16

KGetは、KDEのダウンロードマネージャです。ウィンドウ内での転送を管理します。転送を停止、再開、削除、キューへの登録、および追加することができます。メインメニューからKGetを起動するか、Alt + F2キーを押して、kgetを入力します。

KGetを初めて起動する場合は、Konquerorとの統合を選択できます。KGetをKonquerorに統合すると、KGetが下向き矢印のアイコンとしてシステムトレイに追加されます。KGetの転送を表示するには、この矢印をクリックします。

## ☒ 16.1 KGet



## 16.1 リストへの転送の追加

転送を追加するには、[ファイル] > [貼り付け] の順にクリックします。URLを指定し、[OK] をクリックします。最後に、ダウンロードしたファイルの保存場所を選択します。転送のエントリがKGetのメインウィンドウに追

加され、ダウンロードが開始されます。転送を追加するもう1つの方法は、単にファイル(FTPサーバからのファイルなど)をKonquerorからドラッグし、KGetのメインウィンドウにドロップする方法です。

ダウンロードの環境設定を変更するには、`[設定] > [KGetを設定]`の順にクリックします。

## 16.2 タイマ制御の転送

特定の時刻に転送を実行するようにKGetを設定することができます。

- 1 KGetを起動します。
- 2 `[オプション] > [オフラインモード]` をクリックします。これ以降挿入されたすべての転送は、すぐに開始せず、キューに追加されます。
- 3 クロックを開始するには、エントリをダブルクリックしA `[詳細]` をクリックします。
- 4 転送を開始する日、月、年、および時刻を入力し、`[Timer]` アイコンをクリックし、ダイアログボックスを閉じます。
- 5 すべての転送に対する必要な設定を終えたら、`[オプション] > [オフラインモード]` の順にクリックしてKGetをオンラインモードに戻します。

転送は指定した時刻に開始します。

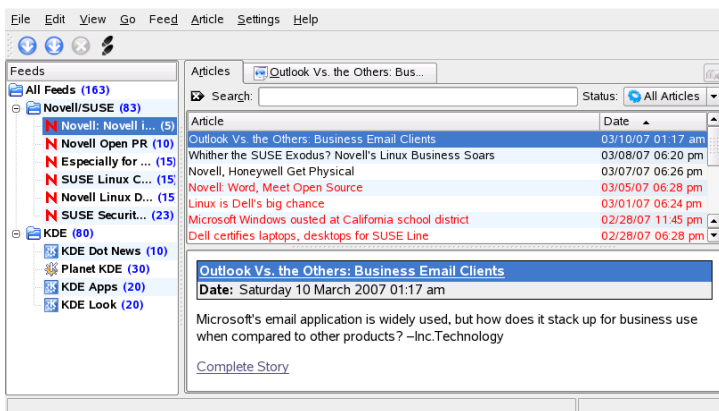


# Akregatorでニュースフィードを読む

# 17

最新のニュースは、ニュースフィードリーダーから取得できます。Akregatorはリーダーの一種です。ニュースティッカーファイルを保管しているサーバに接続してそれらをダウンロードし、見出しや概要のテキストを表示します。参照先 [図 17.1. 「ニュースを表示しているAkregator」](#) (249 ページ) 特定のニュースに興味がある場合には、それをクリックすれば、個別のタブに表示されます。

**図 17.1** ニュースを表示しているAkregator



Akregatorには、KDE用にあらかじめ定義されたニュースフィードが用意されています。ニュースフィードは手動で、またはそれを告知しているWebサイトから追加できます。たとえば、フィードをサポートしているWebサイトを表示すると、右下隅にオレンジ色の四角形が表示されます。それをクリックして、ポップアップメニューから *[Add Feed to Akregator]* を選択します。中

には、実際にはニュースフィードをサポートしているのに、そのことを通知していないWebサイトもあります。その場合には、そのサイト内をフィードやrssなどのキーワードで検索してみることができます。ニュースフィードが見つかって、リンクを取得できることがあります。

ニュース フィードを追加するには、以下の手順に従ってください。

### 手順 17.1 Akregatorにニュースフィードを追加する

- 1 ニュースフィードのURLを確認します。通常、これはWebサイト上に記されています。詳しいリンクは、KDEパネルのアプレットであるKNewstickerツールで見つかります。
- 2 **Alt + F2**を押し、akregatorと入力して、Akregatorを起動します。設定済みのすべてのフィードのリストを含む、新しいウィンドウが表示されます。ウィンドウを閉じると、システムトレイに格納されます。
- 3 **[Feed] > [New Folder]** の順に選択して、新しいフォルダを作成します。ここで、フィードをカテゴリごとにグループ分けすることができます。
- 4 新しいフォルダに名前を付けます。
- 5 このフォルダをクリックして、 **[Feed] > [Add Feed]** を選択します。
- 6 <http://www.novell.com/newsfeeds/rss/cool solutions.xml> などのように、フィードのURLを入力します。新しいウィンドウが表示されて、フィードの名前、URL、更新間隔を変更できます。 **[Feed Archive]** タブでは、記事を保管する期間を変更できます。
- 7 **[OK]** をクリックして、続行します。Akregatorは最新の記事をダウンロードします。

最新の見出しのダウンロードが完了したら、エントリをクリックできます。フィードによっては、短い概要が記されていることもありますし、リンクだけのこともあります。 **[Complete Story]** をクリックすれば、記事全体を読むことができます。

**[Fetch Feed]** を選択すれば、新しいニュースを手動でチェックできます。他のオプションとして、更新期間を指定することができます。設定するには、 **[Settings] > [Configure Akregator]** の順にクリックします。ウィンドウが表

示されるので、*[General]* > *[Use interval fetching]* の順に選択すれば、間隔を選択できます。*[Ok]* をクリックして、設定を確定してください。

記事全体は、Akregatorまたは外部ブラウザで読むことができます。*[Complete Story]* を右クリックすれば、選択することができます。



## パート IV. マルチメディア



# GIMPによるグラフィックスの 操作

# 18

GIMP (*The GNU Image Manipulation Program*)は、ピクセルグラフィックスの作成と編集を行うためのプログラムです。ほとんどの面で、その機能はAdobe Photoshopや他の市販プログラムに匹敵するレベルにあります。写真のサイズ変更とレタッチ、Webページ用のグラフィックスの作成、カスタムCDのカバーの作成、その他さまざまなグラフィックスプロジェクトにGIMPを活用することができます。また、アマチュアとプロフェッショナル両方のニーズを満たすことができます。

Linuxの他の多くのプログラムと同様、GIMPは、作業時間と作成したコードをプロジェクトに提供している、世界中にいるボランティア開発者の共同作業により開発されています。このプログラムは今も継続的に開発が進められているため、使用中のに付随しているバージョンが、ここで説明されているバージョンとはわずかに異なっている可能性もあります。個別のウィンドウや、ウィンドウ内のセクションのレイアウトは、特に違いが生じやすい箇所です。

GIMPは、非常に複雑なプログラムです。この章で説明するのは、限られた範囲の機能、ツール、およびメニュー項目です。このプログラムの詳細情報については、[18.7項「詳細情報」](#) (273 ページ)を参照してください。

## 18.1 グラフィックファイルの形式

グラフィックファイルには、大きく分けてピクセルとベクタという2つの形式があります。GIMPは、ピクセルグラフィックスだけを対象として機能します。写真や、スキャンした画像の場合、これが普通の形式です。ピクセルグ

ラフィックスは、色の付いた小さな点で構成されていて、それらの集合体が画像全体を形成しています。この理由で、ファイルはすぐに、非常に大きくなる傾向があります。また、画質を低下させることなくピクセル画像のサイズを大きくすることはできません。

ピクセルグラフィックスとは異なり、ベクタグラフィックスは個々の点すべてに関する情報を格納しているわけではありません。代わりに、画像の点、線、または面がどのようにグループ化されているか、という情報を格納しています。ベクタ画像は、非常に簡単に拡大縮小することもできます。たとえば、InkscapeやOpenOffice.org描画アプリケーションが、この形式を使用しています。

## 18.2 GIMPの起動

GIMPはメインメニューから起動します。代わりに、コマンドラインで、「gimp &&」と入力することもできます。

### 18.2.1 初期設定

GIMPの最初の起動時には、準備となる設定を行うための設定ウィザードが表示されます。ほとんどの用途では、デフォルト設定をそのまま使用することができます。設定項目に精通していてセットアップを変更する場合以外は、各ダイアログで何も変更しないで [次へ] をクリックします。

### 18.2.2 デフォルトのウィンドウ

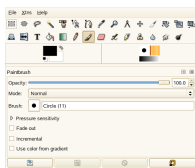
デフォルトでは、3つのウィンドウが表示されます。画面内でこれらを整列させることや、必要がなくなった時点でツールボックス以外を閉じることできます。ツールボックスを閉じると、このアプリケーションも閉じます。デフォルトの設定では、GIMPは終了時にウィンドウの位置を保存します。終了時に表示されていたダイアログは、次回にこのプログラムを起動すると、再び表示されます。



## ツールボックス

**図 18.1. 「メインウィンドウ」** (257 ページ)に示すGIMPのメインウィンドウには、このアプリケーションのメインコントロールがあります。このウィンドウを閉じると、このアプリケーションは終了します。最上部にあるメニューバーを使用すると、ファイル機能、拡張機能、およびヘルプを使用できます。その下には、さまざまなツールに対応したアイコンがあります。これらのアイコンの上にマウスポインタを移動すると、そのアイコンに関する情報が表示されます。

### 18.1 メインウィンドウ



現在の前景色と背景色が、重なっている2つの長方形で表示されます。デフォルトの色は、前景色が黒、背景色が白です。長方形をクリックすると、その色を変更するダイアログが表示されます。2つの長方形の右上にある曲がった矢印記号をクリックすると、前景色と背景色が入れ替わります。左下にある黒と白の記号をクリックすると、色をデフォルトに戻すことができます。

前景色と背景色の右には、現在のブラシ、パターン、およびグラデーションが表示されます。表示されているいずれかをクリックすると、その選択ダイアログが表示されます。ウィンドウの下の部分では、現在のツールに対し、さまざまな設定を行えるようになっています。

ツールボックス下のダイアログに、現在選択しているツールに関するオプションが表示されます。オプションが表示されない場合は、ツールボックス内のツールアイコンをダブルクリックしてください。

## レイヤー、チャンネル、パス、アンドゥ

最初のセクションでは、ドロップダウンボックスを使用して、タブが参照する画像を選択します。[自動] をクリックして、アクティブな画像が自動的に選択されるかどうかを制御することができます。デフォルトでは、[自動] は有効になっています。

[レイヤー] は、現在の画像内にあるさまざまなレイヤーを表示します。また、レイヤーを操作することもできます。情報は、[18.5.6項「レイヤ」](#) (270 ページ) から入手できます。[チャンネル] は、画像のカラーチャンネルを表示しますが、ここで操作することもできます。

パスは、画像の一部を選択するためのベクタベースの方法です。パスを使用して描画することもできます。[パス] は、画像に関連して使用できるパスを表示し、パス機能にアクセスする手段を提供します。[アンドゥ] は、現在の画像に対して加えられた変更からなる、限られた数の履歴を表示します。使用方法は、[18.5.5項「操作の取り消し」](#) (269 ページ) で説明されています。

## 18.3 はじめに

GIMPを初めて使用する場合、少々使いにくく感じるかもしれませんが、一度基本操作を覚えてしまえば、操作は簡単であることがわかります。不可欠な基本機能は、画像を作成し、開き、保存することです。

### 18.3.1 新しい画像の作成

新しい画像を作成するには、[ファイル] > [新規] の順に選択するか、**Ctrl+N**を押します。新しい画像に関する設定を行うためのダイアログが表示されます。必要に応じて、[Template] という名前の事前定義された設定を選択します。カスタムテンプレートを作成するには、[ファイル] > [ダイアログ] > [テンプレート] の順に選択し、表示されたウィンドウにあるコントロールを使用します。

[画像のサイズ] セクションで、作成する画像のサイズをピクセルまたは他の単位で設定します。それ以外の単位を使用するには、使用可能な単位からなるリストを使用して、希望の単位をクリックします。ピクセルと他の単位との比率は、[解像度] で設定されており、[拡張オプション] セクションを開くと設定値を確認できます。72ピクセル/インチという解像度は、共通画面表示に対応しています。Webページの画像として使用する場合は、これで十分です。画像を印刷する場合は、これより高い解像度を使用してください。ほとんどのプリンタでは、300ピクセル/インチの解像度を使用すると、許容可能な画質になります。

[色空間] で、画像をカラー( [RGB] )と [グレースケール] のどちらにするかを選択します。画像タイプの詳細は、[18.5.7項「画像モード」](#) (270 ページ) を参照してください。新しい画像を作成する場合は、[塗りつぶしの種類] も選択します。[描画色] と [背景色] は、ツールボックスで選択された色を使用します。[白] は、画像の背景色として白を使用します。[透明] は、クリアな画像を作成します。[透明] は、灰色のチェッカーパターン(格子模様)で表現されます。[コメント] には、新しい画像に関する説明を入力します。

設定値がニーズを満たした時点で、[OK] をクリックします。デフォルト設定に戻すには、[リセット] をクリックします。[キャンセル] をクリックすると、新規画像の作成を取り消します。

## 18.3.2 既存の画像を開く

既存の画像を開くには、[ファイル] > [開く] の順に選択するか、Ctrl+O キーを押します。ダイアログが開いたら、希望のファイルを選択します。または、Ctrl+L キーを押し、目的の画像のURLを直接入力します。次に、[開く] をクリックして選択した画像を開くか、[キャンセル] をクリックして画像を開くのを取り消します。

## 18.3.3 画像のスキャン

既存の画像を開いたり、画像を新規作成する代わりに、画像をスキャンすることができます。GIMPから直接スキャンするには、パッケージxsaneがインストールされていることを確認します。スキャンを行うダイアログボックスを開くには、[File] > [Acquire] > [XSane: Device dialog] の順にクリックします。

スキャンするオブジェクトがスキャン領域全体よりも小さい場合は、プレビューを作成します。プレビューを作成するには、[プレビュー] ダイアログボックスの [Acquire preview] をクリックします。領域の一部のみをスキャンする場合は、目的の矩形の部分をマウスで選択します。

[xsane] ダイアログで、白黒(バイナリ)スキャン、グレースケールスキャン、またはカラーイメージスキャンを選択肢、適切なスキャン解像度を指定します。解像度が高くなると、スキャンしたイメージの品質がよくなります。しかし、高解像度では、それに対応してファイルが大きくなり、スキャン処理

に非常に時間がかかることがあります。最終的な画像のサイズ(ピクセル単位およびバイト単位)が、ダイアログボックスの下部に表示されます。

[*xsane*] ダイアログボックスのスライダを使用して、目的のガンマ、明度、およびコントラストの値を設定します。白黒モードの場合、これらのスライダは利用できません。変更内容は即座にプレビューに表示されます。すべての設定が完了したら、[スキャン] をクリックして画像をスキャンします。

## 18.3.4 画像ウィンドウ

新しい画像、開かれた画像、またはスキャンされた画像は、別のウィンドウ内に表示されます。それらのウィンドウの最上部にあるメニューバーを使用して、すべての画像機能を利用することができます。メニューバーの代わりに、画像を右クリックするか、ルーラの左隅にある小さな矢印をクリックする方法でメニューを使用することもできます。

[ファイル] メニューには、[保存] や [*Print (印刷)*] など、標準的なファイルオプションがあります。[閉じる] は、現在の画像を閉じます。[終了] は、このアプリケーション全体を終了させます。

[表示] メニュー内の項目を使用して、画像と画像ウィンドウの表示方法を制御します。[新規ビュー] は、現在の画像を表示する 2 番目の表示ウィンドウを開きます。1つのビューに加えた変更は、その画像を表示している他のすべてのビューに反映されます。追加のビューは、あるビューで画像を拡大表示して操作しながら、他のビューで画像全体を表示する場合に役立ちます。現在のウィンドウの拡大レベルを調整するには、[ズーム] を使用します。[ウィンドウに合わせる] が選択されている場合、現在の画像表示サイズに合わせて、画像ウィンドウのサイズが適切に変更されます。

## 18.4 画像の保存

最も重要な画像機能の処理手順は、[ファイル] > [保存] です。保存の回数が少なすぎるより、多すぎる方が適切です。新しいファイル名で画像を保存するには、[ファイル] > [別名で保存] の順に選択します。何段階か異なる名前を使用して画像を保存すること、または他のディレクトリ内にバックアップを作成することは良い考えです。その結果、以前の状態に簡単に戻ることができます。

初めて保存する場合や、**[別名で保存]**を使用する場合、ファイルの名前と種類を指定するためのダイアログが表示されます。最上部にある**[名前]**フィールドに、ファイルの名前を入力します。**[Save in folder (フォルダに保存)]**の場合は、共通で使用するディレクトリの一覧から、ファイルを保存するディレクトリを選択します。異なるディレクトリを使用、またはディレクトリを新規作成する場合は、**[Browse for other folder(他のフォルダを参照)]**を開きます。**[Select File Type (ファイル形式の決定)]**は、**[拡張子で判別]**のままにしておくことをお勧めします。この設定の場合、GIMPはファイル名に追加された拡張子に基づいてファイルの形式を決定します。使用頻度の高いファイル形式は、次のとおりです。

## XCF

これは、GIMPのネイティブの形式です。画像だけでなく、すべてのレイヤー情報とパス情報を保存します。他の形式の画像を必要とする場合であっても、将来の変更を簡略化するために、XCF形式でコピーを保存しておくことは、通常は良い考えです。レイヤに関する詳細は、[18.5.6項「レイヤ」](#) (270 ページ)を参照してください。

## PAT

これは、GIMPのパターンに関して使用される形式です。画像をこの形式で保存すると、その画像をGIMP内の塗りつぶしパターンとして使用できるようになります。

## JPG

JPGまたはJPEGは、写真や、Webページ用に透過性のないグラフィックスを処理するための一般的な形式です。その圧縮方法はファイルサイズを縮小しますが、圧縮を行う際に一部の情報が失われます。圧縮レベルを調整する際に、プレビューオプションを使用するのは良い考えです。85～75%のレベルを選択すると、多くの場合、許容可能な画像品質(画質)で、妥当な圧縮を達成することができます。同時に、XCFなどロスレス(情報損失なし)の形式で、バックアップを保存しておくこともお勧めします。画像を編集する場合は、完成した画像だけをJPGとして保存します。JPGをロードして保存する作業を繰り返すと、画像品質がすぐに低下する可能性があります。

## GIF

GIFは透過性をサポートするグラフィックスとして、以前は非常に人気ありましたが、現在はライセンスの問題が原因となり、使用頻度が低下しています。GIFは、動画(アニメーション画像)を処理する場合にも使用されています。この形式では、インデックス画像の保存だけを実行できま

す。インデックス付き画像の詳細は、[18.5.7頁「画像モード」](#) (270 ページ) を参照してください。数色のみを使用すると、多くの場合、ファイルサイズは非常に小さくなる場合があります。

## PNG

PNGには、透過性のサポート、ロスレス(情報損失なし)圧縮のサポート、フリー(ライセンス料不要)入手と配布が可能、およびブラウザでのサポートが拡大中という特徴があるので、透過性を使用するWebグラフィックスとしてGIFを凌駕する勢いです。さらに、追加された利点として、PNGは部分的な透過性をサポートしています。これは、GIFがサポートしていない特徴です。この結果、色付きの領域から透過領域へのスムーズな遷移(アンチエイリアシング)が可能になります。

選択した形式で画像を保存するには、[保存]をクリックします。保存を中止するには、[キャンセル]をクリックします。画像が、選択した形式では保存できない機能を利用している場合、その状況を解決する選択肢を示すダイアログが表示されます。[エクスポート]が表示される場合、通常はそれを選択することによって、望ましい結果が得られます。次に、使用可能な形式をオプションとして表示するウィンドウが表示されます。妥当なデフォルト値が用意されています。

# 18.5 画像の編集

GIMPには、画像を変更するためのさまざまなツールが用意されています。ここでは、自宅でご利用のユーザの方に魅力的な機能を取り上げています。

## 18.5.1 画像サイズの変更

画像をスキャンしたり、デジカメから写真をロードした場合、それをWebページに表示したり、印刷をするために、サイズを変更しなければならないことがあります。これらの画像は、縮小したり、不要な部分をカットすることで、簡単にサイズを小さくすることができます。画像サイズを大きくする方は、より大変です。画像はピクセルで構成されているため、画像を大きくすると画像品質が低下してしまいます。画像を編集する前に、元の画像のコピーを保持しておくことをお勧めします。

## イメージのクロッピング

画像のクロッピングは、用紙の端を切り取る作業と似ています。ツールボックスからクロップツールを選択するか、または `[Tools]` > `[Transform Tools]` > `[Crop & Resize]` の順にクリックします。開始点をクリックしてからドラッグして、画像を保持する領域を選択します。

小さなウィンドウに、開始点と選択した領域のサイズに関する情報が表示されます。これらの値を変更するには、クロップボックスの角をクリックしてドラッグするか、ウィンドウ中の値を変更します。 `[From Selection]` は、現在の選択項目に合わせるようにクロップを調整します(選択項目については、[18.5.2項「画像の一部の選択」](#) (264 ページ)を参照)。 `[Auto Shrink]` は、画像中の色の変更に基づいて、クロップを小さくします。

クロップをキャンセルするには、 `[Cancel]` を押します。 `[Crop]` を押すと、画像がクロップされます。 `[Resize]` の結果は、で説明している `[Change Canvas Size]` [キャンバスサイズの変更項](#) (263 ページ)と同じになります。

## 画像の拡大/縮小

画像全体のサイズを変更するには、 `[Image]` > `[Scale Image]` の順にクリックします。 `[Width]` または `[Height]` に、新しいサイズを入力してください。拡大/縮小時に画像の比率を変更するには(画像の変形)、フィールドの右側にあるチェーンアイコンをクリックして、リンクを切断してください。これらのフィールドがリンクされている場合、片方のフィールドの値を変更すると、それに合わせてもう一方のフィールドの値も変化します。 `[X resolution]` および `[Y resolution]` で、解像度を調整します。

`Interpolation` は、拡大/縮小方法を制御する、熟練者向けのオプションです。サイズの調整が完了したら、 `[OK]` を押すと画像が拡大/縮小されます。 `[Reset]` を押すと、元の値に戻ります。 `[Cancel]` を押すと、処理を中止します。

## キャンバスサイズの変更

キャンバスサイズの変更は、画像の周囲にマットを敷くのと似ています。マットが画像より小さい場合でも、画像は残っていますが、その一部しか表示されません。マットを大きくすると、元の画像の全体が見えて、その周囲には余分なスペースが残ります。キャンバスサイズを変更するには、 `[Image]` > `[Canvas Size]` の順にクリックします。

表示されるダイアログに、新しい値を入力します。デフォルトでは、現在の画像の幅と高さの比率を維持するように設定されています。この設定を変更するには、チェーンアイコンをクリックします。

サイズを調整したら、そのサイズに合わせて既存の画像をどの位置に配置するかを指定します。オフセット値を指定するか、または下部にあるフレーム内のボックスをドラッグしてください。変更を完了したら、**[Resize]** をクリックすると、キャンバスサイズが変更されます。元の値に戻すには **[Reset]** を、サイズ変更をキャンセルする場合は **[Cancel]** をクリックします。

## 18.5.2 画像の一部の選択

画像の一部にのみ画像処理を行う必要がある場合もあります。この場合、作業対象となる画像の部分を選択する必要があります。作業対象領域を選択するには、ツールボックスの選択ツールやクイックマスクを使用するか、または複数のオプションを組み合わせで使用します。選択範囲は、**[Select]** 下の項目を使って変更することもできます。選択範囲は *marching ants* と呼ばれる点線で表示されます。

### 選択ツールの使用

メインの選択ツールの使用法はとても簡単です。パス(paths)ツールを使えば選択する以外にもさまざまな処理を行えますが、操作が複雑なためここでは説明しません。他の選択ツールのツールオプションで、**[Mode]** 行にあるアイコンを使って、選択範囲を置換するか、追加するか、削除するか、またはインターセクトするかどうかを指定します。

#### Rect Select

このツールは、長方形または正方形の領域を選択する場合に使用します。選択範囲の形状やサイズを変更するには、ツールオプションの **[Free Select]** **[Fixed Size]** **[Fixed Aspect Ratio]** を使用します。自由選択(Free Select)モードで四角い範囲を選択するには、**Shift** キーを押しながら領域を選択します。

#### Ellipse Select

円形または楕円形の範囲を選択する場合に使用します。長方形の範囲を選択する場合と同じオプションを利用できます。円形の領域を選択する場合は、**Shift** キーを押しながら範囲を選択します。



### Free Select (Lasso)

このツールでは、フリーハンドで選択範囲を指定します。範囲を選択するには、マウスの左ボタンを押したまま画像内の選択する領域をドラッグしてください。マウスの左ボタンを離すと、開始点と終了点の間が直線で結ばれます。その内部の範囲が選択されています。

### Fuzzy Select (Magic Wand)

このツールは、色の類似性に基づいて連続した領域を選択します。

[*Threshold*] のツールオプションダイアログで、色の違いの最大値を設定します。

### By Color Select

画像内で選択したピクセルと同じ色または類似色を持つすべてのピクセルが選択されます。 [*Threshold*] のツールオプションダイアログには、色の違いの最大値を設定することができます。

### Intelligent Scissors

画像中の一連の点をクリックします。点をクリックしていくと、画像内の色の違いに基づいてそれぞれの点がつながられます。開始点をクリックすると、その領域が閉じられます。その内部をクリックすると、そこが選択範囲になります。

## クイックマスクの使用

クイックマスクは、ペイントツールを使って画像の一部を選択する方法です。Intelligent Scissorsやフリーハンド選択ツールを使っておおまかな領域を選択してから、それをクイックマスクで調整すると、目的の領域を手軽に選択することができます。クイックマスクを使用するには、左下にあるダッシュが記載された小さなアイコンをクリックします。

クイックマスクでは、選択範囲が赤のオーバーレイで表示されます。赤味のない領域は選択されていません。マスクを利用する前に、通常通りに表示されていた領域が選択されます。選択範囲を変更するには、ペイントツールを使用します。白でペイントすると、ペイントしたピクセルが選択されます。黒でペイントすると、そのピクセルの選択が解除されます。灰色の部分は部分選択です(色は灰色の陰影として扱われる)。部分選択により、選択領域と選択しない領域間をスムーズに遷移させることができます。


クイックマスクの表示に別の色を使用する場合は、クイックマスクボタンを右クリックして *[Configure Color and Opacity]* を選択します。表示されるダイアログから、目的の色を選択してください。

ペイントツールを使って選択範囲を調整したら、画像ウィンドウの左下にあるアイコン(現在は赤いボックスを表示)をクリックして、クイックマスクビューから元のビューに戻ります。選択範囲が点線で表示されます。

## 18.5.3 色の適用と削除

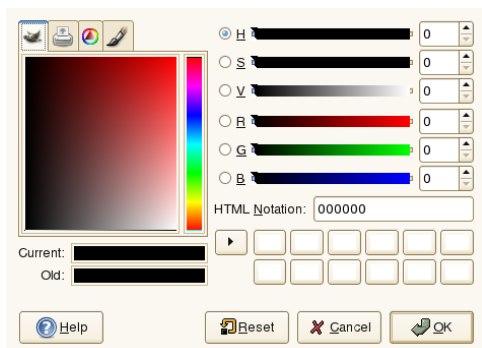
画像の編集時には、しばしば色の適用や削除が行われます。画像の一部を選択して、色を適用したり削除する範囲を制限できます。ツールを選択してカーソルを画像上に移動すると、カーソルが選択したツールに対応した形状に変わります。大部分のツールでは、現在のツールのアイコンに矢印が付いた形状になります。ペイントツールの場合は、現在のブラシのアウトラインが表示されます。そのため、画像内のどこをペイントするのか、そしてどれだけの範囲がペイントされるのかを明確に把握することができます。

### 色の選択

ペイントツールは、前景色を使用します。色を選択するには、まず前景色の表示ボックスをクリックします。4つのタブのあるダイアログが開きます。これらのタブは、異なる色選択方法を提供しています。ここでは、 **18.2.**

「**[Basic Color Selector] ダイアログ**」(267 ページ)に表示されている最初のタブのみを取り上げます。 *[Current]* に新しい色が表示されます。前の色は *[Old]* に表示されます。

## 図 18.2 [Basic Color Selector] ダイアログ



色を選択するもっとも簡単な方法は、左側にある色が表示されているボックスを使用することです。垂直バーで、目的の色に近い色を選択します。左側の大きな領域に、色合いが違う複数の色が表示されます。目的の色をクリックします。[Current] にその色が表示されます。目的の色が表示されなかった場合は、もう一度操作を行ってください。

[Current] の右側にある矢印ボタンを使って、その色を保存することができます。矢印をクリックすると、現在の色が履歴にコピーされます。履歴にコピーされた色は、それをクリックして選択することができます。色の16進数色コードを [HTML Notation] に入力して、直接色を選択することもできます。

色セクタのデフォルトでは、色を色相により選択します。普通のユーザにとっては、この方法が一番簡単です。彩度、値、赤、緑、または青で色を選択するには、右側にある該当するラジオボタンを選択してください。スライダーと数値フィールドを使って、現在選択している色を変更することもできます。いろいろと試して、自分に一番合った方法を見つけてください。

[Current] に目的の色が表示されたら、[OK] をクリックしてください。ダイアログを開いた時点での値に戻すには、[Reset] をクリックします。色の変更を中止するには、[Cancel] をクリックします。

画像内の色を選択するには、カラーピッカーツールを使用します。このツールのアイコンは、目薬の形をしています。ツールのオプションを使って、前景色および背景色を選択するかどうかを設定します。次に、目的の色がある画像内の一点をクリックします。選択した色が正しい場合は、[Close] をクリックしてダイアログを閉じます。

## ペイントと消去

ペイント、諸拳するには、ツールボックスのツールを使用します。各ツールをきめ細かく調整するための、さまざまなオプションが用意されています。**Pressure sensitivity**(圧力感度)オプションは、圧力を感知するグラフィックタブレットを使用する場合にのみ適用されます。

鉛筆、ブラシ、エアブラシ、および消しゴムは、実際の物と同じような働きをします。インクツールは、筆のような働きをします。クリックしてドラッグすると、そこがペイントされます。バケツは、画像内の領域に色を付ける場合に使用します。画像の色境界に基づいて、色が付けられます。色の変化に対する感度を変更するには、しきい値を調整します。

## テキストの追加

テキストツールを使用すれば、画像に文字列を簡単に追加できます。このツールオプションを使って、目的のフォント、サイズ、色、インデント、文字揃え、および行間などを選択してください。次に、画像内にテキストを挿入する場所をクリックします。テキストを入力するための、小さなダイアログが表示されます。1行または複数行のテキストを入力したら、**[Close]**を選択します。

専用のレイヤにテキストが配置されます。テキストの追加後に画像に関する作業を行う場合は、**18.5.6項「レイヤ」** (270 ページ)を参照してください。テキストレイヤがアクティブな状態では、テキストを変更することができます。画像内のテキストをクリックすると、入力ダイアログが再表示されます。ここから、設定を変更してください。

## 画像の修正—クローンツール

画像を修正する場合は、クローンツールが役立ちます。このツールは、画像内の他の部分の情報を使って画像をペイントすることができます。必要に応じて、パターンから情報を取得することもできます。

修正を行う場合は、ソフトエッジの小さなブラシを使用することをお勧めします。そうすれば、修正内容を元の画像と調和させることができます。

画像内のソースとなる場所を選択するには、**Ctrl**キーを押しながら、目的の場所をクリックしてください。次に、普段と同じようにペイントを行います。

ペイント中にカーソルを移動すると、十字で示されているソース点も移動します。[Alignment] に [Non Aligned] を設定すると(デフォルト設定)、マウスの左ボタンを離すとソースがリセットされます。

## 18.5.4 色レベルの調整

理想的な印刷/表示結果を得るために、画像を調節しなければならないようなこともあります。多くのプログラムは不慣れなユーザの方向けに設計され、メイドとコントラストレベルが変更されます。GIMPでも同じですが、色レベルを調節すればより良い結果が得られます。

色レベルを調節するには、[Layer] > [Colors] > [Levels] の順にクリックします。画像内のレベルを調節するためのダイアログが表示されます。通常は、[Auto] をクリックすると、適切な結果を得ることができます。すべてのチャンネルを手動調整するには、[All Channels] のスポイトツールを使って黒、中間色(灰色)、および白にする画像内の領域をピックします。

チャンネルを個別に変更する場合は、[Channel] で目的のチャンネルを選択してください。次に、[Input Levels] にあるスライダーを使って、黒、白、および中間のマーカーをドラッグします。代わりにスポイトツールを使って、チャンネルの白、黒、および灰色ポイントとして使用する画像内の場所を選択することもできます。

[Preview] を選択した場合、変更内容を反映した場合の画像のプレビューが表示されます。適切な結果が得られたら、[OK] をクリックすると、変更内容が適用されます。[Reset] をクリックすると、元の設定にリセットされます。[Cancel] をクリックすると、色レベルの調整がキャンセルされます。

## 18.5.5 操作の取り消し

GIMPで行う操作の大半は、それを取り消してやり直すことができます。変更履歴を表示するには、デフォルトのレイアウトに用意されているUndoダイアログを使用するか、ツールボックスのメニューから [File] > [Dialogs] > [Undo History] の順にクリックします。

このダイアログには、元の画像と、取り消すことができる一連の変更内容が表示されます。ボタンを使って変更内容を取り消したり、やり直してください。このようにして、元の画像に戻して作業を再度行うことができます。変

更内容を取り消した後に別の変更を行った場合、取り消した変更をやり直すことはできません。

[Edit] メニューを使って変更内容を取り消したり、やり直すこともできます。また、Ctrl+ZキーやCtrl+Yキーを使って取り消したり、やり直すこともできます。

## 18.5.6 レイヤ

GIMPでは、レイヤが重要な役割を果たします。画像の各部を個別のレイヤで修正することにより、それぞれの部分を、残りの画像に影響を与えずに変更、移動、または削除することができます。レイヤの仕組みを理解するには、透明なシートを何枚も重ねて作られた画像を想像してください。画像の各部は、それぞれ個別のシートに描かれています。積み重ねる順番を変更して、任意のシートを一番上にもっと来ることができます。個別のレイヤ、または一群のレイヤの位置を移動したり、画像のセクションを別の場所に移動することができます。また、新しいシートを追加したり、既存のシートを取り除くこともできます。

画像のレイヤを表示するには、[Layers] を使用します。テキストツールを使用した場合、テキスト専用のレイヤが自動的に作成されます。アクティブなレイヤが選択されています。このダイアログの一番下にあるボタンを使って、さまざまな作業を行うことができます。また、ダイアログのレイヤを右クリックして表示されるメニューにも、さまざまな機能が用意されています。画像名の前にある2つのアイコンを使って、画像表示を切り替えたり(表示している場合は眼の形をしたアイコンが表示される)、レイヤをリンクすることができます。リンクされているレイヤにはチェーンのアイコンが表示されます。リンクされたレイヤは、グループとして移動できます。

透過性(アルファチャンネル)のあるレイヤだけが、他のレイヤの上に積み重ねることができます。これをレイヤに追加するには、右クリックしてそれをメニューから選択します。

## 18.5.7 画像モード

GIMPには、RGB、Grayscale(グレースケール)、およびIndexed(インデックス)の3種類の画像モードがあります。RGBは標準のカラーモードで、大部分の画像を編集するのに最適なモードです。Grayscaleは、白黒画像で用いられます。

Indexedは、画像内の色を制限します。このモードは、おもにGIFイメージで使用されます。インデックス画像を作成する必要がある場合、通常はRGBで画像を編集してから、インデックス画像に変換して保存します。インデックス画像が必要な形式で画像を保存する場合、保存時にインデックス画像に変換されます。

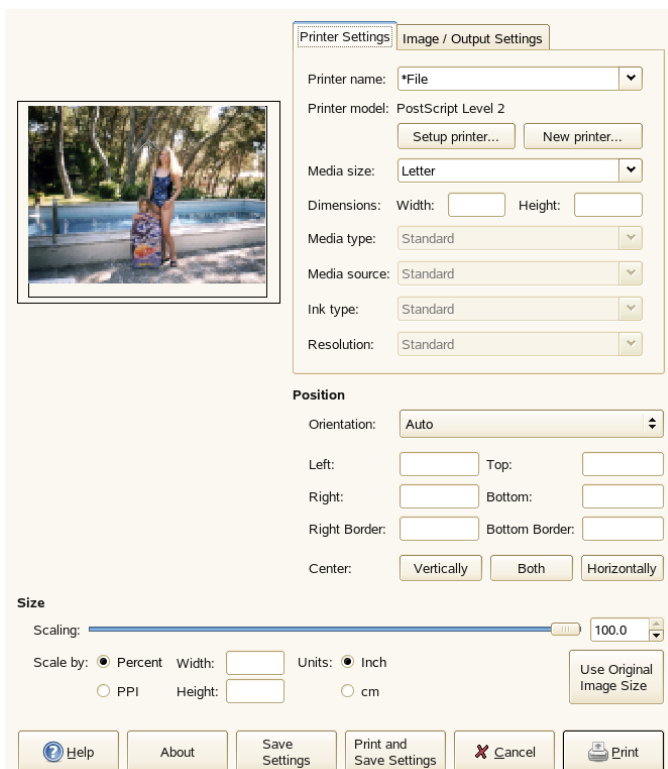
## 18.5.8 特殊効果

GIMPには、さまざまなフィルタやスクリプトが用意されています。これらのフィルタやスクリプトを使って、画像にさまざまな特殊効果を適用することができます。特殊効果を適用するには、*[Filters]* および *[Script-fu]* を使用します。どのような特殊効果があるかは、実際に試してみてください。ツールボックスの *[Xtns]* には、ボタンやロゴを作成するためのさまざまな項目が含まれています。

## 18.6 画像の印刷

画像を印刷するには、画像メニューから *[ファイル]* > *[印刷]* の順に選択します。使用中のプリンタを環境内で既に設定した場合、リスト内にそのプリンタが表示されるはずです。特定の状況では、*[プリンタの設定]* を使用して適切なドライバを選択する必要があることがあります。*[用紙サイズ]* を使用して適切な用紙サイズを選択し、*[用紙の種類]* を使用して種類を選択します。他の設定項目は、*[画像出力設定]* タブ内で指定できます。

### 図 18.3 [印刷] ダイアログ



このウィンドウの下側部分で、画像のサイズを調整します。[*Use Original Image Size*(元の画像サイズを使用する)] をクリックすると、これらの設定値を画像自体から取得できます。画像側で適切な印刷サイズと解像度を既に設定済みの場合は、これを使用することをお勧めします。ページ内での画像の位置を調整するには、[位置] 内のフィールドを使用するか、[プレビュー] 内で画像をドラッグします。

設定値の入力後、[印刷] をクリックします。将来の使用に備えてこれらの設定値を保存するには、代わりに[印刷と設定保存] を使用します。[キャンセル] は、印刷を取り消します。



## 18.7 詳細情報

以下のリソースはGIMPユーザの役に立ちます(一部は旧版に適用されます)。

- [ヘルプ] を使用すると、統合されているヘルプシステムにアクセスできます。このマニュアルは、HTMLおよびPDF形式であり、<http://docs.gimp.org>で入手できます。
- <http://gimp.org/tutorials/>には、GIMPの基本的なチュートリアルや、高度な画像操作テクニックが紹介されています。
- GIMP User Groupは、<http://gug.sunsite.dk>で、情報を掲載したWebサイトを運営しています。
- <http://www.gimp.org>は、GIMPのオフィシャルWeb ページです。
- Carey Bunks氏による『*Grokking the GIMP*』は、古いバージョンのGIMPに基づく優れた書籍です。このプログラムのいくつかの要素は変更されましたが、この書籍は、画像操作に関する優れた案内を掲載しています。この書籍のオンラインバージョンは、<http://gimp-savvy.com/BOOK/>で入手できます。



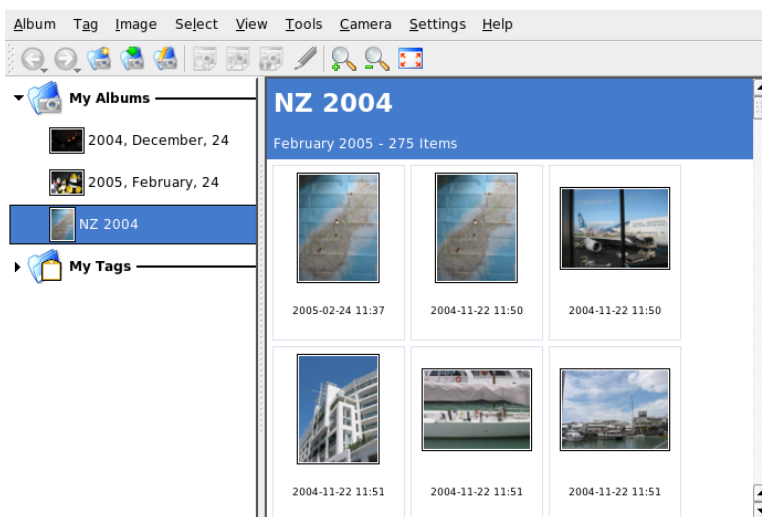
# デジタル画像コレクションの管理

# 19

Linuxでのデジタル写真の管理は簡単です。KDEのdigiKamを利用すれば、カメラから直接画像をダウンロードすることができます。また、画像を整理したり、他人に見せるために編集することもできます。このアプリケーションには、画像をさまざまな形式に変換できる複数のプラグインが含まれています。画像改善プラグインには、赤目補正、汚れ除去、ホットピクセル除去などの機能も含まれています。また、さまざまなフィルタ/効果用プラグインにより、デジタル画像から簡単に芸術作品を作成することができます。

メインメニューからdigiKamを起動するか、**Alt + F2**キーを押してdigikamと入力します。digiKamを起動すると、ウィンドウが表示されます。このウィンドウの左側には、アルバムの一覧が、右側には現在選択されているアルバムの画像が表示されます。参照先 [図 19.1. 「digiKamのメインウィンドウ」](#) (276 ページ). ウィンドウの右端には、*[Tag Filter]* (タグフィルタ)が用意されています。これを利用すれば、タグ情報を使ってメインビューに表示する画像をフィルタリングすることができます。digiKamでのタグの使用方法については、[19.5項 「タグの管理」](#) (280 ページ)を参照してください。

## 図 19.1 digiKamのメインウィンドウ



## 19.1 カメラの設定

デジタルカメラから画像をダウンロードするには、カメラに付属のUSBケーブルを使って、コンピュータのUSBポートにカメラを接続してください。カメラの種類によっては、カメラをデータ転送モードに切り替える必要があるものもあります。詳細は、カメラのマニュアルを参照してください。

カメラにある写真にアクセスするには3つの方法があります。幅広く使われているプロトコルには、**USB**マスタストレージや**PTP**(**PictBridge**)などがあります。カメラの種類によっては、これらのプロトコルを利用できず、**gphoto**が提供する特殊なドライバが必要なこともあります([19.10頁「トラブルシューティング」](#) (295 ページ))。

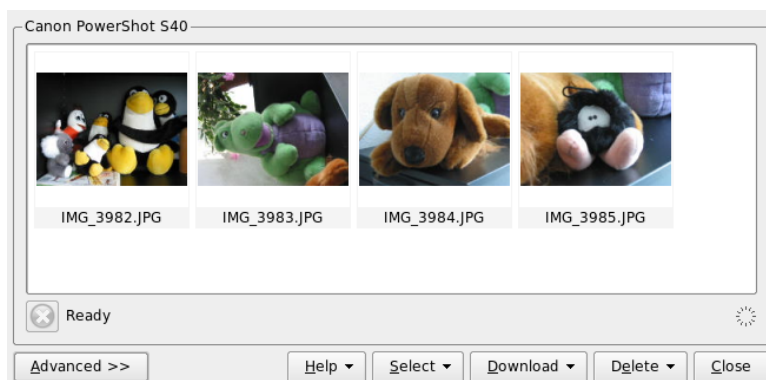
ご使用のカメラが**USB**大容量ストレージデバイスに切り替えることができる場合、このオプションを選択してください。コンピュータの**USB**ポートにカメラを接続して、カメラをオンにしたら、その**USB**デバイスが自動的に検出されてマウントされます。**KDE**では、このようなデバイスがマウントされた時に行う操作を選択することができます。この種類のデバイスのマウント時には、常に**digiKam**または他の画像表示/処理アプリケーションを起動するように設定できます。

digikam内でカメラを設定するには、[カメラ] > [Add Camera(カメラの追加)] の順に選択します。最初に、[Auto-Detect] を使用して、カメラの自動検出を試します。この方法が失敗した場合、[追加] を使用してサポートするカメラのリストを参照し、使用中のモデルを探します。使用中のカメラモデルがこのリスト内にない場合は、それより古いモデルを試してみます。または [USB/IEEE mass storage camera (USB/IEEE大容量ストレージカメラ)] を選択して、[OK] をクリックします。

## 19.2 カメラからの写真ダウンロード

正しく設定されたカメラから画像をダウンロードするには、コンピュータにカメラを接続して、[Camera] メニューからカメラを選択します。digikamはウィンドウを開き、サムネイルのダウンロードを開始し、[図19.2. 「カメラからの写真のダウンロード」](#) (277 ページ)のようにサムネイルを表示します。1つのイメージを右クリックしてポップアップメニューを開きます。メニューには [表示]、[プロパティ] および [EXIF Information(EXIF情報)] の表示、[ダウンロード] または [削除] のオプションが表示されます。[Rename] (名前の変更) オプションを使って画像ファイルの名前を変更したり、カメラが提供するEXIFデータの処理方法を指定するには、ダウンロードウィンドウの下部にある [Advanced] を選択します。

**図 19.2** カメラからの写真のダウンロード



---

## ヒント: 画像の名前の変更

カメラの画像ファイル名がわかりにくい場合は、わかりやすい名前に画像名を変更すると役立ちます。一意のプリフィックスと、必要に応じて日付を指定すれば、デジカムがそれに一連のシーケンス番号を付けたファイル名を作成します。

---

左マウスボタンをクリックするか、**Ctrl**キーを押しながら個別の画像をクリックすることにより、ダウンロードする画像を選択します。 *[Download]* をクリックして リストから場所を選択するか、または *[New Album]* で新しいアルバムを作成すると、現在の日付を入れたファイル名が自動的に表示されます。 *[OK]* をクリックすると、ダウンロードプロセスが開始されます。

## 19.3 情報の取得

画像に関する情報を表示する場合は、画像の上にカーソルを移動するとツールヒントに画像の基本データが表示されます。画像を右クリックして *[Properties]* (プロパティ)を選択し、画像に関する情報を表示することもできます。

利用できるオプションを次に示します。

### 一般

このタブには、名前、日付、サイズ、所有者、およびパーミッションなどの基本情報、および画像のあるアルバム名、この画像に割り当てられているタグや評価などの基本的なアルバム情報が表示されます。

### EXIF

EXIF情報はカメラが提供する情報で、カメラのメーカー、型番、露光時間、解像度など、カメラや画像に関する技術情報が含まれています。基本情報を表示する場合は、 *[Level of detail]* に *[Simple]* を設定します。すべてのデータを設定する場合は、 *[Full]* を選択してください。

### ヒストグラム

画像の明るい部分から暗い部分まで、画像のトーンをグラフィカルに表示するには、 *[Histogram]* (ヒストグラム)タブを使用します。ヒストグラムを使って、この画像が適切な露光で撮影されたかどうかを確認することができます。

## 19.4 アルバムの管理

digiKamのデフォルトでは、画像を保存するために*My Albums*フォルダを作成します。ここに保存された画像は、後でサブフォルダに移動できます。アルバムは、ディレクトリレイアウトごと、アルバムプロパティに設定されたコレクション名ごと、アルバムが最初に作成された日付(この日付は各アルバムのプロパティ内でも変更できます)ごとに保存できます。

新しいアルバムを作成するには、次のいずれかの方法を使用してください。

- ・カメラから新しい画像をアップロードして、ダウンロード時にターゲットアルバムを作成する。
- ・ツールバーにある *[NewAlbum(新しいアルバム)]* ボタンをクリックして、新しいアルバムを作成する。
- ・ハードディスクから画像が保存されている既存のフォルダをインポートする( *[アルバム]* > *[インポート]* > *[Import Folders(フォルダインポート)]* の順に選択)。
- ・ *[My Albums]* を右クリックして、 *[New Album]* を選択する。

新しくアルバムを作成することを選択したら、アルバムのタイトルなど、アルバムを管理するための基本的な情報を指定してください。オプションで、コレクションの選択、コメントの挿入、アルバムの日付の選択ができます。コレクションは一般的なラベルごとにアルバムを構成する1つの方法です。このラベルは、 *[表示する]* > *[アルバム]* > *[By Collection(コレクションごと)]* の順に選択した場合に使用されます。コメントはメインウィンドウの最上部のバナーに表示されます。アルバムの日付は、 *[表示する]* > *[アルバム]* > *[By Date(日付ごと)]* の順に選択した場合に使用されます。

digiKamは、アルバム内の最初の写真を *[MyAlbums(マイアルバム)]* リストのプレビューアイコンとして使用します。異なる写真を選択するには、任意の写真を右クリックし、コンテキストメニューから *[Set as Album Thumbnail(アルバムサムネイルとして設定)]* を選択します。

## 19.5 タグの管理

複数のアルバム間にまたがって、多数の画像を管理する作業はとても大変です。カスタムカテゴリを使って、複数のアルバム間にまたがって画像を管理するために、digiKamには *[My Tag]* 機能が用意されています。タグは、画像を分類するために利用されます。1枚の画像に複数のタグを割り当てることができます。

たとえば、友達のJoeのいろいろな写真を撮影して、それを複数のアルバムに保管している場合を考えてみましょう。ここで、Joeを撮影したすべての写真の概要を簡単に作成する方法はないでしょうか?このような場合に、digiKamのタグを使用して、次の作業を行います。

- 1 上部のメニューバーから *[Tags]* > *[New Tag]* の順に選択して、新しいタグ名を入力します(この例ではJoe)。必要に応じてアイコンを指定し、*[OK]* を選択してダイアログを閉じます。
- 2 各アルバムを開いて、Joeが写っているすべての画像に対してこのタグを割り当てます。タグを割り当てするには、画像を右クリックして *[Assign Tag]* > *[Joe]* の順に選択します。

大量の画像にタグを付ける必要がある場合は、画像を右クリックして表示されるコンテキストメニューの *[Edit Comments & Tags]* オプションが役立ちます。表示されるダイアログでは、タグを割り当てたり、説明を入力したり、画像の評価を指定することができます。最初の画像に対してこれらの項目を設定したら、このダイアログを表示したまま *[Forward]* をクリックすると、アルバム内の他の画像が表示されます。これを利用すれば、アルバム内のすべての画像に対して作業を行えます。作業が完了したら、*[適用]*、および *[OK]* をクリックすると、設定内容が反映されます。他のアルバム内の画像に対しても、同様の作業を行ってください。

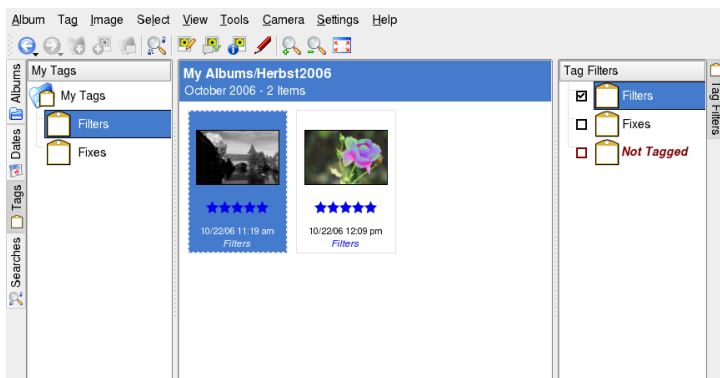
コレクション全体から、特定のタグを持つすべての画像を抽出するには、以下の手順に従ってください(この例では「Joe」)。

- 1 左側のタブバーから、*[Tags]* タブを開きます。
- 2 *[My Tag]* を開きます。
- 3 *[Joe]* タグを選択します。



選択したタグを持つ、コレクション内のすべての画像が表示されます。

### 図 19.3 タグ付き画像のみの表示



メインウィンドウの一番右端にある [Tag Filter] を利用すれば、現在のアルバム中の画像表示を、ここで選択したタグを持つ画像のみに限定することができます。

## 19.6 強力な検索フィルタの作成

目的の画像を素早く簡単に探し出す手段がなければ、画像コレクションはいずれ管理不可能な状態になってしまいます。コレクションの管理を支援するために、digiKamには2種類の検索オプションが用意されています。

### 単純な検索

基本的な検索機能です。画像に関連する文字列(画像名、タグ名、またはコメントなど)を入力して、[OK] をクリックします。今後も使用するためにこの検索を保存したり、[My Searches] に表示されている既存の検索内容を編集することができます。

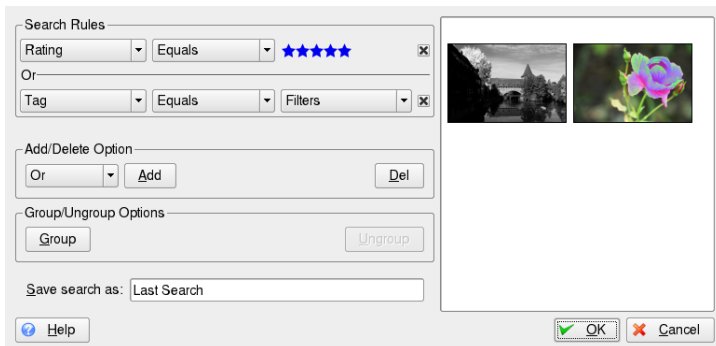
### Advanced Search

複雑な検索フィルタです。任意の画像プロパティ(アルバム、タグ、評価、日付など)を使って複雑なルールを設定し、必要に応じてこれらのオプションを組み合わせます。今後も使用するためにこの検索フィルタを保存したり、[My Searches] に表示されている既存の検索内容を編集することができます。

評価またはタグ情報を使って画像を検索する *[Advanced Search]* の作成方法を、次の例に示します。

- 1 メインウィンドウの左側にある *[Searches]* タブを選択します。
- 2 *[My Searches]* を右クリックして、*[Add New Advanced Search]* を選択します。
- 3 最初の検索基準を選択します。この例では、評価(Rating)が5つ星(5 Stars)の画像を検索するために、*[Rating+Equals+5 Stars]* を選択します。
- 4 *[Add/Delete Option]* セクションで、*[Or]* を選択して、*[Add]* をクリックします。既存の検索ルールの下に、新しい検索ルールが追加されます。
- 5 2番目の検索基準を選択します。この場合、*「Filters」* という名前のタグを付けられたすべての画像を検索するために、*[Tag+Equals+Filters]* を選択します。
- 6 必要に応じて他の検索基準を追加したり、基準をグループ化したり、削除してください。検索結果は、検索ウィンドウに表示されます。
- 7 今後も使用するために検索を保存するには、名前を入力してから、*[OK]* をクリックして *[Advanced Search]* ダイアログを閉じます。

#### 図 19.4 詳細検索フィルタの作成



## 19.7 画像コレクションのエクスポート

digiKamには、個人の画像コレクションのアーカイブと公開に役立つ、いくつかのエクスポートオプションがあります。CDやDVDへのアーカイブ(k3bを使う)、HTMLへのエクスポート、リモートギャラリーへのエクスポートが行えます。

画像コレクションをCDまたはDVDに保存するには、以下の手順に従います。

- 1 [File] > [Export] > [Archive to CD/DVD (CD/DVDへのアーカイブ)] を選択します。
- 2 [Create CD/DVD Archive] ダイアログのいくつかのサブメニューで、必要な調整を行います。それから、[OK] をクリックして、書き込みプロセスを開始します。
  - 2a アルバムおよびタグを選択して( [Selection] ), コレクションのうちのどの部分をアーカイブするかを決めます。
  - 2b [HTML Interface] では、画像コレクションをHTML形式で表示できるようにするかどうか、またCD/DVDアーカイブに自動実行機能を追加するかどうかを指定します。コレクションのタイトル、イメージ、フォント、および背景のプロパティを設定してください。
  - 2c 必要に応じて、[Media Volume Descriptor] のボリューム説明の設定を変更します。
  - 2d 必要に応じて、[Media Burning] の書き込みオプションを変更します。

画像コレクションのHTMLエクスポートを作成するには、以下の手順に従います。

- 1 [File] > [Export] > [HTML Export] を選択します。
- 2 [Create Image Galleries] のいくつかのサブメニューで、必要な調整を行います。完了したら、[OK] をクリックして、ギャラリーの作成を開始します。

- 2a** アルバムおよびタグを選択して、コレクションのうちのどの部分をアーカイブするかを決めます。
- 2b** *[Look]* を使って、HTMLギャラリーのタイトルと外観を設定します。
- 2c** *[Album]* では、ディスク上のギャラリーの場所と、イメージのサイズ、圧縮、フォーマット、および作成されるギャラリー内に表示されるメタデータの量を決めます。
- 2d** *[Thumbnails]* では、ギャラリーに表示するサムネイルのサイズ、圧縮、およびファイルタイプを指定します。

コレクションをインターネット上の外部イメージギャラリーにエクスポートするには、以下の手順に従います。

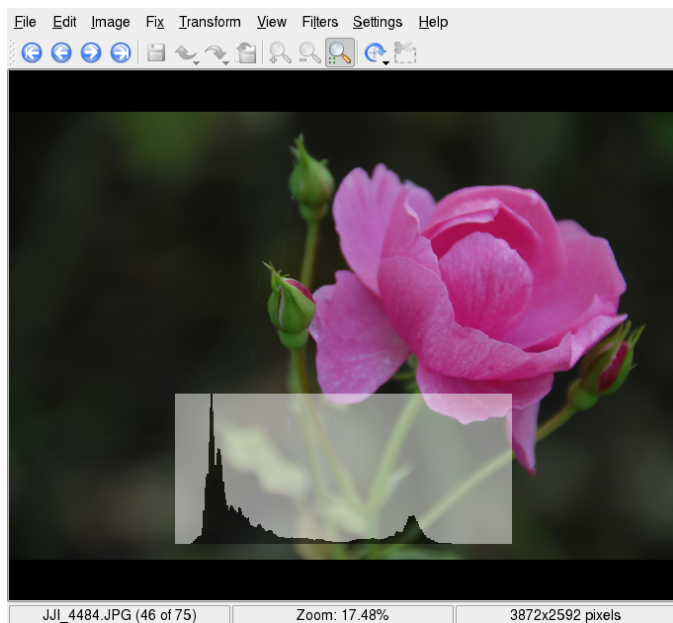
- 1** ギャラリーを置く外部Webサイトのアカウントを取得します。
- 2** *[File]* > *[Export]* > *[Export to Remote Gallery]* を選択して、必要とされた場合は、外部サイトのURL、ユーザー名、パスワードを入力します。Digikamは、指定されたサイトへの接続を確立して、*[Gallery Export]* というウィンドウを表示します。
- 3** ギャラリー内の新しいアルバムの場所を決めます。
- 4** *[NewAlbum]* をクリックして、digiKamから求められたら情報を入力します。
- 5** *[Add Photos]* で、新しいアルバムにイメージをアップロードします。

## 19.8 画像の表示と編集

digiKamには、さまざまなプラグインから成り立つ広範な画像表示/編集機能が用意されています。digiKamを表示/編集モードにするには、画像のサムネイルをダブルクリックします。プラグインを使用するには、digikampluginsパッケージをインストールする必要があります。

画像を拡大/縮小したり、ヒストグラムを挿入するには、*[View]* を使用します。*[Histogram]* オプションを使って、画像の露光に関する情報を表示することができます。

### 図 19.5 ヒストグラムの確認



画像のプロパティ、小メンチ、およびタグを編集したり、簡単な画像効果を適用したり、画像に文字列を挿入するには、*[Image]* メニューを使用します。

#### テクスチャの適用

画像に適用するテクスチャの種類を選択して、テクスチャの強度を指定します( *[Relief]* )。テクスチャが適用され、変更内容が画像のオリジナルコピーに保存されます。

#### 枠線の追加

枠線の種類を選択します。選択した枠線の種類に応じて、枠線の色を1つまたは2つ選択し、枠線の幅を指定します。枠線が作成され、変更内容が画像のオリジナルコピーに保存されます。

テキストの挿入

画像に表示するテキストを入力し、フォント、スタイル、およびサイズを選択します。テキストの文字揃え情報を選択し、テキストを回転するかどうか、および回転する場合はその回転角度を指定します。必要に応じて枠線や透明度を指定します。オリジナル画像のテキスト専用レイヤにテキストが追加されます。

## 19.8.1 画像の修正と微調整

[Fix] メニューを利用して、画像に関するさまざまな欠陥を修正、調整することができます。

Colors

色に関するさまざまな問題を調整します。

Blur/Sharpen(ぼかし/シャープ)

画像をシャープにしたり、ぼがします。

Unsharp Mask(アンシャープマスク)

画像のシャープ性を拡張します。

リフォーカス

フォーカスを調整して、画像をシャープにします。

赤目の除去

フラッシュ使用による赤目を補正します。

Inpainting(塗り直し)

画像内の不完全な領域を修正します。

Hot Pixel Correction(ホットピクセル修正)

カメラセンサの不良ピクセルによる、画像内のピクセルに関する問題を検出、修正します。

復元

ノイズやスクラッチなど、さまざまな種類のデジタル画像に関する欠陥を修正する手段を提供しています。

## Noise Reduction(ノイズ低減)

レンズやセンサのホコリなどが原因の欠陥を修正します。ISO感度を高く設定したことによるピクセルノイズを補正し、低品質スキャンによるノイズや汚れを低減します。

## Lens Distortion Correction(レンズ歪み補正)

広角レンズや望遠レンズの使用による画像の樽型歪みや糸巻き型歪みを補正します。

## ケラレ補正

超広角/超望遠レンズの使用による、画像中央または端のケラレ(口径食)を補正します。

[Fix] の機能を理解するために、たとえば [Inpainting] の機能を見てみましょう。レンズの傷や汚れにより画像に問題が生じた場合を考えてみます。このタイプの問題を修正するには、以下の手順に従います。

- 1 画像を開きます。
- 2 マウスカーソルを使って、修正する領域を選択します。
- 3 [Fix] > [Inpainting] の順に選択するか、またはShift+Iキーを押します。
- 4 傷や汚れを修正する方法を指定します。
  - いずれかのプリセットオプション( [Remove Small Artifact]、 [Remove Medium Artifact]、または [Remove Large Artifact] )を選択し、「**ステップ 6**」に進みます。
  - フィルタパラメータを設定します。**ステップ 5**に従って手順を進めます。
- 5 プリセットフィルタの使用を選択しない場合( [Preset] タブ)、 [Smoothing] と [Advanced Settings] タブを使って、設定内容を調整してください。
- 6 [OK] をクリックすると、設定内容に応じて画像が修正されます。

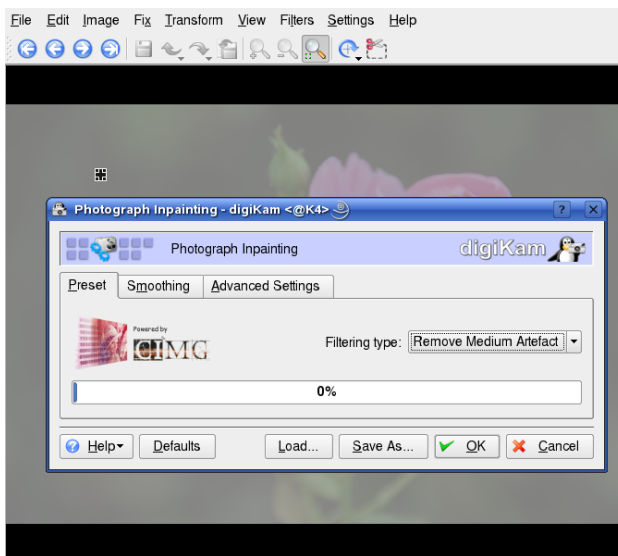
---

## ヒント: 独自のフィルタ設定の作成と再利用

同じ設定を何回も使用する必要があるような場合は(たとえば、レンズの傷により複数の画像に同じ問題が発生しているような場合)、独自のフィルタ設定を作成します。独自のフィルタを保存するには、**[Save As]** をクリックして設定内容をテキストファイルに保存します。以降の画像を修正する場合は、**[Image Inpainting]** ダイアログを開いて **[Load]** をクリックし、使用するフィルタ設定に対応するテキストファイルを選択して **[OK]** をクリックします。

---

図 19.6 **[Inpainting]** を使った傷/汚れの除去



## 19.8.2 画像変換の適用

画像を拡大/縮小したり、回転するには、**[Transform]** メニューを使用します。

### Rotate, Flip, Free Rotation

画像を一定の角度回転します。**[Rotate]** は、画像を90度単位で回転します。**[Free Rotation]** を使用すれば、任意の回転角度を指定できます。



### Crop、Aspect Ratio Crop

画像をクロップします。[Crop] は、画像の長方形の領域を切り取ります。[Aspect Ratio Crop] を使用すれば、さまざまな方法で画像のクロッピングを行うことができます。

### Perspective Adjustment

画像の視野を調整します。たとえば、垂直線または水平線を含む画像の角度がおかしい場合に、このツールを使ってそれを修正することができます。画像の角にあるハンドルを使って、移動してください。その結果として生じた画像端の黒い領域を削除したり、画像をトリミングするには、[Crop] ツールを使用します。

### Shear

画像の一部をある方向に、そして別の部分を反対方向に移動します(垂直または水平方向)。垂直または水平方向の角度を指定して、[Crop] を使って結果の画像をトリミングします。

### Resize、Blowup

画像を拡大/縮小します。[Resize] では、ピクセルまたはパーセントを使って画像サイズを簡単に変更することができます。アスペクト比を維持するかどうかを選択してください。[Blowup] は基本的に、同じような画像サイズ変更処理を実施します。ただし、拡大/縮小するだけでなく、その結果画像にフィルタを適用して、画像品質を改善することができます。最終結果を印刷する必要がある場合は、[Resize] の代わりに [Blowup] を選択してください。ここのフィルタ設定は、テキストファイルに保存することができます。後ほど保存した設定を読み込んで、他の画像に適用することができます。

修正内容に不満がある画像や、一定の形式に合わせて画像をクロップする必要があるような画像がある場合を考えてみましょう。このような場合は、[Aspect Ratio Crop] を使って以下の作業を行います。

- 1 画像を開きます。
- 2 [Transform] > [Aspect Ratio Crop] の順に選択します。
- 3 向きとアスペクト比を指定します。

なし

[X]、[Width]、および[Y]、[Height] スライダーを使って、画像のフリークロップを指定します。

### カスタム

プリセット値の代わりに使用するカスタムの幅と高さの比を選択します。

#### [X:Y Ratio]

これらの比率は、写真の印刷に一般的に使われる用紙サイズの大半に合います。目的に一番合ったオプションを選択してください。

#### [Golden Ratio]

従来から芸術家や建築家に使用されている、最良の調和を産む比率(黄金比:1:1.618)です。

指定した比率で可能な最大サイズのクロップ領域を設定するには、[Max. Ratio] を使用します。

- 4 クロップ領域を設定したら、必要に応じて合成ルールを適用します。見栄えのいい結果を得るための設定には、[Composition Guide] が役立ちます。より良い画像を得るためのガイドとして、点線が表示されます。

---

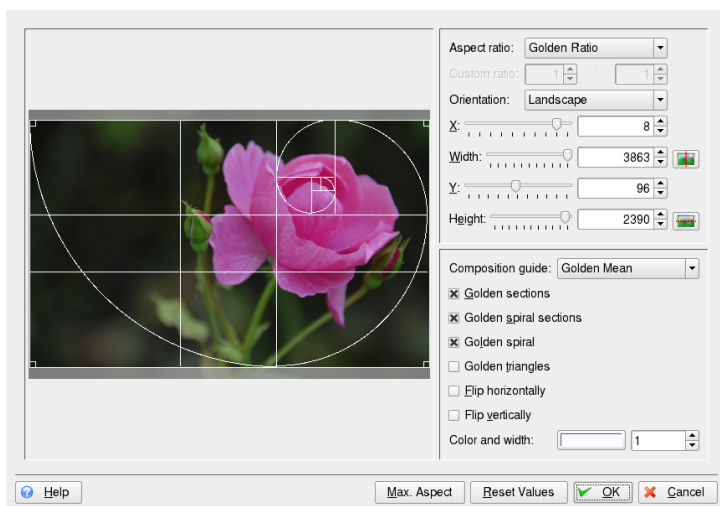
#### ヒント: 詳細情報

これらのオプションの詳細は、<http://docs.kde.org/development/en/extragear-graphics/digikam/using-kapp-imageeditor.html>を参照してください。

---

- 5 クロップ領域が、合成ルールと合わない場合は、移動してください。
- 6 設定内容に合わせて画像をトリミングするには、[OK] をクリックします。

## 図 19.7 アスペクト比クロップを使ったカスタムクロップの作成



### 19.8.3 フィルタと効果の適用

さまざまな基本効果やフィルタを適用して、芸術的な画像や見栄えのいい画像を作成することができます。

#### Black & White

カラー画像を白黒画像に変換します。単純なグレースケール画像に変換する場合は、*[Neutral Black & White]* を選択します。画像内の特定の色を強調するカラーフィルタ(緑、オレンジ、赤、または黄)の使用をシミュレートするには、いずれかの *[Black & White with ... Filter]* オプションを選択します。色彩効果を適用するには、いずれかの *[Black & White with ... Tone]* オプションを選択します。

#### Raindrops

画像に雨滴効果を適用します。雨滴のサイズと数を指定した後に、雨滴によるゆがみの度合いを *[Fish eyes]* に指定します。

#### Infrared Film

非現実的な効果を出すために、赤外線フィルムの使用をシミュレートします。結果は元の画像と大幅に異なります。粒状度やISO感度を調整して、よりアーティスティックな結果を得ることもできます。

### **Oil Paint**

油絵シミュレートします。画像に適用するブラシのサイズとスムージングの度合いを指定してください。

### **Emboss**

画像をエンボス(浮き彫り)加工します。適切な深さを選択してください。

### **Solarize Image**

露光過多状態をシミュレートします。

### **Distortion Effects**

魚眼レンズなどの、さまざまな歪み効果を適用します。種類、レベル、および反復度を指定してください。

### **Add Film Grain**

画像を粗くするために、フィルムの粒状度を上げます。

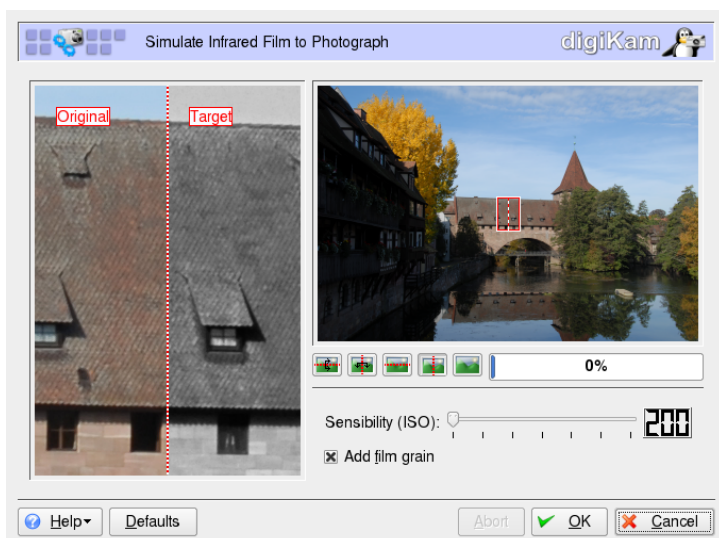
### **Blur Effects**

画像をぼかして、焦点の合わない状態での撮影や、動いている物の撮影をシミュレートします。

### **Charcoal Drawing**

画像を白黒の木炭画に変換します。適切な鉛筆サイズを選択し、画像に適用するスムージングの度合いを指定します。

## 図 19.8 赤外線写真のシミュレート



## 19.9 便利なツール

digiKamには、画像コレクションを整理/編成や、画像の処理に役立つさまざまな機能が用意されています。これらの機能は、**[Tools]** メニュー内に用意されています。

### Find Duplicate Images(重複画像の検索)

コレクション内に重複している画像があるような場合には、このオプションを使って重複画像を検索、削除することができます。まず、検索対象にするアルバムやタグを指定します。**[OK]** をクリックすると、検索が開始されます。コレクションに重複する画像があった場合は、画面に両方の画像が表示されます。ここから、削除する画像を選択することができます。

### カレンダーの作成

使用する画像と用紙サイズ、フォントを選択するだけで、標準のレイアウトを使った単純なカレンダーを作成することができます。

## スライドショー

画像コレクションをスライドショー形式で表示します。スライドショーの範囲、使用する効果、および画像と一緒に表示する情報を指定します。画像表示間隔を設定して、スライドショーを開始します。

## RAW画像コンバータ(単一)

digiKamでは、さまざまなベンダー固有のRAW画像から、JPEGやPNGなどの一般的な形式に画像を変換することができます。このオプションを使って、単一の画像を変換することができます。複数の画像を変換する必要がある場合は、バッチ変換を使用してください( *[Tools]* > *[Batch Processes]* > *[RAW Images Converter (Batch)]* )。お使いのカメラのRAW画像形式をdigiKamコンバータプラグインがサポートしているかどうかを確認するには、<http://www.cybercom.net/~dcoffin/dcraw/>を参照してください。

## バッチプロセス

多数のファイルに対して特定の操作を一括して行います。枠線の追加、色の編集、効果やフィルタの適用、画像の名前/サイズの変更、再圧縮、またはRAW画像の変化などの操作を行えます。

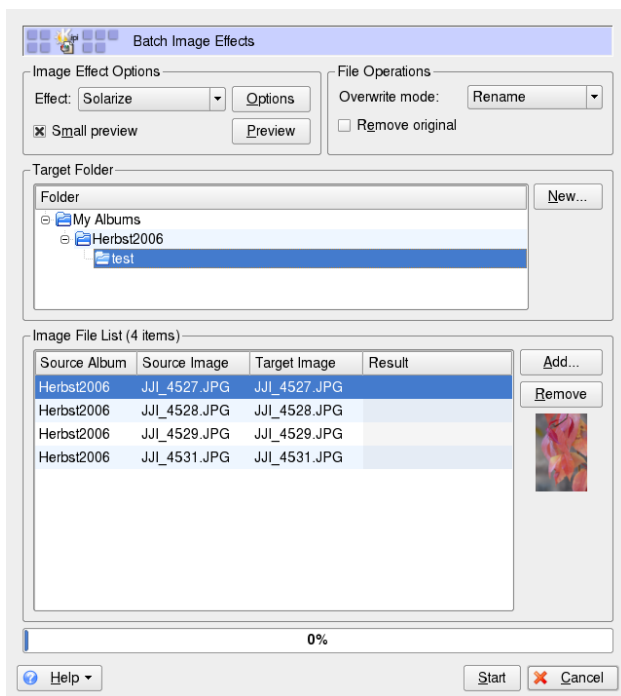
たとえば、多数の画像を露光過多状態に一括して変換することができます。画像をバッチ処理キューに格納したり、実際にバッチ処理を実行するには、以下の手順に従ってください。

- 1 *[Tools]* > *[Batch Processes]* > *[Image Effects]* の順に選択するか、またはアルバム名を右クリックして *[Batch Processes]* > *[Image Effects]* の順に選択します。
- 2 *[Solarize]* 効果を設定して、*[Options]* をクリックし、効果を適用する度合いを設定したり、プレビューを表示します。
- 3 元の画像に上書きするか、それとも名前を付けて保存するかを選択します。また、変換後に画像を削除することもできます。
- 4 変換後の画像を保管するフォルダを設定します。変換後の画像をオリジナル画像のフォルダに保存したくない場合は、*[New]* を選択して新しいフォルダまたはサブフォルダを追加してください。新しいフォルダを選択します。
- 5 変換キューに保存する画像リストをそのまま使用するか、または必要に応じて修正してください。

6 [Start] をクリックすると、画像の変換が開始されます。

進行状況を示すメッセージが表示されます。すべての処理が完了すると、その旨を知らせるメッセージが表示されます。

図 19.9 バッチ処理:画像を露光過多にする



## 19.10 トラブルシューティング

SUSE Linux Enterprise、およびdigiKamはさまざまなカメラをサポートしていますが、SUSE Linux Enterpriseでデジタルカメラを使用する場合に、次のような問題が発生することもあります。

カメラからの画像のダウンロードに失敗する

どのプロトコル(PTPまたはUSB)を使っても、画像のダウンロードに失敗する場合は、digiKamの代わりにコマンドラインを使用してください。

gphoto2 --Pコマンドを実行すると、カメラが初期化されて画像がダウンロードされます(gphoto2がカメラをサポートしている場合)。

お使いのカメラをdigiKamが公式にサポートしていない

gphoto2 --list-camerasコマンドを実行したり、<http://www.gphoto.org/>を参照して、Linuxがサポートするカメラに関する情報を確認してください。

お使いのカメラがこれらの情報源に記載されていない場合は、カメラから記録メディアを取り出して、カードリーダー(外部デバイスや内部デバイス)を使用してください。メディアが検出されたら、自動的にマウントされます。画像をdigiKamコレクションにインポートするには、*[Albums]* > *[Import]* > *[Add Images]* の順に選択するか、または *[Albums]* > *[Import]* > *[Import Folders]* の順に選択します。

## 19.11 詳細情報

Linuxと共にデジタルカメラを使用する方法については、次のWebサイトを参照してください。

- <http://docs.kde.org/development/en/extragear-graphics/digikam/index.html>—digiKam公式ハンドブック
- <http://docs.kde.org/development/en/extragear-graphics/digikamimageplugins/index.html>—digiKamプラグインマニュアル
- <http://www.gphoto.org>—gPhoto2に関する情報
- <http://www.gphoto.org/proj/libgphoto2/support.php>—サポートしているカメラ全般のリスト



## 音楽やムービーの再生

インストール時に、YaSTはお使いのコンピュータにあるサウンドカードを自動的に検出および設定します。YaSTによって自動検出されない場合(または、新しいサウンドカードを取り付けた場合)は、YaSTを起動して、[サウンド]モジュールからサウンドカードを手動設定します。サウンドカードを設定したら、ミキサーを使って音量やバランスを調整したり、他のサウンドアプリケーションを起動したりできます。

Linuxには、幅広いサウンドとマルチメディアのアプリケーションが含まれます。一部のアプリケーションは、デフォルトでLinuxシステムにインストールされます。ここで取り上げているアプリケーションを使用して、CD、音楽ファイル、およびムービーファイルの再生時の音量やバランスを調整できます。

リストに含まれているアプリケーションがデフォルトでシステムにインストールされていない場合には、YaSTを使って不足しているパッケージをインストールしてください。YaSTのパッケージ管理ツールの検索機能を使って、パッケージを見つけてください。

### 20.1 ミキサー

ミキサーは、音量、サウンド出力とコンピュータの入力のバランスをコントロールする使いやすい方法です。デフォルトのKDEおよびGNOMEミキサーアプリケーションの詳細は、それぞれKDEとGNOMEに関する章を参照してください。

多様なミキサー間の相違点には、ユーザインタフェースの外観も含まれています。ただし、特定のハードウェア用に設計されたミキサーもあります。たとえば、envy24controlはEnvy 24サウンドチップ専用のミキサーです。もう1つの例は、RME Hammerfallカード専用のhdspmixerです。使用可能なミキサーの中から、ニーズに最適なミキサーを選択します。

---

### ヒント: ミキサーの開始

一般に、ミキサーアプリケーションは、他のサウンドアプリケーションより前に開いておくことをお勧めします。ミキサーを使用して、サウンドカードの入力と出力のコントロール設定を調整します。

---

## 20.2 音楽ファイルの再生

Linuxには、OGGやWAVファイルなどの音楽ファイルを再生するための、さまざまなアプリケーションが用意されています。たとえば、KDEにはamaroKやJuKなどが用意されています。

### 20.2.1 amaroKメディアプレーヤー

amaroKメディアプレーヤーはさまざまなオーディオ形式に対応し、インターネットラジオ局のストリーミングオーディオ放送を再生できます。サポートされるファイルタイプは使用するエンジンによって異なります。現在のエンジンはxineまたはHelixです。

amaroKは最初に、amaroKをセットアップするための **[初回起動ウィザード]** を起動します。このステップで、amaroKのルックアンドフィールを設定できます。プレーヤーとプレイリストを個別のウィンドウに表示するか(図 20.1. **「amaroKメディアプレーヤー」** (299 ページ)を参照してください)、1つのウィンドウに統合する(デフォルト)かを選択します。2番目のステップでは、amaroKが音楽コレクションを探す場所を指定します。amaroKは、指定されたフォルダをスキャンして再生可能なメディアを探します。デフォルトでは、amaroKは選択されているフォルダを再帰的に(すべてのサブディレクトリを含めて)スキャンし、ディレクトリの内容の変化を監視し、そこに含まれるすべてのプレイリストをインポートするように設定されます。ウィザードで指定したすべての設定は、**[ツール] > [初回起動ウィザード]** を使用して後で再びウィザードを起動して変更できます。

## 20.1 amaroKメディアプレーヤー



## クイックスタート

amaroKは起動時に、ミュージックファイルのコレクションの一部であるフォルダをスキャンします。コレクションを作成せずにamaroKを使用することも可能ですが、強力で高度な機能は、既存のコレクションとのみ使用可能なので、作成することをお勧めします。

amaroKメインウィンドウは、2つの部分に分かれています。左側にあるサイドバーブラウザは、使用するミュージックコレクションおよびプレイリストの異なるビューを含んでおり、それらはファイルブラウザとiPodへのインタフェースです。ブラウザを変更するには、左端にあるタブをクリックします。右側にはプレイリストウィンドウ、およびその下にはプレーヤー(異なるウィンドウで表示されるように設定していない場合)が含まれています。

音楽を再生するには、最初にプレイリストを作成します。いずれかのサイドバーブラウザから、プレイリストウィンドウにアイテムをドラッグアンドドロップします。CtrlまたはShiftを使用してアイテムを複数選択します。プレイリスト内のアイテムをダブルクリックすると再生されます。再生中にリスト

にアイテムを追加したり、リストからアイテムを削除したりできます。右下隅のアイコンを使用して、変更を *[Undo (元に戻す)]* および *[Redo (やり直す)]* が可能で、また、すべてのリストを *[Clear (消去)]* することも可能です。

## サイドバーブラウザ

### コンテキスト

このタブには、各自のコレクションおよび現在のアーティストに関する情報および統計が示されます。 *[Context (コンテキスト)]* ブラウザの最上部にあるタブを使用して、異なるビューに切り替えます。 *[Home (ホーム)]* ビューには、各自のリスニング傾向、お気に入りリスト、最新リスト、および再生頻度が最も少ないトラックまたはアルバムの統計情報が表示されます。 *[Current]* には、再生中のトラックに関するアルバムカバー「*カバーマネージャ* 頂 (302 ページ) を参照」、このトラックのリスニング統計情報などのデータが表示されます。利用可能な場合、 *[Lyrics (歌詞)]* には現在再生中のトラックの歌詞が表示されます。この機能を使用するには、インターネットに接続する必要があります。 *[Artist (アーティスト)]* には、アーティストの情報が表示されます。この情報は Wikipedia から取得されるため、これもインターネットに接続する必要があります。

### コレクション

このタブは、曲タイトルの個人コレクションを管理し、示するために使用します。ブラウザの最上部にあるツールバーを使用すると、コレクションの表示方法の設定およびコレクションの再スキャンまたは再構成を行うことができます。 *[Group By]* を使用して、ブラウザ内でタイトルが表示される順番を定義します。 *[Primary (プライマリ)]*、 *[Secondary (セカンダリ)]*、および *[Tertiary (ターシャリ)]* を使用して、事前に定義された基準または自分で作成したソート基準のいずれかを選択できます。次の2つのアイコンを使用して、ツリーまたはフラットビューの切り替えが可能です。更新アイコンを使用して変更がないかどうかコレクション全体の再スキャンを行い、レンチのアイコンをクリックしてスキャンするフォルダの追加または削除を行います。

特定のアルバム、タイトル、ジャンル、年を検索する場合は、 *[Filter here]* を使用します。タイプするにしたがって、ブラウザ内の選択が調整されます。コレクションをグループ化するのに使用される基準に対してのみ検索できます。 *[Artist / Album (アーティスト / アルバム)]* によってコレ

クッションをグループ化した場合、特定のジャンルに属するタイトルの検索はできません。

## プレイリスト

プレイリストブラウザを使用して、異なるプレイリストにアクセスできます。[プレイリスト]には、コレクションフォルダ内にある個人用プレイリストが含まれます。プレイリストウィンドウから新しくプレイリストを作成し保存するたびに、そのリストはここに'\95\5c'示されます。右クリックしてメニューを開き、新しいプレイリストまたはサブフォルダを手動で追加できます。プレイリストウィンドウから既存のプレイリストに新しいアイテムを追加するには、それらのアイテムをブラウザウィンドウ内のプレイリストにドラッグアンドドロップするだけです。

---

### 重要項目: 他のプレーヤーとのプレイリストの共有

プレイリストは、同じ形式を使用する他のプレーヤーと共有できるように、m3uまたはpls形式で保存してください。

---

[*Smart Playlists* (スマートプレイリスト)] は、再生されたことがないトラック、最新のトラック、またはジャンルごとのトラックなどのさまざまなコレクションのビューを提供します。サブフォルダの追加または自分のスマートプレイリストを作成するには、右クリックします。

[*Radio Streams* (ラジオストリーム)] では、インターネット経由でライブのラジオストリームを聴くことができます。詳細リストがamaroKの出荷にすでに含まれています。さらに追加する、またはサブフォルダを作成するには右クリックします。

[*Podcasts* (ポッドキャスト)] では、amaroKにポッドキャストをインポートします。右クリックすることでメニューが開き、そのメニューからポッドキャストおよびサブフォルダの追加、全ポッドキャストのリフレッシュ、またはスキャン間隔の設定ができます。

プレイリストブラウザウィンドウの最下部では、[*Enable dynamic mode* (ダイナミックモードを有効化する)] を使用したり、[*Show Options* (オプションの表示)] を使用して設定したりできます。ダイナミックモードは、保守が容易な比較的小さなプレイリストを保持しつつ、全体のコレクションの中から音楽を選択できるという柔軟性を可能にする機能です。詳細については、オンラインドキュメントを参照してください(を使用して開きます)。

## メディアデバイス

iPodをお持ちの場合、このブラウザを使用してiPodの音楽を再生したり、コレクションからiPodに音楽を追加したりできます。amaroKを起動する前に、iPodを/mnt/ipodにマウントしておく必要があります。iPodのトラックを再生するには、リストビューからプレイリストウィンドウに再生したいトラックをドラッグアンドドロップします。コレクションからiPodにトラックを追加するには、プレイリストウィンドウから追加したいトラックをリストビューにドラッグします。

## [ファイル]

このタブはファイルブラウザを開きます。これは、ファイルシステムを操作する通常のコントロールを含む、標準のKDEファイル選択ダイアログに対応しています。テキスト入力フィールドに、URLまたはパスを直接入力します。表示されたコンテンツから要素をプレイリストにドラッグして、プレイリストに追加します。特定のファイル内で、あるファイルを再帰検索することもできます。ファイルを検索するには、タイトルのテキスト文字列を入力し、検索を開始する場所を指定します。次に、**[検索]**を選択します。検索結果は、ウィンドウの下側に表示されます。

## カバーマネージャ

amaroKを使用すると、コレクションの各アルバムにカバーを割り当てることができます。**[カバーマネージャ]**を使用して、アルバムカバーを簡単に追加、削除、取得できます。

**[ツール] > [カバーマネージャ]**を選択してカバーマネージャを起動します。ウィンドウの左側のツリービューには、コレクション内のすべてのアーティストが'\95\5c'示されます。ウィンドウの中央部分には、すべてのアルバムのカバーが'\95\5c'示されます。表示されたカバーにフィルタをかけるには、ツリービュー内の個々のアーティストをクリックするか、ウィンドウの最上部にある入力フィールドに用語を入力します。**[View(ビュー)]**を使用して、全アルバム、カバーのあるアルバム、または、カバーなしアルバムの表示を切り替えます。

アルバムにカバーを割り当てするには、3つの異なる方法があります。

### カバーの自動割り当て

amaroKは、メインウィンドウに'\95\5c'示されるカバーのうち欠けているものがあれば、Amazonから自動的に取得します。**[Amazon Locale (Amazon ロケール)]**を使用して、どのAmazon Webサーバーからカバーを取得する

かを決定し、その後、*[Fetch Missing Covers (欠けているカバーの取得)]* をクリックします。

---

### 重要項目: 適切なタグ付けが必要

amaroKでは、アーティスト-アルバムというクエリ文字列を使用して、Amazonからカバーを取得します。この情報は、音楽ファイルのタグから展開されます。タグの付け方が良いと、カバーを自動取得する際のヒット率が上がります。

---

#### Amazonから取得されるカバーの手動選択

どの画像を使用するか、およびどのクエリ文字列を使用してカバーを取得するかをより細かくコントロールしたい場合は、メインウィンドウ内でアルバムを右クリックして、*[Fetch from amazon (Amazonから取得)]* を選択します。*[Next Cover (次のカバー)]* では、利用可能なすべての画像を繰り返し表示できます。*[保存]* を使用すると、実際のカバーが選択され、選択済みのアルバムにそれが割り当てられます。表示されたカバーに満足できない場合は、*[New Search (新規検索)]* を使用して検索を絞り込みます。メインウィンドウのツールバーから *[Amazon Locale (Amazon ロケール)]* を使用して、どのAmazon Webサーバーからカバーを取得するかを決定します。

#### カバーの手動割り当て

自分のカバー画像をすでにお持ちの場合は、アルバムを右クリックし、*[Set Custom Image (カスタム画像の設置)]* を選択することで、その画像を割り当てることができます。

## 視覚化

amaroKには、再生されている音楽に対するグラフィカル効果を\95\5c示するいくつかの視覚化機能\94\5cが含まれています。プレーヤーウィンドウには、amaroK自体に含まれている視覚化機能が表示されます。アニメーションをクリックすると、表示モードを切り替えることができます。

前述の視覚化機能に加え、amaroKではXMMSメディアプレーヤーの視覚化プラグインもサポートされています。これらのプラグインを使用するには、xmms-pluginsパッケージをインストールし、その後にamaroKメニューの *[ツール] > [ビジュアライゼーション]* を選択します。使用可能なプラグインをリストするウィンドウが開きます。XMMSプラグインは常に別のウィ

ンドウに\95\5c示されます。場合によっては、フルスクリーンモードで表示するためのオプションが表示されることもあります。プラグインによっては、アクセラレイティッドグラフィックスカードを使用していない限り、スムーズな視覚効果が得られないこともあります。

## amaroKトレイアイコン

他のKDEアプリケーションと同様、amaroKはKDEのシステムトレイにアイコンを追加します。このアイコンを使用して、amaroKの多くの機能をコントロールできます。アイコンの上にマウスポインタを移動すると、現在再生されているトラックに関する情報が表示されます。左クリックを1回行くと、再生に影響を与えることなくアプリケーションウィンドウが閉じます。もう一度クリックすると、ウィンドウが再度開きます。マウスの中ボタンをクリックすると再生が一時停止します。再開するには、中ボタンを再びクリックします。右クリックすると、プレーヤーコントロールへのアクセスおよびamaroKの終了を行うコンテキストメニューが開きます。マウスホイールをスクロールすると、再生音量が変更されます。

Ctrlおよび<Shift>キーをマウスとともに使用すると、より高度な機能にアクセスできます。マウスホイールをスクロールさせる間、Shiftをホールドすることによって、現在のトラック内を検索します。マウスホイールをスクロールさせる間、<Ctrl>キーをホールドすることによって、プレイリスト内にあるトラックをスキップします。

トレイアイコンにあるアイテムをドラッグアンドドロップして、現在のプレイリストに追加することもできます。トラックをプレイリストに付加するか、付加して再生するか、または現在のトラックのあとに挿入するかを尋ねるポップアップメニューが開きます。



## 20.3 オーディオCDの取り扱い

音楽トラックを再生するには、多くの方法があります。CDを再生するか、そのデジタル化バージョンを再生します。ここでは、CDプレーヤーアプリケーションをいくつか取り上げ、オーディオCDをデジタル化するために使用するアプリケーションについても説明します。

独自のCDの作成方法は、「[第21章 CDとDVDの書き込み](#) (311 ページ)」を参照してください。

---

### 重要項目: CDDAとアナログCDの再生

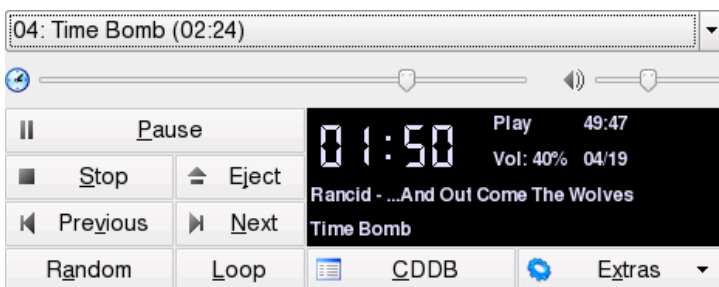
オーディオCDを再生するには、2つの方法があります。アナログCDを再生できるCD/DVDドライブは、オーディオデータを読み出してサウンド出力デバイスに送ります。PCMCIA、FireWire、またはUSBを使用して接続されている外付けドライブは、CDDA (Compact Disk Digital Audio) を使用してオーディオデータを抽出してからデジタルPCMとして再生する必要があります。ここで取り上げるプレーヤーはCDDAをサポートしていません。CDDAのサポートを必要とする場合は、XMMSを使用してください。

---

### 20.3.1 KsCD—オーディオCDプレーヤー

KsCDは使いやすいオーディオCDプレーヤーです。アプリケーションを起動するには、Alt + F2キーを押して、kscdを入力します。KsCDをKDEパネルに統合して、CDが挿入されると自動的に再生するように設定できます。設定メニューにアクセスするには、[エクストラ] > [Configure KsCD (KsCD の設定)] の順に選択します。KsCDは、インターネットでCDDDBサーバからアルバムとトラック情報を取得するように設定できます。CDDDB情報をアップロードして他のユーザと共有することもできます。情報の取得とアップロードには、[CDDDB] ダイアログを使用します。

## 図 20.2 KsCDのユーザインタフェース



## 20.3.2 オーディオデータの圧縮:リッピング

オーディオ圧縮は、さまざまなツールによって実行できます。ここでは、コマンドラインを使用してオーディオデータをエンコードして再生する方法について説明します。一部のグラフィカルアプリケーションにはオーディオ圧縮機能もあります。

### オーディオデータのエンコードと再生のためのコマンドラインツール

Ogg Vorbis (vorbis-toolsパッケージ)は無償のオーディオ圧縮形式で、現在では大部分のオーディオプレーヤーおよびポータブルMP3プレーヤーでもサポートされています。このプロジェクトのWebページは<http://www.xiph.org/ogg/vorbis>です。

お使いのシステムには、Ogg Vorbisをサポートするツールがいくつか付属しています。oggencは、WAVファイルをOggにエンコードするために使用するコマンドラインツールです。指定された.wavファイルをOgg Vorbisに変換するには、`oggenc myfile.wav`を実行します。`-h`オプションで、その他のパラメータの概要が表示されます。Oggencは可変ビットレートでのエンコードをサポートします。この方法で、より高度な圧縮も実現できます。ビットレートの代わりに、必要な品質を`-q`パラメータで指定することもできます。`-b`パラメータは、平均ビットレートを決定します。`-m`と`-M`を使用すると、最小と最大のビットレートを指定できます。

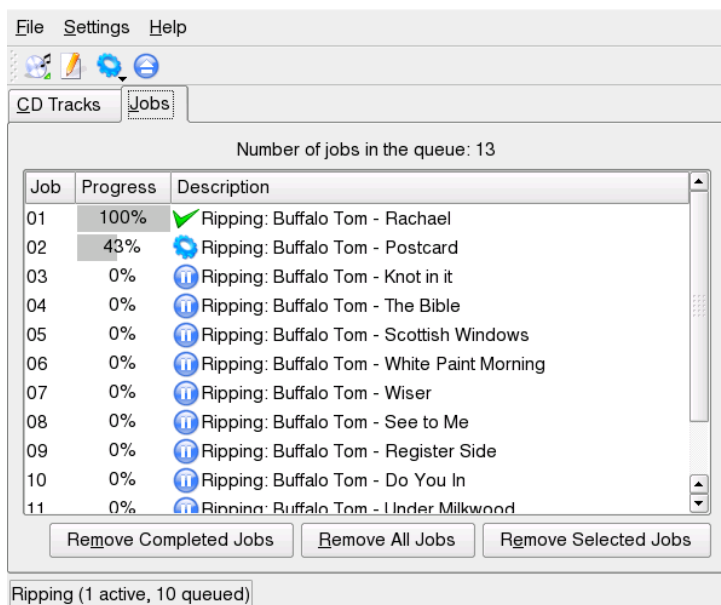
ogg123は、C:\83\7dンドラインOggプレーヤーです。ogg123 mysong.ogg などのコマンドを使用して起動します。

## KAudioCreatorによるオーディオデータの圧縮

KAudioCreatorは、軽量のCDリッパーアプリケーションです(図 20.3.

「KAudioCreatorによるオーディオCDのリッピング」(307 ページ)を参照してください)。KAudioCreatorを起動すると、CDのすべてのトラックが [CDトラック] タブに表示されます。リップしてエンコードするトラックを選択します。トラック情報を編集するには、[ファイル] > [アルバムを編集] の [アルバムエディタ] を使用します。または、[ファイル] > [リッピングを選択] の順に選択してリッピングとエンコードを開始します。このジョブの処理状況は、[ジョブ] タブを使用して確認します。KAudioCreatorは選択内容に応じて再生リストファイルを生成することもできます。amaroK、XMMS、またはHelix Bansheeなどのプレーヤーは、これを使用して再生できます。

図 20.3 KAudioCreatorによるオーディオCDのリッピング

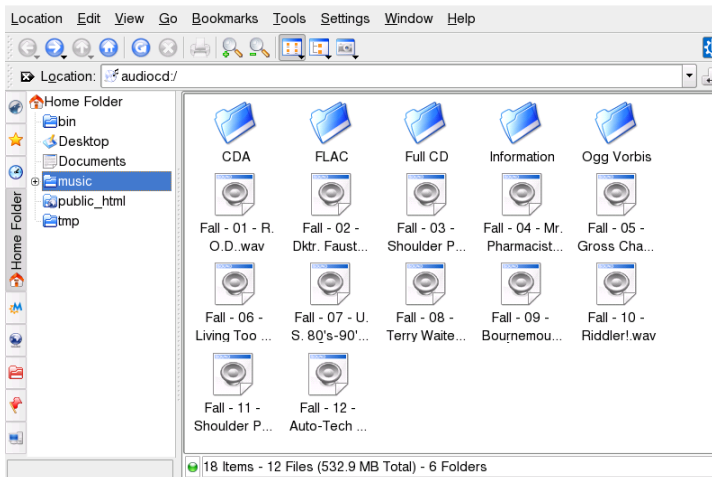


## KonquerorによるオーディオCDの圧縮

Konquerorを使用して実際のリッピングプロセスを開始する前に、KDEコントロールセンターでオーディオCDとOgg Vorbisエンコーダの処理方法を設定します。[サウンド&マルチメディア] > [オーディオCD] の順に選択します。設定モジュールは、[一般]、[名前]、および [Ogg Vorbis Encoder] の3つのタブに分かれています。通常、適切なCDデバイスが自動的に検出されます。自動検出が失敗し、CDデバイスを手動で設定する必要がある限り、このデフォルト設定を変更しないでください。エラー修正およびエンコーダー優先度もここで設定できます。[Ogg Vorbis Encoder (Ogg Vorbisエンコーダ)] タブでは、エンコードの品質を指定します。リッピングしたオーディオデータのアルバム、トラック、およびアーティストの情報をオンラインで検索するように設定するには、[トラック情報の追加] を選択します。

リッピングプロセスは、CDをCD-ROMデバイスに挿入し、[場所] バーに「audiocd:/」と入力して開始します。Konquerorは、CDとフォルダのトラックを表示します(図 20.4. 「Konquerorによるオーディオデータのリッピング」(308 ページ)を参照)。

図 20.4 Konquerorによるオーディオデータのリッピング



解凍されたオーディオデータをディスクに保持するには、.wavファイルを選択して別のKonquerorウィンドウにドラッグし、最終保存場所にコピーします。Ogg Vorbisのエンコードプロセスを開始するには、Ogg Vorbisフォルダまたはこのフォルダのファイルを別のKonquerorウィンドウにドラッグしま

す。Ogg Vorbisフォルダを目的の場所にドロップすると、すぐにエンコードが始まります。

## 20.4 ムービーファイルの再生

SUSE Linux Enterpriseに同梱されている複数のムービープレーヤーから好きなプレーヤーを選択できます。Kaffeineは、デフォルトのKDEムービーファイルで、XineおよびMPlayerなど、いくつかのバックエンドで実行できます。

 **20.5** Kaffeine メインウィンドウ



Kaffeineで再生可能な形式は、バックエンドによって異なります(デフォルトではXineが使用されます)。Xineは、最も一般的なマルチメディア形式の多くを解釈します。詳細については、<http://xinehq.de/>を参照してください。

Kaffeineは、インターネット上にストリームされるマルチメディアも再生でき、また、Konquerorのプラグインとして使用できます。通常オプションには、フルスクリーンモードでのファイルの再生、ファイル内での移動などがあります。ビデオのスナップショットを撮り、画像として保存することもできます。

SUSE Linux Enterpriseには、Kaffeineのほか、RealPlayer for Linuxも同梱されています。RealPlayerは、RealAudio、RealVideo、Ogg Vorbis、Theoraなどをサポートします。

## ❏ 20.6 *RealPlayer for Linux*



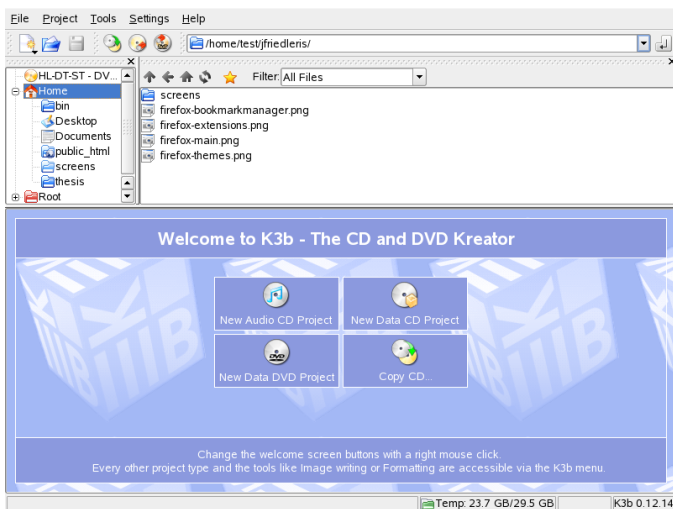
## CDとDVDの書き込み

K3bは、データCDとオーディオCD、DVDの書き込みを行う総合的なプログラムです。メインメニューから [マルチメディア]、[CD/DVDの作成] の順に選択するか、k3bコマンドを入力して、このプログラムを起動します。ここでは、Linuxで初めてCDまたはDVDを作成するユーザーのために、基本の書き込みプロセスを開始する方法について簡単に説明します。

### 21.1 データCDまたはDVDの作成

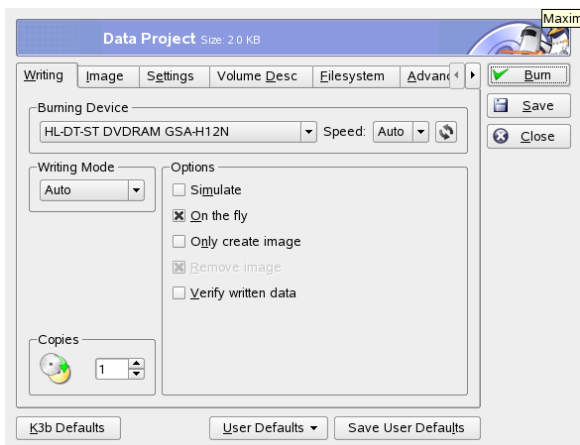
データCDを作成するには、[ファイル] > [新しいプロジェクト] > [新しいデータCDプロジェクト] の順に選択します。データDVDを作成するには、[ファイル] > [新しいプロジェクト] > [新しいデータDVDプロジェクト] の順に選択します。に示すように、ウィンドウの下側にプロジェクトビューが表示されます。図 21.1. 「新しいデータプロジェクトの作成」 (312 ページ) 自分のホームディレクトリ内にある、希望のディレクトリや個別のファイルをドラッグし、このビューヘドロップします。[ファイル] > [名前を付けて保存] を選択して任意の名前を付け、このプロジェクトを保存します。

## 図 21.1 新しいデータプロジェクトの作成



それから、ツールバーの **[Burn]** をクリックするか、**Ctrl+B**を押します。CD/DVDに書き込むためのさまざまなオプション用の6つのタブがあるダイアログが表示されます。詳細については、[図 21.2. 「書き込みプロセスのカスタマイズ」](#) (312 ページ)を参照してください。

## 図 21.2 書き込みプロセスのカスタマイズ





[書き込み] タブには、書き込みデバイス、速度、および書き込みオプションの設定があります。次のオプションがあります。

### *Burning Device*

このポップアップメニューには、検出された書き込みデバイスが表示されます。ここでは書き込み速度も選択できます。

---

#### **警告: 書き込み速度を選択する際の注意**

通常は **[Auto]** を選択してください。これにより、可能な最大速度が選択されます。しかし、この値を大きく設定して、システムがそれに十分な速度でデータを転送できない場合には、バッファアンダーランの可能性が大きくなります。

---

### *書き込みモード*

このオプションは、レーザーのCD/DVDへの書き込み方法を指定します。CDの場合、DAO、TAO、およびRAWの3種類の方法を利用できます。

**[DAO]** (disk at once、ディスクアットワンス)モードでは、ディスクに書き込んでいる間、レーザーを無効にしません。オーディオCDを作成する場合、このモードをお勧めします。**[TAO]** (track at once、トラックアットワンス)モードでは、個別の書き込みプロセスが個々のトラックごとに使用されます。**[RAW]** (ロー)モードは使用頻度があまり高くありませんが、ライターがデータ補正を何も行わないのが特徴です。

DVDの場合は、DAO、追加、および上書きの3種類の方法を利用できます。DVDの場合、DAOモードではマルチセッションはサポートされていません。マルチセッションDVDを作成する場合は、追加モードを使用してください。上書きモードでは、growisofsを使って上書き可能メディアの最初のセッションから、ISO9660ファイルシステムを増加させることができます。

通常は、**[Auto]** を選択することをお勧めします。この場合、K3bが適切な設定を決定します。

### *Simulate (シミュレート)*

この機能を使用して、使用中のシステムが、選択された書き込み速度をサポートしているかどうかチェックすることができます。システムをテストするために、レーザーを無効にして書き込みます。

### *On the Fly*

イメージファイルを最初に作成することなく、希望のデータを書き込みます(パフォーマンスの低いコンピュータでは、この機能を使用しないでください)。イメージファイルはISOイメージとも呼びますが、CDの内容全体を保持しているファイルであり、通常はこのファイルを作成した後、その内容をそのままCDに書き込みます。

イメージのみを作成します。

このオプションは、イメージファイルを作成します。 *[Image]* タブの *[Temporary File]* に、このファイルのパスを設定します。後で、このイメージファイルをCDに書き込むことができます。この作業を行うには *[ツール] > [CDイメージを書き込む]* の順に選択します。このオプションを使用する場合、このセクション内にある他のすべてのオプションは無効になります。

### *Remove Image*

書き込みが終了するときに、一時イメージファイルをハードディスクから削除します。

### *Verify Written Data*

元のデータと書き込まれたデータのMD5チェックサムを比較することによって、書き込まれたデータの完全性を確認します。

*[Image]* タブは、 *[Only create image]* オプションが選択されている場合のみ利用できます。この場合、ISOを書き込むファイルを指定します。

*[Settings]* タブには2つのオプションがあります。 *[DatatrackMode]* は、CDの場合のみ利用できます。このオプションでは、データトラックの書き込み方法を設定することができます。通常は、 *[Auto]* を選択すれば最適な方法になります。 *[Multisession Mode]* は、書き込みが行われたものの、まだファイナライズされていないメディアにデータを追加するために使います。

*[ボリュームのID]* タブで、このデータプロジェクトを識別するために使用できる一般情報、発行者と作成者、このプロジェクトの作成に使用されたアプリケーションとオペレーティングシステムを入力します。 *[File system]* タブでは、ファイルシステム(RockRidge、Joliet、UDF)の設定を行います。また、シンボリックリンク、ファイルのパーミッション、および空白を扱う方法も決定します。 *[詳細]* タブでは、経験のあるユーザが追加の設定項目を指定することができます。

必要に応じてすべての設定を調整したら、[書き込む]を使用して実際の書き込みプロセスを開始します。または、これらの設定を将来の使用や調整に備えて、[保存]を使用し保存します。

## 21.2 オーディオCDの作成

基本的に、オーディオCDの作成とデータCDの作成に大きな違いはありません。[ファイル] > [新しいオーディオCDプロジェクト]の順に選択します。個別のオーディオトラックをプロジェクトフォルダにドラッグアンドドロップします。オーディオデータは、WAVまたはOgg Vorbisのどちらかの形式でなければなりません。プロジェクトフォルダ内でトラックを上下に移動することにより、トラックの順序を決定します。

CD Textを使えば、CDのタイトル、アーティスト名、トラック名などのテキスト情報をCDに追加できます。この機能をサポートしているCDプレーヤは、この情報を読み取って表示することができます。オーディオトラックにCD Text情報を追加するには、はじめにトラックを選択します。右クリックして[プロパティ]を選択します。新しいウィンドウが表示され、情報を入力することができます。

オーディオCDを書き込むためのダイアログは、データCDを書き込むためのダイアログと大差ありません。しかし、[DAO]と[TAO]のモードは大きな違いをもたらします。[TAO]モードでは、各トラックの後に2秒の中断時間を挿入します。

---

### ヒント: データの完全性の維持

オーディオCDを書き込むときは、低速の書き込み速度を選択した方が書き込みエラーが発生する可能性は低くなります。

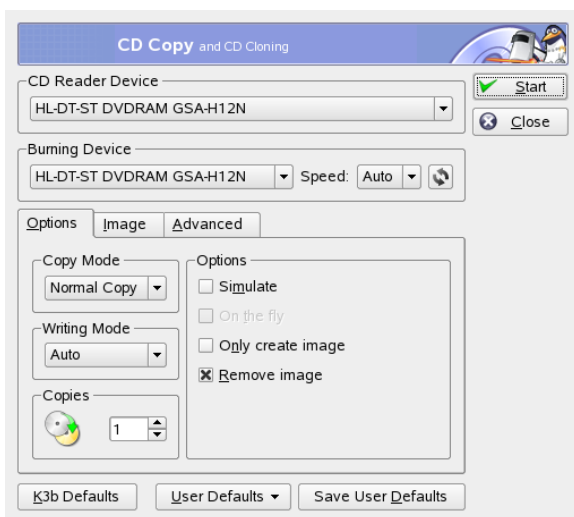
---

必要に応じてすべての設定を調整したら、[書き込む]を使用して実際の書き込みプロセスを開始します。または、これらの設定を将来の使用や調整に備えて、[保存]を使用し保存します。

## 21.3 CDまたはDVDのコピー

メディアに応じて、[ツール] > [CDをコピー] か [ツール] > [DVDをコピー] を選択します。表示されたダイアログで、[図 21.3. 「CDのコピー」](#) (316 ページ)に示すように、読み取りデバイスと書き込みデバイスに関する設定を行います。これまでに説明した書き込みオプションは、ここでも使用できます。追加の機能により、CDやDVDのコピー枚数を指定することもできます。

 **21.3** CDのコピー



他のデバイスから読み込みながら、それをメディアに書き込む場合は、[On the fly] を選択します。[Image] タブの [Write image file to] に指定されたパスに画像を作成し、イメージの書き込みは後で行う場合は、[Only create image] を選択します。

## 21.4 ISOイメージの書き込み

すでにISOイメージが手元にある場合、[ツール] > [CDイメージを書き込む] の順に選択します。[書き込むイメージ] の場所を入力するためのウィンドウが表示されます。K3bによってチェックサムが計算され、[MD5 Sum]

行にその値が表示されます。そのISOファイルがインターネットからダウンロードしたものである場合、このチェックサムはダウンロードが成功したかどうかを示します。

[オプション] と [詳細] の各タブを使用して、自分の好みに合う値を設定します。CDに書き込むには、[開始] をクリックします。

ISOイメージをDVDに書き込むには、[Tools] > [Burn DVD ISO image] の順に選択して、書き込むイメージを選択します。書き込みモードと書き込み枚数を指定して、他の適切なオプションを選択します。書き込んだDVDのデータ整合性をチェックする場合は、[Verify written data] を選択します。

## 21.5 マルチセッションCDまたはDVDの作成

マルチセッションのディスクでは、データを複数回にわたって書き込むことができます。この機能は、メディアよりも小さなバックアップを書き込む場合などに役立ちます。セッションごとに、バックアップファイルを追加していくことができます。興味深い点として、この機能はデータCDやDVDだけに限られているわけではありません。マルチセッションディスクにオーディオセッションを追加することもできます。

マルチセッションのディスクを作成するには、以下の手順に従います。

- 1 まず、データディスクを作成して、すべてのファイルを追加します。オーディオCDセッションから開始することはできません。ディスクがいっぱいになっていないことを確認してください。新しいセッションを追加することができません。
- 2 データを書き込むには、[プロジェクト] > [Burn] の順に選択します。
- 3 表示されるダイアログボックス内で、[Settings] タブに移動し、[Start Multisession] を選択します。DVDの場合は、DAO書き込みモードを使用しないでください。このモードは、マルチセッションをサポートしていません。

4 必要に応じて他のオプションを設定します。関連項目 **21.1項「データCDまたはDVDの作成」** (311 ページ).

5 **[Burn]** をクリックして、書き込みセッションを開始します。

書き込みセッションが正常に完了すれば、マルチセッションのディスクになります。メディアに空きスペースがある限り、必要に応じてセッションを追加することができます。ディスクのファイナライズは、新しいセッションを追加する必要がない場合、またはスペースが残っていない場合にのみ行ってください。

---

#### 注意: マルチセッションのディスクの容量

マルチセッションのディスクでは、セッションのすべてのエントリを管理するためのスペースが必要であることに注意してください。そのため、ディスクの使用可能な容量は小さくなり、セッション数に応じて変わります。

---

## 21.6 詳細情報

K3bには、これまでに説明した2つの機能のほかに、WAVフォーマットのオーディオデータの読み取り、CDへの追加書き込み、統合されたオーディオプレーヤでの音楽の再生など、他の機能もあります。このプログラムで使用可能なすべての機能の詳細は、<http://k3b.org/>で入手できます。



# 必要な情報を検索する

お客様の日常的なSUSE Linux Enterprise®の利用をサポートし、Linuxシステムに関する理解を支援するために、Novell SUSEとオープンソースコミュニティは、さまざまな情報を提供しています。関連情報が、さまざまな形式で用意されています。たとえば、本製品に付属のドキュメントを参照したり、インターネット上のさまざまな情報を利用することができます。

## A.1 付属のドキュメント

製品に付属のオンラインドキュメントは、さまざまな場所に格納されています。KDEデスクトップにはHelp Centerがあり、そこからさまざまなオンラインドキュメントにアクセスすることができます。Help Centerでは、SUSE Linux Enterprise®固有の情報だけでなく、オープンソースコミュニティが提供するアプリケーションの詳細情報も利用することができます。

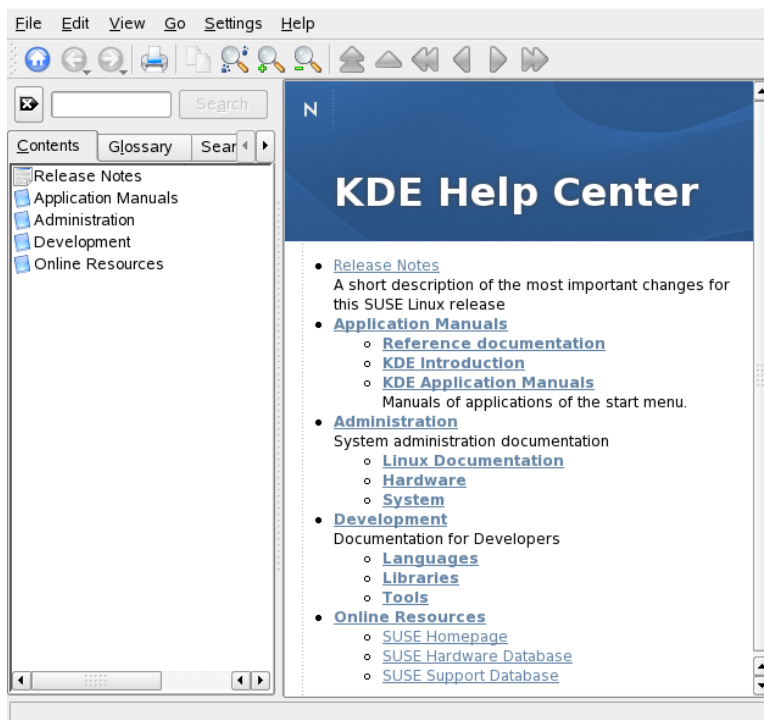
YaSTを使って新しくソフトウェアをインストールした場合、通常はそのソフトウェアのドキュメントも自動的にインストールされ、KDEデスクトップのHelp Centerに表示されます。ただし、GIMPなどの一部のアプリケーションは、YaSTとは別個にインストールされる独自のオンラインヘルプパッケージを利用しており、Help Centerには表示されない場合があります。

### A.1.1 Help Centerの使用方法

Help Centerにアクセスするには、さまざまな方法があります。アプリケーション内で [ヘルプ] ボタンをクリックするか、またはF1キーを押すと、Help

Center内の該当するアプリケーションに関するドキュメントが表示されます。メインメニューから、または「susehelp」コマンドを入力してHelp Centerを起動した場合は、次のようなHelp Centerメインウィンドウが表示されます。

### ☒ A.1 Help Centerのメインウィンドウ



メニューとツールバーには、Help Centerの内容を印刷したり、表示しているページ内を検索したり、Help Center内を移動したりカスタマイズするためのオプションが用意されています。ウィンドウの右側にある表示フィールドには、オンラインマニュアル、検索結果、またはWebページなど、選択したコンテンツの内容が表示されます。

左側のナビゲーションエリアには、複数のタブがあります。

#### 目次

利用できる情報ソースがツリービューで表示されます。Help Centerは、ユーザ、管理者、開発者など、さまざまなグループを対象にしています。ブックアイコンをクリックすると、個別のカテゴリが開いて、参照可能に



なります。たとえば、見出し「管理」では、コマンドラインプログラムに関連するさまざまなマニュアル(man)や情報(info)ページを参照することもできます。また、Help Centerからは、特定のハードウェアやソフトウェアに関する製品の問題を取り上げたオンラインデータベースにアクセスすることもできます。検索インデックスを一度生成すると、これらのソースすべてを快適に検索できます。

Help Centerで利用できる内容は、現在インストールされているソフトウェアパッケージと、設定されているシステム言語によって異なります。

## 用語集

わからない用語を探して、説明を参照することができます。

## Search Options

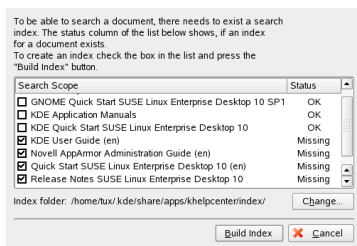
Help Centerを全文検索するためのオプションが用意されています。さまざまな検索基準を指定して、検索を行うことができます。

全文検索を行うには、検索インデックスを生成して、検索パラメータを設定する必要があります。以前に検索インデックスが生成されていない場合は、**[検索]** タブをクリックした時点、または検索文字列を入力して **[検索]** ボタンをクリックした時点で、システムは自動的に検索インデックスを生成するかどうかを確認するメッセージを表示します。

### 手順 A.1 検索インデックスの生成

- 1 検索インデックスを作成するには、メニューから **[設定] > [Build Search Index]** の順に選択します。ウィンドウに、現在Help Centerで利用できるドキュメントが一覧表示されます。
- 2 検索インデックスを生成するドキュメントを選択し、**[インデックス作成]** をクリックします。インデックスが生成されたら、全文検索を実行することができます。

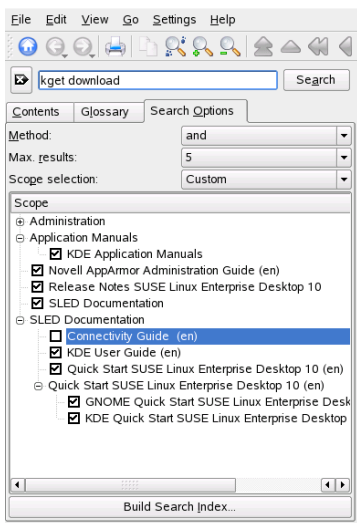
## 図 A.2 検索インデックスの生成



## 手順 A.2 全文検索を実行する

- 1 **[Search Options]** をクリックして、検索する文字列を入力します。
- 2 演算子を使って複数の文字列を組み合わせた検索を行う場合は、**[Method]** をクリックして、使用する演算子を選択します。
- 3 表示する検索結果数を制限する場合は、**[Max. Results]** からオプションを選択します。
- 4 検索するドキュメントの種類を指定する場合は、**[Scope]** からオプションを選択します。**[Default]** を選択した場合、あらかじめ定義されている種類のドキュメントが検索対象になります。**[All]** は、すべての種類のドキュメントを検索対象にする場合に使用します。**[Custom]** は、検索対象にするドキュメントを設定する場合に使用します。検索を実行するドキュメントだけを選択してください。

## 図 A.3 検索オプションの組み合わせ



- 5 適切なオプションを設定したら、[検索] をクリックします。検索結果が一覧表示されます。表示されているリンクをクリックすると、ドキュメント中の該当する場所に移動することができます。

## A.2 他のリソースや詳細情報

本製品のマニュアルやドキュメントは、インターネット上の<http://www.novell.com/documentation/sled10/>からアクセスすることもできます。

他の情報をお探しの場合は、次のインターネットサイトも参照してください。

Novellテクニカルサポートナレッジベース  
<http://www.novell.com/support/>

製品サポートコミュニティのリソース  
<http://support.novell.com/forums/index.html>

KDEドキュメントWebサイト

<http://www.kde.org/documentation>

KDEアプリケーション用のドキュメントWebサイト

<http://www.kde-apps.org>

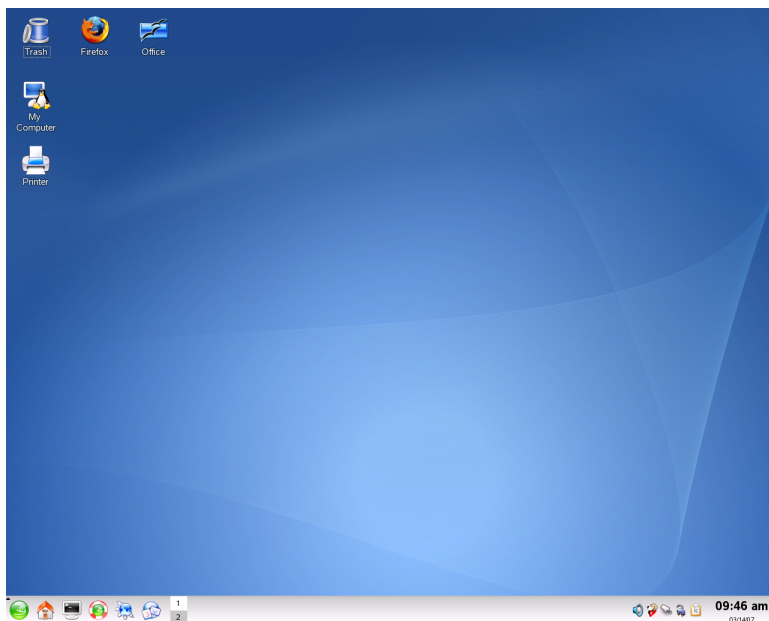
また、一般的な検索エンジンも、目的の情報を探す場合に役立ちます。たとえば、CDの書き込み時の問題や、OpenOffice.orgファイルの変換に関する問題を調べたい場合は、「Linux CD-RWヘルプ」や「OpenOfficeファイルの変換の問題」のような用語を検索します。また、Google™にはLinux用の検索エンジン<http://www.google.com/linux>も用意されています。このエンジンを利用すれば、有益な情報を探し出すことができます。

# B

## WindowsからLinuxへの移行

Microsoft WindowsからLinuxに移行された場合は、Windowsでおなじみの機能が、SUSE Linux Enterprise®ではどのようにになっているかご確認ください。ログインすると、WindowsやMacintoshデスクトップで見慣れたアイコンやレイアウトが表示されることにお気づきになるでしょう。

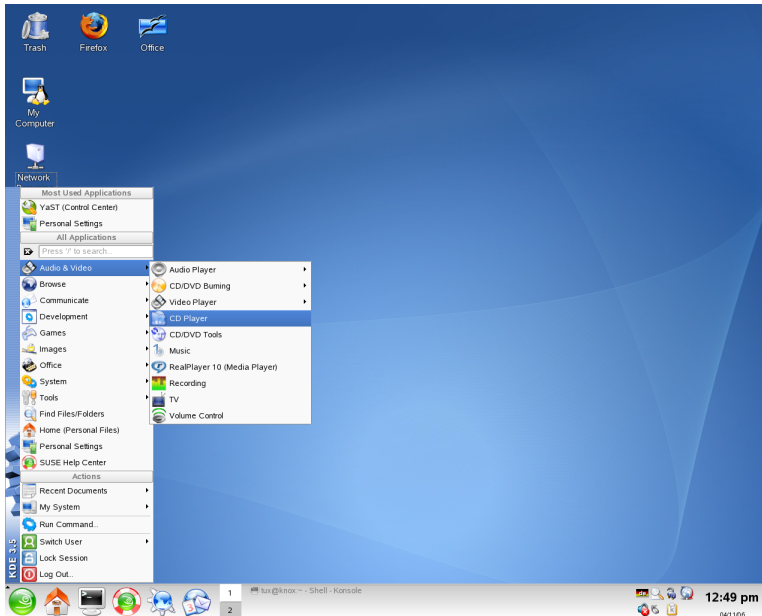
### ☒ **B.1** KDE デスクトップ



## B.1 メインメニューからのアプリケーションの起動

Windowsの「スタート」メニューのように、お使いのシステムにインストールされているすべてのプログラムは、メインメニューから起動することができます。メニューを開くには、パネルの左隅にある緑色のSUSEアイコンをクリックします。このメニューは機能中心の構造になっており、アプリケーションの名前が分からないような場合でも、目的に合ったアプリケーションを簡単に見つけることができます。メインメニューの詳細は、[1.3.1項「メインメニューへのアクセス」](#) (11 ページ)を参照してください。

### B.2 KDEのメインメニュー

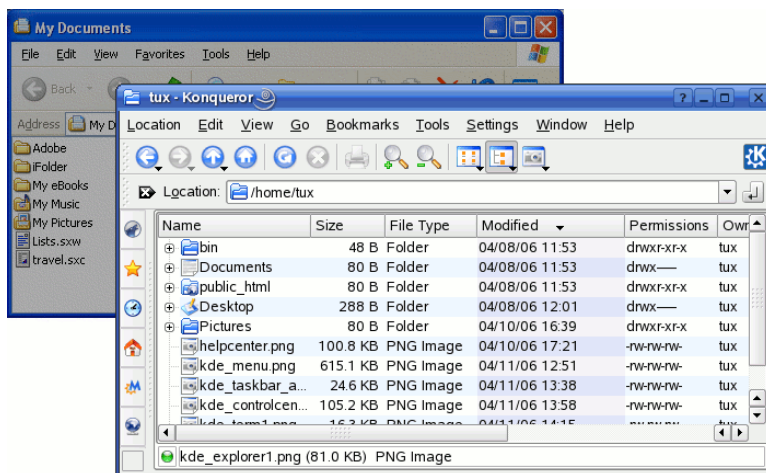


コマンドラインからプログラムを実行することもできます。この場合、**Alt + F2**キーを押して表示されるダイアログで、アプリケーションを起動するコマンドを入力します。一般的に、コマンド名はアプリケーション名を小文字表記したものになります。ただし、一部例外もあります。

## B.2 ファイルの管理

デフォルトのKDEファイルマネージャ(およびインターネットブラウザ)のKonquerorを起動するには、**Alt+F2**キーを押して、konquerorと入力します。ホームディレクトリのコンテンツを表示するには、*[Personal Files]* をクリックします。このビューを直接表示する場合は、パネルのクイックスタートアイコンを使用します。

### ☒ B.3 WindowsエクスプローラとKonqueror

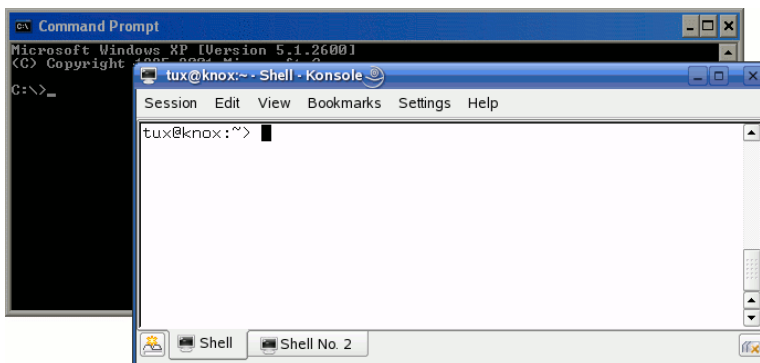


ファイルマネージャとしてのKonquerorの詳細は、[1.4項「フォルダおよびKonquerorのあるファイルの管理」](#) (19 ページ)を参照してください。

## B.3 コマンドラインの使用

Windowsのコマンドプロンプトのようにコマンドラインからコマンドを実行する場合は、**Alt+F2**キーを押してkonsoleと入力するか、またはパネルのクイックスタートアイコンを使用します。

## ☒ B.4 Windows コマンドプロンプトとKonsoleターミナル



コマンドラインに関する作業の詳細は、「第15章 *Working with the Shell* (↑Deployment Guide)」を参照してください。

## B.4 デスクトップのカスタマイズ

KDEデスクトップの外観や動作を変更するには、**Alt + F2**キーを押して、**kcontrol**と入力します。変更できる設定には、デスクトップの背景、スクリーンセーバ、キーボードとマウスの設定、サウンド、およびファイルの関連付けなどがあります。



## B.5 WindowsのコントロールパネルとKDEコントロールセンター

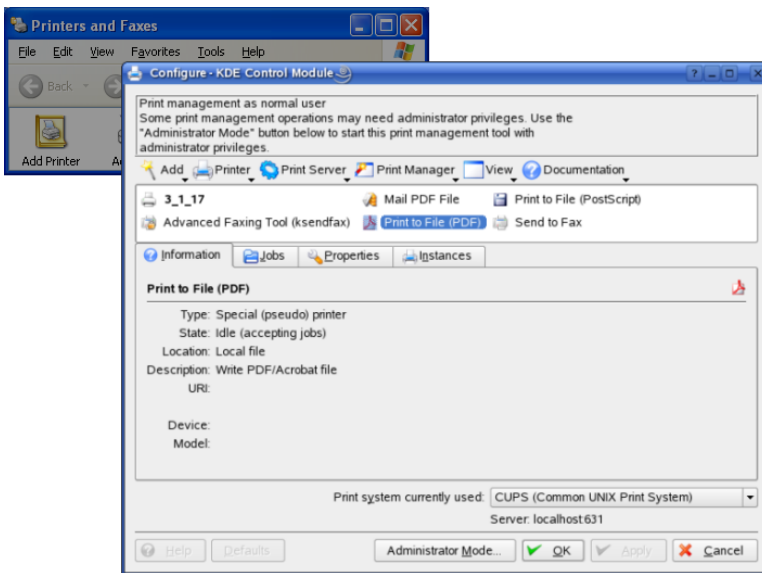


詳細については、[2.1項「KDEコントロールセンターの使用」](#) (51 ページ)を参照してください。

## B.5 プリンタのセットアップ

SUSE Linux Enterpriseにプリンタを追加、またはセットアップするには、メインメニューからPrinting Managerを起動します。プリンタの追加や削除、印刷ジョブの管理、および印刷システムの設定ができます。詳細については、「[第12章 プリンタの管理](#) (205 ページ)」を参照してください。

## ☒ B.6 Windowsのプリンタ/FAXとKDEのPrinting Manager



## B.6 アプリケーション間の切り替え

Windowsのタスクバーと同様に、KDEの下部のパネルから、開かれているウィンドウ間を素早く切り替えることができます。ただし、Windowsと違い、KDEでは複数のデスクトップで異なるプログラムを実行できます。これらのデスクトップ間は、シングルクリックで切り替えることができます。

ヒント: ショートカットキーを使用する

ショートカットキーを使って、複数のデスクトップ間を切り替えて、それぞれで動作しているアプリケーションを利用することができます。アプリケーション間を切り替えるには、**Alt + <Tab>**キーを使用します。**Ctrl + F1**、**Ctrl + F2**、などのキーの組み合わせを使用することにより、デスクトップ間を自由に切り替えることができます。

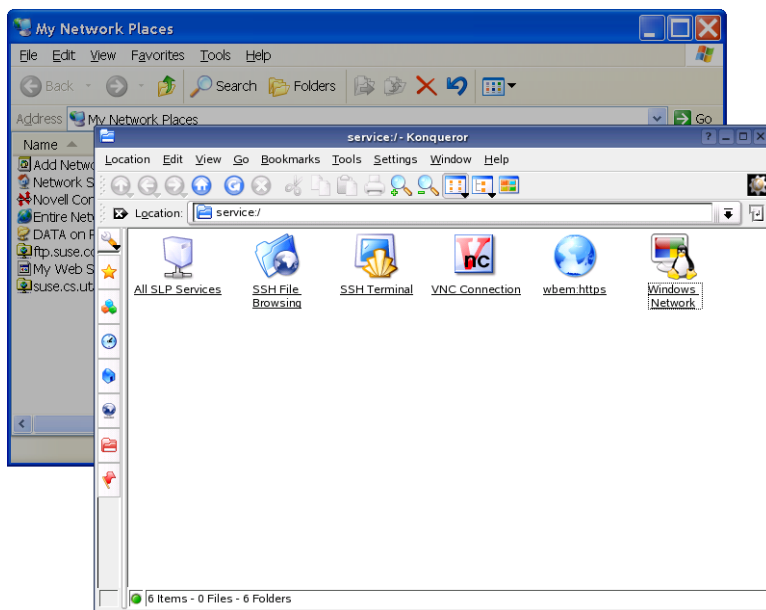
## ☒ B.7 WindowsパネルとKDEパネル



## B.7 ネットワークリソースへのアクセス

デスクトップから、ファイルやディレクトリ、およびリモートホスト上の特定のサービスにアクセスしたり、自分のファイルやディレクトリをネットワーク中の他のユーザに利用させることができます。SUSE Linux Enterpriseには、ネットワーク共有リソースにアクセスしたり、リソースを作成するための、さまざまな手段が用意されています。ご利用のネットワーク構造とお使いのコンピュータの設定に応じて、ネットワーク上の共有リソースやサービスをKonquerorのファイルマネージャを使用して簡単に参照できます。

**図 B.8** WindowsのマイネットワークとKonquerorのネットワーク参照



ネットワークリソースへのアクセスの詳細については、「[第9章 ネットワークリソースへのアクセス](#) (171 ページ)」を参照してください。



# Linuxソフトウェアの概要

Linuxには多くのアプリケーションが付属しているため、多くの場合、1つの問題に複数のソリューションがあります。ただし、目的に最も適したアプリケーションを見つけ出すのは容易ではありません。ここでは、一般的なWindowsソフトウェアと同等の強力なLinuxアプリケーションについて説明します。各セクションでは、それぞれ特定の分野のアプリケーションを取り上げ、Windowsアプリケーションとそれに対応するLinuxのアプリケーション、およびその概要について説明します。各項の\95\5cの後には、それぞれのLinuxアプリケーションの詳細や、他の情報へのリンクが記載されています。ソフトウェアの開発プロセスは常に進歩し、絶えず新しいアプリケーションが開発されているため、このリストが完結することはありません。

---

## ヒント: 不足アプリケーション

ここで説明されているすべてのアプリケーションがデフォルトでシステムにインストールされるとは限りません。一部のアプリケーションは、製品と同梱されていない可能性があります。使用するアプリケーションがない場合は、システム管理者にお問い合わせください。アプリケーションが製品によって提供されている場合は、YaSTを使用してそのアプリケーションをインストールできます。YaSTのソフトウェア管理ツールの検索機能を使って、パッケージを見つけてください。

---

## C.1 電話(オフィス)

ここでは、一般的で強力なLinuxのオフィスビジネス\83\5cフトウェア\83\5cリューションについて説明します。このようなソフトウェアとしては、オフィ

ススイート、データベース、財務会計ソフトウェア、およびプロジェクト管理ソフトウェアがあります。

**表 C.1** WindowsとLinuxのオフィスソフトウェア

タスク	Windowsアプリケーション	Linuxアプリケーション
オフィススイート	Microsoft Office、StarOffice*、OpenOffice.org	OpenOffice.org、StarOffice、KOffice
ワードプロセッサ	Microsoft Word、StarOffice/OpenOffice.org Writer、WordPerfect	OpenOffice.org/StarOffice Writer、KWord
表計算ソフト	Microsoft Excel、StarOffice/OpenOffice.org Calc	OpenOffice.org/StarOffice Calc、Gnumeric、KSpread
プレゼンテーション	Microsoft PowerPoint*、StarOffice/OpenOffice.org Impress	OpenOffice.org/StarOffice Impress、KPresenter
データプロット	Microsoft Excel、MicroCall Origin	OpenOffice.org Calc、Kst、Gnuplot、Grace (Xmgr)、LabPlot
ローカルデータベース	Microsoft Access、OpenOffice.org Base	OpenOffice.org Base、Rekall、kexi、Mergeant、PostgreSQL
財務会計	Microsoft Money、Quicken	GnuCash、KMyMoney
プロジェクト管理	Microsoft Project	Planner、Taskjuggler
マインドマップ	MindManager、Free Mind	VYM (View Your Mind)、Free Mind、KDissert

#### FreeMind

FreeMindを利用して、マインドマップを作成、編集することにより、自分の考えを視覚化することができます。簡単にノードおよびノードのスタイ

ルをコピーして、HTML、RTF、メールなどのソースからテキストをリ付けすることができます。インドックスは、HTMLとXMLなどのさまざまな形式にエクスポートできます。詳細については、[http://freemind.sourceforge.net/wiki/index.php/Main\\_Page](http://freemind.sourceforge.net/wiki/index.php/Main_Page)を参照してください。

### GnuCash

GnuCashは、個人および法人の財務を管理するためのソフトウェアツールです。GnuCashの詳細については、<http://www.gnucash.org>を参照してください。

### Gnumeric

Gnumericは、GNOMEデスクトップ環境用の計算リビューションです。Gnumericの詳細については、<http://www.gnumeric.org>を参照してください。

### Gnuplot

Gnuplotは、非常に強力で移植性の高い、コマンドラインで制御するデータプロット用ソフトウェアです。MacOSおよびWindowsプラットフォームでも利用可能です。Gnuplotが作成するプロットは、PostScript、PDF、SVG、およびその他の形式でエクスポートできるため、容易にプロットを処理できます。Gnuplotの詳細については、<http://www.gnuplot.info/index.html>を参照してください。

### Grace

Graceは、Linuxを含むほとんどすべてのUnixで利用できる、非常に完成された2Dプロット用ツールです。グラフィカルユーザインターフェースを使ってプロットを作成、編集します。Graceは、プロットごとにいくらかでも多くのグラフをサポートしています。エクスポート形式には、JPEG、PNG、SVG、PDF、PSおよびEPSが含まれます。詳細については、<http://plasma-gate.weizmann.ac.il/Grace/>を参照してください。

### Kdissert

Kdissertはアイデアとコンセプトを構築するためのアプリケーションで、ほとんど学生を対象としていますが、教師、意思決定責任者、エンジニア、ビジネスインなどにも有用です。まずアイデアをキャンバスに描いて、ツリーに関連付けます。インドックスから、PDFファイル、テキスト文書(OpenOffice.org Writeも適用)、HTMLファイルなどの、さまざまな出力を生成できます。詳細については、<http://freehackers.org/~tnagy/kdissert/>を参照してください。

## Kexi

詳細については、**KOffice** (336 ページ)を参照してください。

## KMyMoney

KMyMoneyは、KDEの個人用ファイナンスマネージャです。豊富な財務機能やツールを提供することにより、オープンソースのオペレーティングシステムのユーザーが個人的な財務を追跡することができます。KMyMoneyの詳細については、<http://kmy money2.sourceforge.net>を参照してください。

## KOffice

KOfficeは、KDEデスクトップに統合されたオフィススイートです。ワードプロセッサ(KWord)、計算機ソフト(KSpread)、プレゼンテーション(KPresenter)、いくつかの画像処理アプリケーション(Kivio、Karbon14、Krita)、データベースフロントエンド(Kexi)や、他の多くのモジュールが付属しています。KOfficeの詳細については、<http://www.koffice.org/>を参照してください。

## KPresenter

詳細については、**KOffice** (336 ページ)を参照してください。

## Kst

Kstはリアルタイムのデータ表示と基本データ分析機能を使用したプロットのためのKDEアプリケーションです。Kstには、堅牢なライブストリーミングデータのプロットングなど、強力なビルトイン機能が多く含まれており、プラグインと拡張機能で拡張できます。Kstの詳細については、<http://kst.kde.org/>を参照してください。

## KWord

詳細については、**KOffice** (336 ページ)を参照してください。

## LabPlot

LabPlotは、2次元または3次元のデータプロットを作成し、管理するためのプログラムです。グラフは、データと関数の両方から生成することができます。1つのプロットが複数のグラフを含むことができます。また、様々なデータ分析方式も提供しています。LabPlotの詳細については、<http://labplot.sourceforge.net/>を参照してください。

## Mergeant

Mergeantは、GNOMEデスクトップ用のデータベースフロントエンドです。詳細については、<http://www.gnome-db.org>を参照してください。



## OpenOffice.org

OpenOffice.orgは、Microsoft Officeと同等の機能を持つオープンソースのアプリケーションです。OpenOffice.orgは、ワードプロセッサ(Write)、表計算ソフトとデータベースマネージャ(Base)、プレゼンテーションマネージャ(Impress)、描画プログラム(Draw)、および数学の方程式と式(Math)を生成する数式エディタを含む強力なオフィススイートです。アプリケーションインタフェースはMicrosoft Officeアプリケーションファミリに良く似ており、Microsoft Officeユーザに馴染みのあるすべての機能が付属します。OpenOffice.orgはMicrosoft Officeアプリケーションからデータをインポートできるため、オフィススイート間の移行もスムーズです。

OpenOffice.orgにはWindowsバージョンもあるため、WindowsユーザはWindowsを使用しながらオープンソースに切り替えることができます。OpenOffice.orgの詳細については、<http://www.openoffice.org/>を参照してください。また、本書のOpenOffice.orgに関する章でも、オフィススイートを簡単に紹介しています。

## Planner

Plannerは、Windows用のプロジェクト管理ツールと同等の機能を提供することを目的とするGNOMEデスクトップ用のプロジェクト管理ツールです。搭載されている機能としては、Ganttチャート機能、タスクとリソースのための各種のビューなどがあります。Plannerの詳細については、<http://www.imendio.com/projects/planner/>を参照してください。

## PostgreSQL

PostgreSQLは、トランザクション、外部キー、サブクエリ、トリガ、ユーザ定義の型および関数を含む標準SQLの拡張サブセットをサポートするオブジェクトリレーショナルデータベース管理システムです。PostgreSQLの詳細については、<http://www.postgresql.org/>を参照してください。

## Rekall

Rekallは、データベースを操作するツールです。サポートされているデータベースは、MySQL、PostgreSQL、XBaseとXBSQL、IBM DB2、およびODBCです。Rekallを使用すると、各種のレポートやフォームの作成、データベースクエリの実行、またはデータのインポート/エクスポートができます。Rekallの詳細については、<http://www.thekompany.com/products/rekall/>を参照してください。

## StarOffice

StarOfficeはOpenOffice.orgの独自規格のバージョンで、Sun Microsystemsが配布しています。WindowsやSolarisを含む、複数のプラットフォームで利用可能です。フリー版(OpenOffice.org)では利用できない、いくつかの高度な機能も含まれています。StarOfficeの詳細については、<http://www.sun.com/software/star/staroffice/>を参照してください。

## Taskjuggler

Taskjugglerは、軽量で強力なプロジェクト管理ソフトウェアです。Ganttチャート機能を使用するか、各種のレポート(XML、HTML、またはCSV形式)を生成してプロジェクトを制御します。アプリケーションのコマンドライン操作に慣れていないユーザは、Taskjugglerのグラフィカルフロントエンドを使用できます。Taskjugglerの詳細については、<http://www.taskjuggler.org>を参照してください。

## VYM (View Your Mind)

VYMは、マインドマップを作成および操作して思考をビジュアル化するソフトウェアです。ほとんどの操作は、1回のマウスクリックで実行できます。ブランチは、簡単に追加、削除、または並べ替えることができます。VYMは、マップの特定の部分(重要、最重要など)にフラグを付けることができます。マップには、リンク、メモ、およびイメージも追加できます。VYMマップはXML形式を使用するため、HTML形式で簡単にエクスポートできます。VYMの詳細については、<http://www.insilmaril.de/vym>を参照してください。

# C.2 ネットワーク

次のセクションでは、ネットワーク用のさまざまなLinuxアプリケーションを紹介します。最も人気のあるLinuxのブラウザ、電子メール、チャットクライアントについて説明します。

表 C.2 WindowsとLinuxのネットワークソフトウェア

タスク	Windowsアプリケーション	Linuxアプリケーション
Webブラウザ	Internet Explorer、Firefox*、Opera	Konqueror、Firefox、Opera、Epiphany
電子メールクライアント/個人情報管理	Microsoft Outlook*、Lotus Notes、Mozilla Thunderbird*	Evolution、Kontact、Mozilla Thunderbird
インスタントメッセージ/IRCクライアント	MSN、AIM*、Yahoo!* Messenger、XChat、Gaim	Gaim、Kopete、Konversation、XChat
会議(オーディオとビデオ)	NetMeeting	Ekiga (以前のGnomeMeeting)
VoIP(Voice over IP)	X-Lite	Linphone、Skype
FTPクライアント	leechftp、wsftp	gftp、kbear

### Epiphany

Epiphanyは、GNOMEデスクトップ用の、軽量ながら強力なWebブラウザです。その機能と拡張子の多くは、Firefoxと似ています。Epiphanyの詳細については、<http://www.gnome.org/projects/epiphany/>を参照してください。

### Evolution

Evolutionは、メール、予定表、およびアドレス帳の機能を組み合わせたGNOMEデスクトップ用の個人情報管理ソフトウェアです。Evolutionは高度な電子メールフィルタと検索オプションおよびPalmデバイスへの同期機能を提供し、ExchangeまたはGroupWiseクライアントとして実行することもできるため、異種環境への統合性も良好です。Evolutionの詳細については、<http://www.gnome.org/projects/evolution/>を参照してください。

### Firefox

FirefoxはMozillaブラウザファミリの最新のメンバーで、Linux、MacOS、Windowsを含むさまざまなプラットフォームで動作します。Firefoxの主な

機\94\5cとしては、カスタ\83\7dイズ可\94\5cな内蔵検索機\94\5c、ポップアップブロッキング、RSSニュースフィード、パスワード管理、タブ付きブラウズ、および高度なセキュリティとプライバシーのオプションがあります。Firefoxでは、検索、ツールバー、スキン、\83\7bタンなどのほとんどすべての機\94\5cを柔軟にカスタ\83\7dイズできます。便利なアドオンや拡張機能がFirefoxのWebサイト(<https://addons.update.mozilla.org/?application=firefox>)からダウンロードできます。Firefoxの詳細については、<http://www.mozilla.org/products/firefox/>を参照してください。『*KDE User Guide*』または『*GNOME User Guide*』のFirefoxの章も参照してください。

### Gaim

Gaimは、AIMとICQ(Oscarプロトコル)、MSN Messenger、Yahoo!\*, IRC、Jabber、SILC、GroupWise Messenger®などの複数のプロトコルをサポートする高機能インスタントメッセンジャプログラムです。Gaimを使用すると、複数のIMネットワークのアカウントにログインして同時に異なるチャネルでチャットできます。GaimにはWindowsバージョンもあります。Gaimの詳細については、<http://gaim.sourceforge.net/about.php>を参照してください。

### gftp

gftpは、GTKツールキットを使用するFTPクライアントです。同時ダウンロード、中断されたファイル転送の再開、ファイル転送キュー、ディレクトリ全体のダウンロード、FTPプロキシのサポート、リモートディレクトリのキャッシング、パッシブおよび非パッシブのファイル転送、ドラッグアンドドロップのサポートといった機能が含まれています。詳細については、<http://gftp.seul.org>を参照してください。

### kbear

kBearは、複数のホストへの同時接続、3つのビューモード、複数のプロトコル(ftp、sftpなど)のサポート、サイト\83\7dネージャプラグイン、ファイアウォールのサポート、ログ機\94\5c、およびその他の多くの機\94\5cがあるKDE FTPクライアントです。詳細については、<http://sourceforge.net/projects/kbear>を参照してください。

### Konqueror

Konquerorは、KDEの開発者たちに作成された、多目的のアプリケーションです。ファイルマネージャやドキュメントビューアとして動作しますが、非常に強力でカスタマイズ性の高いWebブラウザでもあります。KonquerorはCSS(2)、Javaアプレット、JavaScript、Netscapeプラグイン

(Flash、RealVideo)、DOM、SSLなどの最新のWeb標準をサポートします。また、統合された検索バーなどの軽量ヘルパー機能を提供し、タブ付きブラウズもサポートします。Internet Explorer、Mozilla、Operaなどのその他のWebブラウザからブックマークをインポートすることもできます。Konquerorの詳細については、<http://www.konqueror.org/>を参照してください。Konquerorについては、『*KDE User Guide*』のWebブラウザの章も参照してください。

## Kontakt

Kontaktは、KDEの個人用情報管理スイートです。電子メール、カレンダー、アドレス帳、Palmとの同期機能が含まれています。Evolutionのように、ExchangeやGroupWiseのクライアントとして動作することができます。KontaktはスタンドアロンのKDEアプリケーション(KMail、KAddressbook、KOrganizer、およびKPilot)を組み合わせ、必要なすべてのPIM機能を提供するエンティティを形成します。Kontaktの詳細については、<http://www.kontakt.org/>を参照してください。『*KDE User Guide*』のKontaktに関する章も参照してください。

## Konversation

Konversationは、KDE用の使いやすいIRCクライアントです。SSL接続のサポート、ストライクアウト、複数チャネルの参加、退出と復帰のメッセージ、無視リスト、Unicode、サーバへの自動接続、チャットウィンドウへのタイムスタンプの表示、設定可能な背景色といった機能が含まれています。Konversationの詳細については、<http://konversation.kde.org>を参照してください。

## Kopete

Kopeteは、IRC、ICQ、AIM、GroupWise Messenger、Yahoo、MSN、Gadu-Gadu、Lotus Sametime、SMSメッセージ、Jabberなどのプロトコルをサポートする直感的で使いやすいインスタントメッセンジャーツールです。Kopeteの詳細については、<http://kopete.kde.org/>を参照してください。『*KDE User Guide*』のKopeteに関する章も参照してください。

## Linphone

Linphoneは、高機能で軽量のVoIP (Voice over IP)クライアントで、SIPプロトコルを使用して通話します。詳細については、<http://www.linphone.org/>を参照してください。Linphoneの章もお読みください。

## Mozilla Thunderbird

Thunderbirdは、Mozillaスイートの一部となる、電子メールクライアントアプリケーションです。Microsoft WindowsやMacOSでも利用可能で、それらのいずれかのオペレーティングシステムからLinuxへの移行を容易にします。Mozilla Thunderbirdの詳細については、<http://www.mozilla.org/products/thunderbird/>を参照してください。

## Opera

Operaは、必要に応じて電子メールクライアント、チャットモジュールなどの便利なアドオンを搭載できる強力なWebブラウザです。Operaは、ポップアップブロッキング、RSSニュースフィード、カスタマイズ可能な内蔵検索機能、パスワードマネージャ、およびタブ付きブラウザを提供します。主な機能には、それぞれのパネルを介して簡単にアクセスできます。このツールにはWindows用もあるため、Windowsユーザも容易にLinuxに移行できます。Operaの詳細については、<http://www.opera.com/>を参照してください。

## Skype

Skypeは付く数のプラットフォーム(Linux、Windows、Mac Os X)用のアプリケーションで、優れた音質とエンドツーエンドの暗号化を使用して、インターネット上での通話に使用できます。Skypeを使用するときは、ファイアウォールまたはルータの設定は不要です。詳細については、<http://www.skype.com/products/>を参照してください。

## XChat

XChatはWindowsとMacOS Xだけでなく、ほとんどのLinuxとUNIXプラットフォームで動作するIRCクライアントです。<http://www.xchat.org/>を参照してください。

# C.3 マルチメディア

次のセクションでは、Linux用の最も人気のあるマルチメディアアプリケーションを紹介します。ディープラーナー、サウンド編集ソリューション、およびビデオ編集ツールについて解説します。

**表 C.3** WindowsとLinuxのマルチメディアソフトウェア

タスク	Windowsアプリケーション	Linuxアプリケーション
オーディオCDプレーヤー	CD Player、Winamp、Windows Media Player	KsCD、Grip、Helix Banshee
CDバーナー	Nero、Roxio Easy CD Creator	K3b
CDリッパー	WMPlayer	kaudiocreator、Sound Juicer、Helix Banshee
オーディオプレーヤー	Winamp、Windows Media Player、iTunes	amaroK、XMMS、Rhythmbox、Helix Banshee
ビデオプレーヤー	Winamp、Windows Media Player	Kaffeine、MPlayer、Xine、XMMS、Totem、RealPlayer
オーディオエディタ	SoundForge、Cooledit、Audacity	Audacity
サウンドミキサー	sndvol32	alsamixer、Kmix
楽譜作成	Finale、SmartScore、Sibelius	LilyPond、MusE、Noteedit、Rosegarden
ビデオの製作と編集	Windows Movie Maker、Adobe Premiere、Media Studio Pro、MainActor	MainActor、Kino
テレビの再生	AVerTV、PowerVCR 3.0、CinePlayer DVR	xawtv (analog)、motv (analog)、xawtv4、tvtime、kdetv、zapping

#### amaroK

amaroKメディアプレーヤーはさまざまなオーディオ形式に対応し、インターネットラジオ局のストリーミングオーディオ放送を再生できます。

amaroKはバックエンドとして動作するサウンドサーバがサポートするファイルタイプを処理できます(現在はaRtsまたはGStreamer)。amaroKの詳細については、<http://amarok.kde.org/>を参照してください。『*KDE User Guide*』のamaroKに関する章も参照してください。

### Audacity

Audacityは無料の強力なサウンド編集ツールで、Ogg VorbisまたはWAVファイルの録音、編集、および再生ができます。トラックのミキシングや効果の適用も実行でき、結果をWAVまたはOgg Vorbisにエクスポートできます。Audacityの詳細については、<http://audacity.sourceforge.net/>を参照してください。

### Helix Banshee

Helix Bansheeは、GNOMEデスクトップ用の音楽管理および再生アプリケーションです。Helix Bansheeを使用すると、CDのインポート、iPodへの音楽コレクションの同期、iPodからの音楽の直接再生、ライブラリからの曲の再生リストの作成、ライブラリのサブセットからのオーディオおよびMP3CDの作成などを行うことができます。詳細は、『*GNOME User Guide*』を参照してください。

### Grip

GripはGNOMEデスクトップにCDプレーヤーの機能を提供します。トラックとアルバムデータのCDDb検索をサポートします。詳細については、<http://www.nostatic.org/grip/>を参照してください。

### Kaffeine

Kaffeineは、Ogg Vorbis、WMV、MOV、AVIを含む幅広いオーディオおよびビデオ形式をサポートする多機\94\5c\83\7dルチメディアアプリケーションです。さまざまなタイプのプレイリストをインポートして編集し、スクリーンショットを作成し、メディアストリームをローカルハードディスクに保存できます。Kaffeineの詳細については、<http://kaffeine.sourceforge.net/>を参照してください。

### KAudiocreator

KAudiocreatorは、軽量のCDリッパーアプリケーションです。KAudiocreatorは選択内容に応じて再生リストファイルを生成することもできます。amaroK、XMMS、またはHelix Bansheeなどのプレーヤーは、これを使用して再生できます。KAudiocreatorの使用の詳細については『*KDE User Guide*』、または<http://www.icefox.net/programs/?program=KAudiocreator>を参照してください。



## kdetr

KDEデスクトップ用のアナログテレビの再生と録画のためのアプリケーションです。kdetrの詳細については、<http://kde-apps.org/content/show.php?content=11602>を参照してください。

## KsCD

KsCDは、KDEデスクトップ用の、軽量で小型のCDプレーヤーアプリケーションです。ユーザインタフェースは通常のハードウェアCDプレーヤーに非常によく似ているので、使いやすくなっています。KsCDはCDDDBをサポートし、インターネットまたはローカルのファイルシステムからトラックやアルバムの情報を取得できます。詳細については、<http://docs.kde.org/en/3.3/kdemultimedia/kscd/>を参照してください。

## K3b

K3bは多機能メディア作成ツールで、ドラッグアンドドロップ操作によってデータ、オーディオ、ビデオCD、およびDVDプロジェクトを作成できます。Kbの詳細については、<http://www.k3b.org/3>を参照してください。K3bの章を参照することもできます。

## LilyPond

LilyPondは無料の楽譜エディタです。入力フォーマットはテキストベースのため、任意のテキストエディタを使用して楽譜を作成できます。ユーザはスペース、改行、ポリフォニーの衝突などの書式や表記の問題を処理する必要はありません。LilyPondでは、このような問題はすべて自動的に解決されます。コード名、タブラチュアなどの多くの特別な記法もサポートされます。出力は、PNG、TeX、PDF、PostScript、およびMIDIでエクスポートできます。LilyPondの詳細については、<http://lilypond.org/web/>を参照してください。

## MainActor

MainActorは、フル装備のビデオオーサリングソフトウェアです。MainActorにはWindowsバージョンがあるため、Windowsから簡単に移行できます。MainActorの詳細については、<http://www.mainactor.com/>を参照してください。

## MPlayer

MPlayerはいくつかのシステム上で実行できるムービープレイヤーです。MPlayerの詳細については、<http://www.mplayerhq.hu/homepage/design7/info.html>を参照してください。

## MusE

MusEのゴールは、Linux用の完全な\83\7dルチトラック仮想スタジオになることです。MusEの詳細については、<http://www.muse-sequencer.org/index.php>を参照してください。

## Noteedit

NoteeditはLinuxの強力な楽譜エディタです。Noteeditを使用すると、楽譜を作成し、MIDI、MusicXML、LilyPondなどの多くの形式で楽譜をインポートおよびエクスポートできます。Noteeditの詳細については、<http://developer.berlios.de/projects/noteedit/>を参照してください。

## Rhythmbox

Rhythmboxは、GNOMEデスクトップ用の強力な、多目的のメディアプレーヤです。プレイリストを使用してミュージックコレクションを整理し、ブラウズすることができます。インターネットラジオもサポートしています。Rhythmboxの詳細については、<http://www.gnome.org/projects/rhythmbox/>を参照してください。

## Rosegarden

Rosegardenは無料の作曲編曲環境で、オーディオ、MIDIシーケンサ、および楽譜エディタ機能を提供します。Rosegardenの詳細については、<http://rosegardenmusic.com/>を参照してください。

## Sound Juicer

Sound Juicerは、GNOMEデスクトップ用の軽量なCDリッパーアプリケーションです。Sound Juicerの詳細については、<http://www.burtonini.com/blog/computers/sound-juicer>を参照してください。

## Totem

Totemは、GNOMEデスクトップ用のムービープレーヤーアプリケーションです。Shoutcast、m3u、asx、SMIL、およびraの再生リストをサポートし、キー\83\7bードでのコントロールが可\94\5cです。幅広いオーディオおよびビデオ形式を再生します。Totemの詳細については、<http://www.gnome.org/projects/totem/>を参照してください。

## tvtime

tvtimeは、アナログテレビの再生のための軽量アプリケーションです。tvtimeの詳細と使用方法については、<http://tvtime.sourceforge.net/>を参照してください。

#### xawtvとmotv

xawtvはアナログテレビをサポートするテレビの再生と録画のためのアプリケーションです。xawtvプロジェクトの詳細については、<http://linux.bytesex.org/xawtv/>を参照してください。

#### xawtv4

xawtv4はxawtvアプリケーションの後継バージョンで、アナログとデジタルの両方のオーディオ/ビデオ放送をサポートします。詳細については、<http://linux.bytesex.org/xawtv/>を参照してください。

#### Xine

Xineは、CD、DVD、およびVCDを再生するマルチメディアプレイヤーです。多くのマルチメディア形式を解釈します。詳細については、<http://xinehq.de/>を参照してください。

#### XMMS

XMMSは一般的なマルチメディア再生アプリケーションで、音楽再生に焦点を合わせ、CDとOgg Vorbisファイルの再生をサポートします。XMMSはWinampに似ているため、Winampのユーザは快適に使用できます。XMMSの詳細については、<http://www.xmms.org/>を参照してください。

#### zapping

GNOMEデスクトップ用のアナログテレビの再生と録画のためのアプリケーションです。Zappingの詳細については、<http://zapping.sourceforge.net/cgi-bin/view/Main/WebHome>を参照してください。

## C.4 グラフィックス

ここでは、グラフィックス処理のためのLinuxソフトウェアソリューションについて説明します。これらのソフトウェアには、フル装備のイメージ処理ツール、強力なレンダリングおよびアニメーションプログラムだけでなく、簡単な描画アプリケーションもあります。

表 C.4 WindowsとLinuxのグラフィックスソフトウェア

タスク	Windowsアプリケーション	Linuxアプリケーション
簡単なイメージ編集	Microsoftペイント	KolourPaint
プロフェッショナル イメージ編集	Adobe Photoshop、Paint Shop Pro、Corel PhotoPaint、GIMP	GIMP、Krita
ベクタイメージの作 成	Adobe Illustrator、 CorelDraw、OpenOffice.org Draw、Freehand	OpenOffice.org Draw、 Inkscape、Dia
SVG編集	WebDraw、Freehand、Adobe Illustrator	Inkscape、Dia、Kivio
3Dイメージの作成	3D Studio MAX、Maya、 POV-Ray、Blender	POV-Ray、Blender、 KPovmodeler
デジタル写真の管理	カメラメーカーが提供するソ フトウェア	DigiKam、F-スポット
スキャン	Vuescan	Vuescan、GIMP
イメージビューア	ACDSee	gwenview、gThumb、 Eye of Gnome、f-spot

#### Blender

Blenderは、Windows、MacOS、Linuxを含む多くのプラットフォームで使  
用できる強力なレンダリング/アニメーションツールです。Blenderの詳細  
については、<http://www.blender3d.com/>を参照してください。

#### Dia

DiaはVisioに対するLinuxの同等製品を目的とするLinuxアプリケーション  
で、ネットワーク、UMLチャートなど、多くの特殊なダイアグラムをサ  
ポートします。エクスポートの形式には、SVG、PNG、EPSがあります。  
カスタムのダイアグラムタイプをサポートするには、新しい形状を特別な  
XML形式で指定します。Diaの詳細については、<http://www.gnome.org/projects/dia/>を参照してください。

## Digikam

Digikamは、KDEデスクトップ用の高機能デジタル写真管理ツールです。数回のクリックでデジタルイメージをインポートして整理できます。アルバムを作成してタグを追加すると、複数のサブディレクトリにイメージをコピーせずにWebサイトにイメージをエクスポートできます。Digikamの詳細については、<http://www.digikam.org/>を参照してください。また、『*KDE User Guide*』のDigiKamに関する章も参照してください。

## Eye of Gnome (eog)

Eye of Gnomeは、GNOMEデスクトップ用の画像ビューアアプリケーションです。詳細については、<http://www.gnome.org/gnome-office/eog.shtml>を参照してください。

## F-Spot

f-spotは、GNOMEデスクトップ用の、柔軟なデジタル写真管理ツールです。アルバムの作成と管理、HTMLページなどの様々なエクスポートオプションのサポート、画像アーカイブのCDへの書き込みなどが行えます。また、f-spotをコ'\83\7dンドラインの画像ビューアとして使用することもできます。f-spotに関する詳細は、<http://www.gnome.org/projects/f-spot/>を参照してください。また、『*GNOME User Guide*』の該当する章も参照してください。

## gThumb

gThumbはGNOMEデスクトップ用のイメージビューア、ブラウザ、オーガナイザで、gphoto2によるデジタルイメージのインポートをサポートし、基本的な変換および修正を実行でき、一定の分類規則に従ってイメージにタグを付けてアルバムを作成できます。gThumbの詳細については、<http://gthumb.sourceforge.net/>を参照してください。

## Gwenview

Gwenviewは、KDE用のシンプルな画像ビューアです。フォルダツリーウィンドウとファイルリストウィンドウがあり、ファイルの階層'\8d\5c造内を簡単に移動できます。詳細については、<http://gwenview.sourceforge.net/home/>を参照してください。

## Inkscape

Inkscapeは無料のSVGエディタです。Inkscapeは、Adobe Illustrator、Corel Draw、およびVisioと同様の機'\94\5cとユーザインタフェースを提供します。Inkscapeには、SVGからPNGへのエクスポート、レイヤー、変換、グ

ラダーション、オブジェクトのグループ化の機能があります。Inkscapeの詳細については、<http://www.inkscape.org/>を参照してください。

### Kivio

Kivioは、KOfficeスイートに統合されている、フローチャート用アプリケーションです。これまでのVisioのユーザは、Kivioのルックアンドフィールに親しみを覚えるでしょう。Kivioの詳細については、<http://www.koffice.org/kivio/>を参照してください。

### KolourPaint

KolourPaintは、KDEデスクトップ用の使いやすいペイントプログラムです。このプログラムを使用して、ダイアグラムのペイントや描画、スクリーンショット、写真、アイコンの編集などのタスクを実行できます。詳細については、<http://kolourpaint.sourceforge.net/>を参照してください。

### KPovmodeler

KPovmodelerは、KDEデスクトップと統合されている、POV-Rayのフロントエンドです。KPovmodelerを使えば、POV-Rayスクリプトについての詳しい知識がなくても、分かりやすいツリービューからPOV-Ray言語への変換が行えます。ネイティブなPOV-RayスクリプトをKPovmodelerにインポートすることもできます。詳細については、<http://www.kpovmodeler.org>を参照してください。

### Krita

Kritaは、Adobe PhotoshopとGIMPに対するKOfficeの解答です。ピクセルベースの画像作成および編集に使用することができます。通常Adobe PhotoshopやGIMPにあるような、多くの高度な画像編集機能を備えています。詳細については、<http://www.koffice.org/krita>を参照してください。

### OpenOffice.org Draw

詳細については、[OpenOffice.org](http://www.openoffice.org) (337 ページ)を参照してください。

### POV-Ray

POV-Ray(Persistence of Vision Ray)トレーサを使用すると、レイトラッキングというレンダリング技術を使用して3次元のフォトリアルスティックなイメージを作成できます。POV-RayにはWindowsバージョンがあるため、このアプリケーションのWindowsユーザは容易にLinuxバージョンに切り

替えることができます。POV-Rayの詳細については、<http://www.povray.org/>を参照してください。

GIMP

GIMPは、Adobe Photoshopに対するオープンソースの代替製品です。GIMPはPhotoshopと同等の機能を提供するため、プロフェッショナルのイメージ処理に適しています。GIMPにはWindowsバージョンもあります。詳細については、<http://www.gimp.org/>を参照してください。GIMPの章を参照することもできます。

VueScan

VueScanは、複数のプラットフォームに使用できるスキャンソフトウェアです。自分のベンダーのスキャナソフトウェアに平行してインストールできます。バッチスキャン、オートフォーカス、埃と瑕の抑制用の赤外線チャンネルなどの、スキャナの特種ハードウェア、さらに、スライドの暗い部分でのスキャナノイズを軽減するためのマルチスキャンにもサポートしています。カラー根がからの色補正が簡単、正確に実行できます。詳細は、<http://www.hamrick.com/index.html>を参照してください。

# C.5 システム管理とファイル管理

ここでは、システム管理とファイル管理のためのLinuxツールの概要について説明し、テキストエディタ、ソースコードエディタ、バックアップソリューション、およびアーカイブツールについて解説します。

表 C.5 WindowsとLinuxのシステム管理とファイル管理のソフトウェア

タスク	Windowsアプリケーション	Linuxアプリケーション
ファイルマネージャ	Windows Explorer	Konqueror、Nautilus
テキストエディタ	メモ帳、WordPad、(X)Emacs	kate、gedit、(X)Emacs、vim
PDFの作成	Adobe Distiller	Scribus

タスク	Windowsアプリケーション	Linuxアプリケーション
PDFビューア	Adobe Reader	Adobe Reader、Evince、KPDF、Xpdf
テキスト認識	Recognita、FineReader	GOCR
コマンドライン圧縮プログラム	zip、rar、arj、lhaなど	zip、tar、gzip、bzip2など
GUIベースの圧縮プログラム	WinZip	Ark、File Roller
ハードディスクのパーティション管理	PowerQuest、Acronis、Partition Commander	&yast、GNU Parted
バックアップソフトウェア	ntbackup、Veritas	KDar、taper、dump

### Adobe Reader

Adobe Reader for Linuxは、このアプリケーションのWindowsおよびMac版に完全に対応しています。Linux版のルックアンドフィールは、他のプラットフォームのものと同一です。Adobe Acrobatスイートの他のコンポーネントは、Linuxに移植されていません。詳細については、<http://www.adobe.com/products/acrobat/readermain.html>を参照してください。

### Ark

Arkは、KDEデスクトップ用のGUIベースバックプログラムです。このアプリケーションは、zip、tar.gz、tar.bz2、lha、rarなどの一般的な形式をサポートしています。アーカイブ内の単一ファイルの表示、選択、圧縮、解凍を実行できます。ArkがKonquerorと統合化されたことにより、WinZipと同様に、ファイルのコンテキストメニューからアクション(アーカイブの解凍など)を実行することもできます。Arkの使用法に関する簡単な説明は、『*KDE User Guide*』のKDEデスクトップに関する章を参照してください。



## dump

dump コマンドはファイルシステムのファイルを確認し、バックアップする必要があるファイルを特定し、指定されているディスク、テープ、またはその他の記憶媒体にファイルをコピーします。restore コマンドはdumpとは逆の操作を実行し、ファイルシステム全体のバックアップを復元します。詳細については、<http://dump.sourceforge.net/>を参照してください。

## Evince

Evinceは、GNOMEデスクトップ用の、PDFおよびPostScript形式のドキュメントビューアです。詳細については、<http://www.gnome.org/projects/evince/>を参照してください。

## File Roller

File Rollerは、GNOMEデスクトップ用のGUIベースバックプログラムです。このプログラムは、Arkと同等の機能を提供しています。詳細については、<http://fileroller.sourceforge.net/home.html>を参照してください。

## GEdit

GEditはGNOMEデスクトップの公式エディタで、Kateと同様の機能を提供します。詳細については、<http://www.gnome.org/projects/gedit/>を参照してください。

## GNU Parted

GNU Partedは、パーティションおよびそのファイルシステムの作成、破壊、サイズ変更、チェック、およびコピーのためのコマンドラインツールです。新しいオペレーティングシステムのためのスペースを作成する場合は、このツールを使用してディスクの使用量を調整し、ハードディスク間でデータをコピーします。詳細については、<http://www.gnu.org/software/parted/>を参照してください。

## GOCR

GOCRは光学文字認識(OCR)ツールで、スキャンされたテキストイメージをテキストファイルに変換します。詳細については、<http://jocr.sourceforge.net/>を参照してください。

## gzip, tar, bzip2

ディスクの使用量を減らすためのパッケージ作成プログラムは数多くありますが、一般に圧縮アルゴリズムが異なるだけです。LinuxはWindowsで

使用されているパッケージ形式も処理することができます。bzip2はgzipより効率的ですが、圧縮アルゴリズムによっては時間がかかる場合があります。gzipおよびtarの詳細は、「シエル」の章を参照してください。

### kate

KateはKDEスイートのメンバで、ローカルまたはリモートで複数のファイルを同時に開くことができます。Kateには構文の強調表示、プロジェクトファイルの作成、および外部スクリプト実行の機能があるため、プログラマに最適のツールです。詳細については、<http://kate.kde.org/>を参照してください。

### KDar

KerrはKDEディスクアーカイブを表し、ハードウェア独立のバックアップソリューションです。KDarはtarとは異なりカタログを使用するため、アーカイブ全体を読み込まずに単独のファイルを抽出でき、増分バックアップを作成することもできます。KDarは、アーカイブを複数のスライスに分割して、スライスごとノデータCDやDVDの書き込みをトリガすることができます。KDarの詳細については、<http://kdar.sourceforge.net/>を参照してください。

### Konqueror

KonquerorはKDEデスクトップ用のデフォルトのファイルマネージャで、Webブラウザ、ドキュメント、画像ビューア、CDリッパーとして使用することもできます。Konquerorをファイルマネージャとして使用方法については、『*KDE User Guide*』のKDEデスクトップに関する章を参照してください。このアプリケーションの詳細については、<http://www.konqueror.org/>を参照してください。

### KPDF

KPDFは、KDEデスクトップ用のPDFビューアアプリケーションです。PDFの検索機や、Adobe Readerと同様のフルスクリーンモードなどの機能があります。詳細については、<http://kpdf.kde.org/>を参照してください。

### Nautilus

Nautilusは、GNOMEデスクトップのデフォルトのファイルマネージャです。Nautilusを使えば、フォルダやドキュメントの作成、ファイルやフォルダの表示と管理、スクリプトの実行、CDへのデータ書き込み、URIロケーションの表示が行えます。Nautilusをファイルマネージャとして使用方法は、『*GNOME User Guide*』を参照してください。Nautilusの詳細

は、<http://www.gnome.org/projects/nautilus/>を参照してください。

#### taper

taperは使いやすいユーザインタフェースを提供するバックアップと復元のプログラムで、テープドライブを使用してファイルのバックアップと復元を実行できます。ファイルをアーカイブファイルにバックアップすることもできます。ディレクトリの再帰的な選択もサポートします。詳細については、<http://taper.sourceforge.net/>を参照してください。

#### vim

vim (vi improved)は、viというテキストエディタに似たプログラムです。vimにはコマンドモードと挿入モードがあるため、場合によっては、慣れるまで時間がかかります。基本的な特徴は他のテキストエディタと同じですが、vimにはマクロの記録、ファイル形式の検出と変換、画面上の複数のバッファなどのユニークなオプションがあります。詳細については、<http://www.vim.org/>を参照してください。

#### (X)Emacs

GNU EmacsとXEmacsはプロフェッショナル用エディタです。XEmacsは、GNU Emacsを基にしています。GNU Emacsのマニュアルには、「Emacsは拡張およびカスタマイズ可能で、セルフドキュメント機能を備えたリアルタイム表示エディタです」と記載されています。この2つのエディタの機能はほとんど同じですが、多少の違いはあります。経験豊富な開発者がEmacs Lisp言語を使用すると、機能を大いに拡張できます。ロシア語、ギリシア語、日本語、中国語、韓国語などの多くの言語がサポートされています。詳細については、<http://www.xemacs.org/>と<http://www.gnu.org/software/emacs/emacs.html>を参照してください。

#### Xpdf

Xpdfは、LinuxおよびUnixプラットフォーム用の、軽量のPDFビューアスイートです。ビューアアプリケーションと、PostScriptやテキスト形式用のエクスポートプラグインが含まれています。詳細については、<http://www.foolabs.com/xpdf/>を参照してください。

## C.6 ソフトウェア開発

ここでは、プロフェッショナルのソフトウェア開発のためのLinux IDE、ツールキット、開発ツール、およびバージョン管理システムについて説明します。

表 C.6 WindowsとLinuxの開発ソフトウェア

タスク	Windowsアプリケーション	Linuxアプリケーション
統合開発環境	Borland C++, Delphi, VisualStudio, .NET	KDevelop, Eric, Eclipse, MonoDevelop, Anjuta
ツールキット	MFC, Qt, GTK+	Qt, GTK+
コンパイラ	VisualStudio	GCC
デバッグツール	Visual Studio	GDB, valgrind
GUIデザイン	Visual Basic, Visual C++	Glade, Qt Designer
バージョン管理システム	Cleartcase, Perforce, SourceSafe	CVS, Subversion

### Anjuta

Anjutaは、GNOME/GTK+のアプリケーション開発用のIDEです。自動書式設定、コード補完、ハイライト機能のあるエディタが含まれています。GTK+のほかにも、Perl、Pascal、およびJavaによる開発をサポートしています。GDBベースのデバッガも含まれています。Anjutaの詳細については、<http://anjuta.sourceforge.net>を参照してください。

### CVS

CVS (Concurrent Versions System)は、オープンソース用の最も重要なバージョンコントロールシステムです。これは、標準のLinuxディストリビューションに含まれているRevision Control System (RCS)のフロントエンドです。詳細については、<http://www.cvshome.org/>を参照してください。

## Eclipse

Eclipse Platformは、カスタムプラグインによって拡張可能な統合開発環境を構築できるように設計されています。ベースディストリビューションには、完全なJava開発環境も含まれます。詳細については、<http://www.eclipse.org>を参照してください。

## Eric

Ericは、PythonおよびPython-Qtによる開発用に最適化されたIDEです。Ericの詳細については、<http://www.die-offenbachs.de/detlev/eric3.html>を参照してください。

## GCC

GCCは、様々なプログラミング言語用のフロントエンドを持つ、コンパイラコレクションです。機能の詳しいリストと、詳細なドキュメントは、<http://gcc.gnu.org>を参照してください。

## GDB

GDBは、様々なプログラミング言語で書かれたプログラム用のデバッグツールです。GDBの詳細については、<http://www.gnu.org/software/gdb/gdb.html>を参照してください。

## Glade

Gladeは、GTK+およびGNOME開発用のユーザインタフェースビルダです。GTK+のほかに、C、C++、C#、Perl、Python、Javaやその他の言語もサポートしています。Gladeの詳細については、<http://glade.gnome.org/>を参照してください。

## GTK+

GTK+はグラフィカルユーザインタフェースを作成するための'83'7dルチプラットフォームツールキットで、すべてのGNOMEアプリケーション、GIMP、およびその他のアプリケーションで使用できます。GTK+はC/C++以外の言語もサポートするように設計されています。GTKは最初はGIMPのために記述されたため、「GIMP Toolkit」という名前になっています。詳細については、<http://www.gtk.org>を参照してください。GTK+と言語の関係については、<http://www.gtk.org/bindings.html>にまとめられています。

## KDevelop

KDevelopでは、異なる言語(C/C++、Python、Perlなど)でプログラムを記述できます。KDevelopには、ドキュメントブラウザ、構文の強調表示機能

を含むソースコードエディタ、コンパイラのGUI、およびその他の機能が含まれます。詳細については、<http://www.kdevelop.org>を参照してください。

### MonoDevelop

Mono Projectは、.NET開発プラットフォームのUnixバージョンをオープンソースで開発しているオープン開発イニシアチブです。このプロジェクトの目的は、Unix開発者がクロスプラットフォームの.NETアプリケーションを構築して展開できるようにすることです。MonoDevelopは、Monoの開発環境にIDEを補完します。MonoDevelopの詳細については、<http://www.monodevelop.com/>を参照してください。

### Qt

Qtは、グラフィカルユーザインタフェースでアプリケーション開発するためのプログラムライブラリです。これによって、プロフェッショナルなプログラムを迅速に開発できます。QtライブラリはLinuxで使用できだけでなく、一連のUnix環境、Windows、およびMacintoshでも使用できます。したがって、このようなプラットフォームに簡単に移植できるプログラムを記述できます。詳細については、<http://www.trolltech.com>を参照してください。Qtによる開発と言語の関係については、<http://developer.kde.org/language-bindings/>にまとめられています。

### Qt Designer

Qt Designerは、QtおよびKDEでの開発用のユーザインタフェースおよびフォームビルダです。KDevelop IDEの一部として、またはスタンドアロンモードで動作します。Qt Designerは、Windowsでも動作し、Visual Studio開発スイートに統合することもできます。Qt Designerの詳細については、<http://www.trolltech.com/products/qt/designer.html>を参照してください。

### Subversion

SubversionはCVSと同様の機能を提供しますが、メタ情報の移動と名前の変更、およびファイルとディレクトリへのアタッチなどの機能が強化されています。Subversionのホームページは<http://subversion.tigris.org/>です。

### Valgrind

Valgrindは、x86アプリケーションのデバッグおよびプロファイリング用の、プログラムのスイートです。Valgrindの詳細については、<http://valgrind.org/info/>を参照してください。

# 目次

## シンボル

アプリケーション, 333

PDFビューア

Adobe Reader, 352

Evince, 353

KPDF, 354

Xpdf, 355

マルチメディア

Grip, 344

オフィス

Evolution, 339

FreeMind, 334

GnuCash, 335

Gnumeric, 335

Gnuplot, 335

Grace, 335

GroupWise, 125

Kdissert, 335

Kexi, 336

KMyMoney, 336

KOffice, 336

Kontakt, 109, 341

KPresenter, 336

Kst, 336

KWord, 336

Mergeant, 336

OpenOffice.org, 350

Planner, 337

PostgreSQL, 337

Rekall, 337

StarOffice, 338

Taskjuggler, 338

VYM, 338

グラフィック, 347

Blender, 348

Dia, 348

digiKam, 275

Digikam, 349

Eye of Gnome, 349

f-spot, 349

GIMP, 255, 351

gThumb, 349

Gwenview, 349

Inkscape, 349

Kivio, 350

KolourPaint, 350

KPovmodeler, 350

POV-Ray, 350

VueScan, 351

ネットワーク, 338

Epiphany, 339

Evolution, 339

Firefox, 235, 339

Gaim, 340

gftp, 340

GroupWise, 125

kbear, 340

Konqueror, 225, 340

Kontakt, 109, 341

Konversation, 341

Kopete, 153, 341

Linphone, 159, 341

Mozilla Thunderbird, 342

Opera, 342

Skype, 342

XChat, 342

ファイルパッカー

Ark, 352

File Roller, 353

ファイルマネージャ

Konqueror, 354

Nautilus, 354

マルチメディア, 342

amaroK, 298, 343

Audacity, 344

Helix Banshee, 344

- K3b, 311, 345
- Kaffeine , 344
- KAudiocreator, 344
- kdety, 345
- KMix, 43
- KsCD, 305, 345
- LilyPond, 345
- MainActor, 345
- motv, 347
- MPlayer, 345
- MusE, 346
- Noteedit, 346
- Rhythmbox, 346
- Rosegarden, 346
- Sound Juicer, 346
- Totem, 346
- tvtime, 346
- xawtv4, 347
- Xine, 347
- XMMS, 347
- zapping, 347
- 開発, 356
  - Anjuta, 356
  - CVS, 356
  - Eclipse, 357
  - Eric, 357
  - GCC, 357
  - GDB, 357
  - Glade, 357
  - GTK+, 357
  - KDevelop, 357
  - MonoDevelop, 358
  - Qt, 358
  - Qt Designer, 358
  - Subversion, 358
  - Valgrind, 358
- インターネット
  - チャット, 153
  - ワイヤレス , 222
  - 接続, 215
- エディタ
  - Emacs, 355
  - GEdit, 353
  - Kate, 354
  - vim, 355
  - XEmacs, 355
- カレンダー
  - Kontact, 111, 120
- カレンダー
  - GroupWise, 125
- グラフィック
  - アルバム, 279
  - ギャラリー, 30
  - デジタルカメラ , 275
  - ピクセル, 255
  - ファイル形式, 261
  - ベクトル, 255
  - 編集, 255-273, 284
  - 表示, 30
- コマンド
  - bzip2, 353
  - dump, 353
  - gzip, 353
  - Kdar, 354
  - taper, 355
  - tar, 353
- サウンド
  - データ圧縮
    - KAudioCreator, 307
    - Konqueror, 308
    - Ogg Vorbis, 306
    - oggenc, 306
  - プレーヤー, 298
    - amaroK, 298
    - KsCD, 305
  - ミキサー, 297
    - KMix, 43
- スキャン
  - GOCR, 353
- スクリーンショット



- KSnapshot, 41
- ダウンロード
  - 管理, 247
- ダウンロードマネージャ
  - Firefox , 241
- デジカメ
  - Konqueror, 29
- デジタルカメラ, 275-296
  - digiKam, 275
  - PTPプロトコル, 276
  - アクセス, 276
- デスクトップ
  - 仮想, 11
  - 切り替え, 6
- ドキュメント, 319
- ニュースティッカー, 249
- ニュースフィード , 249
- ネットワーク
  - インターネット, 220
  - ファイル, 171
  - プリンタ, 172, 181
  - ワイヤレス, 222
  - 共有, 173
  - 参照, 173
- パーティション
  - GNU Parted, 353
- パーミッション, 24
- ファイル
  - アーカイブ, 40
  - パーミッション, 24
  - 共有, 31, 171-188
  - 形式
    - GIF, 261
    - JPG, 261
    - PAT, 261
    - PNG, 262
    - XCF, 261
  - 暗号化, 196
  - 管理, 22
  - 関連付け, 27

- ブラウザ (参照 Webブラウザ)
- ヘルプ, 319
  - 用語集, 321
- ヘルプセンター, 319
- メディア, 13
- ログイン, 3
  - セッション, 4
- 印刷
  - Firefox, 244
  - GIMP, 271
  - KDE, 208
  - ネットワークプリンタ, 181
- 暗号化, 189-197
  - Kontakt, 116
- 画像
  - サイズ変更, 262-264
- 画像の編集
  - digiKam, 284
- 画面
  - ロック, 7
- 電子メールアプリケーション
  - GroupWise, 125
  - Kontakt, 109-124

## A

- Active Directory
  - データへのアクセス, 177
- amaroK, 298
- Audacity, 344

## C

- CD
  - ISOイメージ, 316
  - コピー, 316
  - マルチセッション, 317
  - リッピング , 305-309
  - 作成, 311-318
    - オーディオ, 315
    - データ, 311

再生, 305-309  
CDs  
プレーヤー, 305

## D

digiKam, 275  
画像の編集, 284  
Digikam, 349  
DVD  
ISOイメージ, 317  
コピー, 316  
作成  
データ, 311

## E

Evolution, 339

## F

Firefox, 235-245, 339  
サイドバー, 237  
タブ, 236  
ダウンロードマネージャ, 241  
テーマ, 242  
ブックマーク, 238  
インポート, 240  
管理, 239  
ページの検索, 238  
印刷, 244  
拡張機能, 241  
検索, 237, 243  
移動, 235  
設定, 241  
起動, 235

## G

GIMP, 255-273, 351  
クイックマスク, 265  
クロッピング, 263  
スキャン, 259

テキスト, 268  
テンプレート, 258  
ビュー, 260  
レイヤ, 270  
レベル, 269  
効果, 271  
印刷, 271  
取り消し, 269  
画像の作成, 258  
画像の保存, 260  
画像の修正, 268  
画像の拡大/縮小, 263  
画像の編集, 262-271  
画像を開く, 259  
画像モード, 270  
色, 266  
設定, 256  
起動, 256  
選択, 264-266

gphoto2, 295  
GroupWise, 122, 125-143  
Kontakt, 123  
用語, 123

## J

Java, 232  
JavaScript, 232

## K

K3b, 311-318, 345  
CDのコピー, 316  
DVDのコピー, 316  
オーディオCD, 315  
データCD, 311  
データDVD, 311  
設定, 312  
KAddressbook (参照 Kontakt)  
KAudioCreator, 307  
KDE

- Akregator(ニュースティッカー), 249
- Ark, 40
- KGpg, 189
- Kopete, 153
- KPDF, 43
- KSnapshot, 41
- KWallet, 37
- インストール
  - フォント, 67
- コントロールセンタ, 51
  - KDEコンポーネント, 53
  - サウンド, 54
  - システム管理, 54
  - セキュリティ, 54
  - デスクトップ, 53
  - ローカライズ, 54
  - 周辺機器, 54
  - 外観とテーマ, 53
- コントロールセンター
  - ネットワーク, 53
  - モジュール, 52
- セッションマネージャ, 6
- パネル, 10
- ログアウト, 8
- ロック, 7
- 個人設定, 51
- 印刷, 208
- 設定
  - システム, 67
  - スクリーンセーバー, 56
  - セキュリティ, 67
  - デスクトップの背景, 57
  - デスクトップオブジェクト, 55
  - パネル, 61
  - 仮想デスクトップ, 58
- KGet, 247
- KGpg, 189-197
  - エディタ, 197
  - クリップボードの暗号化, 196
  - テキストの暗号化, 196
  - ファイルの暗号化, 196
  - 公開鍵のエクスポート, 191
  - 起動, 190
  - 鍵のインポート, 192
  - 鍵の作成, 189
  - 鍵の署名, 192
  - 鍵を信頼, 193
  - 鍵サーバ, 193
    - 鍵のインポート, 194
    - 鍵のエクスポート, 195
- KInternet, 220
- KMail (参照 Kontact)
- KNotes (参照 Kontact)
- Konqueror, 19, 225-233, 340
  - Java, 232
  - JavaScript, 232
  - Webショートカット, 228
  - webページの保存, 228
  - イメージギャラリー, 30
  - キーワード, 228
  - タブs, 226
  - デジカメ, 29
  - ネットワーク共有, 173
  - ブックマーク, 231
  - プロファイル, 29, 227
  - 起動, 226
- Kontact, 109-124, 341
  - Exchange, 119, 122
  - GroupWise, 119, 122
  - PDA, 122
  - rss, 112
  - starting, 109
  - To-Doリスト, 111
  - アカウント, 113
  - アドレス帳, 118
  - カレンダー, 111, 120
  - ジャーナル, 111
  - ノート, 112
  - フィルタ, 117
  - フィード, 112

フォルダ, 116  
メッセージの作成, 115  
メールのインポート, 114  
個人情報, 113  
暗号化, 116  
添付ファイル, 115  
署名, 116  
要約, 109  
連絡先, 111, 118  
KOrganizer (参照 Kontakt)  
KPilot, 145-152  
    /dev/pilot, 147  
    KAddressBook, 149  
    KOrganizer, 149  
    バックアップ, 151  
    プログラムのインストール, 152  
    同期化, 150  
    設定, 146  
KsCD, 305

## L

Linphone, 159-170  
    テスト, 164  
    ファイアウォール, 161  
    呼び出し, 165  
    接続タイプ, 160  
    設定, 159

## M

Mozilla (参照 Firefox)

## N

NetworkManager  
    VPN, 218

## O

Ogg Vorbis , 306  
oggenc, 306

## P

PDA  
    Kontakt, 122  
    KPilot, 145-152  
PDFビューア, 43  
PTPプロトコル, 276

## S

Samba, 174

## U

USB  
    デジカメ, 13  
    メディア, 13

## V

VoIP, 159-170  
VPN, 218

## W

Webサーバ  
    kpf, 185  
Webブラウザ  
    Firefox, 235-245, 339  
    Konqueror , 225-233, 340  
    Opera, 342  
webページ  
    アーカイブ , 228